

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] リハビリテーション臨床を活動の場とする理学療法士に必要な利他性、科学性、行為性を育成することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①理学療法学生として適切な報告ができ、時間厳守、自律した生活（計画性含む）を送ることができる。 ②対象となる人とより良い関係を築くことができる。 ③基礎的な医学知識（解剖学・生理学・運動学）を横断的に理解することができる。 ④見学実習を通して、自身の理学療法士像を明確にすることができる。</p>
------------	---

授業の概要	理学療法士は、動作の専門家と言われている。目の前の事象を捉え、科学的に考察する力が求められる。また、対象となる人を理解し、より良い関係を構築することも必要となる。この授業では、1年次で履修する知識を横断的に整理するとともに、対人関係に対する意識的配慮を姿勢として学び、実践できるようにする。また、見学実習を設定し、早期臨床体験を行うことで内発的動機付けを形成する。
-------	--

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 未来を思い描いた際の現在の自分—一年間の目標— 【key words】 理学療法士、志望動機、目標 【授業概要】 ・1～4年のグループを作り、ピア活動を行う ・PT志望動機を明確にし、他者に説明することができる ・他学年から情報収集を行ったうえで、2年後、3年後、4年後の自分を思い描き、一年間の目標を立てる。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：PT志望動機について考えてくる。他学年から得たい情報を項目として挙げてくる。 復習：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第2回 関節が動く仕組みを知ろう 【key words】 骨、筋、関節、筋収縮 【授業概要】 ・学びの基礎として、[関節が動く仕組み]について理解し、他者に説明する。 ・グループ学習の方法を身につける。 ・小テスト①を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 【教科書ページ・参考文献】 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：今回のタイトルやkey wordsに関する内容について教科書の該当ページを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第3回 腱反射と逃避反射の違い 【key words】 骨、筋、関節、筋収縮、反射</p>
------	--

	<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの基礎として、[腱反射と逃避反射の違い]について理解し、他者に説明する。 ・グループ学習の方法を身に付ける。 ・小テスト②を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：今回のタイトルやkey wordsに関する内容について教科書の該当ページを調べておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60～90分</p>
第4回	<p>随意運動と反射の違い</p> <p>【key words】</p> <p>骨、筋、関節、筋収縮、大脳、随意運動、反射</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの基礎として、[随意運動と反射の違い]について理解し、他者に説明する。 ・グループ学習の方法を身に付ける。 ・小テスト③を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：今回のタイトルやkey wordsに関する内容について教科書の該当ページを調べておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60～90分</p>
第5回	<p>見学実習オリエンテーション、OSCE（臨床技能試験）について</p> <p>【key words】</p> <p>理学療法士、見学実習、OSCE（臨床技能試験）</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生とのグループ学習を通して、見学実習の概要を理解する。 ・次回予定されているOSCE（臨床技能試験）の概要を理解する。 ・小テスト④を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>臨床実習手引きを配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：見学実習について得たい情報を挙げてくること</p> <p>復習：ポートフォリオの作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60～90分</p>
第6回	<p>理学療法評価場面の見学－3年次OSCE見学－</p> <p>【key words】</p> <p>理学療法、評価、OSCE、報告</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次のOSCEを見学し、事象を専門用語でまとめることができる ・自身がまとめた内容を当該の3年生に確認して頂き、フィードバックを受けた上で、適切に報告する力を身に付ける <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>課題：①見学した時に記述した内容、②見学後、当該学生からフィードバックを受けて修正した内容をそれぞれ提出すること（期限については、掲示板を確認のこと）</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90～120分</p>
第7回	<p>見学実習オリエンテーション</p> <p>【key words】</p> <p>理学療法士、見学実習</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学実習の流れ（事前の挨拶、見学時の学ぶ姿勢、お礼状の作成）を理解する。 ・見学実習の課題（レポート等）を理解する。 ・小テスト⑤を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>臨床実習手引き</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>臨床実習手引きを持参すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60～90分</p>
第8回	<p>見学実習</p> <p>【key words】</p> <p>理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>臨床実習手引き</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと）</p> <p>レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>

第9回	120分 見学実習 【key words】 理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告 【授業概要】 ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること 【予習復習に必要な想定時間】
第10回	120分 見学実習 【key words】 理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告 【授業概要】 ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること 【予習復習に必要な想定時間】
第11回	120分 見学実習 【key words】 理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告 【授業概要】 ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること 【予習復習に必要な想定時間】
第12回	120分 理学療法治療場面の見学－4年次OSCE見学－ 【key words】 理学療法、評価、治療、OSCE、報告 【授業概要】 ・4年次のOSCEを見学し、事象を専門用語でまとめることができる ・自身がまとめた内容を当該の4年生に確認して頂き、フィードバックを受けた上で、適切に報告する力を身に付ける 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：①見学した時に記述した内容、②見学後、当該学生からフィードバックを受けて修正した内容をそれぞれ提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） 【予習復習に必要な想定時間】
第13回	90～120分 呼吸と循環 【key words】 肺、心臓、呼吸、循環 【授業概要】 ・2年生とのグループ学習を行う ・学びの基礎として、[呼吸と循環]について理解し、他者に説明する。 ・グループ学習の方法を身に付ける。 ・小テスト⑥を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 【教科書ページ・参考文献】 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：今回のタイトルやkey wordsに関する内容について教科書の該当ページを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】
第14回	60～90分 理学療法評価とは 【key words】 理学療法、情報、検査測定、評価 【授業概要】 ・3年生が評価実習で経験した症例の発表を聴講し、理学療法評価の概要を理解できる。 ・発表内容から、分かった点、理解不十分な点について整理する。 ・小テスト⑦を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 【教科書ページ・参考文献】

	<p>資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：理解不十分な点については、用語を調べ、まとめたものを提出すること（期限については掲示板を確認のこと） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第15回 OSCE（臨床技能試験）の実施 【key words】 理学療法士、対人技能、報告 【授業概要】 ・臨床場면을想定し、指示された内容に対応できる力を推し量る</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レポート [実施内容をまとめ、良い点、改善すべき点について考察すること] 【予習復習に必要な想定時間】 120～180分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ・解剖学、生理学、運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。</p> <p>[受講のルール] ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認したうえで予習するなど積極的に取り組むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。 ・OSCEの実施場面は、本人の携帯電話を使用して撮影すること。その際、動画の加工、SNS上での拡散をしてはならない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	WEBポータルを使用したコメントスレッド
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。
オフィスアワー	木曜日16：00～17：00随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約
評価方法	OSCE（臨床技能試験）30% 口頭試問30% レポート40%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	才藤栄一監修：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版. 2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。</p> <p>[到達目標] ①リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。 ②理学療法士及び作業療法士法について説明できる。 ③理学療法士の活動分野と概略について説明できる。 ④理学療法の対象者と疾患について説明できる。 ⑤理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。 ⑥リハビリテーション</p>		
授業の概要	15回に及ぶ講義中心の授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			△
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律</p> <p>【key words】 key words:理学療法士法、欠格事項、守秘義務</p> <p>【授業概要】 理学療法士および作業療法士法、欠格事項、守秘義務理学療法士法より、理学療法の定義、理学療法士を取り巻く環境、決められた法を学びます。理学療法の定義について考えてください。授業中に発表していただきます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 なぜ自分が理学療法士になろうと思ったのか、考えを整理しておいてください。今日学んだ内容ではできる限り早いうちに復習をしてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>	
	第2回	<p>理学療法の対象</p> <p>【key words】 key words:ADL、QOL、理学療法領域</p> <p>【授業概要】 理学療法の目的は何か。具体的な対象疾患の紹介と、基本的動作能力とADLとQOLについて解説を行う。理学療法士が活躍している場所について発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>	
	第3回	<p>理学療法の治療手段</p> <p>【key words】 key words:運動療法、物理療法、義肢装具</p> <p>【授業概要】</p>	

	<p>治療手段としての運動療法、物理療法、義肢装具、ADLについて解説します。また病期と理学療法の目的の違いについて解説を行います。義肢装具、ADLについてその意味を説明できるようにしておいてください。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第4回 リハビリテーションチームと理学療法部門 【key words】 key words: チームケア、パラメディカル 【授業概要】 リハビリテーションチームの構成員とそれぞれの専門性について解説を行います。リハビリテーションチームの構成員について、列挙できるように準備をしてください。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第5回 理学療法士の活動分野 【key words】 key words: 病期、領域 【授業概要】 疾患ごとの領域や病期、さらに保険制度による違いによって職場や仕事内容が変わってきます。それらの現状を具体的に紹介し、学生に将来の自分の理学療法士像を考えてもらいます。また自分の将来の理学療法士像を発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第6回 医療事故と理学療法 【key words】 key words: 医療事故、医療過誤、ヒヤリハット 【授業概要】 医療事故に関する各用語の説明を行います。ハインリッヒの法則を解説し、医療事故を防ぐためのヒヤリハット対策の大切さを説明します。医療事故の例を調べてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第7回 感染予防 【key words】 key words: スタンダートプリコーション、感染経路 【授業概要】 標準予防策と感染経路別予防策について解説を行います。また実際の手洗いに大切さについて、実習を通して体験してもらいます。感染症について調べてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第8回 理学療法に関連する各法律 【key words】 key words: 医療保険、介護保険 【授業概要】 理学療法に関する各種保険制度の概略と関連法について解説を行います。自分（親）が加入している医療保険の種類を調べて発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。ま</p>
--	--

<p>第9回</p>	<p>た本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。 理学療法における障害のとらえ方 【key words】 key words:ICIDH、ICF 【授業概要】 ICFを中心とした障害の捉え方について学びます。障害とは何か、考えをまとめてきてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
<p>第10回</p>	<p>理学療法と評価 【key words】 key words:理学療法評価、統合と解釈、問題点 【授業概要】 理学療法過程の説明と、理学療法評価について解説を行います。またPDCAサイクルと理学療法過程について説明を行います。理学療法士が行う検査測定項目を調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
<p>第11回</p>	<p>運動療法と関連機器 【key words】 key words:運動様式、運動療法機器 【授業概要】 運動療法とは何かを説明します。運動療法の具体的な方法と、運動療法に用いる機器の説明を行います。運動療法の具体的な方法について調べてください。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
<p>第12回</p>	<p>物理療法と関連機器 【key words】 key words:温熱療法、光線療法、牽引療法 【授業概要】 物理療法とは何かを説明します。物理療法の具体的な方法と、物理療法に用いる機器を体験しながら学びます。物理療法の機器について調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
<p>第13回</p>	<p>理学療法と義肢装具 【key words】 key words:義肢、装具 【授業概要】 義肢および装具の説明を行います。また歩行補助具とは何か、その使い方や調節の仕方、実際に補助具を扱いながら解説を行います。杖の種類について調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
<p>第14回</p>	<p>理学療法と日常生活活動 【key words】 key words:ADL、APDL、IADL 【授業概要】</p>

	<p>日常生活活動（ADL）について、IADLとの違いも含め解説を行います。さらに最終目標としてのQOLの向上とADLとの関連について解説を行います。日々行う身の回りの活動をあげましょう。授業で発表していただきます。なお、前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第15回 理学療法と倫理 【key words】 key words:各倫理規定の紹介 【授業概要】 日本理学療法士協会から出されている倫理規定の内容を紹介し、それぞれの項目ごとにその意義を解説します。医療従事者として必要な倫理観を知り、理解し、身に付けていただきます。前回授業の振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報]および[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。 ・その回の課題については必ず行ってくる。授業中に発表していただくが、課題を忘れることで他の受講生に迷惑をかけることを認識しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 70%、平常点30% ※授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	特に定めなし。必要に応じ資料を配布する。
参考書	理学療法概論 奈良勲編 医歯薬出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
榊原清			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定の実践スキルを身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。 ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。 ④理学療法における検査・測定の実践スキルを身につける。</p>
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、回復や改善の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価の基本的な枠組みを学ぶとともに、実践できるよう検査・測定技能を修得する。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明 評価方法の説明など) 理学療法評価とは、理学療法の過程</p> <p>【key words】 講義の受け方、理学療法評価、理学療法の過程</p> <p>【授業概要】 講義の受け方、予習・復習について、評価方法などについて説明をする。 理学療法評価(意義・目的、流れ、検査・測定、統合と解釈、リハビリテーション医療における評価の意義)、理学療法の過程など、評価の基礎について学ぶ。 模擬対象者との模擬面接、模擬検査を通し、情報収集のしかたについて演習する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp14~16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスを印刷し、持参すること。 テキストp14~16に目を通してこること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 理学療法評価の進め方(理学療法における障害の捉え方、障害モデル、ICIDH、ICF)</p> <p>【key words】 障害モデル、ICIDH、ICF</p> <p>【授業概要】 理学療法における障害の捉え方、障害モデル、ICIDH、ICFについて学ぶ。</p> <p>【アクティブラーニング】 グループワーク・ディスカッション: 前回の演習で得られた結果を基に、ICIDH、IDFに当てはめ、対象者の障害像、全体像を把握のしかたについて話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp17-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストp17~24に目を通してこること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 医療面接と情報収集に必要なコミュニケーション</p> <p>【key words】</p>
------	--

	<p>コミュニケーション、傾聴、共感</p> <p>【授業概要】 医療面接、フィジカルアセスメント、Vital Sign、スクリーニングを行う際に欠かせない、コミュニケーションの7つの道具について学ぶ。 学生同士で傾聴のしかた、質問のしかたに関するトレーニングを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp33～38 配布プリント：コミュニケーションの7つの道具</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストp35表2傾聴の方法、p36表3医療面接での質問法に目を通してこくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>意識障害・全身状態、バイタルサインの評価1</p> <p>【key words】 意識レベル、JCS、GCS</p> <p>【授業概要】 意識障害、覚醒レベルの判定、定量的評価法（①JCS、②GCS、③ECS）、意識変容の評価指標について学ぶ。 バイタルサインの測定演習を行い、得られた結果について考察する。 学生同士で脈拍、血圧測定、呼吸数の測定について演習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp49-64</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストp49～64に目を通してこくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第5回	<p>意識障害・全身状態、バイタルサインの評価2</p> <p>【key words】 意識障害、バイタルサイン</p> <p>【授業概要】 前回授業の意識障害について確認テストを実施する。 バイタルサインの測定演習を行い、得られた結果について考察する。 学生同士で脈拍、血圧測定、呼吸数の測定について演習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp49-64</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 及第点に満たないものは課題の実施、提出を課す。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第6回	<p>医療面接と情報収集1</p> <p>【key words】 統合と解釈、問題解決指向的評価、EBPT</p> <p>【授業概要】 ①情報収集や問診、医療面接、理学療法評価を経て、膨大な情報の整理を行う過程が「統合と解釈」の過程であることを学ぶ。 ②検査測定の実施は評価のための評価ではなく、問題解決指向的であることを認識する。この認識により、実施する検査測定項目の抽出は目的であることを学ぶ。 ③「統合と解釈」はEBPTに基づき行われるべきであることを学ぶ。 医療面接における具体的な質問法を理解したうえで、医学的情報、社会的情報の質問項目について、面接の過程を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp33-48</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp33～48に目を通してこくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第7回	<p>医療面接と情報収集2</p> <p>【key words】 社会的情報、住環境情報、家族構成図</p> <p>【授業概要】 社会的情報における住環境情報（間取り図）、家族構成図の記載方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp43～48</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp43～48に目を通してこくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第8回	<p>痛みの評価1</p> <p>【key words】 痛みの定義、痛みの役割、痛みの分類</p> <p>【授業概要】 痛み（定義、役割、分類）について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp155～157</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp155～157に目を通してこくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>

第9回	<p>痛みの評価 2</p> <p>【key words】 痛みの臨床的評価尺度、VAS、NRS、FPS、MPQ</p> <p>【授業概要】 運動器に関連した疼痛評価の進め方（問診・観察、運動検査、触診検査）について学ぶ。 痛みの臨床的評価尺度の段階と判定について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp155-p162</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp155～162に目を通してこるこ。【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第10回	<p>姿勢・形態計測 1</p> <p>【key words】 抗重力姿勢、重心線、異常姿勢</p> <p>【授業概要】 ヒトの抗重力姿勢の特徴や姿勢評価の意義、手順、観察ポイントについて学ぶ。 演習：学生同士で、立位姿勢（正面、側面、後面）でのアライメント観察を行い、重心線の位置やランドマークについて確認する。その中で確認できた左右差等の理由について検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp126～130</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp126～130に目を通してこるこ。【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第11回	<p>姿勢・形態計測 2</p> <p>【key words】 体格指数、BMI、ローレル指数</p> <p>【授業概要】 体格指数（①BMI、②ローレル指数、③カウプ指数）の種類、算出式、判定基準、適応範囲について学ぶ。 学生自身の体格指数について計算式により算出し、得られた結果より判定、その意義について考察する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp131</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp131表2体格指数に目を通してこるこ。【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第12回	<p>姿勢・形態計測 3</p> <p>【key words】 四肢長、断端長、脚長差</p> <p>【授業概要】 形態測定の意義・目的・注意事項を整理し、結果からの解釈について学ぶ。 四肢長の測定肢位、測定点を理解し、正確に素早く触診、測定できるようにする。 学生同士で、四肢長の測定を行い、得られた数値を基に、その差異（脚長差）が起こる理由について検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp132-p140</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp132-p140に目を通してこるこ。【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第13回	<p>姿勢・形態計測 4</p> <p>【key words】 四肢周径、断端周径、筋委縮</p> <p>【授業概要】 形態測定の意義・目的・注意事項を整理し、結果からの解釈について学ぶ。 四肢周径の測定肢位、測定点を理解し、正確に素早く触診、測定できるようにする。 学生同士で、四肢周径の測定を行い、得られた数値を基に、その差異（筋委縮、筋肥大等）が起こる理由について検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp132-p140</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp132-p140に目を通してこるこ。【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第14回	<p>深部腱反射検査</p> <p>【key words】 深部腱反射、反射弓、病的反射</p> <p>【授業概要】 反射の種類と深部腱反射、病的反射の検査方法について学び、反射検査の演習を行う。 学生同士で、深部腱反射検査の実際を行い、実施上の注意事項、増強法の有無による差異を検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp163-p172</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 生理学で学んだ反射の定義、反射弓、反射の種類、深部腱反射の経路について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 感覚検査 【key words】 感覚の伝導路、デルマトーム、末梢神経皮膚支配 【授業概要】 感覚障害の起こるしくみと疾患ごとの特性について学ぶ。 感覚の伝導路、デルマトーム、感覚障害について学び、感覚検査の演習を行う。 学生同士で、感覚検査の実際を行い、デルマトーム、末梢神経支配領域との一致について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp141-p154 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 生理学で学んだ感覚の定義、分類について再確認し理解を深めておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 疾患を問わず臨床で用いられる理学療法の基本的な検査・測定の基本知識と基本手技を学習する科目である。3年後期の評価実習や4年臨床実習場面で実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、自身の身体を用いて思考してもらった場面やデモンストレーションを行う場面では、積極的な態度で臨むこと。 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実技を行う場合は、大学指定体操着、または指定の服装を着用すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントシート方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>各検査・測定の実技向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（30分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（60分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（30分程度）。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16時30分～</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（客観）：50%（授業最終回にWebで実施）、授業内のGoogle等の小テスト・課題・コメント：40%、ポートフォリオ（期限遵守、適切な時系列でのファイリング）：10%の総合評価を行う。</p>
<p>教科書</p>	<p>潮見 泰蔵ら 編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社</p>
<p>参考書</p>	<p>①柴 喜崇ら 編：ADL，羊土社 ②細田多穂 監：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト，南江堂 ③田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた，南山堂 ④津山直一 中村耕三 訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版 ⑤林典雄 著：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版 ⑥市橋 則明 編：運動療法学一障害別アプローチの理論と実際</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定スキルを身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。 ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。 ④理学療法における検査・測定スキルを身につける。</p>
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探すが「評価」の目的である。理学療法評価学 I で学んだ評価の目的、意義、方法、流れ)を基軸をしつつ、各種検査方法を学ぶ。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 【関節可動域検査】科目オリエンテーション 関節可動域検査の基礎</p> <p>【key words】 関節可動域検査、最終域感 (end feel)、関節可動域制限因子</p> <p>【授業概要】 ①講義の受け方、予習・復習について、評価方法などについて説明する。 ②関節可動域検査の基礎 (関節可動域とは、正常な関節可動域の条件、関節可動域検査の目的、最終域感 (end feel)、関節可動域制限の因子、関節可動域検査の手順、関節可動域検査の留意点等)について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前準備資料を配布するので熟読し、準備して受講すること。 関節可動域検査の基礎について確認テストを行うので、事前学習を十分に行って臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第2回 【関節可動域検査】肩関節・肘関節・前腕・手関節の関節可動域検査</p> <p>【key words】 基本軸・移動軸・制限因子</p> <p>【授業概要】 関節可動域検査 (肩関節・肘関節・前腕・手関節) 技術を習得する。 学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 上肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第3回 【関節可動域検査】肩甲帯の関節可動域検査</p> <p>【key words】 基本軸・移動軸・制限因子</p> <p>【授業概要】</p>
------	--

	<p>関節可動域検査（肩甲帯）技術を習得する。 学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 上肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第4回 【関節可動域検査】股関節・膝関節・足関節・足部の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子 【授業概要】 関節可動域検査（股関節・膝関節・足関節・足部）技術を習得する。 学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 下肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第5回 【関節可動域検査】実技小テスト（関節可動域検査） 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子 【授業概要】 関節可動域検査（上肢・下肢）技術の習得を確認するため実技小テストを行う。 関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第6回 【関節可動域検査】実技小テストの振り返り、頸部・体幹の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子 【授業概要】 実技小テストの振り返りを行う。 学生同士で、検者・被検者を交代しながら実技小テストの振り返り、頸部・体幹の実習を行う。 下肢関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p178-p200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習をして、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 基本軸・移動軸・参考可動域・制限因子を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第7回 【徒手筋力検査】プレテスト・徒手筋力検査の基礎 【key words】 関節運動方向と主動筋・筋の起始停止・MMT 【授業概要】 徒手筋力検査プレテスト（運動方向と主動筋、筋の起始・停止について）を行い、1年時の解剖学・運動学の学習の確認を行う。 徒手筋力検査の基礎（MMTとは、意義、目的、判定基準、信頼性、代償運動、固定と抵抗、手順、注意点）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-226 テキスト②p1-20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレテスト（運動方向と主動筋、筋の起始・停止について）を行うので、1年時の解剖学・運動学の学習について確認しておくこと。 プレテストでできなかった内容をまとめ、次回提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第8回 【徒手筋力検査】MMTにおける代償運動について 【key words】 代償運動・再現性・固定と抵抗 【授業概要】 徒手筋力検査においてみられる代償運動を防止するための検査肢位、固定と抵抗の部位や大きさについて整理する。 代償運動の出やすい関節運動を行い、現象の出方と出やすい理由について考察する。 学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p>
--	---

第9回	<p>【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p204-208 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲を熟読の上、受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>【徒手筋力検査】徒手筋力検査の基礎 【key words】 最大筋力・固定と抵抗・掛け声 【授業概要】 徒手筋力検査において、対象者の最大の筋力を発揮させるにはどのようにしたらよいか考え、その方法について習得する。 代償運動を防ぐ固定のしかた、抵抗のかけ方、説明のしかた、掛け声のかけ方を整理する。 アームレスリングを例にとり、声掛けに仕方によって力の発揮のされ方が変化することを理解し実践する。 学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-226 テキスト②p1-20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲を熟読の上、受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第10回	<p>【徒手筋力検査】上肢のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 上肢MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②109-166 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上肢のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第11回	<p>【徒手筋力検査】肩甲骨のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 肩甲骨MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p82-108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肩甲骨のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第12回	<p>【徒手筋力検査】下肢のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 下肢MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p205-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 下肢のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第13回	<p>【徒手筋力検査】頸部・体幹のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 頸部・体幹MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226</p>

	<p>テキスト②p205-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 頸部・体幹のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第14回 【徒手筋力検査】実技小テスト（徒手筋力検査） 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 徒手筋力検査（上肢・下肢・頸部・体幹）技術の習得を確認するため実技小テストを行う。 ※実技小テストの順番を待っている間は精度を高めるために練習を行うこと。実技小テストが終わった後は振り返りを行うこと。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p21-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第15回 【徒手筋力検査】実技小テストの振り返り 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 実技小テストの振り返り：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実技小テストの振り返りを行う。 期末テストについての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト①p201-p226 テキスト②p21-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実技小テストの振り返りをまとめておき受講すること。 期末テストについての説明を行うので、教科書、配布資料の整理し持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関する情報〕 疾患を問わず臨床で用いられる理学療法の基本的な検査・測定的基础知識と基本手技を学習する科目である。3年後期の評価実習や4年臨床実習場面で実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、デモンストレーション・実技演習場面では、積極的態で臨むこと。 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実技を行う場合は、大学指定体操着または指定の服装を着用すること。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントシート方式
授業外時間にかかわ る情報	<p>実技小テストの実施や再テストの実施は、授業時間外に行う場合がある。各検査・測定の実技向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。 ①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>
オフィスアワー	火・金曜日の放課後
評価方法	<p>筆記試験（客観）：50%（授業最終回にWebで実施）、授業内のGoogle等の小テスト・課題・コメント：40%、ポートフォリオ（期限遵守、適切な時系列でのファイリング）：10%の総合評価を行う。</p>
教科書	<p>①潮見 泰蔵ら 編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社 ②津山直一 中村耕三 訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版</p>
参考書	<p>①柴 喜崇ら 編：ADL、羊土社 ②細田多穂 監：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂 ③田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂 ④林典雄 著：運動療法のため機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版 ⑤市橋 則明 編：運動療法学―障害別アプローチの理論と実際</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL（課題解決型学習） <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p>

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 主に神経障害に関連する理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようにすることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。 ②基本的な面接・観察技法を身につける。 ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。 ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。</p>		
授業の概要	主に神経障害患者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを軸としつつ、各種検査方法について学んでいく		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>片麻痺機能検査①</p> <p>【key words】 連合反応・病的共同運動・分離運動</p> <p>【授業概要】 脳血管障害、片麻痺機能検査、連合反応、病的共同運動、分離運動・片麻痺機能評価を実施するための基礎知識を学ぶ。 中枢神経障害と末梢神経障害の回復過程の違いを学ぶ。 授業終了時に確認小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp49～64、p141～、p163～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中枢神経のメカニズムを復習して受講すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>	
	第2回	<p>片麻痺機能検査②</p> <p>【key words】 Brunnstrom Stage・病的共同運動・分離運動</p> <p>【授業概要】 Brunnstrom Stageの各検査方法を実施する。 学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp351～ 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に模倣できるように予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>	
	第3回	<p>片麻痺機能検査③</p> <p>【key words】 Brunnstrom Stage・病的共同運動・分離運動</p> <p>【授業概要】 片麻痺機能検査の実際を症例を想定して学ぶ。</p>	

	<p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp335～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、必要な検査項目を想定しておくこと。 検査に必要な基礎知識・技術について確認する。実際に模倣できるように予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 筋緊張検査① 【key words】 静的筋緊張・姿勢筋緊張・異常筋緊張 【授業概要】 筋緊張について学び、静的筋緊張・姿勢筋緊張と異常筋緊張の違いを理解する。 異常筋緊張の発生機序を学ぶ。 動作観察・姿勢観察・触診・被動性検査などの検査の種類を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp173～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 筋緊張の発生メカニズムについて復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>筋緊張検査② 【key words】 筋緊張・被動性検査・MAS 【授業概要】 筋緊張検査に必要な知識を理解した上で、被動性検査の方法を学ぶ。 姿勢から静的筋緊張検査を押し量る考え方を学ぶ。 Modified Ashworth Scale (MAS) を使用して筋緊張を評価する。 筋緊張と抵抗感・エンドフィールとの関連性について学ぶ。 学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp163～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 病的筋緊張の異常と疾患について復習しておくこと。 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第5回	<p>片麻痺機能検査・筋緊張検査 小テスト① 【key words】 Brunnstrom Stage・筋緊張・被動性検査 【授業概要】 ・小テスト：片麻痺機能検査・筋緊張検査の範囲の知識の確認 ・片麻痺機能検査・筋緊張検査の実際：実技・質疑応答 【教科書ページ・参考文献】 テキストp163～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページの範囲について十分に復習したうえで、確認テストに臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第6回	<p>観察による動作観察・分析① 【key words】 動作観察・動作分析・姿勢観察 【授業概要】 動作観察方法を学ぶ。まずは姿勢の評価から。 動作の特徴を捉え、模倣する。 動作の全体像を捉えることを学ぶ。 学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp126～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第7回	<p>観察による動作観察・分析② 【key words】 模倣・正常歩行・異常歩行 【授業概要】 動作の模倣の見極め。 歩行動作の特徴を捉え、模倣し、全体像を捉える。 歩行動作のさまざまな全体像の捉え方を学ぶ。 専門用語を使った動作観察の表現を学ぶ。 異常歩行と健常者との歩行（正常歩行）の違いについて学ぶ。 学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp313～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。</p>

第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 120分 観察による動作観察・分析③ 小テスト②</p> <p>【key words】 姿勢観察・動作観察・動作分析</p> <p>【授業概要】 小テスト：観察による動作観察・分析の範囲の知識・技能の確認</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp126～、p163～ 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページの範囲について十分に復習したうえで、確認テストに臨むこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>120分 脳神経検査</p> <p>【key words】 脳神経・運動機能・感覚機能</p> <p>【授業概要】 脳神経検査に必要な知識を理解し、検査測定方法を学ぶ。 学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp65～ 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳神経について復習しておくこと。 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>120分 協調性検査</p> <p>【key words】 協調性・協調運動・運動失調</p> <p>【授業概要】 協調運動障害・運動失調の違いを学ぶ。 協調性検査の方法を学び、実施する。 躯幹協調機能ステージを学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp251～ 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>120分 姿勢・平衡機能・バランス検査①</p> <p>【key words】 姿勢調節・静的バランス・動的バランス</p> <p>【授業概要】 姿勢調節とバランスの基礎知識を学ぶ。 バランスの理論的背景を学ぶ。 バランス評価の難易度設定方法を学ぶ。 BesTestの内容・意味を知る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 姿勢反射について復習しておくこと。 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>120分 姿勢・平衡機能・バランス検査②</p> <p>【key words】 姿勢調節・座位バランス・外乱負荷</p> <p>【授業概要】 座位バランス検査方法を学ぶ。 実際に実習を通して学ぶ（静的・動的・外乱負荷応答）。 着眼点や評価指標を学ぶ。 不安定性を検査するという目的を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>120分 姿勢・平衡機能・バランス検査③</p> <p>【key words】 姿勢調節・立位バランス・外乱負荷</p> <p>【授業概要】 立位バランス検査方法を学ぶ。 実際に実習を通して学ぶ（静的・動的・外乱負荷応答）。 着眼点や評価指標を学ぶ。</p>

	<p>転倒の危険性をどのように防ぐか、グループワークを行いながらディスカッションしていく。体重計を使用した左右の荷重の差や不安定性を検査する目的を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第15回 姿勢・平衡機能・バランス検査④ 小テスト③</p> <p>【key words】 BBS・FR・TUG 【授業概要】 バランスのパフォーマンステストを学ぶ。 BBS、FR、TUGを実施に実施する。 小テスト：バランス検査の知識の確認を行う。 学生同士で検者・被検者を交代しながら技術の習得を図る。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp227～ 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページに目を通し、検査に必要な基礎知識・技術について予習しておくこと。 教科書の該当ページの範囲について十分に復習したうえで、確認テストに臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ①実技を行う場合は動きやすい格好（学校指定のジャージ・ポロシャツ・短パン）で準備すること ②予習を前提に講義を進める 〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントシート方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>授業概要・授業進行を確認し、予習・復習（積極的に治療室を利用し、学生同士で復習を行うこと）を怠らないこと。指定された予習以外にも、評価（検査・測定）に関連する基礎医学的な知識を学習しておくこと。また、不足している基礎的な医学知識を授業終了後に必ず確認すること</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16時30分～</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験100%にて判定するが、授業進行に合わせた課題・小テスト・授業態度等を総合的にみて判断する。</p>
<p>教科書</p>	<p>潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社</p>
<p>参考書</p>	<p>石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ，中山書店，2011 川平和美・編：神経内科，医学書院，2013 千野直一ら：脳卒中の機能評価 S I A S と F I M ，金原書店，2012 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山書店，2015 市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2015 奈良勲ら・編：図解理学療法検査・測定ガイド，文光堂，2009 市橋則明・編：理学療法評価学，文光堂，2016 月城慶一ら・訳：観察による歩行分析，医学書院，2015</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 □その他</p>

	その他の具体的内容
--	-----------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 神経障害疾患の理学療法における評価・治療技術の基礎を学ぶ。 [達成目標] ①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。 ②疾患に関連した障害像を説明できる。 ③疾患の特性・症状・評価結果と結びつけた運動療法の考え方・介入方法を説明できる。
授業の概要	解剖学、運動学、評価学、運動療法学の学習を踏まえて、主に神経障害疾患に関する理学療法で必要となる考え方・評価・治療技術の基礎を学ぶ

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	運動療法に必要な神経の構造と機能① / 科目オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 神経、脳、伝導路、脳機能局在、脳血流灌流分布科目の進行・評価判定基準を確認し、学習の進め方を学ぶ。中枢神経系の構造についてミニテスト実施予定。 運動に関係する脳の構造と構造について学ぶ 脳血流灌流分布や運動・感覚で伝導路について学ぶ 運動学習の基礎を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	運動療法に必要な神経の構造と機能② 【key words】 【授業概要】 科目の進め方・評価判定基準を確認し、学習の進め方を学ぶ。p17～ 運動に関係する脳の構造と構造について学ぶ。伝導路についてミニテスト実施予定。 脳血流灌流分布や運動・感覚で伝導路について学ぶ 運動学習の基礎を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法① 【key words】 【授業概要】 運動療法施行に必要な脳卒中片麻痺の病態について学ぶ。 脳卒中片麻痺患者に対する運動療法の意義、目的、考え方を学ぶ。片麻痺の病巣と症状についてミニテスト実施予定。 脳卒中片麻痺患者に対する具体的な運動療法を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：

第4回	<p>臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法② 【key words】</p> <p>【授業概要】 運動療法施行に必要な脳卒中片麻痺の病態について学ぶ 脳卒中片麻痺患者に対する運動療法の意義、目的、考え方を学ぶ。該当教科書を通読しておくこと。ミニテスト実施予定。 脳卒中片麻痺患者に対する具体的な運動療法を学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 感覚障害に対する運動療法 【key words】</p> <p>【授業概要】 感覚に対する受容器・伝導路について再確認する 感覚障害の分類について学ぶ。ゲートコントロールセオリーについてミニテスト実施予定。 感覚障害に対する評価を再確認する 感覚障害に対する運動療法の理論的背景を学び、具体的な運動療法を理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 バランス障害・姿勢障害に対する運動療法① 【key words】</p> <p>【授業概要】 バランスに関連する要素、姿勢調節、運動制御（調節）の概念について学ぶ バランス能力の理論的背景を学ぶ 姿勢調節障害の分類を学ぶ。姿勢反射についてミニテスト実施予定。 バランス障害に対する具体的な運動療法について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 バランス障害・姿勢障害に対する運動療法② 【key words】</p> <p>【授業概要】 バランスに関連する要素、姿勢調節、運動制御（調節）の概念について学ぶ バランス能力の理論的背景を学ぶ。バランス検査についてミニテスト実施予定。 姿勢調節障害の分類を学ぶ バランス障害に対する具体的な運動療法について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 運動失調・協調性障害に対する運動療法 【key words】</p> <p>【授業概要】 協調性、協調性障害、運動失調の違い・分類を学ぶ 小脳の機能と投射を学ぶ。協調運動の検査についてミニテスト実施予定。 小脳による運動の誤差学習、フィードバック制御とフィードフォワード制御、運動学習の内部モデルを理解する。ミニテスト実施予定。 小脳性運動失調と症状と特徴、回復過程を学ぶ 運動失調に対する一般的な運動療法を学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 歩行障害に対する運動療法 【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>歩行障害の背景を学ぶ 歩行周期とその役割を再確認する。歩行周期についてミニテスト実施予定。 さまざまな歩行評価を学ぶ。ミニテスト実施予定。 歩行障害に対する運動療法の理論を学ぶ（課題指向型・基礎・歩行能力改善トレーニング） 立脚・遊脚期の具体的な運動療法を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ◎理学療法テキスト 神経理学療法学 I Lecture1/Lecture 2 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 神経障害—運動療法・介入の実際 脳卒中急性期① 【key words】</p> <p>【授業概要】 脳卒中の病期別リハビリテーションの流れ、考え方、ポイントを学ぶ。土肥アンダーソンの基準についてミニテスト実施予定。 脳卒中急性期のリハビリテーション開始基準/中止基準を学ぶ ポジショニング、関節可動域練習、座位・立位耐性練習の具体的方法を学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 神経障害—運動療法・介入の実際 脳卒中急性期② 【key words】</p> <p>【授業概要】 脳卒中の病期別リハビリテーションの流れ、考え方、ポイントを学ぶ 脳卒中急性期のリハビリテーション開始基準/中止基準を学ぶ ポジショニング、関節可動域練習、座位・立位耐性練習の具体的方法を学ぶ。正常関節可動域についてミニテストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 パーキンソン病に対する運動療法 【key words】</p> <p>【授業概要】 パーキンソン病の病態、障害像を学ぶ パーキンソン病の病態を踏まえ、リスク管理、評価を学ぶ。パーキンソニズムについてミニテスト実施予定。 パーキンソン病に対する基本的な理学療法介入の方法を学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第13回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 高次脳機能障害に対する運動療法 【key words】</p> <p>【授業概要】 理学療法士が対象とする場合の多い高次脳機能障害を理解する。片麻痺障害側による高次脳機能障害のミニテスト実施予定。 理学療法士が対象とする場合の多い高次脳機能障害に対する評価を学ぶ。 理学療法士が対象とする場合の多い高次脳機能障害に対する理学療法アプローチを学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第14回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 嚥下障害①（外部講師） 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第15回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 嚥下障害②（外部講師）</p>

	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト： 臨床運動学： 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[服装指定] 実技の予定がある場合は指定ジャージとします（防寒対策は認めます）</p> <p>[学習方法] 神経障害疾患に関する基礎知識、評価、運動療法を中心に学びますので、関連した予習を進めてください</p> <p>解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることを前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	科目オリエンテーションや授業内で説明を実施しますが、予習・課題・復習の実施を前提に講義を進めます
オフィスアワー	木曜日16時～17時（その他の曜日については要予約）
評価方法	筆記試験100%ではあるが、授業進行に合わせた課題・小テスト等の総合評価にて判定する。
教科書	細田多穂・監修：神経筋障害理学療法テキスト，南江堂，2018
参考書	<p>石川 齊ら・編：凶解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014</p> <p>奈良勲・監修：神経内科 第4版，医学書院，2013</p> <p>奈良勲・監修：解剖学 第4版，医学書院，2018</p> <p>石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山書店，2015</p> <p>石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座，メジカルビュー，2019</p> <p>他：必要に応じて授業内に提示します</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士として、急性期病院で2年間、回復期病院で中枢神経疾患を中心に3年間の実務経験を 生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榑原清・小林雄斗			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 中枢神経障害の理学療法における治療技術の基礎を身につける。</p> <p>[到達目標] ①疾患に関連した運動療法を中心とした治療技術を選択することができる。機能障害に対する治療技術を選ぶことができる。 ②①の主要な治療技術を立案・実行できる。 ③②について、難易度設定や効果判定評価、動作目標、機能障害を示すことができる。</p>		
授業の概要	これまでの学習内容・運動療法学Ⅱの学習を踏まえて、中枢神経障害の理学療法で必要となる治療技術の基本的なものが実施できるように、身につける。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 神経障害に対する運動療法基礎：動作観察／科目オリエンテーション 【key words】</p> <p>【授業概要】 動作観察、神経障害、運動療法、理学療法評価科目の進行・評価判定基準を確認し、学習の進め方を学ぶ 動作観察の記録方法を復習する 脳血管障害の特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の動作の特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の寝返り動作に対し動作観察を実施する(課題) ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77? (理学療法テキスト 神経理学療法Ⅰ) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 神経障害—脳卒中片麻痺の姿勢・動作の特徴 【key words】</p> <p>【授業概要】 脳卒中片麻痺を呈した患者の寝返り動作の観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の座位姿勢の観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の座位姿勢の動作観察を実施する(課題) ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法Ⅰ) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) 予習：動作観察、運動学説明について臨床運動学実習の内容を踏まえ復習 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>		

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 神経障害一評価・運動療法・介入の基礎：姿勢・動作観察、運動制御、運動学習① 【key words】</p> <p>【授業概要】 脳卒中片麻痺を呈した患者の寝返り動作の観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上り動作の観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上りの動作観察を実施する（課題） 脳卒中片麻痺を呈した患者の移乗・歩行の動作を学ぶ ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法 I) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) 予習：自分 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 神経障害一評価・運動療法・介入の基礎：動作観察、姿勢・運動制御、運動学習② 【key words】</p> <p>【授業概要】 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上りの観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の歩行の特徴・観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の移乗方法、歩行介助方法、膝折れを抑えた立ち上り動作の介助を学ぶ（実技） ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法 I) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) 予習：自分がまとめた立ち上り動作 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 神経障害一基本動作に対する運動療法・介入の基礎（移乗・立ち上がり・歩行） 【key words】</p> <p>【授業概要】 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上りの観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の歩行の特徴・観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の移乗方法、歩行介助方法、膝折れを抑えた立ち上り動作の介助を学ぶ（実技） ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法 I) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) 予習：自分がまとめた立ち上り動作 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 神経障害一運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 脳卒中片麻痺を呈した患者の立ち上りの観察結果からその特徴を学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の歩行の特徴・観察ポイントを学ぶ 脳卒中片麻痺を呈した患者の移乗方法、歩行介助方法、膝折れを抑えた立ち上り動作の介助を学ぶ（実技） ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 p77?/p45? (理学療法テキスト 神経理学療法 I) (中枢神経障害理学療法テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) 予習：自分がまとめた立ち上り動作 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 神経障害一運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ② 【key words】</p> <p>【授業概要】 ・理学療法・運動療法を進める上で知っておくべき基礎的な知識を復習し、その対応について学ぶ ・運動学習の概念を学ぶ（運動学習へ効果を及ぼす因子／運動学習の性質）</p>

	<p>・課題指向型アプローチの概念を学び、実践する●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：運動学習について 復習：配布された資料を元に、い 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第8回 神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・理学療法・運動療法を進める上で知っておくべき基礎的な知識を復習し、その対応について学ぶ ・運動学習の概念を学ぶ(運動学習へ効果を及ぼす因子/運動学習の性質) ・課題指向型アプローチの概念を学び、実践する●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：理学療法における基本的な運動療法を調べる 復習： 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第9回 神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法①：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 4グループに別れて課題指向型アプローチの考え方を元に運動療法プログラム(課題)を考える ●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：課題指向型アプローチの具体的方法や運動学習について予習すること 課題：各グループごとに指定された目標に向かい運動プログラム(課題)を検討すること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第10回 神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法②：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 4グループに別れて課題指向型アプローチの考え方を元に運動療法プログラム(課題)を考える ・・・継続●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際) (動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：課題指向型アプローチの具体的方法や運動学習について予習すること 課題：各グループごとに指定された目標に向かい運動プログラム(課題)を検討すること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第11回 神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法③：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 4グループごとにプレゼンテーションを実施 1グループ20分 ?プレゼンテーション役/PT役/患者役×2を決め、2つの運動プログラム(課題)に対して解説する●配布資料及び以下の教科書の関連内容 理学療法テキスト 神経理学療法学 I p93? (中枢神経障害理学療法学テキスト) (運動療法学 障害別アプローチの理論と実際)</p>
--	---

	<p>(動作分析 臨床活用講座) (理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学) 予習：課題指向型アプローチの具体的方法や運動学習について予習すること 課題：各グループごとに指定された目 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回 小児疾患に対する理学療法①【脳性麻痺 痙直型両麻痺、他】 【key words】 脳性麻痺・痙直型・筋緊張亢進 【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的な痙直型両麻痺児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしようえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 映像と配布資料により授業を展開します。ポケットファイルに綴じて整理しておくこと。 参考文献 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第13回 小児疾患に対する理学療法②【脳性麻痺 アテトーゼ、他】 【key words】 脳性麻痺・アテトーゼ型・筋緊張の変動 【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的なアテトーゼ児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしようえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 映像と配布資料により授業を展開します。ポケットファイルに綴じて整理しておくこと。 参考文献 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第14回 小児疾患に対する理学療法③【ダウン症・デュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）、他】 【key words】 ダウン症・デュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）・脊髄性筋萎縮症 【授業概要】 ダウン症児、子どもの遺伝性疾患の代表的なデュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしようえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 映像と配布資料により授業を展開します。ポケットファイルに綴じて整理しておくこと。 参考文献 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第15回 小児疾患に対する理学療法④【二分脊椎、発達障害、他】 【key words】 二分脊椎・ペルテス病・骨形成不全症・発達障害 【授業概要】 子どもの整形外科疾患の代表的な二分脊椎児、低緊張を呈する発達障害児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしようえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 映像と配布資料により授業を展開します。ポケットファイルに綴じて整理しておくこと。 参考文献 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連すポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>受講生に関わる情報および受講のルール</p>	<p>[服装指定] 実技中心になることから、運動可能な指定ジャージを指定とします（防寒対策は認めません） [学習方法] 体験と指導デモンストレーションをトレーニングします 解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることを前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください</p>
<p>毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>

授業外時間にかかわる情報	科目オリエンテーションや授業内で説明を実施しますが、予習・課題・復習の実施を前提に講義を進めます
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験100%ではあるが、コメントカードの記載や、講義実習への参加度等を含めた総合評価にて判定する。
教科書	細田多穂：神経筋障害理学療法学テキスト，南江堂，2018
参考書	市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2015 細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版，南江堂，2014 奈良勲ら・編：図解理学療法検査・測定ガイド，文光堂，2009 市橋則明・編：理学療法評価学，文光堂，2016 月城慶一ら・訳：観察による歩行分析，医学書院，2015 石川 齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習，医歯薬出版，2019 他：必要に応じて授業内に提示します
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 <p>その他の具体的内容</p> <p>症例の映像を活用した授業を行います。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>物理療法とは、熱、光、水、電気、超音波、徒手、機械力などの物理的なエネルギーを生体に加えることによって、生体の持っている反応を引き出し、生体の変調を整えることにより疾病治療に寄与する治療手技である。本講義では、物理療法で用いられる物理的エネルギーが生体におよぼす影響や、また物理的エネルギーによって起こる生体反応がどのようなものか、機序も含め学ぶことにある。</p> <p>授業の到達目標・期待される学習効果</p> <p>①物理療法における物理療法の位置づけが説明できる。 ②物理療法に用いられる各種エネルギーの特性を説明することができる。 ③各種物理療法の適応と禁忌が説明できる。 ④各種物理療法機器の安全な取り扱いができる。</p>
授業の概要	<p>物理療法とは生態に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手技である。当科目は理学療法における物理療法の位置づけを理解することから始まり、物理療法に用いられる各種エネルギーの特性と生体反応の物理的機序を学ぶ。また実際に物理療法を経験することにより、各種機器の正しく安全な操作方法を習得する。</p>

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 ガイダンス・物理療法とは・物理療法の分類と歴史</p> <p>【key words】 理学療法、物理療法、リスク管理</p> <p>【授業概要】 物理療法、理学療法理学療法における物理療法の位置づけを解説する。また物理療法の分類と歴史的背景を解説する。p1～物理療法とは何か、考えをまとめること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p1～p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第2回 各種物理療法の生理的作用と治療目的・適応と禁忌</p> <p>【key words】 温熱療法、生理作用、熱の移動</p> <p>【授業概要】 各種物理療法の生理的作用と治療目的、適応と禁忌について解説を行う。p24～温熱療法について各療法を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p24～p46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第3回 物理療法の適応と病態①炎症と組織の修復</p> <p>【key words】 炎症、4徴候、治癒過程</p> <p>【授業概要】</p>
------	--

	<p>物理療法が対象となる症状および疾患について説明をする。また、禁忌およびリスク管理を理解した上で、治療ガイドラインを使用することができるようになる。別途資料を配布予定。炎症について調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 病理学等の本から情報を得ること 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第4回 物理療法の適応と病態②痛み 【key words】 痛み、伝導路、 【授業概要】 痛みのメカニズムの生理学を解説し、さまざまな物理療法を使用するための生理学的基礎を理解する。また、立証された治療効果を含む、生理学的効果のある物理療法の選択方法について学ぶ。痛みの生理的機序について調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 生理学等の本から情報を得ること 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第5回 温熱療法①温熱療法概論・ホットパック・パラフィン浴 【key words】 ホットパック、パラフィン浴 【授業概要】 温熱療法の効果と適応禁忌を解説する。温熱療法におけるホットパック、パラフィン浴について解説を行う。p34～ホットパックについてその特徴を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p34～p46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第6回 温熱療法②ホットパック・パラフィン浴の生理的機序 【key words】 ホットパック、パラフィン浴 【授業概要】 温熱療法の効果と適応禁忌を解説する。温熱療法におけるホットパック、パラフィン浴について解説を行う。p40～パラフィン浴についてその特徴を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p34～p46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第7回 温熱療法③極超短波・超音波 【key words】 極超短波、超音波、ランバードの余弦則 【授業概要】 エネルギー変換療法の種類と物理的エネルギーの違いおよび特徴について学ぶ。また臨床で使用する頻度が比較的多い超音波療法の物理的特性と理論的背景を理解する。p84～極超短波と身近な家電機器の関連を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p84～p90、p130～p148 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第8回 電気刺激療法①電気刺激療法概論・経皮的末梢神経電気刺激療法 【key words】 電気療法、低周波、運動点 【授業概要】 電気エネルギーの理論を理解し、さまざまな治療機器を用い、電気エネルギーを治療に使用する方法を学ぶ。p149～モーターポイントについて調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p149～p188 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p>
--	--

第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>電気刺激療法②経皮的末梢神経電気刺激療法の実際</p> <p>【key words】 TENS、SSP、干渉波</p> <p>【授業概要】 電気エネルギーの理論を理解し、さまざまな治療機器を用い、電気エネルギーを治療に使用する方法を学ぶ。p149～機能的電気刺激とは何か調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p149～p188</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第10回	<p>光線療法 光線療法概論・赤外線・紫外線・レーザー光線</p> <p>【key words】 赤外線、紫外線、レーザー光線</p> <p>【授業概要】 光線の性質と分類を理解し、光線療法の種類と生理学的効果について学ぶ。p91～赤外線と紫外線の違いを調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p91～p130</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第11回	<p>牽引療法 頸椎牽引と骨盤牽引</p> <p>【key words】 頸椎牽引、骨盤牽引</p> <p>【授業概要】 牽引療法の理論的背景を理解し、患者の症状や障害に合わせた牽引療法を学ぶ。p223～直達牽引と間欠牽引の違いを調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p223～p248</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第12回	<p>水治療法①水治療法概論・渦流浴・気泡浴</p> <p>【key words】 特異的作用、非特異的作用、生理的作用</p> <p>【授業概要】 水治療法の物理的特性と理論的背景を理解し、患者さんの状況に即した安全な水治療法について学ぶ。p189～水の物理的特性を考えておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p189～p222</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第13回	<p>水治療法②上肢・下肢・半座浴・全身浴</p> <p>【key words】 ババート浴、水中運動療法、交代浴</p> <p>【授業概要】 水治療法の物理的特性と理論的背景を理解し、患者さんの状況に即した安全な水治療法について学ぶ。p189～水中運動の効果について調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p189～p222</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第14回	<p>寒冷療法①寒冷療法概論・アイスマッサージ・クリッカー・コールドパック</p> <p>【key words】 寒冷誘発血管拡張、アイシング、レイノー現象</p> <p>【授業概要】 寒冷療法の生理学的作用について理解を深め、寒冷療法の効果を元に臨床での目的と適応について学ぶ。p47～冷却の生理学的効果を調べておくこと。前回の授業内容について小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>物理療法学p47～p69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>第15回 物理療法のとまとめ 【key words】 理学療法、物理療法、運動療法 【授業概要】 物理療法のとまとめを行う。各小テストを忘れずに持参すること。なし各小テストを振り返るので忘れずに持参すること。前回の授業内容について小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ・予習復習は必ず行うこと。 [受講ルール] ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 70%、平常点30% ※授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	松澤 正：物理療法学 改訂第2版 金原出版株式会社
参考書	シンプル理学療法シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	物理療法とは、熱、光、水、電気、超音波、徒手、機械力などの物理的なエネルギーを生体に加えることによって、生体の持っている反応を引き出し、生体の変調を整えることにより疾病治療に寄与する治療手技である。本講義では、物理療法で用いられる物理的エネルギーが生体におよぼす影響や、また物理的エネルギーによって起こる生体反応がどのようなものか機序も含め学ぶことにある。そして各種機器を操作し安全に実践できることを目的・目標とする。 ①物理療法機器を安全に取り扱うことができる。 ②症状に合わせた機器の選択ができる。 ③物理療法機器の適応と禁忌ならびに使い方のオリエンテーションができる。 ④物理療法機のメンテナンスができる。
------------	--

授業の概要	物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は各種疾患に対する物理療法の適応を理解し、物理療法に用いられる各種エネルギー特性と疾患特有の症状への生理的機序を学び、同時に適切に機器の運用ができるようになることである。
-------	--

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	物理療法の適応と禁忌 【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 物理療法、適応と禁忌各物理療法機器の適応と禁忌について、まとめと振り返りを行う。p1～物理療法学の授業で用いた資料で振り返りを行っておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p10～p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。
	第2回	ホットパックの実際①(準備から実施、メンテナンスと注意事項) 【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 ホットパック療法で用いる材質の物理的特性を理解し、表在性温熱療法の作用と効果の理論的背景を学ぶ。また安全にホットパックを作り、リスクを守りながら施行できるための技術を学ぶ。p34～ホットパックの適応と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p34～p40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。
	第3回	ホットパックの実際②(準備から実施、メンテナンスと注意事項) 【key words】 乾式、湿式、熱傷 【授業概要】 ホットパック療法で用いる材質の物理的特性を理解し、表在性温熱療法の作用と効果の理論的背景を学ぶ。また安全にホットパックを作り、リスクを守りながら施行できるための技術を学ぶ。

第4回	<p>p34～実施手順について、口頭で説明できるようにしておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p34～p40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 寒冷療法の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 伝導の物理的特性を理解し、患者の状況に応じた適切な伝導冷却法の実際について学ぶ。p47～寒冷療法の実際と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p47～p69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 パラフィン浴の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項）</p>
第5回	<p>【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 パラフィンの物理的特性と伝導温熱法としてのパラフィン浴の特徴を理解し、患者の状況に応じたパラフィン浴の選択と実際の施行方法について学ぶ。p40～パラフィン浴の実際と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p40～p46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 赤外線療法と極超短波療法の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項）</p>
第6回	<p>【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 赤外線、極超短波療法の基礎物理と臨床に用いる根拠を理解し、患者の状況に即した赤外線、極超短波療法の実際について学ぶ。p84～、p106～赤外線療法と極超短波療法の実際と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p84～p90、p107～p114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 超音波療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）</p>
第7回	<p>【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 温熱モードと非温熱モードの設定を理解し、患者の状況に適した超音波療法を学ぶ。p130～超音波療法の実際と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p130～p147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 超音波療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項）</p>
第8回	<p>【key words】 有賀母指感覚法、ストローク法、回転法 【授業概要】 温熱モードと非温熱モードの設定を理解し、患者の状況に適した超音波療法を学ぶ。p130～超音波療法の実際と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p130～p147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 低周波療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）</p>
第9回	<p>【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 NMESを用いた運動神経刺激の理論的背景を理解し、さまざまな治療対象に対して適切に直流、交流、パルス電流刺激装置を選択し、治療するための方法を学ぶ。p149～低周波療法の実際と禁忌について復習しておくこと</p>

第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p165～p173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 低周波療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 【key words】 関導子、不関導子、運動点 【授業概要】 TENSを用いた痛みのコントロールの理論的背景を理解し、痛みを制御するために直流、交流、パルス電流刺激装置を適切に選択し、治療するための方法を学ぶ。p149～低周波療法の適応と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p165～p173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 牽引療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）</p>
第11回	<p>【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 一般的に行われている電動式牽引装置を用いた牽引療法について理解し、電動式牽引以外の牽引方法について学ぶ。p223～牽引療法の適応と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p223～p248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 牽引療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項）</p>
第12回	<p>【key words】 持続牽引、間欠牽引、直達と介達 【授業概要】 一般的に行われている電動式牽引装置を用いた牽引療法について理解し、電動式牽引以外の牽引方法について学ぶ。p223～牽引療法の適応と禁忌について復習しておくこと 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p223～p248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。</p>
第13回	<p>牽引療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 【key words】 グループワーク 【授業概要】 各物理療法機器の説明と操作について、実際に学生同士で行ってみる。全てが対象受け持ちの物理療法機器の説明書を作成すること 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 グループ学習① 物理療法の操作と説明</p>
第14回	<p>【key words】 グループワーク 【授業概要】 各物理療法機器の説明と操作について、実際に学生同士で行ってみる。全てが対象受け持ちの物理療法機器の説明書を作成すること 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 グループ学習② 物理療法の操作と説明</p>
第15回	<p>物理療法実習のまとめ 【key words】 問題作成 【授業概要】 受け持ちの物理療法機器に関する適応と禁忌、生理的効果等の国家試験類似問題を作成し、問題を出し合う。全てが対象国家試験類似問題の作成 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 ・予習復習は必ず行うこと。 ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 70%、平常点30% ※授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	松澤 正・他：物理療法学 改訂第2版 金原出版株式会社
参考書	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	車椅子や歩行補助具、義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた車椅子や歩行補助具、義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。 到達目標 ①義肢・装具の種類と効果（作用）の説明ができる。 ②疾患や障害にあった義肢・装具の選択ができる。 ③歩行補助具の選択と調節ができる。
授業の概要	臨床で使用されている車椅子、歩行補助具、義肢・装具を、理学療法との結び付きの中で学習し、これまで習った疾患や障害に照らし合わせながら車椅子、歩行補助具、義肢・装具の種類、適応、用法、禁忌、起こりやすいトラブルなどの基礎知識を身に付ける。義肢については、切断肢位、ソケットの構造、継手の種類・適応などを学ぶ。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション/歩行補助具について 【key words】 key words:歩行補助具、杖 【授業概要】 T字杖、多脚杖、杖の処方歩行補助具の目的や必要条件を説明しT字杖や多脚杖について実物を見ながらその特徴を解説する。また、杖の処方や主な疾患に対する杖の処方を考える。 【教科書ページ・参考文献】 p358～予習：各種杖について調べる。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず予習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。
	第2回	歩行補助具、車椅子について 【key words】 key words:杖の調節、杖の歩き方 【授業概要】 松葉杖や歩行器の特徴を実物を見ながら解説する。また、松葉杖の合わせ方、歩行の形式について体を動かしながら理解する。車椅子の各名称を説明する。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p314～予習：車椅子について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。
	第3回	車椅子の採寸、チェックポイント 【key words】 key words:車椅子の構造、車椅子処方、車椅子操作 【授業概要】 車椅子のアームサポートやバックサポート、レッグサポートの各種機能について実物を見ながら解説する。また、どのような目的を持ってその機能を用いるかを考える。車椅子作成に必要な身体測定を実施し、チェックポイントを解説する。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。

第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】 p314～予習：車椅子の各種機能について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。 義肢装具の概念、切断部位と切断術について 【key words】 key words:切断の疫学、切断術 【授業概要】 各種義肢や装具を確認し、PTとして知識を得ることの意味を考える。切断部位や原因について解説する。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p1～、予習：義肢の概念について読んでおくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。</p>
第5回	<p>切断の分類・原因、切断手段の概略、切断部位と切断術について 【key words】 key words:末梢循環障害 【授業概要】 切断部位の選択の一般的原則について紹介し、上肢切断、下肢切断の部位について説明する。切断術の際の血管、神経、骨、筋の処理について解説する。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p47～予習：どのような切断があるか調べておくこと。復習：末梢循環障害についてまとめておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。</p>
第6回	<p>大腿義足ソケット（四辺形ソケットとIRCソケットの機能的役割）について 【key words】 key words:大腿義足、ソケット、膝継手 【授業概要】 大腿義足の構成について説明する。差し込み式ソケット、四辺形ソケット、IRCソケットについて実際のソケットを見ながら特徴について理解する。各種膝継手に触れ、理解する。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p120～予習：大腿義足ソケットについて調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。</p>
第7回	<p>下腿義足ソケット（PTB、PTS、KBM、TSB式下腿義足）について 【key words】 key words:下腿義足、SACH足 【授業概要】 下腿義足ソケットであるPTB、PTS、KBM、TSBソケットについて実際に見ながらその特徴を理解する。また下腿義足の足部について解説を行う。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p150～予習：下腿義足について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。</p>
第8回	<p>その他の義足について 【key words】 key words:サイム切断、股義足 【授業概要】 各義足の特徴について説明しを行う。実際の義足を手に取り、構造を把握しながらその特徴を理解する。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p170～予習：その他の義足について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。</p>
第9回	<p>義手について</p>

第10回	<p>【key words】 key words: コスメティック、機能性</p> <p>【授業概要】 義手の構成と特徴について学ぶ。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p91～予習：義手の分類と構成要素を調べておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>装具学総論、短下肢装具①</p>
第11回	<p>【key words】 key words: 短下肢装具、AF0、両側金属支柱</p> <p>【授業概要】 装具の概論として目的などをまとめる。各種短下肢装具の構成、特徴、利点、欠点について班ごとにまとめる。足継手の種類を学び、その適応を整理する。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p181～予習：装具総論を読んでおくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>短下肢装具②</p>
第12回	<p>【key words】 key words: ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p> <p>【授業概要】 下肢装具のチェックアウトの流れと項目について学ぶ。さらに短下肢装具のチェックアウト（支柱付・プラスチック製）を知る。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p214～復習：プラスチック製短下肢装具、金属支柱付き短下肢装具、PTB短下肢装具の特徴、適応をまとめておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>長下肢装具①</p>
第13回	<p>【key words】 key words: 膝継手、免荷装具</p> <p>【授業概要】 長下肢装具の構成要素を解説し、短下肢装具と長下肢装具の違いを考える。長下肢装具から短下肢装具へと移行する時期の条件を考える。膝継手やストラップの特徴を捉え、坐骨支持型長下肢装具の適応をまとめる。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p228～復習：長下肢装具の特徴、適応、短下肢装具へと移行する時の条件をまとめておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>長下肢装具②と靴型装具について</p>
第14回	<p>【key words】 key words: ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p> <p>【授業概要】 長下肢装具のチェックアウトについて説明する。また各種靴型装具の紹介をし、その適応について説明する。また、足底挿板の目的を考える。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p232～復習：講義で学んだ靴型装具について復習しておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>頸部体幹装具について</p>

	<p>第15回</p> <p>各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。</p> <p>上肢装具について</p> <p>【key words】 key words:疾患別</p> <p>【授業概要】 上肢の各種装具について紹介し、その特徴と適応について説明する。類似した装具がある中でその違いを明確にし、適応疾患を考える。前回の授業で学んだ内容の小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p192～復習：講義で学んだ各種装具について復習しておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め3～5 時間程度の復習を欠かささないこと。</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整形外科学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に車椅子や歩行補助具、義肢、装具などに触れること。 <p>[受講のルール]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない ③授業の流れや雰囲気を乱したり他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16：30～</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験(客観・論述) 70%、平常点30% ※授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。</p>
<p>教科書</p>	<p>日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院</p>
<p>参考書</p>	<p>義肢装具学テキスト 細田 多穂 監 南江堂</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
小島俊文			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法士としての必要な知識と技能を身に付け、臨床的問題を見出し自ら解決する能力を身につける。</p> <p>[到達目標] 学習資料を自ら探し出し、事前準備をすることができる。 グループワークにおいて積極的な発言や、リーダーシップをとることができる。 制度や場所の違いにおける理学療法の役割について説明できる。</p>		
授業の概要	この科目では、基礎的医学・理学療法を整理し、臨床的問題を解決するために必要な基礎的知識と臨床技能を再確認する。特に介護保険分野における理学療法の役割について、じっさい		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>文献検索 介護保険事業所における理学療法の役割について文献を探し抄読を行う①</p> <p>【key words】 key words：介護保険制度、介護保険事業所、理学療法士</p> <p>【授業概要】 介護保険のしくみについて復習を行う。理学療法士が活躍している介護保険事業所と、そこでの理学療法の役割について、文献をもとにディスカッションを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 図書館等で調べておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 デイサービスセンター、デイケアセンター、訪問リハビリテーションについて調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第2回	<p>文献検索 介護保険事業所における理学療法の役割について文献を探し抄読を行う②</p> <p>【key words】 介護保険のしくみについて復習を行う。理学療法士が活躍している介護保険事業所と、そこでの理学療法の役割について、文献をもとにディスカッションを行う。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第3回	<p>介護保険事業所（デイサービスセンター）での実習①</p> <p>【key words】 前橋市内のデイサービスセンターを見学し、利用者のニーズを捉えながら、理学療法士の果たす役割について、事業所に勤務する理学療法士とディスカッションを行う。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第4回	<p>介護保険事業所（デイサービスセンター）での実習②</p> <p>【key words】 前橋市内のデイサービスセンターを見学し、利用者のニーズを捉えながら、理学療法士の果たす役割について、事業所に勤務する理学療法士とディスカッションを行う。</p> <p>【授業概要】</p>	

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第5回 介護保険事業所（訪問リハビリテーション）での実習①</p> <p>【key words】 前橋市内の訪問リハビリテーション事業所を見学し、利用者のニーズを捉えながら、自宅で行う理学療法の目的、実際の理学療法手段について学ぶ。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第6回 介護保険事業所（訪問リハビリテーション）での実習②地域ケア会議見学</p> <p>【key words】 前橋市内の訪問リハビリテーション事業所を見学し、利用者のニーズを捉えながら、自宅で行う理学療法の目的、実際の理学療法手段について学ぶ。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第7回 介護保険事業所（老人保健施設）での実習③訪問理学療法見学</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第8回 介護保険事業所（デイサービスセンター、居宅介護支援事業所）での実習④訪問理学療法見学</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度を高めるためには、予習活動は必須である。決められた課題を必ず行ってくること。 ・グループにおける討議が重要となる。主体性を持って、自らグループを主導する気持ちで臨んでもらいたい。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	介護保険に関する基本的情報は復習しておくこと。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	ポートフォリオ50%、口頭試問50%
教科書	随時、参考資料を提供する。
参考書	-
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク

	<input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容
--	---

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
小島俊文・小林雄斗			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>中枢神経障害についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的な理学療法テクニックについて経験する。</p> <p>[達成目標]</p> <p>①授業で提示した主要なキーワードを自分言葉で説明ができる。</p> <p>②中枢神経障害の理学療法の役割について説明することができる。</p> <p>③疾患の特徴や現象から、具体的な介入方法について説明することができる。</p>
授業の概要	主に脳卒中、パーキンソン病患者に対する理学療法の実際を学ぶ

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション</p> <p>脳卒中、パーキンソン病、理学療法、運動療法疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考え、ディスカッションを行う。</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第2回 脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション①</p> <p>疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第3回 脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション②</p> <p>疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考え、ディスカッションを行う。</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考える。キーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第4回 脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション③</p> <p>疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する。予後予測の文献を集め、各自でプレゼンテーションを行う。</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第5回 OSCE/病院・施設の見学</p> <p>脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書</p> <p>配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第6回 OSCE/病院・施設の見学</p> <p>脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書</p> <p>配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p> <p>第7回 OSCE/病院・施設の見学</p> <p>脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書</p> <p>配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
------	---

	<p>第8回 OSCE/病院・施設の見学 脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[服装指定] 指定のジャージ着用とします。(防寒対策は認めます) [学習方法] 解剖・生理・運動学の知識、医学的知識、理学療法評価学、理学療法治療学の知識が獲得済みであることを前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。
オフィスアワー	火曜日16時30分
評価方法	OSCE・実技課題(40%)、レポート・ポートフォリオ(60%)
教科書	指定なし
参考書	<p>脳卒中理学療法理論と技術 第2版, メジカルビュー, 2013 石川 齊ら・編: 図解 理学療法技術ガイド, 文光堂, 2014 福井 罔彦ら・編: 脳卒中最前線第4版, 医歯薬出版, 2009 中島雅美ら: PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版, 医歯薬出版, 2016 千田 富義ら・編: 脳卒中(リハ実践テクニック), メジカルビュー2017 潮見 泰藏: 編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版, 文光堂, 2017 椿原彰夫・編: PT・OT臨床実習で役立つリハビリテーション, 2016 嶋田智</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
浅野貞美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。</p> <p>〔到達目標〕 ①内部障害に対する理学療法評価について説明できる。 ②内部障害に対する具体的な理学療法プログラムを説明できる。</p>
授業の概要	<p>現在わが国では、複数の障害を有する重複障害者が増加しており、内部障害リハビリテーションに対するニーズが高まっている。 内部障害リハビリテーションは包括的なリハビリテーションであるが、運動療法はその中核の1つとして非常に重要な役割を担っている。運動療法を担当する理学療法士において、内部障害リハビリテーションに対する理解は必要不可欠である。 内部障害理学療法学特論では、各内部障害における特異的な問題点、評価方法、治療プログラム、リスク管理について、paper patientを用いた症例検討を通して学ぶとともに、実際のリハビリテーションの見学を通して理解を深めていく。</p>

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門の実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、ディスカッション</p> <p>【key words】 オリエンテーション、内部障害リハビリテーション、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 ①オリエンテーション ②内部障害者に対するリハビリテーションにおいて、理学療法士として理解すべき点をディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書、授業時に配付した資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
	第2回	<p>症例検討①</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害</p> <p>【授業概要】 paper patientを用いた症例検討を実施する。 問題点の抽出、リスク管理、目標設定、治療プログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料をもとに予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
	第3回	<p>症例検討②</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害</p> <p>【授業概要】 paper patientを用いた症例検討を実施する。 問題点の抽出、リスク管理、目標設定、治療プログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>配布資料をもとに予習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第4回 症例検討③ 【key words】 paper patient、重複障害 【授業概要】 paper patientを用いた症例検討を実施する。 問題点の抽出、リスク管理、目標設定、治療プログラムを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料をもとに予習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第5回 心臓リハビリテーションの実際① 【key words】 心疾患、心臓リハビリテーション、見学 【授業概要】 心臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第6回 心臓リハビリテーションの実際② 【key words】 心疾患、心臓リハビリテーション、見学 【授業概要】 心臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第7回 腎臓リハビリテーションの実際① 【key words】 慢性腎臓病、腎臓リハビリテーション 【授業概要】 腎臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第8回 腎臓リハビリテーションの実際② 【key words】 慢性腎臓病、腎臓リハビリテーション 【授業概要】 腎臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>【受講生に関わる情報】 運動療法学Ⅲ・理学療法技術論Ⅰで学んだ内部障害に対する理学療法の知識を基盤とするため、復習すること 【受講のルール】 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。参加は必須である。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	①シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（10分程度）。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	ポートフォリオ100%
教科書	①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法，メジカルビュー社
参考書	随時講義内に紹介する。
実務者経験/アク	

<p>ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
------------------------------	--

英文科目名称：*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
村山明彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されている。この定義に準拠した理学療法を実践・実証していくための方法論を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ①ヘルスプロモーションの定義について述べるができる。 ②健康増進法の概要について述べるができる。 ③科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）の実践と実証について述べるができる。</p>
授業の概要	ヘルスプロモーション理学療法（特に介護予防分野）におけるエビデンスの概要を理解し、さらにその実践活動について学ぶ。わが国のヘルスプロモーション領域の研究成果は、世界最高水準と言える。このことを理解できるように、和文だけでなく英文の抄読も必須とする。また、基本的な統計解析と結果の解釈についても学ぶ（メタアナリシスを含む）。さらに、ヘルスリテラシーを高めるためのデータ検索などについても紹介する。授業中に上記の課題を提示し、各自で文献やデータの検索および、データ解析を行うことも予定している。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、ヘルスプロモーションの定義、健康増進法の概要</p> <p>【key words】 ヘルスプロモーション、健康増進法</p> <p>【授業概要】 この授業の位置づけについて理解する。ヘルスプロモーションの定義や、社会的ニーズの高さを知る。 また、健康増進法の概要について学ぶ。 厚生労働省 健康日本21（総論） http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/s0.html 厚生労働省 我が国における健康をめぐる施策の変遷 http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-01.pdf 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと）</p> <p>第2回 ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題①</p> <p>【key words】 文献レビュー（和文）</p> <p>【授業概要】 わが国におけるヘルスプロモーション理学療法の現状と課題について学ぶ。 また、理解を深めるために必要な文献レビューの方法についても紹介する。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryu/06091306/002.html ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

<p>第3回</p>	<p>上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分</p> <p>ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題②</p> <p>【key words】 文献レビュー (英文)</p> <p>【授業概要】 世界におけるヘルスプロモーション理学療法の現状と課題について学ぶ。 また、理解を深めるために必要な文献レビューの方法についても紹介する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.or.jp/n/top.php ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上 (英文が望ましい) 抄読して授業に臨むこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分</p>
<p>第4回</p>	<p>地域におけるヘルスプロモーションの実際①～フレイル予防～</p> <p>【key words】 フレイル</p> <p>【授業概要】 地域におけるヘルスプロモーションのニーズの高さを理解する。 また、フレイル予防について学ぶ。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html フレイルに関する論文を、1編以上 (英文が望ましい) 抄読して授業に臨むこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分</p>
<p>第5回</p>	<p>地域におけるヘルスプロモーションの実際②～転倒予防～</p> <p>【key words】 転倒予防</p> <p>【授業概要】 地域におけるヘルスプロモーションのニーズの高さを理解する。 また、転倒予防について学ぶ。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 転倒予防に関する論文を、1編以上 (英文が望ましい) 抄読して授業に臨むこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分</p>
<p>第6回</p>	<p>地域におけるヘルスプロモーションの実際③～認知症予防～</p> <p>【key words】 認知症予防</p> <p>【授業概要】 地域におけるヘルスプロモーションのニーズの高さを理解する。 また、認知症予防について学ぶ。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 認知症に関する論文を、1編以上 (英文が望ましい) 抄読して授業に臨むこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分</p>
<p>第7回</p>	<p>科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)①</p> <p>【key words】 統計解析</p> <p>【授業概要】 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)を理解する上で、必要となる知識を整理する。 また、統計解析の結果を解釈するための方法を学ぶ。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ ハンバーガー統計学ようこそ!</p>

第8回	<p>Http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/ アイスクリーム統計学ようこそ！ Http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/ ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分</p> <p>科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）②</p> <p>【key words】 費用対効果 【授業概要】 オリジナルの介護予防プログラムを、費用対効果を含めてプレゼンテーションする。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ ハンバーガー統計学ようこそ！ Http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/ アイスクリーム統計学ようこそ！ Http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/ ヘルスプロモーションに関する論文を、1編以上（英文が望ましい）抄読して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 ①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	レポート100%
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	大淵修一，浦辺幸夫 監修，吉田剛，井上和久 編：予防理学療法学要論．医歯薬出版
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 2016年より群馬県内の市町村において、ヘルスプロモーションに寄与するための活動を行っている。 また、医療専門職向けの講習において、ヘルプロモーションに関する講演を定期的に行っている。 転倒予防指導士基礎講習会の講師も務める（2018年～）。 専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p>

	<input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容
--	---

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	自由選択
担当教員			
柴ひとみ 榊原清			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 地域リハビリテーションの中の小規模多機能や訪問リハビリなどの地域サービスの実際を学び、地域における理学療法士の役割や他職種との連携を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムの仕組みについて理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その目的について説明ができる。 ②地域サービス（訪問リハビリ等）の目的について説明できる。 ③地域サービス（訪問リハビリ等）の場面を見学し、実際の場面を理解できる。</p>
授業の概要	地域で生活する高齢者、障害者の視点に立ち、安全・安心に暮らせるような住環境の整備や活動性の維持・向上を図るために必要な戦略を学ぶ。介護保険分野等におけるPTの役割を明確にする。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムにおける理学療法とは 【key words】 地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 【授業概要】 地域包括ケアシステムの重要性を再確認したうえで、介護予防分野、医療保険分野、介護保険分野における理学療法の位置づけを考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：地域包括ケアシステムについて調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 地域サービス（訪問リハビリ等における理学療法）－準備－ 【key words】 地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 【授業概要】 訪問リハビリの対象者のニーズを把握し、在宅生活を継続するために必要なアプローチについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：アプローチ内容をまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 地域サービス（訪問リハビリ等における理学療法）－準備－ 【key words】 地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 【授業概要】 訪問リハビリの対象者のニーズを把握し、在宅生活を継続するために必要なアプローチについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 課題：アプローチ内容をまとめること 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p>
------	--

	<p>60分</p> <p>第4回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：生活をみる視点をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第5回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：生活をみる視点をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第6回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：生活をみる視点をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第7回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法 【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習内容をポートフォリオにまとめ、翌日の9時に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第8回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－発表、まとめ－ 【key words】 在宅、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法、発表 【授業概要】 訪問リハビリのサービスを利用されている方々の生活やリハビリ内容を発表する。これにより訪問リハビリの目的を明らかにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：各班の発表をまとめておくこと、ポートフォリオの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること。他の学生の迷惑となるような行為（私語・携帯電話の使用など）は厳禁。 体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。 内容が類似した実習記録は受け付けないため、自己の努力により作成すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>コメントカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>前回の復習をして授業に臨むこと。 体験学習にあたっては、事前に準備（情報収集や実技練習）をすること。</p>
オフィスアワー	<p>木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する） その他の曜日については要予約</p>
評価方法	<p>ポートフォリオ100%</p>
教科書	<p>授業内で適宜紹介する。</p>

参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴・榊原			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床技能の実践を中心に、理学療法士として必要な「知識」「技能」「態度」を確実に身につけることが目的である。</p> <p>[到達目標] ①「感染予防」「医療面接」「リスク管理」「検査測定」について、決められた時間内に安全かつ正確に実施することができる。 ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。 ③評価に関わる検査測定技術を身に付ける事ができる。</p>		
授業の概要	<p>近年、理学療法臨床実習においてクリニカルクラークシップ形式の実習スタイルが推奨されている。そのような中、実習に臨む学生には、患者に理学療法介入を行うための「知識」「技能」「態度」が求められる。臨床実習指導 I では実際の臨床技能の習得に着目して、実習前後の達成度を測るためにOSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。</p>		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション/臨床実習の手引き</p> <p>【key words】 評価実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト</p> <p>【授業概要】 評価実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト手引きをもとに総合臨床実習の基本的な流れを説明する。学生としての謙虚な姿勢を忘れず、意欲的に学ぶ姿勢が重要であることを理解する。医療面接の要点やインフォームドコンセプトの重要性を再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きを配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第2回	<p>評価実習の進めかた①</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定の流れについて理解する。また、クリニカルクラークシップについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第3回	<p>症例に関する情報収集について</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、情報収集</p> <p>【授業概要】 対象者の情報を取得する方法や各々の情報に含まれる項目について整理する。また、検査測定を行う前に各々の情報から考えられる問題点を予測することの重要性を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>	

第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：各々の情報に含まれる項目について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例の問題点の把握</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、問題点抽出</p> <p>【授業概要】 各々の情報や検査測定結果から関連図を導き出し、統合と解釈を行ったうえで、問題点を抽出する過程について整理する。 検査測定前に予測した問題点との摺り合せを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：関連図の記載について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例の問題点の把握</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、目標設定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 情報収集、検査測定、統合と解釈、問題点抽出、目標設定という一連の過程を経て、対象者を「生活する人」として捉えながら、全体像を把握できるようにする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：生活者という視点について調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>実習前OSCE①の実施</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE、理学療法</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習前OSCE振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【TKA①】</p> <p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、情報収集、TKA</p> <p>【授業概要】 TKAの模擬症例について、情報を項目ごとに整理し、得られた情報から検査測定項目を考える術を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：TKAについて、第3回の講義内容を復習し、情報を項目ごとに整理すること。情報を基に検査測定項目を挙げてくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【TKA②】</p> <p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、問題点抽出、TKA</p> <p>【授業概要】 TKAの模擬症例について、検査測定結果から各々の関連性を考える術を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：検査測定結果を基に関連図を作成してくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【TKA③】</p> <p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、全体像の把握、TKA</p> <p>【授業概要】 TKAの模擬症例について、ICF分類による問題点の抽出について理解する。また、目標設定、全体像の把握について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ICF分類を用いて問題点を抽出してくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【脳血管障害①】</p>

	<p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、情報収集、脳血管障害</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の模擬症例について、情報を項目ごとに整理し、得られた情報から検査測定項目を考える術を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：TKAについて、第3回の講義内容を復習し、情報を項目ごとに整理すること。情報を基に検査測定項目を挙げてくること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第11回 臨床推論を高めるために【脳血管障害②】</p> <p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、問題点抽出、脳血管障害</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の模擬症例について、検査測定結果から各々の関連性を考える術を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：検査測定結果を基に関連図を作成してくること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第12回 臨床推論を高めるために【脳血管障害③】</p> <p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、全体像の把握、脳血管障害</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の模擬症例について、ICF分類による問題点の抽出について理解する。また、目標設定、全体像の把握について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ICF分類を用いて問題点を抽出してくること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第13回 実習前OSCE②の実施</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE、理学療法</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習前OSCE振り返りシートの提出</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第14回 実習前OSCE③の実施</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE、理学療法</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習前OSCE振り返りシートの提出</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第15回 評価実習の進めかた②</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定の流れについて理解する。また、クリニカルクラークシップについて理解する。実際の流れについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第16回 評価実習の進めかた③/個人情報保護</p> <p>【key words】 臨床技能、個人情報保護、理学療法</p> <p>【授業概要】 理学療法を行ううえで、対象者の個人情報を保護する目的やその方法について理解する。また、実習中の携帯電話の使用、SNSの取り扱いについて確認する。</p>
--	---

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第17回 評価実習における提出物について 【key words】 臨床技能、評価、理学療法 【授業概要】 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレポート、レジユメの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第18回 評価実習に向けた目標設定 【key words】 臨床技能、評価、理学療法 【授業概要】 評価実習に向け目標を立て、個々の目標を達成させるために必要な達成目標を考える。目標シートを作成し、実習担当教員の指導を受ける 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標シートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第19回 レジユメ発表① 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 punn 60～90分</p> <p>第20回 レジユメ発表② 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第21回 レジユメ発表③ 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第22回 レジユメ発表④ 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
--	---

第23回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジメ発表⑤</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第24回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジメ発表⑥</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第25回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジメ発表⑦</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第26回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジメ発表⑧</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第27回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジメ発表⑨</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第28回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>ケースの振り返り</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、振り返り</p> <p>【授業概要】 レジメ発表をもとに、情報収集や理学療法の検査測定結果から問題点抽出、目標設定までの評</p>

	<p>価の流れについて理解を深めることを目的とする。問題点の把握、対象者の全体像について再検討する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表時に受けた質問等を調べ直し、整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第29回 臨床実習に向けた目標設定 【key words】 臨床技能、評価、理学療法 【授業概要】 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、臨床実習に向けて準備すべきことを挙げる。目標振り返りシートを作成し、実習担当教員の指導を受ける 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第30回 実習後OSCEの実施 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、OSCE 【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習後OSCE振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ・実技を行うときはケーシー着用を着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。</p> <p>[受講のルール] ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたくて受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。 ・OSCEの実施場面は、本人の携帯電話を使用して撮影すること。その際、動画の加工、SNS上での拡散をしてはならない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	臨床技能は、度重なる練習を経て身につくものである。授業内で数回実施すれば身につくものではない。授業時間外での学習が必須となるので、PT、患者、評価者役を作り練習を重ねてもらいたい。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	レジュメ発表50%、OSCE50%
教科書	理学療法臨床実習サポートブック 医学書院
参考書	才藤栄一監修：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版. 2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p>

	<input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 呼吸器疾患に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 「知識・理解」 ①内部障害の定義が説明できる。 ②代表的な呼吸器疾患の病態と治療が説明できる。 ③呼吸器疾患に対する一般的理学療法プログラムを説明できる。</p> <p>「思考・判断」 ①課題のテーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成し発表できる。 ②プレゼンテーションにおいて他者が理解できるよう分かりやすい言葉で表現することができる。</p>
授業の概要	代表的な呼吸器疾患について、病態に関する知識の確認を行うと共にフィジカルアセスメントを学ぶ。また、呼吸リハビリテーションの意義と目的、その方法を学ぶ。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、プレゼンテーション</p> <p>【key words】 オリエンテーション、内部障害、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②事前課題に対するプレゼンテーションをグループごとに行う。 グループは掲示板で発表するため必ず確認すること。</p> <p>【事前課題】 課題タイトル：内部障害と理学療法</p> <p>【発表方法】 パワーポイントを用いてスライド7枚以内にまとめる（うち1枚目はタイトル、サブタイトル、科目名、教員名、学籍番号、氏名）。 発表時間はグループ当たり4分間とする。 作成したスライドは授業開始前までに学内のノートパソコン内に保存すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 スライドの作成、プレゼンテーションの準備</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
	第2回	<p>内部障害の理解</p> <p>【key words】 内部障害、定義、種類</p> <p>【授業概要】 内部障害の定義・種類・疫学・歴史的背景を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	資料配布
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 内部障害について各自予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第3回	<p>呼吸器系の解剖学、生理学、運動学 part1</p> <p>【key words】 呼吸器系、解剖学、生理学、運動学</p> <p>【授業概要】 ①小テスト実施（過去に学習した範囲） ②呼吸器系の解剖学、生理学、運動学を理解する。 （運動生理学演習で配布した資料を持参すること）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動生理学演習で配布した資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テスト勉強</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
第4回	<p>呼吸器系の解剖学、生理学、運動学 part2</p> <p>【key words】 呼吸器系、解剖学、生理学、運動学</p> <p>【授業概要】 ①小テスト実施（過去に学習した範囲） ②呼吸器系の解剖学、生理学、運動学を理解する。 （運動生理学演習で配布した資料を持参すること） ③血液ガス分析の見方を理解し、理学療法へどのようにつなげるのかイメージできるようになる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動生理学演習で配布した資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テスト勉強</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
第5回	<p>呼吸機能検査</p> <p>【key words】 スパイロメトリー、フローボリューム曲線</p> <p>【授業概要】 ①呼吸機能検査の実習 ②スパイロメトリー、フローボリューム曲線について理解し、理学療法へどのようにつなげるのかイメージできるようになる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 スパイロメトリー、フローボリューム曲線について復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>呼吸不全の病態と呼吸器疾患</p> <p>【key words】 呼吸不全、呼吸器疾患</p> <p>【授業概要】 呼吸不全の定義、換気障害の種類、呼吸器疾患について理解し、理学療法との関連をイメージする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 呼吸器疾患について予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第7回	<p>呼吸理学療法における評価（フィジカルアセスメントpart1）</p> <p>【key words】 フィジカルアセスメント、視診、触診、聴診、打診</p> <p>【授業概要】 呼吸器疾患患者に対するフィジカルアセスメントを学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 呼吸・心臓リハビリテーションp12～</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 触診を行うため、体表解剖を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第8回 呼吸理学療法における評価（フィジカルアセスメントpart2）</p> <p>【key words】 フィジカルアセスメント、視診、触診、聴診、打診</p> <p>【授業概要】 呼吸器疾患患者に対するフィジカルアセスメントを学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。 授業後半は実技テストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 呼吸・心臓リハビリテーションp12～</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 フィジカルアセスメントpart1の復習</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第9回 呼吸理学療法における評価（運動耐容能、筋力、ADL、QOL、栄養状態、心理状態）</p> <p>【key words】 運動耐容能、ADL、QOL</p> <p>【授業概要】 呼吸器疾患患者の運動耐容能、筋力、ADL、QOL、栄養状態、心理状態について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第10回 包括的呼吸リハビリテーション（コンディショニング、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸部可動域トレーニング）</p> <p>【key words】 呼吸リハビリテーション、包括的プログラム</p> <p>【授業概要】 コンディショニング、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸部可動域トレーニングについて学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第11回 呼吸理学療法の実際</p> <p>【key words】 呼吸理学療法</p> <p>【授業概要】 呼吸理学療法の実際について学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第12回 呼吸理学療法基本手技（排痰法）</p> <p>【key words】 排痰法</p> <p>【授業概要】 呼吸理学療法基本手技（排痰法）について学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p>
--	--

	<p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の実技方法を練習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 呼吸理学療法基本手技（呼吸介助）</p> <p>【key words】 呼吸介助</p> <p>【授業概要】 呼吸理学療法基本手技（呼吸介助）について学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。 授業後半は実技テストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の実技方法を練習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 酸素療法、在宅酸素療法</p> <p>【key words】 酸素療法、在宅酸素療法</p> <p>【授業概要】 酸素療法、在宅酸素療法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 ケーススタディ</p> <p>【key words】 グループワーク、ケーススタディ</p> <p>【授業概要】 架空の症例に対して、グループ毎に検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学習した領域を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績ならびに課題発表に影響するので注意すること。 実習を行う際は大学指定体操着着用とする。臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髮の染色など）とする。</p> <p>受講のルール ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。 ③他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	課題30% 実技テスト70%
教科書	呼吸心臓リハビリテーション改訂第2版：中山書店 シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	<p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。また、主な義足のアライメントの異常や下肢装具のチェックポイントを説明できることを目的とする。歩行補助具や義肢・装具の目的に合わせた調整ができるようになる。
授業の概要	「義肢装具学」で学んだことを実際の義肢・装具などを扱いながら知識を深めることを目的とする。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、フィッティングの確認方法、義足着用時の動作分析などを学習する。また、下肢装具のチェックポイントや歩行への影響を学ぶ。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション/切断者の評価 【key words】 key words：切断、離断、疫学 【授業概要】 切断者の評価、全身、断端部、心理切断者の術前から術後のリハビリテーションの流れを紹介する。全身の評価や断端部の評価を行う際の評価項目の列挙を行うとともにそれらの意義と目的を明確にする。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp47～予習：切断者の評価について、その内容を調べておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず予習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かささないこと。
	第2回	断端管理法 義足装着前理学療法 【key words】 key words：術直後義肢装着法、早期義肢装着法、従来式義肢装着法 【授業概要】 大腿切断や下腿切断の断端管理法についてや立位・歩行練習、段差を乗り越える動作、階段昇降動作、坂道を上り下りする動作、立ち上がり動作を安全に行う方法とその根拠について実習を通して学ぶ。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp77～予習：主な断端管理法について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かささないこと。
	第3回	早期義肢装着法と義足の適合 【key words】 key words：断端訓練、基本動作練習、筋力強化、関節拘縮予防 【授業概要】 大腿切断や下腿切断の断端管理法についてや立位・歩行練習、段差を乗り越える動作、階段昇降動作、坂道を上り下りする動作、立ち上がり動作の方法とその根拠について実習を通して学ぶ。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp78～予習：早期義肢装着法の利点を調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

第4回	<p>授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>大腿義足のアライメントと異常歩行① 【key words】 key words：ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント 【授業概要】 大腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp129～3つのアライメントの違いを調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第5回	<p>大腿義足のアライメントと異常歩行② 【key words】 key words：初期屈曲角、異常歩行 【授業概要】 大腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp132～初期屈曲角とは何か調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第6回	<p>下腿義足のアライメントと異常歩行① 【key words】 key words：ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント 【授業概要】 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp150～下腿義足について復習しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第7回	<p>下腿義足のアライメントと異常歩行① 【key words】 key words：初期屈曲角、初期内転角 【授業概要】 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp150～3つのアライメントの違いを調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第8回	<p>下肢装具① 【key words】 key words：KAF0、AF0、K0 【授業概要】 代表的な下肢装具について名称・分類の仕方、装着の仕方、調整の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp214～代表的な下肢装具について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p>
第9回	<p>下肢装具② 【key words】 key words：継手、制動、遊動 【授業概要】 具体的な短下肢装具におけるアライメントと、異常歩行の関係について解説を行う。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp222～アライメントの原因で起きる異常歩行について調べておくこ</p>

第10回	<p>と。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>体幹装具の実際 【key words】 key words：胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、頸椎装具 【授業概要】 各種体幹装具の特徴をまとめるとともにチェックポイントについて整理する。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp240～予習：代表的な体幹装具についてその機能も含め復習しておくこと。</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>上肢装具の実際 【key words】 key words：肩装具、肘装具、前腕装具、指装具 【授業概要】 代表的な上肢装具について、実際に装着し使用することでその特徴や機能を学ぶ。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp202～予習：代表的な上肢装具と機能について整理しておくこと。</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>靴型装具と足底装具 【key words】 key words：靴型装具、足底装具 【授業概要】 靴型装具や足底装具の種類とその効果について、実際の装具を用いて理解する。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp233～予習：靴型装具・足底装具の種類について整理しておくこと。</p>
第13回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>疾患と装具① 【key words】 key words：片麻痺、脊髄損傷 【授業概要】 片麻痺、脊髄損傷に対する代表的な歩行補助具や装具について、その目的や使い方について学ぶ。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp256～予習：片麻痺および脊髄損傷の当該ページを読んでくること。</p>
第14回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>疾患と装具② 【key words】 key words：側弯症、関節リウマチ、骨関節疾患 【授業概要】 側弯症、関節リウマチ、骨関節疾患に対する歩行補助具や装具について学ぶ。前回の授業内容について、小テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp282～予習：該当のページを読んでおくこと。また各疾患についてその概要を復習しておくこと。</p>
第15回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないこと。</p> <p>義肢装具実習のまとめ 【key words】</p>

	<p>key words：義肢、装具</p> <p>【授業概要】 代表的な義肢装具のまとめを行う。各回の小テストを用意しておくこと。各回の小テストの振り返りしておくこと。前回の授業内容について、小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントすべて</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に小テストを行うので、必ず復習をしておくこと。また本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業冒頭に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、予習も含め1時間程度の復習を欠かさないうこと。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や実習、見学は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。 ・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に義肢、装具などに触れること。 <p>[受講のルール]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない ③授業の流れや雰囲気や乱したり他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 70%、平常点30% ※授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	義肢装具学テキスト 細田 多穂 監 南江堂
参考書	日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 循環器障害、慢性腎臓病、末梢動脈疾患、糖尿病、がん患者に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】 ①代表的な心血管疾患の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ②腎機能障害の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ③糖尿病の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ④がんリハビリテーションの概要とリスク管理が説明できる。</p>		
授業の概要	循環器障害、慢性腎臓病、末梢動脈疾患、糖尿病、がんについて、病態に関する知識の確認を行うと共に基本的理学療法の意義と方法を学ぶ。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>循環器系の構造と機能 【key words】 オリエンテーション、心臓、心拍量</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②循環器系の構造と機能を理解する。 ③循環器系の生理学を理解する。 ④運動時の循環反応を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 解剖学、生理学、運動学の教科書参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルの内容について復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>	
	第2回	<p>心臓リハビリテーションの概要 【key words】 心臓リハビリ、ガイドライン</p> <p>【授業概要】 心臓リハビリテーションについて概説する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン（2012年改訂版）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記ガイドラインを確認すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>	
	第3回	<p>虚血性心疾患の理学療法 【key words】 虚血性心疾患、心筋梗塞、狭心症</p>	

	<p>【授業概要】 虚血性心疾患の病態・検査と治療を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第4回 心不全の理学療法</p> <p>【key words】 心不全</p> <p>【授業概要】 心不全（急性・慢性）の病態・検査と治療を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第5回 腎臓の機能と構造</p> <p>【key words】 腎臓、糸球体濾過、RAS</p> <p>【授業概要】 ①循環器系の構造と機能、心疾患病態と理学療法に関する基礎的知識の小テスト実施 ②腎臓の構造と機能を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 循環器系に関する小テスト勉強をすること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p> <p>第6回 慢性腎臓病</p> <p>【key words】 慢性腎臓病、透析療法</p> <p>【授業概要】 ①慢性腎臓病の病態・検査と治療について理解する。 ②透析療法を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第7回 腎臓リハビリテーション</p> <p>【key words】 腎臓リハビリ、運動療法</p> <p>【授業概要】 ①腎機能障害に対するリハビリテーションについて理解する。 ②腎臓リハビリテーションの効果を理解する。 ③腎臓リハビリテーションのリスク管理を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p>
--	--

第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 糖尿病</p> <p>【key words】 糖尿病、合併症、低血糖</p> <p>【授業概要】 ①腎臓の構造と機能、慢性腎臓病の基礎的知識の小テスト実施 ②糖尿病の病態と分類について理解する。 ③糖尿病の合併症について理解する。 ④低血糖について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テスト勉強をすること key wordについて予習すること</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間 糖尿病の治療と評価</p> <p>【key words】 糖尿病、治療、評価</p> <p>【授業概要】 ①糖尿病の治療について理解する。 ②糖尿病の評価について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 糖尿病の理学療法</p> <p>【key words】 糖尿病、運動療法</p> <p>【授業概要】 ①糖尿病患者に対する運動療法について理解する。 ②糖尿病患者に対する運動療法のリスク管理を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 末梢動脈疾患</p> <p>【key words】 PAD、Fontaine分類、運動療法</p> <p>【授業概要】 ①糖尿病に関する基礎的知識の小テスト実施 ②PADの病態と治療、評価を理解する。 ③PADに対する運動療法について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 下記教科書・資料参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 ③末梢閉塞性動脈疾患の治療ガイドライン（2015年改訂版）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間 がんリハビリテーションの概要</p> <p>【key words】 がん、リハビリ</p>

	<p>【授業概要】 ①がん患者に対するリハビリテーションについて理解する。 ②がんリハビリテーションにおける理学療法評価を理解する。 ③がんリハビリテーションを行う上でのリスク管理を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第13回 症例検討①</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害</p> <p>【授業概要】 paper patientを用いた症例検討をグループ単位で行う。 グループは授業時に発表する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料をもとに評価項目を抽出すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 症例検討②</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害</p> <p>【授業概要】 paper patientを用いた症例検討をグループ単位で行う。 詳細情報を記載した資料をもとにグループごとに問題点の抽出、治療プログラムの立案、目標設定治療プログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表準備</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 発表</p> <p>【key words】 プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 グループごとに症例に対する、問題点の抽出、治療プログラムの立案、目標設定を発表する。 詳細は第13回の授業で発表する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身のグループ・他のグループの発表内容を振り返り、振り返りシートを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実習を行う際は、白衣または大学指定体操着着用とする。臨床実習に準じる身だしなみとすること。 （爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の派手な染色などは受講を認めない場合がある。）</p> <p>受講のルール ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合は受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>

オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	筆記試験（客観）60% 課題20% 小テスト20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版：南江堂 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法，メジカルビュー社
参考書	適宜講義時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 内部障害に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 理学療法を実施するうえで必要となる画像所見、検査値、評価項目を理解し、問題点の抽出や治療プログラムの立案に役立てることができる。</p>
授業の概要	内部障害患者に対する理学療法実践において実施することがある、検査・測定・臨床検査データの解釈の理論と方法を学び、演習を通し理解する。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、心電図の読み方①（理論）</p> <p>【key words】 講義の受け方、オリエンテーション、心電図</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②心電図（用語の説明、種類など）について理解する。</p> <p>【事前課題】 下記タイトルについてレポートを作成し、授業開始前までに直接教員に提出する。 課題タイトル：心血管疾患、呼吸器疾患、糖尿病、腎機能障害の症例に対し、臨床検査データを読み取る必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは罫線入りのレポート用紙（A4サイズ）を用いて、で2枚以内で作成する。 ・手書きで作成すること <p>【教科書ページ・参考文献】 配付資料および教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①事前課題の準備をすること ②心臓の解剖学・生理学を復習して受講すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2.5時間</p>
	第2回	<p>心電図の読み方②（理論）</p> <p>【key words】 心電図、刺激伝導系、興奮</p> <p>【授業概要】 ①刺激伝導系を復習する。 ②波形の名称、各波形の正常値を理解する。 ③心電図から心拍数の求め方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第3回	<p>タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>心電図の読み方③（理論）</p> <p>【key words】 心電図、興奮、異常波形</p> <p>【授業概要】 ①心電図波形の読み方を理解する。 ②各波形の異常を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること 国家試験出題レベルの異常波形についてもしらべ学習をしておくことが望ましい。</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>心電図の読み方④（演習）</p> <p>【key words】 心電図、異常波形、国試問題</p> <p>【授業概要】 ①異常心電図を理解する。 ②過去の国家試験問題を中心に練習問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>胸部X線写真の読影①（理論）</p> <p>【key words】 胸部X線、画像</p> <p>【授業概要】 ①心電図に関する小テストを実施する。 ②胸部X線写真の読み方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>胸部X線写真の読影②（演習）</p> <p>【key words】 胸部X線、画像</p> <p>【授業概要】 ①胸部X線写真の異常を理解する。 ②過去の国家試験問題を中心に練習問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>検査値の読み方（理論）</p> <p>【key words】 血液検査、尿検査、血液ガス</p> <p>【授業概要】 ①胸部X線に関する小テストを実施する。 ②検査値の知識がなぜ必要なのかを理解する。 ③検査値の基本を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>

第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 検査値の読み方（演習） 【key words】 血液検査、尿検査、血液ガス</p> <p>【授業概要】 ①理学療法を実施するうえで身につけておきたい検査に関する知識を理解する。 ②検査値に関する小テストをグループ単位で実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 吸引のしくみ（理論） 【key words】 気管吸引</p> <p>【授業概要】 吸引用のモデルを用い、演習を行うための基本的知識を理解する。 臨床実習に準じる身だしなみとすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 吸引のしくみ（演習） 【key words】 気管吸引</p> <p>【授業概要】 吸引用のモデルを用い、演習を行う。 臨床実習に準じる身だしなみとすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 血糖測定（理論） 【key words】 血糖測定</p> <p>【授業概要】 血糖測定の意義と理論、方法について基礎的知識の整理をする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 血糖測定（演習） 【key words】 血糖測定</p> <p>【授業概要】 血糖測定の実際について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第13回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 心肺運動負荷試験（理論）</p>

	<p>【key words】 心肺運動負荷試験、血圧、呼気ガス</p> <p>【授業概要】 心肺運動負荷試験の目的や方法について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 心肺運動負荷試験（演習）</p> <p>【key words】 心肺運動負荷試験、運動処方</p> <p>【授業概要】 心肺運動負荷試験で得られるデータとそのみかたについて演習を通して学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 人工呼吸器</p> <p>【key words】 人工呼吸器</p> <p>【授業概要】 ①人工呼吸器のグラフィック波形の基本的な見方を理解する。 ②人工呼吸器のしくみについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。 実習を行う際は大学指定体操着着用とする。臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリー・香水・派手な化粧品・頭髮の染色など）とする。</p> <p>受講のルール ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。 ③他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。</p>
<p>評価方法</p>	<p>課題発表 60% 小テスト40%</p>
<p>教科書</p>	<p>①シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版、羊土社</p>
<p>参考書</p>	<p>適宜講義時に紹介する。</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p>

	<p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	4単位(180)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた評価項目を選択、実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出を行えるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①理学療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。 ③理学療法の位置づけや役割を説明することができる。 ④関連職種の役割について説明することができる。 ⑤各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。 ⑥評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定を行うことができる。 ⑦実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。</p>
授業の概要	臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回</p> <p>【key words】 理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定、全体像の把握、知識、技能、態度</p> <p>【授業概要】 臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学した内容や実施した内容を振り返り、考察と共にまとめること。 翌日実施する予定の検査測定項目を調べ、実施できるよう準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 平日は60分を目安とし、休日については過度な負担とならないよう自己研鑽すること。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたくて実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。 ・臨床実習の手引きを熟読すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告および実習地訪問等を活用
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技能の定着を図るために自主的に学ぶこと。

オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーに準ずる。
評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習評価の結果60%、デイリーノート・レジユメ20%、実習に関する態度等20%
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴・村山			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法評価からプログラム実施までの基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①臨床で必要とされる「知識」「技能」「態度」を身に付け、実践することができる。 ②実習後、レジюмеを作成し、発表することができる。</p>		
授業の概要	<p>これまで学んできたことを整理し、臨床総合実習に向けた準備とする。実習後は担当した症例について整理し、レジюмеを作成した後に発表・報告会を行い、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。また、実際の臨床技能の習得に着目して、OSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。</p>		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/臨床実習の手引き 【key words】 臨床実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト 【授業概要】 手引きをもとに総合臨床実習の基本的な流れを説明する。学生としての謙虚な姿勢を忘れず、意欲的に学ぶ姿勢が重要であることを理解する。医療面接の要点やインフォームドコンセプトの重要性を再確認する。 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習の手引きを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 3年次の臨床実習の手引きを持参すること 予習：実習の手引き（3年次）を熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 臨床実習の進めかた 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定 【授業概要】 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定、治療プログラムの立案および実施、経過、効果判定の流れについて理解する。また、クリニカルクラッキングについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 臨床実習の進めかた/個人情報保護 【key words】 臨床実習、個人情報保護 【授業概要】 理学療法を行ううえで、対象者の個人情報を保護する目的やその方法について再確認をする。また、実習中の携帯電話の使用、SNSの取り扱いについて再確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p>		

第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 臨床実習における提出物について①</p> <p>【key words】 臨床実習、デイリーノート、レジюме、報告 【授業概要】 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレジюмеの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 臨床実習における提出物について②</p> <p>【key words】 臨床実習、デイリーノート、レジюме、報告 【授業概要】 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレポート、レジюмеの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：臨床実習Ⅰ期目標シートの提出、臨床実習Ⅱ期個人プロフィール票・誓約書の提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 レジюме発表①</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジюме発表②</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジюме発表③</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジюме発表④</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第10回 レジュメ発表⑤</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第11回 レジュメ発表⑥</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第12回 レジュメ発表⑦</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第13回 レジュメ発表⑧</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第14回 レジュメ発表⑨</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>
--	--

第15回	<p>60分 ケースの振り返り 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 レジュメ発表をもとに、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。問題点の把握、効果的な理学療法について再検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：振り返りシート（Ⅰ期）を提出すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第16回	<p>60～90分 目標設定 【key words】 臨床実習、理学療法、目標 【授業概要】 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、次期の臨床実習に向けて準備すべきことを挙げる。目標シートを作成し、実習担当教員の指導を受ける</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標シート（Ⅱ期）を提出すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第17回	<p>60～90分 レジュメ発表⑩ 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第18回	<p>60分 レジュメ発表⑪ 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第19回	<p>60分 レジュメ発表⑫ 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第20回	<p>60分 レジュメ発表⑬ 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第21回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジメ発表⑭</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第22回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジメ発表⑮</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第23回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジメ発表⑯</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第24回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジメ発表⑰</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第25回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 ケースの振り返り</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 レジメ発表をもとに、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。問題点の把握、効果的な理学療法について再検討する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第26回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：発表時の質問等に対する内容をまとめたうえで、発表担当教員のフィードバックを受けること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 目標設定</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法、全体像の把握</p>

	<p>【授業概要】 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、臨床に向けて準備すべきことを挙げる。目標振り返りシートを作成し、実習担当教員の指導を受ける</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標振り返りシートの提出（Ⅱ期） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第27回 OSCEの準備</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。これに向けて準備を進めること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：OSCEの実施に対する準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第28回 OSCEの実施</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：OSCEの場面を振り返り、実施したこと、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第29回 OSCEの実施</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：OSCEの場面を振り返り、実施したこと、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第30回 OSCEの振り返り</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、良かった点、改善すべき点についてまとめたものを基にフィードバックを受けること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：フィードバック内容をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年次総合臨床実習対象者が、受講の条件となる。 ・実技を行うときはケーシー着用を着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。 ・OSCEの実施場面は、本人の携帯電話を使用して撮影すること。その際、動画の加工、SNS上での拡散をしてはならない。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	臨床実習の手引きを熟読すること。臨床技能を高めるために、積極的に授業時間外において実技練習を重ねること。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	レジュメ発表50%、OSCE50%
教科書	理学療法臨床実習サポートブック 医学書院

参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			
授業の目的・到達目標	本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。また臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。		
授業の概要	研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。		
■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション	
	第2回	研究計画の立案①	
	第3回	研究計画の立案②	
	第4回	調査(調査及び資料の収集)①	
	第5回	調査(調査及び資料の収集)②	
	第6回	研究計画書作成①	
	第7回	研究計画書作成②	
	第8回	倫理的配慮について(倫理審査書類の作成)	
	第9回	研究活動の実践とまとめ①	
	第10回	研究活動の実践とまとめ②	
	第11回	研究活動の実践とまとめ③	
	第12回	卒業研究発表①	
	第13回	卒業研究発表②	
	第14回	卒業研究発表③	
	第15回	卒業研究発表④	

受講生に関わる情報 および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。 ・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	-
授業外時間にかかわ る情報	-
オフィスアワー	担当教員と連絡を取り合いながら、個別に設定すること。
評価方法	提出論文、取り組み、発表状況を総合的に勘案する。目安として研究論文（50%）及び研究発表（50%）
教科書	-
参考書	-
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴、浅野			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床においては、評価結果をもとに個々の症例の問題点を改善していくことが必須となる。より良い効果が得られるような治療の選択および実施ができるよう知識・実技を確実に身につけることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①各疾患の特徴が説明できる。 ②問題点を改善するために必要な治療を選択することができる。 ③実施した治療に対する効果判定を行うために必要な検査項目を列挙し、検査の意義を説明できる。</p>		
授業の概要	<p>模擬症例について評価結果を整理し、問題点を改善するための治療プログラムを立案する。選択した治療プログラムの根拠を説明できるようにし、効果判定に関わる考え方を学ぶ。</p>		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>初期評価からゴール設定まで 【key words】 理学療法、初期評価、問題点抽出、ゴール設定 【授業概要】 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。ゴール設定までの過程を整理する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：評価実習で評価をさせて頂いた症例に関する資料を持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>	
	第2回	<p>初期評価からゴール設定まで【病期間連携】 【key words】 理学療法、初期評価、問題点抽出、ゴール設定、急性期、回復期、生活期 【授業概要】 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。ゴール設定までの過程を病期ごとに整理する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：急性期・回復期・生活期におけるゴール設定を調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>	
	第3回	<p>治療プログラムの立案・実施～経過、再評価 【key words】 理学療法、治療プログラム、経過、再評価、全体像の把握 【授業概要】 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。治療プログラムの実施、経過、再評価の流れを理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：全体像を把握するために必要な生活の視点について調べておくこと</p>	

第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例検討①情報収集、初期評価</p> <p>【key words】 理学療法、情報収集、初期評価</p> <p>【授業概要】 模擬症例について情報収集から初期評価時の検査測定項目の抽出までを考え、理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された模擬症例の情報を項目ごとに整理し、検査測定項目を挙げてくること</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例検討①問題点抽出、ゴール設定</p> <p>【key words】 理学療法、問題点抽出、ゴール設定</p> <p>【授業概要】 模擬症例について得られた検査測定項目の結果を整理し、関連図を作成する。ICF分類を用い、問題点を整理し、ゴール設定を考える術を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された検査測定結果を基に関連図を作成すること</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例検討①治療プログラムの立案、経過</p> <p>【key words】 理学療法、治療プログラム、経過</p> <p>【授業概要】 模擬症例について問題点を改善できるような治療プログラムを理解する。また、再評価を行う際の検査測定項目を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：適切な治療プログラムを立案できるよう根拠となる文献を調べて持参すること</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>症例検討①再評価のまとめ</p> <p>【key words】 理学療法、再評価</p> <p>【授業概要】 模擬症例について再評価の結果を基に関連図を作成する。また、ICF分類を用いて問題点を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：再評価時の結果を基に関連図を作成すること</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>症例検討①全体像の把握</p> <p>【key words】 理学療法、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 模擬症例について再評価の結果から、治療プログラムの効果判定について理解する。また、症例の全体像について説明することができる。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：模擬症例の全体像について10項目以上列挙してくること</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>症例検討②情報収集、初期評価</p> <p>【key words】 理学療法、情報収集、初期評価</p> <p>【授業概要】 模擬症例について情報収集から初期評価時の検査測定項目の抽出までを考え、理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された模擬症例の情報を項目ごとに整理し、検査測定項目を挙げてくること</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例検討②問題点抽出、ゴール設定</p> <p>【key words】 【授業概要】 模擬症例について得られた検査測定項目の結果を整理し、関連図を作成する。ICF分類を用い、問題点を整理し、ゴール設定を考える術を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された検査測定結果を基に関連図を作成すること</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第11回 症例検討②治療プログラムの立案、経過 【key words】 理学療法、治療プログラム、経過 【授業概要】 模擬症例について問題点を改善できるような治療プログラムを理解する。また、再評価を行う際の検査測定項目を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：適切な治療プログラムを立案できるよう根拠となる文献を調べて持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第12回 症例検討②再評価のまとめ 【key words】 理学療法、再評価 【授業概要】 模擬症例について再評価の結果を基に関連図を作成する。また、ICF分類を用いて問題点を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：再評価時の結果を基に関連図を作成する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第13回 症例検討②全体像の把握 【key words】 理学療法、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 模擬症例について再評価の結果から、治療プログラムの効果判定について理解する。また、症例の全体像について説明することができる。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：模擬症例の全体像について10項目以上列挙してくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第14回 症例検討-発表①- 【key words】 症例検討、理学療法、評価、治療プログラム、全体像の把握 【授業概要】 模擬症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分）を行う ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム ・再評価 ・全体像の把握 【一連の過程が明確となるように発表すること】 レジュメを基に発表すること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レジュメ（二段組、A3用紙1枚）提出のこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第15回 症例検討-発表②- 【key words】 症例検討、理学療法、評価、治療プログラム、全体像の把握 【授業概要】 模擬症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分）を行う ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム ・再評価 ・全体像の把握 【一連の過程が明確となるように発表すること】 レジュメを基に発表すること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レジュメ（二段組、A3用紙1枚）提出のこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] ・予習復習を必ず行い、授業中は自ら積極的に参加し、考え、発言すること。 ・実技を行うときはケーシーを着用し、医療従事者としての身だしなみを整えること。 [受講のルール] ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>与えられた課題は、授業時間中では達成できない。授業時間外での予習は必須である。また確実に知識を身につけるためには、復習も必須となるので「自ら学び、学び続ける」努力を怠らないこと。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>各担当教員のオフィスアワーに準ずる</p>

評価方法	発表100%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。 ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。 ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。 ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。 ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。
授業の概要	総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	第1回 【key words】 理学療法評価、ゴール設定、治療プログラム、全体像の把握、再評価、知識、技能、態度 【授業概要】 総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院等大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学した内容や実施した内容を振り返り、考察と共にまとめること。 翌日行う予定の検査測定項目や治療プログラムについて調べ、実施できるよう準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 平日は60分を目安とし、休日については過度な負担とならないよう自己研鑽すること。
受講生に関わる情報および受講のルール	・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告や実習地訪問等を活用
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技術の定着を図るよう自主的に学ぶこと。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる。
評価方法	出席(出席時間数要件:4/5以上) 臨床実習評価の結果60%、デイリーノート・レジュメ20%、実習に関する態度等20%
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	--

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
小島・柴・新谷・村山・榊原・浅野・小林			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。 ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。 ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。 ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。 ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。
授業の概要	総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	第1回 【key words】 理学療法評価、ゴール設定、プログラム実施、再評価、全体像の把握、知識、技能、態度 【授業概要】 総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院等大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学した内容や実施した内容を振り返り、考察を含めてまとめること。 予習については、翌日行う検査測定項目や治療内容を調べ、実施できるように準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 平日は60分を目安とし、休日については過度な負担とならないよう自己研鑽すること。
受講生に関わる情報および受講のルール	・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告や実習地訪問等を活用
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技術の定着を図るように自主的に学ぶこと。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる。
評価方法	出席(出席時間数要件:4/5以上) 臨床実習評価の結果60%、デイリーノート・レジュメ20%、実習に関する態度等20%
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
櫻井秀雄			
基礎科目	初級障がい者スポーツ指導員指 定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 障がい者が豊かな生活を送るために、障がい者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①障がい者スポーツの意味、特性、支援・援助方法を理解できる。 ②障がい区分に応じた基本的な支援・援助技法を身に身につけることができる。 ③障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、スポーツを生活の中で親しめることができる。</p>
------------	--

授業の概要	<p>【求められる指導者像】 ①障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。 ②プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。 ③地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域の障がい者スポーツ振興を支える。 ④中級障がい者スポーツ指導員資格取得を目指すなど自己研鑽を積むようにする。</p>
-------	---

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質</p> <p>【key words】 【key words】 スポーツ インテグリティ 資質・能力 【授業概要】 【授業概要】 スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレーヤーズファーストの視点やプレーヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本(初級・中級) p2～ 日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者スポーツの意義・理念について学んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 障がい者スポーツの意義と理念</p> <p>【key words】 【key words】 スポーツ 障がい者 意義 理念 【授業概要】 【授業概要】 障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
------	---

第3回	<p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p14～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】全国障がい者スポーツ大会について調べておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60分</p> <p>全国障がい者スポーツ大会の概要</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者スポーツ大会 障がい者福祉法</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】全国障がい者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者の方のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p20～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障害のある人たちのグループ、行事等を調べておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>60分</p> <p>障がいの人との交流（第1回目）</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者 コミュニケーション</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしおう会社とのふれあいを体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p28～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>60分</p> <p>障がいの人との交流（第2回目）</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者 コミュニケーション</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしおう会社とのふれあいを体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p44～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>60分</p> <p>障がい者スポーツ推進の取り組み</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者スポーツ指導員 スポーツ基本法</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】資格を取得したのちに、地域で行われている教室や大会へ積極的にかかわれるよう、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p54～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツの振興についてまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>60分</p> <p>障がい者スポーツに関する諸施策</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】障がい者福祉法 スポーツ基本法 スポーツ振興計画 総合型地域スポーツクラブ</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】我が国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）および障がい者スポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ振興計画など）について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p64～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】地域で行っている障がい者スポーツについて調べてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第8回	<p>60分</p> <p>安全管理</p> <p>【key words】</p> <p>【key words】スポーツ 安全 救急法</p> <p>【授業概要】</p> <p>【授業概要】スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。（ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、AED、応急手当など）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p78～日本障がい者スポーツ協会編</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

<p>第9回</p>	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】身近な活動場所を点検して安全性を確認してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 各障がいの理解：身体障害（肢体不自由） 【key words】 【key words】 身体障がい 【授業概要】 【授業概要】 身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p95～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第10回</p>	<p>60分 各障がいの理解：身体障がい（視覚障がい 聴覚障がい 内部障がい） 【key words】 【key words】 身体障がい 【授業概要】 【授業概要】 身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p115～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 視覚・聴覚・内部障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第11回</p>	<p>60分 各障がいの理解：知的障がい 【key words】 【key words】 知的障がい 【授業概要】 【授業概要】 知的障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、知的障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p124～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知的障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第12回</p>	<p>60分 各障がいの理解：精神障がい 【key words】 【key words】 精神障がい 【授業概要】 【授業概要】 精神障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、精神障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p137～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第13回</p>	<p>60分 各障がいのスポーツ指導上の留意点：（身体障がい） 【key words】 【key words】 障がい 特性 指導 【授業概要】 【授業概要】 障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p146～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者との交流のまとめを熟読しておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第14回</p>	<p>60分 各障がいのスポーツ指導上の留意点（知的・精神障がい） 【key words】 【key words】 障がい 特性 指導 【授業概要】 【授業概要】 障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p163～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者との交流のまとめとともに整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>第15回 まとめ：コミュニケーションスキルの基礎</p> <p>【key words】 【key words】 コミュニケーション 【授業概要】 【授業概要】 障がい者スポーツ指導員として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p171～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者スポーツ指導員として学んだことをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>[受講者に関する情報] ・障がい者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。 ・実技は運動着、運動靴、メモの用意をする。 [受講のルール] ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。 ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>施設実習や障がい者へのボランティア活動をとおして、障がい者スポーツの情報を収集しておく。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>講義終了後30分間 他の時間帯の希望のときはアポイントを取っていただく</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験・レポート試験（70%） 実技試験（30%）の総合評価</p>
<p>教科書</p>	<p>日本障がい者スポーツ協会編：新盤障がい者スポーツ教本（初級・中級）：ぎょうせい：令和2年</p>
<p>参考書</p>	<p>井田朋宏：NO LIMIT（障がい者スポーツ情報誌）：日本障がい者スポーツ協会：2019（年4回発刊）</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年、管理職6年、群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐6年（生涯スポーツ、障がいスポーツ）群馬県知事部局（障害福祉、社会福祉、保健福祉）群馬県社会福祉事業団・群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（障がい者スポーツ指導、障がい者スポーツ行政）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在）</p> <p>アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
高坂駿・中山洋子・時田詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。 ②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割について理解・説明できる。 ③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。 ④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。</p>
授業の概要	<p>人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	△
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	△
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	第1回	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
	第2回	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>医療現場における理学療法士の役割 (浅野、小林)</p> <p>【key words】</p> <p>理学療法士、リハビリテーション、役割</p> <p>【授業概要】</p> <p>セラピストの活躍の場は、医療、スポーツ、福祉など多岐にわたり求められるようになってきました。その中でも、理学療法士がどのような役割を担っており、実際にどのようなアプローチを通して現場で活躍しているかを学びます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料 (当日に配布します)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>骨標本から学ぶ人体の構造と機能 (浅野、小林)</p> <p>【key words】</p> <p>骨、コミュニケーション、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>理学療法士が知るべき基礎知識として解剖学が挙げられます。特に「骨」を理解することは、人体の構造を知るための基盤となります。第10回では、グループワークを通して「骨」を理解することに加え、医療現場にて必要となるコミュニケーションの重要性を学びます。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料（当日に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第11回 【予習復習に必要な想定時間】 作業療法士から見る対象者の生活課題とリハビリテーション（高坂） 【key words】 リハビリテーション、作業、作業療法 【授業概要】 変わりゆく社会の中で、障害者を取り巻く生活環境や課題は年々変化しています。作業療法士がリハビリテーションの中で果たす役割や、人の生活を構造的に捉える視点等について演習を通じてお伝えします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（当日に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の典型的な平日を思い出し、どんな活動が、どこで、誰と、どのように行われているか考えてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度</p> <p>第12回 臨床や地域における作業療法の実践（牛込） 【key words】 作業療法、治療・支援、実践 【授業概要】 作業療法の概要を学んだ上で、作業療法が対象者や社会の抱える課題に対して具体的にどのような取り組みや実践を行っているのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（当日に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本作業療法士協会ホームページのピックアップコンテンツである「TEAM_OT」、「OTのソゴ技（作業療法士）」について、自身の興味のある内容を2つ読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度</p> <p>第13回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第16回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>【受講生に関わる情報】 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者となる。 ・予習復習をしっかりとすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 【受講のルール】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。
授業外時間にかかわる情報	授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。(100%)
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>各学部に所属する専門資格をもつ教員が講義を担当する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。 ②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。 ③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。</p>		
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。		
■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに臨むための態度 【key words】</p> <p>③ボランティアに臨む姿勢や態度について考える 「学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア」 【課題】 ①目標シートを完成させて提出する。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【授業概要】 学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア・学士力とボランティアの関わりについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①目標シート・目標書き出しシート・活動記録簿を含めた各種書類・資料の説明と記入 ②ボランティアの種類及び参加方法の説明 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 ボランティア講和 【key words】 ボランティア講和、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア 【授業概要】 上級生によるボランティアに関わる講和を行う。上級生が体験したボランティアの紹介、そこで学んだこと、ボランティア参加に関するアドバイスを聞き、自らのボランティア活動計画に役立てる。また、ボランティア申し込み方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 ボランティア活動をどう考えるか：ポートフォリオの活用 【key words】 ボランティア、ポートフォリオ</p>		

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>車椅子体験</p> <p>【key words】</p> <p>車椅子、介助者、注意点、体験、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>3～4人1組のグループとなり、街中に車椅子で外出する。歩道の移動やトイレの利用など、日常生活の一部を体験し、注意・配慮する点について考える。</p> <p>車椅子利用者、介助者、観察者を順に全て体験し、それぞれの体験で気づいたことを各自メモし、それをもとにグループで話し合う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>車椅子体験のまとめと考察を各グループで発表し、体験から気づいたこと、考えたことを共有する。それをもとに、対象者の心理面に配慮した適切な介助方法について考える。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①次回のグループ発表用のレジュメ（A4用紙1枚）を指定した期日までに提出すること。詳細は後日掲示します。</p> <p>②ポートフォリオを作成する。</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>車椅子体験まとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>前期の振り返り</p> <p>【key words】</p> <p>2分間スピーチ、発表</p> <p>【授業概要】</p> <p>前期に参加したボランティアについて、ポートフォリオをもとに振り返り、自分が体験したこと、学んだことについて2分間スピーチを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①夏季休暇中のボランティア活動計画を立案する</p> <p>②ポートフォリオを作成する。</p> <p>③夏季休暇中のボランティア活動については、活動報告書・ポートフォリオを随時記入・作成し、後期開始時に提出すること。</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>クリスマス会の企画</p> <p>【key words】</p> <p>企画、運営</p> <p>【授業概要】</p> <p>上級生から昨年度のクリスマス会の内容・様子、反省点について話を聞き、今年度のクリスマス会の内容を検討する。ボランティア委員を中心に、各専攻での企画・担当を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①夏季休暇中に参加したボランティア活動を踏まえて、後期のボランティア活動計画を立案する。</p> <p>②前期の活動について、各自中間振り返り票に記入し、日付の所にファイリングし、ポートフォリオを提出する。</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>クリスマス会の企画、内容の検討</p> <p>【key words】</p> <p>企画、構成、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>ボランティア委員を中心に、各専攻で企画を考え、クリスマス会の内容・流れを決める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①ポートフォリオを作成する。</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担</p> <p>【key words】</p> <p>企画、役割分担、グループワーク</p> <p>【授業概要】</p> <p>クリスマス会について事前・当日の役割分担を行う。当日までのスケジュールを決め、各担当で行動計画を立てる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>①各専攻の企画及び全体の企画書（予算案を含む）を作成し、提出する。</p> <p>②企画書が受理され、予算が配布されてから、各グループで準備を開始すること。</p> <p>③ポートフォリオを作成する</p>

	<p>第10回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 クリスマス会予演会</p> <p>【key words】 企画運営、予演会、課題抽出</p> <p>【授業概要】 各専攻で準備した企画・クリスマス会を模擬的に実施する。また、他専攻の企画に参加し、気づいたことや注意点を伝え、改善点を共有する。役割分担や流れについて再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。 ②クリスマス会前日までに全ての準備を終了すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第11回</p> <p>クリスマス会</p> <p>【key words】 地域交流、コミュニケーション、企画運営</p> <p>【授業概要】 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回</p> <p>クリスマス会</p> <p>【key words】 地域交流、コミュニケーション、企画運営</p> <p>【授業概要】 クリスマス会に参加された地域住民の方々に各専攻からの出し物を披露する。地域住民の方々との交流を図る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①クリスマス会における担当の企画および全体について、良くできた点・反省点とその改善策について、各自でまとめておく。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回</p> <p>クリスマス会の振り返り、まとめ</p> <p>【key words】 振り返り、問題点抽出、改善策</p> <p>【授業概要】 クリスマス会の取り組みを通して良くできた点、反省点とその改善策を各専攻で話し合い、まとめ、両専攻で共有する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①ポートフォリオを作成する。 ②次回の2分間スピーチの原稿作成および発表の練習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回</p> <p>1年間のボランティア活動の発表</p> <p>【key words】 2分間スピーチ、発表</p> <p>【授業概要】 1年間のボランティア活動を通し、自分が経験したこと・学んだことについて2分間スピーチを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①1年間のボランティア活動の経験を振り返って、成長報告書を記載（鉛筆にて下書き）し、次回講義に持参すること。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回</p> <p>ボランティア活動のまとめ（自己分析・他者評価）</p> <p>【key words】 自己分析、他者評価</p> <p>【授業概要】 1年間のボランティアの目標、活動内容を確認し、自己分析を行う。また、自己の活動を評価表をもとに、他者から客観的評価をしてもらう。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①成長報告書を清書し、ポートフォリオにファイリングする。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意すること。</p> <p>この科目は、ボランティア活動を通して1年間で自分自身がどの様に成長したか、自分でまとめている</p>

	きます。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。 依頼ボランティア参加方法について十分理解し、ボランティア先や地域連携センターとトラブルのないよう、計画的に参加してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	月曜日 16:30～17:00
評価方法	ポートフォリオ70% ボランティア参加状況18% 授業内発表12% <ポートフォリオ採点基準> ①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点） ②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点） ③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（15点） ④資料：事前および事後に調べた資料、配布資料が日付順にファイリングされ、それぞれに出典・考察が書かれている（15点） ⑤活動記録簿：記載の漏れがなく、適切に記載できている（8点）。ボランティア参加後に速やかに提出できている（12点） <ボランティア参加状況評価基準> ①年間6回以上の依頼ボランティア・継続ボランティアに参加（18点） <授業内発表評価基準> ①声の大きさ明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度（2点） ②内容：わかりやすく十分まとめられている（5点） 所々不十分（3点） 不十分（1点） ③態度：開始・終了時の挨拶や発表中の姿勢・視線が適切（2点） ④時間：1分45秒以上2分以内（3点） 1分30秒以上1分45秒以内（2点） 1分30秒以内、2分以上（0点）
教科書	ボランティアハンドブック
参考書	鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームステイ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。</p>
------------	--

授業の概要	<p>研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成31年8月28日～9月7日</p>
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 研修先の概要(2) リジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】</p>
------	---

	<p>訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第3回	<p>カナダ研究(1) 世界とカナダの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】</p> <p>【授業概要】 カナダの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第4回	<p>手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて 【key words】</p> <p>【授業概要】 パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第5回	<p>英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 【key words】</p> <p>【授業概要】 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し 【key words】</p> <p>【授業概要】 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第7回	<p>英語研修(3) 日常英会話 研修先でのコミュニケーション 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第8回	<p>英語研修(4) 日常英会話 寮、ホームステイ 研修先での注意事項 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第9回 英語研修(5) 日常英会話 危機管理 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第10回 協定校での授業 会話、課外授業 Meet with Program Team 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第11回 協定校での授業 会話、課外授業 Welcome & Program Orientation 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回 協定校での授業 会話、課外授業 Campus Orientation & Tour 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Saskatchewan Museum 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language History ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第16回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language History ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第17回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language History ② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第18回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Farmer, s Market and Regina Down Town Tour 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第19回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Culture ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第20回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Cul ture② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第21回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Tour of Sa skatoon & Western Development Museum 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第22回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第23回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ②</p>

	<p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第24回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第25回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第26回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第27回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第28回	<p>協定校での授業 会話、課外授業 Program Closing Ceremony</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第29回	<p>研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第30回	<p>2時間 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり)</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり)</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。</p> <p>②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。</p> <p>③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。</p> <p>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。</p> <p>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。</p> <p>⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい</p> <p>⑦本講義は10人以上により開講する</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	<p>海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。</p> <p>①学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。</p> <p>②事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。</p> <p>③滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。</p> <p>④研修期間中の活動記録を提出すること。</p> <p>⑤帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。</p>
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦・小林洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院）にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成32年3月15日～3月23日

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回 研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 【key words】 (群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回 研修先の概要(2) アレリアノ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート

	<p>取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第3回	<p>フィリピン研究(1) 世界とフィリピンの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】</p> <p>【授業概要】 フィリピンの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要となる諸手続きについて 【key words】</p> <p>【授業概要】 パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>医療福祉研修(1) ボランティア先での注意事項 【key words】</p> <p>【授業概要】 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>医療福祉研修(2) ボランティア先でのレクリエーション企画について 【key words】</p> <p>【授業概要】 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいかを考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 【key words】</p> <p>【授業概要】 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>英語研修(3) 医療英語 患者及び施設利用者とのコミュニケーション 【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学 医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。(プログラムの詳細は現地にて説明)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第16回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第17回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Rehabilitative therapies リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第18回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Adult day care services 高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第19回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation 身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第20回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation therapiesを訪問し リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第21回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第22回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第23回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>第24回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第25回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第26回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第27回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第28回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第29回 研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備 【key words】 【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第30回 研修成果 報告会（まとめとふりかえり） 【key words】 【授業概要】 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。</p>

	<p>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。</p> <p>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。</p> <p>⑥本講義は10人以上により</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	<p>海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。</p> <p>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。</p> <p>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。</p> <p>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。</p> <p>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。</p> <p>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。</p>
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。 ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。 ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。 ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。 ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。 ⑥骨の連結</p>		
授業の概要	<p>生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語 【key words】 正面、前頭面、水平面、三角筋部、etc授業の進め方、復習の仕方を説明。 人体の部位名等を説明。 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 身体の断面、上肢、下肢の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第2回 骨格系-1 上肢の骨 【key words】 ・骨の構造と機能 ・上肢帯の骨について 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 鎖骨、肩甲骨の関節部や筋の付着部の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>		

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-2 上肢の骨 【key words】 ・前回の内容の確認試験 ・上腕骨、尺骨、橈骨について 【授業概要】</p>
第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上腕骨、前腕の骨の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-3 骨盤、下肢の骨 【key words】 ・前回の内容の確認試験 ・寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨について 【授業概要】</p>
第5回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭 【key words】 頭蓋骨を構成する骨の名称と構造 【授業概要】</p>
第6回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 頭蓋骨を構成する骨の名称と構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成 【key words】 胸部の構造、椎骨の構造 【授業概要】</p>
第7回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 椎骨の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結 【key words】 関節の構造と種類、筋の構造と種類について 【授業概要】</p>
第8回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 関節の構造と種類、筋の構造と種類の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-2 体幹の筋、胸部の筋 【key words】 体幹、胸部の筋について 【授業概要】</p>
第9回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 胸部の筋、腹部の筋の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節 【key words】 体幹、胸部の筋について 【授業概要】</p>
第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 胸部の筋、腹部の筋の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 【key words】 脊柱起立筋、肩関節の構造と作用について 【授業概要】</p>
	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 浅背筋群、脊柱起立筋、肩関節の構造の暗記</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第11回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 【key words】 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第12回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 【key words】 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第13回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 【key words】 骨盤、下肢の骨について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 骨盤、下肢の筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第14回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について 【key words】 下肢の筋、下肢の連結と運動について、試験勉強について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 下肢の筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第15回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-9 まとめ、試験について 【key words】 前期のまとめ、試験勉強について前期分すべて試験勉強を指示 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。 ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 ・授業の流れや雰囲気を乱
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社 ・解剖学ワークブック 西川彰・小林直行（著）、野村巖（監） 医歯薬出版
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂 ・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂

	<ul style="list-style-type: none"> ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論 ・運動器系 坂井 建雄 (著) 医学書院 ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>① 内臓器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>		
授業の概要	<p>生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 生命現象と人体①</p> <p>【key words】 組織と細胞、エネルギー産生</p> <p>【授業概要】 生理学の総論と身体の階層性、生命現象についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 1-12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 生命現象と人体②</p> <p>【key words】 細胞内液と細胞外液、浸透圧、細胞膜タンパク質、DNAとRNA</p> <p>【授業概要】 水、ホメオスタシスと負のフィードバック についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>		

第3回	<p>8-16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 細胞の構造と機能 【key words】 細胞小器官、静止電位と活動電位 【授業概要】 細胞の構造と機能、静止電位と活動電位 についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第4回	<p>15-19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 神経の興奮伝導と末梢神経① 【key words】 神経細胞の構造、興奮の伝導、末梢神経の種類 【授業概要】 神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第5回	<p>21-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 神経の興奮伝導と末梢神経② 【key words】 自律神経、シナプス、神経伝達物質 【授業概要】 自律神経、シナプスにおける興奮の伝達についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	<p>24-30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 中枢神経系① 【key words】 自律神経、神経核、脊髄反射、伸張反射 【授業概要】 中枢神経系とは、脊髄、脳幹についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>33-39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 中枢神経系② 【key words】 小脳、間脳、大脳皮質と各種中枢 【授業概要】 小脳、間脳：視床と視床下部、大脳皮質についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>40-45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 中枢神経系③ 【key words】 学習、記憶、睡眠 【授業概要】 脳の高次機能についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第9回	<p>90分 中枢神経系④ 【key words】 大脳辺縁系、脳脊髄液、血液脳関門 【授業概要】 大脳基底核と脳梁、辺縁系、室と脳脊髄液・血液脳関門についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 45-49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>60分 筋と骨① 【key words】 興奮収縮連関、筋の収縮メカニズム、骨格筋収縮の種類 【授業概要】 筋の分類、骨格筋、心筋についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 53-60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>120分 筋と骨② 【key words】 筋紡錘とGolgi腱器官、心筋、骨 【授業概要】 平滑筋、骨についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 60-67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>90分 感覚① 【key words】 感覚、視覚 【授業概要】 感覚とは、体性感覚についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 71-77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>90分 感覚② 【key words】 視覚、聴覚、嗅覚、味覚 【授業概要】 内臓感覚、特殊感覚についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 77-83 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>90分 血液① 【key words】 赤血球、白血球 【授業概要】 血液の組成と機能、赤血球、白血球についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 86-95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>90分 血液② 【key words】 止血、膠質浸透圧、血液型</p>

	<p>【授業概要】 血小板、血漿、血液型についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 95-99 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、またはメールによる質疑であれば随時対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テストの総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
多田真和			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 将来、医師、看護師、薬剤師等の専門職と協同でチーム医療をおこなうにあたり、医療従事者として共通の幅広い医学および医療の知識を備えておく必要があります。本講義では、医学の歴史、近代医学の発展と医の倫理、人体の構造と機能、主要な疾患とその対応、医療保障制度、医療施設の種類の現状、保健医療対策、医療にまつわる法規等について広く解説します。</p> <p>〔到達目標〕 チーム医療において理学療法士、作業療法士として果たすべき役割およびその重要性が理解できることを目標の一つとします。また、医療従事者として、患者さんや医療チームの構成員からも尊敬されるような人間性、倫理観が身につけられることを目標とします。</p>
授業の概要	<p>将来、チーム医療を実践していく皆さんにとって必要な医学および医療の幅広い知識を、できる限りわかりやすく、平易に解説します。皆さんが将来遭遇する可能性が高い疾患については、その解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、疾患および障害が生じるメカニズム、さらに基本的な治療法およびその予後について解説します。1年次で並行して学ぶ、解剖学、生理学、生化学等の講義と並行して学習することで、より深い理解が得られるよう配慮します。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>オリエンテーション、医学の定義とその使命 (第1章)</p> <p>【key words】 医学の定義、医学の使命</p> <p>【授業概要】 初めにあたり、授業のオリエンテーションを行います。また、「医学とは何か」「医学の使命」について解説します。将来必ず必要となる生命倫理および医学倫理について熟考していきます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p.1 - p.4</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
	第2回	<p>医学の歴史 (第2章)、近代医学の発展と医の倫理 (第3章)</p> <p>【key words】 医学の歴史、近代医学、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、脳死、尊厳死</p> <p>【授業概要】 「近代医学への道程」「ヒポクラテスの誓い」「20世紀・21世紀の医学」について、さらに「ヘルシンキ宣言」「インフォームドコンセント」「脳死」および「尊厳死」をとり上げ解説しま</p>

	す。 【教科書ページ・参考文献】 p. 5 - p. 13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
第3回	人体の構造と機能 I (第4章)・・・細胞、骨・筋肉、血液、循環器系、呼吸器系 【key words】 細胞、骨、筋肉、血液、循環器、呼吸器 【授業概要】 人体の構造の基本単位である「細胞」、そして「骨」「筋肉」「血液」について解説します。さらに心臓、血管系およびリンパ系からなる「循環器系」を学び、「呼吸器系」では、気道、肺、胸郭・横隔膜の解剖に加え、呼吸運動について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 14 - p. 27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第4回	人体の構造と機能 II (第4章)・・・消化器系、泌尿器系、内分泌とホルモン、神経系、生殖器系、皮膚、感覚器 【key words】 消化器、泌尿器、内分泌、ホルモン、神経、生殖器、皮膚、感覚器 【授業概要】 口腔にはじまり、食道、胃、小腸、大腸までの消化管に加え、肝臓、胆道系および膵臓で構成される「消化器系」の解剖学的構造、さらに生理学的メカニズムについて解説します。また、「泌尿器系」「内分泌系」「神経系」「生殖器系」「皮膚」および眼、耳の「感覚器」について、その解剖学的構造および生理学的メカニズムを解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 27 - p. 44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第5回	臨床医学総論 I (第5章)・・・主要症状からその原因を探る 【key words】 発熱、ショック、浮腫、悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹痛、食欲不振、呼吸困難、胸痛 【授業概要】 臨床の場で多くみられる、「発熱」「ショック」「浮腫」「悪心」「嘔吐」「下痢」「便秘」「腹痛」「食欲不振」「呼吸困難」および「胸痛」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 45 - p. 54 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第6回	臨床医学総論 II (第5章)・・・主要症状からその原因を探る 【key words】 頭痛、めまい、運動麻痺、不随意運動、排尿障害、咳、喀血・血痰、吐血、動悸 【授業概要】 臨床の場で多くみられる、「頭痛」「めまい」「運動麻痺」「不随意運動」「排尿障害」「咳」「喀血・血痰」「吐血」および「動悸」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 55 - p. 60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第7回	臨床医学各論 I (第6章)・・・呼吸器疾患、循環器疾患 【key words】 呼吸器疾患、循環器疾患 【授業概要】 日常の臨床の場でみられる、代表的な呼吸器および循環器に生じる疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 61 - p. 68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
第8回	臨床医学各論 II (第6章)・・・消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎臓・泌尿器疾患 【key words】 消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、泌尿器疾患 【授業概要】 日常の臨床の場でみられる代表的な消化器に生じる疾患、糖尿病、脂質異常症をはじめとする代

	<p>謝・内分泌疾患、さらに腎臓および泌尿器に生じる代表的な疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 68 - p. 76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第9回	<p>臨床医学各論 III (第6章)・・・血液・造血器疾患、神経・筋疾患、精神疾患 【key words】 血液疾患、造血器疾患、神経疾患、筋疾患、精神疾患 【授業概要】 鉄欠乏性疾患をはじめとする血液疾患、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等の神経疾患、さらに、統合失調症、双極性障害等の精神疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 76 - p. 83 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第10回	<p>臨床医学各論 IV (第6章)・・・アレルギー疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患 【key words】 アレルギー疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患 【授業概要】 薬物アレルギー、アレルギー性鼻炎等のアレルギー疾患、関節リウマチ、シェーグレン症候群等の膠原病、食中毒、破傷風等の感染症、さらに一酸化炭素中毒、フグ中等の中毒疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 83 - p. 90 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第11回	<p>臨床医学各論 V (第6章)・・・運動器疾患、皮膚疾患、婦人科・妊産婦疾患 【key words】 運動器疾患、皮膚疾患、婦人科疾患、妊産婦疾患 【授業概要】 日常の臨床の場で多くみられる腰痛症、変形性膝関節症等の運動器疾患、アトピー性疾患、蕁麻疹および熱傷等の皮膚疾患、さらに更年期障害、子宮筋腫等の婦人科・妊産婦疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 91 - p. 101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第12回	<p>臨床医学各論 VI (第6章)・・・小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム 【key words】 小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム 【授業概要】 小児にみられる疾患、眼精疲労、緑内障等の眼疾患、メニエール病、突発性難聴等の耳鼻咽喉疾患、さらにメタボリックシンドロームについて解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 102 - p. 113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第13回	<p>人口統計と疾病の変化(第7章)、健康状態と受療状況(第8章)、医療保障制度(第9章) 【key words】 人口動態、世界の人口、人口動態、社会保障制度、医療保障、医療保険、老人医療、介護保険制度、国民医療費 【授業概要】 さまざまな保健衛生事業を効率よく実施するために必要な人口統計、さらに医療保障制度、社会保障制度として医療保険、老人医療、介護保険制度そして国民医療費について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 114 - p. 135 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要なポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第14回	<p>医療関係の職種(第10章)、医療施設の種類(第11章)、保健医療対策(第12章)、医師法・薬事法・衛生法規(第13章) 【key words】 医療関係の職種、医療施設の種類、保健医療対策、医師法、薬事法、衛生法規 【授業概要】</p>

	<p>将来チーム医療を協同して行う医師、歯科医師、看護師等の医療職について解説します。また、病院、診療所等の医療施設について学び、さらに保健医療対策、医療にまつわる法規についても解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 136 - p. 183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 総まとめ、国家試験対策 【key words】</p> <p>【授業概要】 第14回までの授業で学んだ内容を、問題を解き解説する形式で総復習します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 1 - p. 183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第14回までに学んできた内容の総復習を行います。同時に定期試験対策にもなりますので、知識を確かなものとするよう、自身が修得できていない部分を明らかにして授業に臨んで下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>将来の医療従事者として、だれからも信頼されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることのないように配慮してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>前もってテキストの該当する範囲を熟読し、自身がわかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに知識を深められるよう解説していきます。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業終了後の30-60分ほど対応可能です。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記による期末試験（80点満点）に加え、学期中に行う2回の小テスト（10点 x 2回）の合計で、成績評価を行います。小テストについては、再試験は行いません。各試験は選択方式で、授業範囲内の過去の国家試験問題をもとに作成されます。</p>
<p>教科書</p>	<p>医学概論 改訂6版（中外医学社）</p>
<p>参考書</p>	<p>授業中に適宜紹介します。</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 かつて大学病院にて臨床医学および基礎医学研究に、医師として携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学に携わっています。また、介護保険施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。さらに、産業医として、一般企業で働く方に対する健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わり、また健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。 ②末梢神経のうち、体性神経(脳神経、脊髄神経)の構成と分布先が説明することができる。 ③末梢神経のうち、自律神経(交感神経、副交感神経)の構成と分布先が説明することができる。 ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。</p>
授業の概要	生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり 【key words】 中枢神経、脳神経、脊髄神経、etc神経系と筋系との関わりについて配布プリント神経のしくみと働きの図の理解・暗記 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 脳と脊髄 -1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造 【key words】 中枢神経の全体的な構造について 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳葉の名称、大脳皮質にある機能局在の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 脳と脊髄 -2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造</p>
------	---

	<p>【key words】 中枢神経の全体的な構造について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳大脳基底核・大脳辺縁系の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脳と脊髄 -3 脳と脊髄のまとめ</p> <p>【key words】 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 大脳核、脳幹の構造について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脳と脊髄 -4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路</p> <p>【key words】 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 感覚系の上行路、運動系の下行路の復習 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経 -1 脊髄神経の構造とその枝</p> <p>【key words】 脊髄神経の構造とその枝について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート ベル・マジヤンディーの法則、脊髄神経叢の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝</p> <p>【key words】 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 腕神経叢の構成と枝について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋</p> <p>【key words】 腕神経叢の枝と支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 腕神経叢の構成と枝、支配筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ</p> <p>【key words】 腰神経叢の構成とその枝、支配筋についてトレーニングノート p181 - 183大腿神経、閉鎖神経、伏在神経の暗記 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋</p> <p>【key words】 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上殿神経、下殿神経、坐骨神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋</p>

	<p>【key words】 坐骨神経の枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脛骨神経、内側足底神経、外側足底神経、総腓骨神経、浅腓骨神経、深腓骨神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第12回 脊髄神経-8 仙骨神経叢の構造とその枝、支配筋 【key words】 肋間神経の構成とその枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 皮節 (T5、T7、T10) の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第13回 脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋 【key words】 脳神経について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳神経の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第14回 脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ 【key words】 自律神経（交感神経、副交感神経）について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 自律神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第15回 脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強 【key words】 試験勉強について講義内容すべて試験勉強について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。 ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 ・授業の流れや雰囲気乱
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂 ・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂 ・解剖学ワークブック 西川彰・小林直行（著）、野村巖（監） 医歯薬出版 ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著） 医学書院 ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ① 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>
授業の概要	生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 心臓と循環① 【key words】 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図 【授業概要】 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 102-108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第2回 心臓と循環② 【key words】 血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性 【授業概要】 血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 109-114 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第3回	<p>毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>心臓と循環③ 【key words】 血圧の調節、圧受容器反射、微小循環 【授業概要】 心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 117-123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第4回	<p>心臓と循環④ 【key words】 静脈還流、ポンプ作用 【授業概要】 静脈還流、臓器循環、リンパ循環について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 123-127 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第5回	<p>呼吸とガスの運搬 ① 【key words】 ガス交換、呼吸筋 【授業概要】 外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 131-135 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第6回	<p>呼吸とガスの運搬 ② 【key words】 呼吸気量、ガス交換 【授業概要】 呼吸気量、ガス交換とガスの運搬について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 135-139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第7回	<p>呼吸とガスの運搬 ③ 【key words】 呼吸の調節、病的呼吸 【授業概要】 呼吸の調節、病的呼吸について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 138-142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第8回	<p>尿の生成と排泄① 【key words】 尿の生成、クレアチニンクリアランス 【授業概要】 腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 144-145 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第9回	<p>尿の生成と排泄②、酸塩基平衡 【key words】 排尿と排尿障害、アシドーシスとアルカローシス 【授業概要】 排尿、尿の性状と排尿の異常、血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシスについて講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p>

第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】 150-157</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>消化と吸収①</p> <p>【key words】 嚥下、胃による消化</p> <p>【授業概要】 消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、について講義・解説を行う。</p> <p>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>消化と吸収②、内分泌①</p> <p>【key words】 各消化器と消化酵素、ホルモンの作用</p> <p>【授業概要】 十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割、内分泌機能とホルモンについて講義・解説を行う。</p> <p>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 164-173</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>内分泌②</p> <p>【key words】 負・正のフィードバック、神経内分泌、内分泌腺とホルモンおよびその異常</p> <p>【授業概要】 各腺から分泌されるホルモンの作用について講義・解説を行う。</p> <p>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 173-181</p>
第13回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>内分泌③、代謝と体温①</p> <p>【key words】 電解質コルチコイド、糖質コルチコイド、3大栄養素</p> <p>【授業概要】 内分泌腺とホルモンおよびその異常、栄養素、エネルギー代謝 について講義・解説を行う。</p> <p>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 181-190</p>
第14回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>代謝と体温① 生殖と発生</p> <p>【key words】 基礎代謝量と代謝等量、体温の調節</p> <p>【授業概要】 体温、男性生殖機能、女性生殖機能、について講義・解説を行う。</p> <p>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 192-198</p>
第15回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>成長と老化、運動生理</p> <p>【key words】 筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果</p> <p>【授業概要】 受精、着床、胎児の発生、成長と老化、筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化 について講義・解説を行う。</p> <p>教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 200-211</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>【受講生に関する情報】 ・予習復習は必ず行うこと。</p>

	<p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・出席時間厳守 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、またはメールにて随時対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テスト、出席点の総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹一男			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。 〔到達目標〕 ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。 ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。 ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。
授業の概要	実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回 血圧測定の意義と方法について学ぶ。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回 実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回 心電図の測定の意義と方法について学ぶ。 【key words】

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第8回	<p>消化と吸収について学ぶ。消化管の運動（嚥下、蠕動運動、排便）について学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第9回	<p>エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回 血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回 尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書（ノート）を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。一部の实習項目で、体操服での参加があります（体温測定と血圧測定）。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業前後10分程度
評価方法	実習レポート30% 期末レポート試験70%
教科書	生理学の講義で使用する教科書を持参すること
参考書	その都度指示する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>□ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>□プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<p>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
榊原清			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。 ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。 ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。 ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。</p>		
授業の概要	ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、人間発達の概念 【key words】 発達概念・発達と成長・ライフステージ・胎芽と胎児 【授業概要】 人間発達期の区分、発達の原則について学ぶ。 人体の不思議「生命誕生」の映像を観て、胎芽期から胎児期の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p1-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスを印刷し、ポケットファイルに綴じてくること。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行うのでしっかりと聴講すること。 人間発達期の区分、発達の原則について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 胎芽期から胎児期の発達過程、反射、神経系の発達 【key words】 胎生期・胚芽期・胎芽期・胎児期 【授業概要】 受精から出生までの成長・発達の流れについて学ぶ。</p>		

	<p>胎生期の発達状況と出生後の発達との関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p11-12 配布資料「受精から出生まで」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p11-12の表5. 胎児の発達過程について予習しておくこと。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第3回	<p>新生児期・乳児期の発達、反射、神経系の発達 【key words】 新生児期・乳児期・正常運動発達・原始反射</p> <p>【授業概要】 新生児期・乳児期（0～6か月）の粗大運動の正常発達、原始反射の関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p77-88、p89-103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p77-103に目を通し、腹臥位の発達の流れについてイメージしておくこと。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>乳児期の発達、反射、神経系の発達、出生後の成長 【key words】 乳児期・正常運動発達・原始反射反応</p> <p>【授業概要】 乳児期（7か月～12か月）の粗大運動の正常発達、原始反射・反応の関係について学ぶ。 出生後の身長、体重、頭囲、歯の成長について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p105-126、p127-137、p139-149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p105-149に目を通し、腹臥位から立位までの発達の流れについてイメージしておくこと。 次回の授業の始まりに今回の授業内容の確認小テストを行うので復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第5回	<p>姿勢反射／反応 【key words】 原始反射・姿勢反射／反応・出現／消失（統合）</p> <p>【授業概要】 神経系の成熟と姿勢反射／反応の発達、および運動発達との関連について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p61-76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の確認小テストを行うので姿勢ごとの発達の流れについて復習して参加すること。 p63表1. 原始反射、姿勢反射・反応の中枢レベルと出現・消失（統合）時期について目を通して おくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第6回	<p>姿勢反射／反応の復習、上肢機能の発達 【key words】 目と手の協調性・リーチ・握り・つまみ</p> <p>【授業概要】 前回の授業の確認小テストを行い、理解を深める。 上肢機能の役割を理解し、手指が効果的に作用するための要素について学ぶ。 リーチ、握り、つまみ動作の発達ともの操作、目と手の協調性との関連について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p163-175 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p163-175に目を通し、上肢機能の発達の流れについてイメージしておくこと。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りをしておく こと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第7回	<p>感覚・知覚・認知・社会性の発達 【key words】 感覚・知覚・認知・社会性</p> <p>【授業概要】 感覚・知覚・認知・社会性の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p201-210 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p201-210に目を通して おくこと。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りをしておく こと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第8回	<p>学童期・青年期・成人期・高齢期の発達 【key words】 学童期・青年期・成人期・高齢期</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>学童期・青年期における行動について学ぶ。 青年期、成人期、高齢期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機能）学ぶ。 高齢期では、加齢の影響を受けやすいばかりでなく、受けにくい機能もあることを学ぶ。 ヒトは生涯発達する生き物であることを学ぶ。 期末試験対策について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p211-236 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p211-236に目を通してここと。 授業の終わりに今回の授業内容の確認テストを行う。間違えたところの振り返りをしてここと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ノート、配布資料を綴じたファイルを持参すること。 ・配布資料はポケットファイル（20p）に整理して綴じ込むこと。 ・欠席した場合は、出校後速やかに、授業内容の確認、配布資料の受け取りに来ること。 ・授業の進行を妨げる行為、雰囲気乱す行為、常識を欠く行為は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントシート方式、確認小テスト
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後の時間、または次の授業の初めの時間に確認小テストをするため、授業内容の復習をしておくこと。 ・次の回の授業内容の教科書の該当ページを読んで授業の臨むこと。 ・自身の小さい頃（0歳～1歳）の写真を探しておいてください。
オフィスアワー	授業終了後
評価方法	筆記試験100%
教科書	上杉雅之監修：イラストでわかる人間発達学。医歯薬出版。2015
参考書	福田恵美子編集：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 2版。中外医学社。2012 細田多穂監修：小児理学療法学テキスト。南江堂。2018 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p> <p>発達段階の様子を示した映像・画像を用いた授業を展開します。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
橋本広信			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士・作業療法士を目指す者として、臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。 ・集団としての人というより、一人ひとり独自の存在として生きる個人が出会う心の問題に対する見方を学ぶ。 ・心の健康を阻害する問題を多面的に理解し、その対処のあり方の基本を理解することを目的とする。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①代表的な心理療法の理論と実際についてその基礎を理解できる。 ②リハビリ患者を含め、それ以外の心理的な支援を必要とする人が抱える生きづらさや心理的課題を理解できる。 ③心理的な課題を抱えた人が歩む、回復と成長のプロセスとその支援方法を思い描くことができる。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学において積み上げられてきた人の心に関する諸理論を解説する。 ・そして、多様な角度から考えられた心の回復や成長のプロセスへを学ぶことで、それを引き出す対人支援の基本的あり方を理解できるよう授業を行う。 ・授業全体を通し、「心が回復する」、「人が成長する」ということの意味や意義を考えられるように、具体的事例や障害当事者の方の授業参加を取り入れ、受講生が主体的に考える力を高められるような授業を目指していく。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 「心の臨床に立つ」ということを考える：科目オリエンテーション</p> <p>【key words】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理療法のモデル、臨床、死生学 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「臨床」という言葉を手掛かりにして、解決に向かう答えが簡単に得られない問題と向かいあう人の心をどう受け止めていくのか。臨床心理学の誕生の経緯とその基本的な考え方について解説する。グループワークも実施しながら、言葉の奥にある「心の声」を聴く必要性について理解する。これらを通して、これから学ぶ「臨床心理学」の特殊な面や、セラピスト(臨床に関わるすべての人)に共通に求められる資質や態度を概観する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書1-13頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>答えの出ない問題の例として「結婚前夜に交通事故で婚約者を失い“うつ病”と診断された人が、あなたに「なぜ私の婚約者は死ななければならなかったのでしょうか？」と質問した時の答え</p>
------	--

第2回	<p>を考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間 リハビリ患者の心理① 患者の手記、闘病記を通して知るリハビリ患者の心理 【key words】 リハビリ体験記、患者の手記、闘病記、ストレス尺度、人生コース図 等</p> <p>【授業概要】 たくさんの心理療法の理論を学ぶまえに、実際にリハビリを必要とした患者の心理について本を通して触れることで、リハビリ患者の抱える心の課題について考えを深めたい。患者となった日から、一人ひとりが様々な過程を経ながら、人生と生活と命のあり方を見つめ、生き方の再構築をしている。そうした患者の具体的な体験を通して、リハビリ患者の心理を学ぶ視野を広げる。 【教科書ページ・参考文献】 【参考文献】山崎明夫(2016)『にほんごがこんなふうにもえたのよ!』(株QOLサービス)、千秋実(1979)、『生きるなり』(文芸春秋)、池ノ上寛太(2009)『リハビリの結果と責任』(三輪書店)等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参考文献として挙げたもの以外にも、ネット等でリハビリを必要とする患者となった方々の手記、体験記録があるので、一人の方を選んで、印刷しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第3回	<p>リハビリ患者の心理② 障害受容をするということは、どういうこと? 【key words】 ・障害受容、キューブラ・ロス、受容の5段階 【授業概要】 障害受容の基本原則を確認したのちに、病や事故によりリハビリを必要とする体験をもった患者の方々の本音が書かれた本を通して、障害を受容するということは、どういうことかについてグループワークを通して深めていく。臨床心理学の冒頭でリハビリ患者の心理と障害受容について学びながら、その後の心理療法の理解の前提となる、人の苦悩のあり方について理解を深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 田島明子編著(2015)『障害受容からの自由』(シービーアール) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、田島明子の論文をネットで検索し、目を通しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第4回	<p>患者の心の状態をどのように理解するのか? : 知能検査と心理検査 【key words】 ・知能検査、人格検査、質問紙法検査、作業検査法、投影法検査 【授業概要】 心は目に見えるものではなく、行動や態度、表情や語りを通してして理解することしかできないものである。そうした前提に立ちながらも、現状を把握したり、状況の変化を見極めるには心を客観的に理解する手掛かりが必要となる。ここでは、心理療法の前提となる各種検査について、代表的な知能検査やパーソナリティ検査を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、スライド等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国家試験問題として頻出テーマである知能検査とパーソナリティ検査を学ぶため、事前に国家試験問題の過去問のうち、検査を扱ったものに目を通しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第5回	<p>身につけてしまった行動を変えることで心と生活を回復を目指す: 学習理論と行動療法 【key words】 レスポネント条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論、系統的脱感作法(ウォルビ)、不安階層表、フラッディング法、オペラント法、モデリング 【授業概要】 ・今回から、具体的にどのように心の問題に対処するとよいのかという課題の解決のために、各種の心理療法を学んでいく。まず、教科書とは順序を変えて、学習理論を基礎とした行動療法について学ぶ。悩みや問題の背景には、不適応的な形で身につけてしまった行動があると仮定し、適応的な行動を再学習して問題の解消を目指すやり方を理解する。さらに、それで解決する問題と解決しない問題があることも考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書106-118頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動療法を支える、リラクゼーション方法について、自習しておくこと。「自律訓練法」「漸進的筋弛緩法」教科書119-128頁は各自で学習しておくこと。テスト範囲に含める。</p>
第6回	<p>認知行動療法: 「思い込み」を修正すると何がかわるのか 【key words】 ・ベック、抑うつ尺度、エリスの論理情動療法(RET、REBT)、ベックの認知療法、マイケンバウムの自己教示訓練 【授業概要】 ・人生で出会う辛く苦しい出来事や不適応状況に対し、それを捉える認知過程に着目して適応的対処が出来るようになることを目指す心理療法として、認知行動療法(CBT)について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書129-146頁</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ※国試頻出テーマのため、過去問参考書を図書館で見たりネットで調べ、行動療法、認知行動療法に関する問題がどのように出ているかを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第7回 ロジャーズの人格理論とクライエント中心療法</p> <p>【key words】 カール・ロジャーズ、自己実現傾向、自己論、純粋性、受容、共感的理解、ポーターの態度分析</p> <p>【授業概要】 現代の「カウンセリング」の生みの親ともいべきロジャーズが提唱した心理療法の基礎を学ぶ。本来人は、ただ苦しみ悩むだけの弱い存在ではなく、すべての人に「自己実現への動機」に向かう強い心が備わっているという基本的な考え方の意義をしっかりと理解する。また、彼が提唱した相談やカウンセリングなど対人的な臨床場面での重要な基本原理を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書83-97<small>頁</small></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、ロジャーズが提唱した来談者中心療法について調べておくこと。特に、実際のカウンセリング場面でのどのような「態度」をとるべきかについて、一つは答えられるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
	<p>第8回 森田療法・内観療法：日本的な発想に基づく心理療法を学ぶ</p> <p>【key words】 ヒポコンドリー基調、絶対臥褥、日記指導、作業活動</p> <p>【授業概要】 ・二人の日本人が創始した二つの心理療法を扱う。 ・時として人は、自分の中から生じる「不安」や何らかの「身体症状」にとらわれてしまうことがある。原因がはっきりとしなくても、なぜか自分を認められなくなったり、満たされない思いに振り回されて生きてしまうこともある。こんな、生きづらい状態からどうしたら逃れられるのか。今回は、こうした問題に正面から独自に取り組んだ二人の日本人と彼らから生まれた心理療法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書178-194<small>頁</small></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題として、この授業の前にワークシートを配布するので、それに沿って「想定書簡法」などを実施し、ワークシートを記入し提出できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第9回 フロイトが発見した意識できなこころ（無意識）とは？：精神分析の理論と技法</p> <p>【key words】 フロイト、催眠、ヒステリー、意識、前意識、無意識、心理的発達理論、防衛機制</p> <p>【授業概要】 20世紀初頭に臨床体験を通して「無意識」を発見することで、人とその心の見方をがらりと変えたフロイトの心の見方をまず確認し、それがなぜ重要な意味をもつのかを考える。さらに彼がその後展開した「心理-性的発達段階説」や「心の構造論」について解説を加え、意識、前意識、無意識など、ヒトの心を理解する上で重要な概念を理解する。さらに、人が自らの心を気づかないうちに守ろうとする防衛機制について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書14-31<small>頁</small></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジグムント・フロイトと精神分析の基本原則、さらに「防衛機制」についてあらかじめ調べておくこと。特に「防衛機制」は一つ以上、人にある程度説明できるように準備しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第10回 人間関係の中に現れる心の癖を分析する：交流分析</p> <p>【key words】 バーン、デュセイ、自我状態、エゴグラム、ゲーム分析、シナリオ分析</p> <p>【授業概要】 ・フロイトに影響を受けたエリック・バーンにより創始された「交流分析」について学ぶ。代表的な技法である「エゴグラム」だけではなく、バーンが考えた、個人の成長と変容を引き出すシステムティックアプローチ全体を概観する。特に、人それぞれに癖のあるコミュニケーションの中に現れる心のパターンに気づき、注意を払うことで、よりよいコミュニケーションができるという彼の考え方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書67-82<small>頁</small></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめエゴグラムの課題（ワークシート）を課すので、実施してくること。課題として提出予定。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第11回 フロイト以後の無意識の探究①：C. G. ユングと分析心理学を中心に</p> <p>【key words】 アドラー、ライフスタイル、権力への意志、ユング、個人的無意識、普遍的無意識、元型、個性化</p> <p>【授業概要】 フロイトにより開かれた「無意識の心理学」（精神分析）は多様な心理療法を生み出すもととなった。今回は、フロイト理論を修正しながら、独自の無意識とパーソナリティの考え方に基づいて、壮大な人の成長と発達の理論を構築したユングに注目する。彼の無意識と意識の考え方の基本と「個性化」の過程は難しいものだが、現在の心理臨床の基本ともなっているため、予習を</p>

	<p>してよく理解してもらいたい。 【教科書ページ・参考文献】 教科書46-55頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習としてユングに関する本として、「河合隼雄」の書いた本を一冊読んでおくことが望ましい。図書館などを利用し、早めに読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第12回 フロイト以後の無意識の探究②：フロイト理論の発展と修正、心の中に作られるイメージとしての親 【key words】 ・メラニー・クライン、ウィニコット、妄想一分裂ポジション、抑うつポジション、移行対象、スクイグル、スクリブル 【授業概要】 ・イギリスにおいて発達した、クラインとウィニコットの対象関係理論を中心に解説する。言葉以前のイメージの世界を理解することが中心の難解な理論になるので、あらかじめネットなどで予習をしておくこと。また、現在大きな問題となっている「パーソナリティ障害」に関連し、母子関係と愛着の問題が引き起こす愛着障害に重点を置いて、親子の問題がいかに重要かを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書56-66頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ネットや本などで、メラニー・クライン、ウィニコットについて予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第13回 うまく機能しない家族がもたらした心の問題とそこから回復：家族療法 【key words】 I P、リフレミング、ブリーフセラピー、家族システム、構造派家族療法、戦略派家族療法、解決志向短期療法 【授業概要】 ・人は家族の中に生まれ、その影響を受けながら育つ。このことが心の強さと弱さにいかに結び付くかをまず考える。そして、家族がうまく子育てや互いを支える機能を失ったとき、何が起きるのか。そして、そこからどのように回復を目指すことが可能なのかについて、家族療法を通して学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書147～161頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 機能不全家族について調べておくこと。また、映画や小説などで、そうしたうまくいかない家族を扱った作品について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第14回 人とともに回復を目指す心理療法を学ぶ：集団心理療法について 【key words】 感受性訓練法、心理劇（モレノ）、SST（リバーマン）、自助グループ 【授業概要】 心の問題を抱えた人に対して、あえて人と関わる場を作ることで回復を目指す心理療法がある。人の中にいてこそ引き出される回復力を利用する様々な心理療法を学ぶことで、集団のもつ特性や力を活かすあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書195-207頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にSSTは作業療法としても実施することがあるので、ネット等で予習をしておくこと。簡単なワークとしてできるだけ実施できるようにする予定 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第15回 リハビリ患者と家族から学ぶ、心を支えるかわり方：当事者との対話による学習 【key words】 障害受容、リハビリ患者の心理、コミュニケーション 【授業概要】 「臨床心理学」の最終講義として、実際に大きな事故によりリハビリテーションを受けるなどし、現在障害者として生活を送る方をお呼びし、障害受容のテーマを中心に直接お話を伺う。また、ここまで学んできたことをふまえて、学生との直接対話の時間を設け、今後の勉強と実践の糧としていく。 ※感想文を課題として提出する（評価に含まれるので必ず提出すること） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を読み、当日、自分ができる質問を一つ以上用意しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
<p>受講生に関わる情報および受講のルール</p>	<p>・国家試験に関連する科目であるが、それ以上に、医療現場で関わる方々の心の動きや心の回復につながる科目として、真剣に取り組むこと。 ・毎回の講義の中で、実際の患者と対話をするような姿勢を磨いてもらいたい。そのため、私語が多かったり、関心が薄い態度をとったり、授業の雰囲気や乱したりする行為には厳しく指導する。 ・悩みながら生きていく人や、心の問題を抱える人に対して、尊厳を持って向き合う姿勢を求める。 最低限、自分が人の心の学習に対して誠実に取り組んでいるときちゃんとと言える程度の態度は求める。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず期限内に提出すること。</p>
<p>毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>

授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、シラバスをもとに授業に出てくる重要人物や理論について授業前に調べ、ノートに整理しておくこと。 ・毎年講義の後半に、リハビリ患者を代表してゲスト講師をお呼びして、学生と対話をしながら、「リハビリ患者の心理」について学んでいく。一人一人が患者の方々に、専門職を目指すものとして誠実に向かい合っていける態度を養ってもらいたい。
オフィスアワー	月曜 14:30～15:00 (授業後に教室か事務室非常勤講師控え所にて声をかけること)
評価方法	<p>〈総合評価〉総合得点60～69点：C 70～79：B 80～89：A 90点以上：S で評価。</p> <p>〈評価割合〉期末試験70点、小レポート・感想文等提出物 30点 30点÷提出回(予定3回) =1提出物得点(1回10点)</p>
教科書	・窪内節子・吉武光世(2003)『やさしく学べる心理療法の基礎』(培風館)
参考書	・松島恭子(2004)『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』(創元社) その他適宜指示をする。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	<p>2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的などころから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論Ⅰ (歴史、理念、位置づけ、評価) 【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 リハビリテーション医学の歩み、他の医学との関連、位置づけ、急性期、回復期、維持期の定義とそこで行うべきことを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P2-P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+ 復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>第2回 リハビリテーション医学総論Ⅱ (医療経済学) 【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 社会保険制度の中で、リハビリテーション医療を行うに当たって避けて通れない、医療保険、介護保険、身体障害者手帳などの各種制度の概要を解説する。患者さんのためになるようアドバイ</p>
------	--

	<p>スできることはもちろんであるが、将来の君たちの生活に直結する内容でもある。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P2-P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後 リハビリテーション医学総論Ⅲ (評価、 廃用症候群)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 リハビリテーション医療で使われる各種評価項目を解説。リハビリテーションの計画、実施後の評価をするうえで重要な項目である。また、廃用症候群についても解説。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P38-45、P84-P93、P148-P154 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第3回	<p>運動器リハビリテーションⅠ (骨疾患、骨折)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 高齢者の代表的運動器疾患であり、かつ寝たきりの原因となる上記疾患についての病態、治療方法、問題となる合併症とその対策について解説する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P346-P357 + プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第4回	<p>運動器リハビリテーションⅡ (関節疾患 1)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 痛みのために、日常生活に支障をきたすことの多い上記疾患の病態生理ならびに リハビリテーションを解説。 なぜ痛むのか、どうしたら痛まないようになるのか。そのための予防は、などを学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p281-P289+ プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第5回	<p>運動器リハビリテーションⅢ (関節疾患 2)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 肩関節周囲炎の病態ならびにリハビリテーション、股関節置換術後の後療法について解説</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P362-366、p376-380 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第6回	<p>運動器リハビリテーションⅣ (腰痛、頸肩腕痛)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 腰痛ならびに肩こりの病態、治療方法、物理療法について解説。なぜ痛むのか、繰り返さないためにはどうしたらよいかを学習する。手術に至るケースはわずかであり、リハビリが治療の主役である。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p358-361、p367-375 + プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第7回	<p>運動器リハビリテーションⅤ (スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群)</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 スポーツ外傷の初期治療、リハビリテーションの実際、痛みの評価方法としてのVAS、CRPSのリハビリテーションについて解説する。早く痛みをとるには？早期に復帰するには？を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p381-P392</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>小テスト①（第1回から第8回までの内容）脳神経リハビリテーションⅠ（脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト①（第1回から第8回までの内容、25点満点）を実施する。その後、脳血管障害のさまざまな病態と、そこに起こる問題点、それらの評価方法、急性期に行うべきことを概説する。併せて、運動障害（麻痺）の発生機序を解剖学的観点から深く学ぶ。リハビリテーション医学の最重要領域である。気をいれて学習すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p220-P228、p94-P102+ プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回に記した内容に従って、予習復習を実施する。配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第10回	<p>脳神経リハビリテーションⅡ（脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の回復期で起こる様々な問題の病態を理解し、それらの評価方法、対策（リハビリテーション）を概説する。錐体路の障害によって発生する痙縮、錐体外路の障害によって生じる固縮の違い、病態、対処法を理解する。前回に引き続きリハビリテーション医学の最重要領域である。気をいれて学習すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p229-242、P155-P162 + プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第11回	<p>脳神経リハビリテーションⅢ（高次脳機能障害）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳血管障害や頭部外傷に発生する高次脳機能障害について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P163-P181 + プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第12回	<p>脳神経リハビリテーションⅣ（認知症）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 機能障害の1つである認知症、日本で急増する認知症、認知症の早期発見と対応について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P182-P187+プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第13回	<p>脳神経リハビリテーションⅤ（神経変性疾患）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 神経内科領域の代表疾患であるパーキンソン病の病態、評価方法、リハビリテーションの注意点を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p269-275 + プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第14回	<p>小テスト②（第9回から13回までの内容）内科領域のリハビリⅠ（心臓リハビリ、生活習慣病、内部障害のリハビリ）</p> <p>【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照</p> <p>【授業概要】 虚血性心疾患へのリハビリテーションについて学習。引き続き、高血圧、糖尿病などの生活習慣病に対するリハビリテーションを学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 p112-128、p319-336 + プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+ 復習30分X4回 合計3時間前後 内科領域のリハビリⅡ (呼吸器リハビリテーション) 【key words】 配布される リハビリテーション医学Keywords を参照 【授業概要】 閉塞性ならびに拘束性肺疾患の病態を学んだ後、その障害に対するリハビリテーションの実際を学習する。現場で呼吸リハビリテーションを実践している理学療法士による特別講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 p337-P345 + プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywords を、テキスト、プリントを参照して完成させる。これを繰り返し何回も復習することが重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+ 復習30分X4回 合計3時間前後</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50% (25点x2回)、期末テストの点数に50% (50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定 (CまたはD評価のみとなる) する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	最新リハビリテーション医学 第3版 江藤文夫 理宇明元 監修 医歯薬出版株式会社
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 日本リハビリテーション医学会認定医 日本整形外科学会認定 運動器リハビリテーション医 通所リハビリテーション管理者 (13年) アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
前島 俊孝			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。 ・基本的な疾患の病態について説明できる。 		
授業の概要	細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○		
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○		
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 解剖学、病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明、注意事項など。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第2回	<p>解剖学の復習</p> <p>【key words】 上皮、細胞増殖能</p> <p>【授業概要】 病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。 細胞増殖能からみた、各種細胞の特徴について学習し、様々な疾患との関連を意識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 解剖学の教科書 p.13-15、教科書(病理学) p.31</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>病因</p> <p>【key words】 病因、内因、外因</p> <p>【授業概要】 様々な疾患の原因について、また、細胞死に関する用語を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 27-31</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第4回	<p>細胞傷害</p> <p>【key words】 壊死、アポトーシス、萎縮、過形成、肥大、化生、再生、低形成、無形成</p> <p>【授業概要】 細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 50-52</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第5回	<p>循環障害 1</p> <p>【key words】 出血、血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血、側副血行</p> <p>【授業概要】 循環障害とは。循環障害に関する用語を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 65-71</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第6回	<p>循環障害 2</p> <p>【key words】 浮腫、ショック</p> <p>【授業概要】 循環障害に関する用語を理解し、説明できるようにする。また、スライドで、循環障害性の疾患について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 71-75</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第7回	<p>炎症</p> <p>【key words】 炎症性細胞、急性炎症、慢性炎症、肉芽組織、肉芽腫</p> <p>【授業概要】 炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 76-87</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第8回	<p>免疫、アレルギー</p> <p>【key words】 免疫細胞、I型～V型アレルギー</p> <p>【授業概要】 免疫機能、アレルギー反応について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 88-101</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第9回	<p>腫瘍 1</p> <p>【key words】 良性腫瘍、悪性腫瘍、がん、癌腫、肉腫</p> <p>【授業概要】 腫瘍の定義、分類について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 118-121</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>

	<p>第10回 腫瘍 2 【key words】 リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移 【授業概要】 腫瘍発生の原因や、転移様式を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 118-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p> <p>第11回 腫瘍 3 【key words】 診断、検査、治療 【授業概要】 腫瘍の診断、治療の流れを理解する。スライドを用いて、腫瘍の肉眼、顕微鏡像を観察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 118-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p> <p>第12回 代謝異常、糖尿病 【key words】 血糖、インスリン、1型糖尿病、2型糖尿病、診断、合併症、治療 【授業概要】 代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。 また、課題を与えるので、レポート作成に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 317-323 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p> <p>第13回 先天異常 【key words】 染色体異常、遺伝 【授業概要】 主な染色体異常、遺伝性疾患について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 53-64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p> <p>第14回 感染症 【key words】 HIV、AIDS、結核、日和見感染 【授業概要】 特徴的な感染症をいくつか取り上げて、感染症について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書: p. 97-100, 103-117, 201-205 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p> <p>第15回 まとめ 【key words】 【授業概要】 補足、講義のまとめ、試験について 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。 ・机の隣同士2~3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。 ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。 ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。 ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。 ・読書の習慣を身につける。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。講義で扱った範囲の教科書を読み復習する習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずにす

	む。
オフィスアワー	講義の前後
評価方法	筆記試験（客観・論述）80%、レポート20%
教科書	堤 寛：クイックマスター 病理学 第2版，サイオ出版，2018
参考書	解剖学の教科書（病理学概論の講義でも使用する）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 病理診断科の医師として急性期病院に勤務。医療機関での実務経験をふまえ講義を行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断においての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	<p>運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、骨 I：骨の基礎</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 骨の発生、成長、構造について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>Keywords完成後に、PTOTでもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、プリントや標準整形外科学で確認しておく（予習）。授業後A4のノートの左頁にチェックの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆく。繰り返しの復習が重要。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
	第2回	<p>骨 II：骨疾患、骨折総論①</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】</p>

第3回	<p>各種骨疾患の症状と特徴を学習。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 骨 III：骨折総論② 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 骨折の治療経過と、その過程で起こる合併症について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第4回	<p>骨 IV：骨折各論① 体幹部の骨折 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 体幹部の骨折の注意点、合併症、治療方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第5回	<p>骨 V：骨折各論② 上肢の骨折 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 上肢の各骨折の合併症、注意点、治療方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第6回	<p>骨 VI：骨折各論③ 下肢の骨折 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 下肢の骨折の病態と合併症、治療法穂について学習する。特に、偽関節を形成しやすい大腿骨頸部骨折、下腿骨折について確実に知識を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第7回	<p>関節 I：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節の基本構造を学んだ後、特徴的な変形、代表的な変形とその背後にある病態を知る。先天性股関節脱臼については、その診断方法、管理、指導方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第8回	<p>関節 II：変形性関節症総論 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 変形性関節症の病理（関節リウマチとの違い）、症状、診断、各部位の関節症の特徴について学習する。併せて、痛風、神経病性関節症、血友病性関節症などの、関節破壊に至る疾患の経過を</p>

	<p>学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 第9回 小テスト①（骨ⅠからⅥまでの範囲）、関節Ⅲ：変形性関節症各論 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 講義に先立ち、第1講から第6講までの内容（骨Ⅰ～Ⅵ）の小テストを実施する。その後変形性関節症の中でも頻度が高く重要な、変形性膝関節症、変形性股関節症について、治療面について深く学習する。保存的治療の中で、理学、作業療法士が深くかかわる、運動療法、装具療法、手術前後の療法、手術方法の得失などについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 第10回 関節Ⅳ：関節リウマチ 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節リウマチの病態と治療について学習する。いかに早期に痛みをとり、ADLを確保し、機能障害を防ぐかを念頭に置いて学ぶこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 第11回 関節Ⅴ：外傷性疾患① 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節脱臼、靭帯損傷などの、関節周辺の外傷性疾患学習する。スポーツ外傷と密接に関連する範囲である。診断方法（特に徒手検査が重要である）と初期治療について学習するが、これらはみな、学生諸君がすぐに実践可能な内容である。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 第12回 関節Ⅵ：外傷性疾患② 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 第11講に引き続き、関節周辺の外傷性疾患について学習する。特に頻度の高い、膝関節、足関節に関わる外傷性疾患を深く理解することが大切である。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 第13回 小テスト②（関節ⅠからⅥまでの範囲）、脊椎Ⅰ：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患① 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 授業に先立ち、第7講から第12講までの範囲（関節Ⅰから関節Ⅵまで）に関する小テストを実施する。その後脊椎と脊髄の構造を理解した後・1次ニューロン障害、2次ニューロン障害について理解する。その後、脊椎疾患の代表である、頸椎ならびに腰椎椎間板ヘルニアの病態と症状について、深く学習する 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
--	---

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 脊椎 II：脊椎疾患②</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脊椎分離症、滑り症、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症といった、脊椎の構造変化に起因する疾患について学習する。大半の症例で手術は必要なく、リハビリテーションによる保存的治療で改善することに気付く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 脊椎 III：脊椎疾患③</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 側弯症、後縦靭帯化症、といった脊椎の構造異常によって生ずる疾患を引き続き学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日
教科書	1：標準整形外科学 第14版 中村利孝 他編 医学書院 2：最新リハビリテーション医学 第3版（医歯薬出版）1年次で使用したテキスト、も適宜使用する。 3：PTOT国家試験共通問題 でるもん でたもん [臨床医学] 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>日本専門医機構 認定 整形外科専門医 日本整形外科学会認定 リウマチ医 日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医 日本リウマチ学会認定 リウマチ専門医 整形外科臨床経験 25年</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p>

	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施<input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ(解剖学、生理学の復習となる)を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー(DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション、 中枢神経のしくみ I 中枢神経と末梢神経、大脳① 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 大脳の構造と機能について学習 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P2-p21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布する神経内科学KeyWordsの項目を予めテキストで確認しておく(予習)。授業後、A4のノートの左頁にチェックシートの各文を短冊状に切って貼り、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。
	第2回	中枢神経のしくみ II 大脳②、小脳 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 前回に引き続き、大脳の構造と機能を学んだ後、小脳についても、その構造と機能を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P22-p31

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p> <p>中枢神経のしくみ III 脳幹、脊髄</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 生命中枢の存在する脳幹部とそれにつながる脊髄の構造と機能を学習する 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P32-P42</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第4回	<p>中枢神経のしくみ IV 脳循環、脳脊髄液循環</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 脳血管の構造、支配領域と脳脊髄液の産生から吸収までのメカニズムを学習する 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P43-P55</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第5回	<p>障害のメカニズム I 意識障害、脳ヘルニア、脳腫瘍</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 意識障害や脳ヘルニア発生の機序とその緊急度を学び、対処方法について理解を深める。最後に脳腫瘍の分離と症状を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P58-P82</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第6回	<p>障害のメカニズム II 言語障害、認知症、てんかん</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 高次脳機能障害の代表的病態である、言語障害、認知症についての理解を深める。最後にてんかんについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P83-P108</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第7回	<p>小テスト①(第1回から4回までの内容:20点満点) 障害のメカニズム III 運動麻痺</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 授業に先立ち、第1講から第4講までの範囲の小テストを実施する。その後の授業は、運動麻痺の発生機序を学習する。中心前回の運動神経細胞から末梢の筋までのどこに障害が起きるとどのような病態を呈するのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P109-P130</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第8回	<p>障害のメカニズム IV 知覚障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 皮膚に存在する知覚受容器から、頭頂葉中心後回の感覚細胞に至る経路までのどこにどのような障害が起きると、どういった近くの障害を呈するのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P131-P149</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>

第9回	<p>障害のメカニズム V 脳神経障害①</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 脳神経障害（IからVI）の発症機序ならびにその症状について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P150-P166</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第10回	<p>障害のメカニズム VI 脳神経障害 ②、摂食嚥下障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 脳神経障害（VIIからXII）の発症機序とその症状を学ぶ。摂食嚥下についても、その仕組みを再復習し、障害発生の部位とその症状を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P166-P190</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第11回	<p>障害のメカニズム VII 小脳の障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 小脳障害の病態を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P191-P194</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第12回	<p>障害のメカニズム VIII 排尿障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 排尿機構を復習し脳卒中後や脊髄損傷後に認められる排尿障害の病態を理解し、管理方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P195-P200</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第13回	<p>障害のメカニズム IX 脳血管障害①</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト②（第5から10回までの内容【30点満点】）を実施。その後高血圧性脳出血やくも膜下出血について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P201-P214</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第14回	<p>障害のメカニズム X 脳血管障害②</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 閉塞性脳血管障害（脳梗塞）について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P214-P224</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第15回	<p>障害のメカニズム ? 脳脊髄液障害</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 脳脊髄液の循環について復習し、その障害と水頭症について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P225-P234</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、PT OT 国家試験共通問題 であるもんでたもん [臨床医学] で演習する。（復習）。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（20点×1回+30点×1回=合計50点）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	① JJNブックス 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム第4版 馬場元毅 著 医学書院（1年次の解剖学実習で使用したテキストである） ② ベッドサイド神経の診かた 第18版 田崎義昭 著 南山堂 ③ PT OT 国家試験共通問題 であるもんでたもん [臨床医学] 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学） 脳神経外科学教室 所属経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL（課題解決型学習） <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
諸川由実代、石関圭			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。 〔達成目標〕 ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。 ②現代社会とストレスおよびメンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。 ③“脆弱性—ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。 ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。 ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療の枠組みについて理解・説明することができる。 ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。 ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。 ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。		
授業の概要	理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。		
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類 教科書第1章・第2章 (P1~15)	
	第2回	日本および海外における精神医学の歴史を学ぶとともに、理学療法や作業療法を実施する際の精神医学的知識の必要性を認識する。精神障害の成因と分類を理解する。 精神機能の障害と精神症状 (1) 第3章 (P16~45) 精神医学の基礎知識として症候学の習得が重要である。理学療法や作業療法を行う際には精神機能のどの領域にどのような障害があるのかを評価し、その機能障害が治療でどのように改善するかを評価する必要がある。ここでは精神機能の障害のなかで、意識、知能および記憶の障害、神経心理学的症状について学ぶ。	
	第3回	精神機能の障害と精神症状 (2) 第3章 (P16~45)	

第4回	精神機能の障害のうち、知覚、思考および感情の障害について学ぶ。 精神障害の診断と評価 第4章 (P46~67)
第5回	精神機能の評価では診断面接とともに心理検査、生理学検査、画像検査、評価尺度を用いた症状評価を行う。ここでは、診断面接のポイント、脳波検査、心理検査や評価尺度の意義や特性について学ぶ。 (WA I S、kohs 立方体テスト、HDS-R、B P R S、G A F、Hamilton うつ病評価尺度、WHO/Q O L26など) 脳器質性精神障害/てんかん 第5章 (P68~93)、第8章 (P114~124)
第6回	・認知症の症状は、中核症状(基本症状)、周辺症状があることを学ぶ。 ・代表的な認知症として、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病について学ぶ。 ・てんかんの精神症状およびリハビリテーションについて学ぶ。 症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害 第6章 (P94~99)、第7章 (P100~113)
第7回	・精神障害の診断では、身体疾患との鑑別が重要である。症状精神病の概念と主な症状精神病について学ぶ。 ・精神作用物質による精神および行動の障害として、依存症の概念を理解し、アルコール依存および薬物依存について学ぶ。 統合失調症およびその関連障害 第9章 (P125~146)
第8回	・統合失調症およびその関連障害の病因、症状、経過、予後について学び、リハビリテーションの重要性を認識する。 気分(感情)障害① 第10章 (P147~161)
第9回	・気分障害の症状、経過、発症の機制について学ぶ。 気分(感情)障害② 第10章 (P147~161)
第10回	・気分障害の症状、経過、治療について学ぶ。 神経症性障害 第11章 (P162~173)
第11回	・神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴について学ぶ。 ・神経症性障害の治療について学ぶ。 生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティ・行動・性の障害 第12章 (P174~178)、第13章 (P179~185)
第12回	・摂食障害の臨床的特徴と症状、治療について学ぶ。 ・睡眠障害の分類と症状について学ぶ。 ・パーソナリティ障害の概念を理解し、代表的な人格障害の類型と特徴について学ぶ。 精神遅滞、心理的発達の障害、リエゾン精神医学 第14章 (P186~194)、第15章 (P196~204)、第16章 (P205~209)
第13回	・精神遅滞の分類、精神遅滞を伴う疾患について学ぶ。 ・精神遅滞の診断・治療、ケア、リハビリテーション、社会的処遇について学ぶ。 ・リエゾン精神医学の概念を理解し、リエゾン精神医学の対象となる場合や求められる対応について学ぶ。 心身医学、ライフサイクルにおける精神医学 第17章 (P210~212)、第18章 (P213~228)
第14回	・心身症の概念、発症機序、診断、治療について学ぶ。 ・ライフサイクルにおける精神疾患の特徴について学ぶ。 精神障害の治療とリハビリテーション 第19章 (P229~251)
第15回	・精神障害に対する治療方法とリハビリテーションの目標や到達点について学ぶ。 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス 第20章 (P252~270)、第21章 (P271~277)
	・精神保健に関わる法律や制度について学ぶ。 ・社会におけるメンタルヘルスについて学ぶ。
受講生に関する情報 および受講のルール	[受講生に関する情報] 極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。 [受講のルール] 携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

オフィスアワー	授業終了後20分対応可能
評価方法	出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100%で判断。
教科書	上野武治 編：標準理学療法・作業療法学 精神医学 (第4版) . 医学書院, 2015
参考書	上島国利 立山萬里 編：精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>医学部講義、臨床実習 看護学校講義</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p>■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p>■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷 誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、作業療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。</p> <p>〔到達目標〕 ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>		
授業の概要	臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション、内科学の概念 【key words】 症候学 【授業概要】 内科的治療内科学概論、診察法、臨床検査。内科的治療について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P1-37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分	症候学Ⅰ
	第2回	症候学Ⅱ 【key words】 症候学 【授業概要】 内科領域の主要な症候について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P38-54 【課題・予習・復習・授業準備指示】	

	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第3回	<p>90分 循環器Ⅰ 【key words】 循環器 【授業概要】 循環器疾患の主要症候，診断法を概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P55-70 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 循環器Ⅱ 【key words】 循環器 【授業概要】 高血圧症，低血圧症，虚血性心疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P70-78 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 循環器Ⅲ 【key words】 循環器 【授業概要】 心筋疾患，心筋炎，弁膜症，先天性心疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P78-83 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 循環器Ⅳ 【key words】 循環器 【授業概要】 心不全，不整脈，肺性心，大動脈疾患，末梢血管疾患，末梢静脈疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P83-101 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 呼吸器Ⅰ 【key words】 呼吸器 【授業概要】 呼吸器疾患の主要症候，診断法を概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P102-112 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 呼吸器Ⅱ 【key words】 呼吸器 【授業概要】 感染性肺疾患，慢性閉塞性肺疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P112-120 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分 呼吸器Ⅲ 【key words】 呼吸器 【授業概要】 びまん性汎細気管支炎，気管支喘息，サルコイドーシス，拘束性肺疾患について概説．講義中に</p>

	<p>生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P121-127 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】 呼吸器IV 【key words】 呼吸器 【授業概要】 肺腫瘍、肺循環障害、胸膜疾患、横隔膜疾患、異常呼吸、呼吸不全について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P127-141 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】 消化器 I 【key words】 消化器 【授業概要】 消化器疾患の主要症候、診断法を概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P142-156 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】 消化器 II 【key words】 消化器 【授業概要】 口腔疾患、食道疾患、胃疾患について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P156-167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】 消化器Ⅲ 肝 胆 膵 I 【key words】 消化器 肝 胆 膵 【授業概要】 小腸・大腸疾患、肝胆膵疾患検査法について概説。P167-186講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P167-186 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】 老年学 I (総論) 【key words】 老年学 【授業概要】 加齢、老化について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 老年学 P1-78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>90分 【予習復習に必要な想定時間】 老年学 II (高齢者に特徴的な症候と疾患1) 【key words】 老年学 【授業概要】 高齢者に特徴的な症候と疾患について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 老年学 P81-172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】</p>

受講生に関わる情報 および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、20分程度対応可能。
評価方法	筆記試験による期末試験で行う。
教科書	・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院 ・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版 大内 尉義 編集 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷 誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学・作業療法士として活躍するために必要な内科および老年医学領域の知識、技術を習得することである。</p> <p>〔到達目標〕 ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 肝 胆 膵 Ⅱ 【key words】 肝 胆 膵 【授業概要】 急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P186-191 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第2回 肝 胆 膵 Ⅲ 【key words】 肝 胆 膵 【授業概要】 肝硬変、肝癌、胆嚢炎、胆道癌、膵炎、膵癌、膵内分泌、腹膜炎について概説。講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する。解決した疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
------	---

第3回	<p>内科学 P192-200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分 血液 造血器 I 【key words】 血液 造血器 【授業概要】 血液疾患の主要徴候，赤血球疾患血液疾患の主要徴候，赤血球疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】</p>
第4回	<p>内科学 P201-213 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分 血液 造血器 II 【key words】 血液 造血器 【授業概要】 白血球疾患，リンパ網内系疾患，M蛋白血症，出血性疾患，血栓性素因について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】</p>
第5回	<p>内科学 P213-227 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分 代謝 I 【key words】 代謝 【授業概要】 糖尿病，インスリノーマについて概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	<p>内科学 P228-245 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分 代謝 II 内分泌 I (総論) 【key words】 代謝 内分泌 【授業概要】 脂質異常症，メタボリックシンドローム，痛風・高尿酸血症，骨粗鬆症，ビタミン欠乏症・過剰症，糖尿病について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>内科学 P245-259 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分 内分泌 II (各論) 【key words】 内分泌 【授業概要】 視床下部疾患，下垂体疾患，甲状腺疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>内科学 P260-265 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分 内分泌 III (各論) 【key words】 内分泌 【授業概要】 甲状腺疾患，副甲状腺疾患，副腎疾患について概説．講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する．解決した疑問をノートにまとめ復習を行う．次回の授業の為に教科書を一読し予習する． 【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>内科学 P265-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>

第9回	腎、泌尿器 I 【key words】 腎 泌尿器 【授業概要】 尿の異常, 腎検査, 腎不全, 糸球体疾患について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P270-283 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第10回	腎、泌尿器 II 【key words】 腎 泌尿器 【授業概要】 二次性腎障害, 尿路疾患, 腎泌尿器系腫瘍, 前立腺疾患, 電解質異常について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P283-296 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第11回	アレルギー 【key words】 アレルギー 【授業概要】 気管支喘息, 花粉症, アナフィラキシーショック, アレルギー, 関節リウマチについて概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P297-311 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第12回	膠原病 【key words】 膠原病 【授業概要】 リウマチ熱, 皮膚筋炎・多発性筋炎, 全身性エリテマトーデス, 全身性硬化症について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P310-316 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第13回	感染症 I 総論 【key words】 感染症 【授業概要】 免疫不全症, 感染症総論について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P317-327 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第14回	感染症 II 各論 【key words】 感染症 【授業概要】 グラム陽性細菌, グラム陰性細菌, 嫌気性細菌, ウイルス, 真菌について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決した疑問をノートにまとめ復習を行う. 次回の授業の為に教科書を一読し予習する. 【教科書ページ・参考文献】 内科学 P327-339 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第15回	老年学 III (高齢者をとりまく環境) 【key words】 老年学 【授業概要】 高齢者をとりまく環境について概説. 講義中に生じた疑問はコメントカードで質問する. 解決し

	<p>た疑問をノートにまとめ復習を行う。次回の授業の為に教科書を一読し予習する。 【教科書ページ・参考文献】 老年学 P172-394 【課題・予習・復習・授業準備指示】 90分 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、20分程度は対応可能。
評価方法	筆記試験による期末試験で行う。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院 ・標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版 大内 尉義 編集 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係	
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 脊髄損傷 I 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷の受傷機転、病態、症状、高位診断について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第2回 脊髄損傷 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷における治療、急性期ならびに慢性期の合併症とその対策について学ぶ。</p>
------	--

第3回	<p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度） 脊髄損傷 III 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷におけるリハビリテーションについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第4回	<p>末梢神経 I 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 末梢神経損傷の病態と回復過程を学習する。その後、腕神経叢損傷をはじめとする、上肢の末梢神経障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第5回	<p>末梢神経 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 第4講に引き続き、上肢そして下肢の末梢神経損傷、障害について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第6回	<p>神経・筋疾患 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィーなどについて学習する。神経学的徴候や検査手技については、DVDにより目で見て確認する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第7回	<p>小テスト①（脊髄損傷ⅠからⅢと末梢神経ⅠからⅡが範囲）、骨・軟部腫瘍 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 授業に先立ち、小テスト①（第1講から5講までの範囲、脊髄損傷、末梢神経）を実施する。その後、骨・軟部腫瘍について学ぶ。頻度の高い転移性骨腫瘍と小児に多い骨肉腫を中心に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>

第8回	<p>四肢の循環障害と壊死性疾患</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 保存的治療が重要な四肢の循環障害疾患の病態生理を理解し、適切な治療法が選択できるように学ぶ。切断に至る壊死性疾患については、進行防止の対策を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第9回	<p>切断および離断と義肢 I</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 切断の原因、切断部位による利点欠点、手術の留意点などを学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P297-309</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第10回	<p>切断および離断と義肢 II</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 切断後の後療法、義肢の構造と特性、選択基準、などについて学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P297-309</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第11回	<p>切断および離断と義肢 III</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 義手の構造と特徴、選択基準などについて学習する。供覧する義手、義肢の実物に触れながら、第10講と11講の重要点を再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P310-318</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第12回	<p>小テスト②（神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲）熱傷、手の外科</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト②（第6講から11講までの範囲、神経・筋疾患、骨・軟部腫瘍、四肢の循環障害と壊死性疾患、切断および離断と義肢）を実施する。その後、熱傷の診断と治療、後療法について学ぶ。手の外科については、一般外来で非常によくみる上肢の疾患について徒手検査を中心とした診断方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第13回	<p>スポーツ外傷・障害 I</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 スポーツ外傷の発症機序、初期治療、後療法と予防策について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P381-392 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第14回 スポーツ外傷・障害 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 スポーツ障害の対処方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P381-392 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第15回 整形外科的治療法 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 整形外科領域で行われる保存的治療から各種手術まで、適応と実際を学習する。1年間学習してきたことの総復習を兼ねる。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習（PT OT 国家試験共通問題 であるもん 出たもん [臨床医学] を使用）と併せノートの復習を行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日の授業終了後の休憩時間。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。</p>
<p>教科書</p>	<p>1：標準整形外科学 第14中村利孝 他編 医学書院 2：最新リハビリテーション医学 第3版（医歯薬出版）（1年次で使用したテキスト）も適宜使用する。 3：PT OT 国家試験共通問題 であるもん 出たもん [臨床医学] 医学書院</p>
<p>参考書</p>	<p>授業中に適宜紹介する</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 日本専門医機構 整形外科専門医 日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医 日本整形外科学会認定 スポーツ医 整形外科臨床経験25年以上</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p>

<p><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。		
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ(解剖学、生理学の復習となる)を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。		
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー(DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○		
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○		
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、小児神経疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群、中枢神経に障害を生じる先天性代謝異常、について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p316-338 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成(予習)。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p> <p>第2回 てんかん 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 小児ならびに脳血管障害後の成人に見られるてんかんについてその症状と分類、診断方法と治療について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p284-P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>		

第3回	<p>配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p> <p>筋疾患</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 筋ジストロフィーを代表とする、各筋疾患について、その病態生理、診断方法、治療方法を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p. 288-P301</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第4回	<p>脳腫瘍、外傷性脳損傷</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳腫瘍の診断、治療、予後について学習する。その後、外傷性脳損傷の病態について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p224-P237</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第5回	<p>脳血管障害①</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の症状と分類、診断と治療について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p173-P203</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第6回	<p>脳血管障害②</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳血管障害のリハビリテーションについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p173-P203</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第7回	<p>認知症</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 認知症の鑑別診断と治療可能な認知症について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p204-P223</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第8回	<p>変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 Parkinson病（症候群）と変性、脱髄疾患について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p253-p274</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第9回	<p>小テスト ①（第1-6回の内容） 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、第1講から第6講までの範囲の小テスト(25点満点)を行う。その後、髄膜炎、脳炎を</p>

第10回	<p>代表とする神経系感染疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p302-P315 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上 脊髄疾患、末梢神経疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脊髄損傷の病態と随伴症状、合併症について学ぶ。その後末梢神経障害についても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p238-P252、P275-P283 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第11回	<p>廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 神経疾患に多い合併症である、廃用症候群と、排尿障害、性機能障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p339-P362 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第12回	<p>高次脳機能障害①（失語症、失認、失行） 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 高次脳機能障害の、失語症、失認、失行、について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p107-P151 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第13回	<p>小テスト②（第7回～第11.回の内容）高次脳機能障害②（記憶障害、注意障害、遂行機能障害） 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 授業に先立ち、第7講から第11講までの範囲の小テスト②（25点満点）を行う。その後、高次脳機能障害の、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第14回	<p>脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）、構音障害、嚥下障害 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 はじめに、構音、嚥下のメカニズムを学習、その後診断と治療を学ぶ。また脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）についても学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p152-P171 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第15回	<p>総復習 神経診断技術から診る神経疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 神経診断学的手法を復習し、そこから得られる情報をもとに考えられる疾患について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p 35-P70 ベッドサイド神経の診かた 第18版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p>

	<p align="center">【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、配布するプリント、テキストのでもんでもん〔臨床医学〕で行う（復習）。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点×2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	<p>① 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 川平和美 編集 医学書院</p> <p>② ベッドサイド神経の診かた第18版 田崎義昭 著 南山堂</p> <p>③ PT OT 国家試験共通問題 であるもん であるもん [臨床医学] 医学書院</p>
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学）脳神経外科学教室 事績経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じるような様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。
授業の概要	物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供そして親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 canonの成長曲線、原始反射、発達診断小児科学の授業の展開と重要事項チェックシートを用いた学習方法を解説。その後、小児の発達（身長・体重・脳重量）と発達と各種運動反射について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P2-P14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼り付け、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p> <p>第2回 小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 小児の離乳までの過程、小児保健の重要事項、について解説。また小児におこりやすい、発熱や痙攣などの対処法を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P14-P37</p>
------	---

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p> <p>新生児・未熟児疾患 I</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 新生児の評価と問題の把握について解説</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P38-P57</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第4回	<p>新生児・未熟児疾患 II</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 新生児の呼吸全身所見と神経学的所見を学習する。その後、代表的中枢神経障害とその疾患について学習。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P38-P57</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第5回	<p>先天異常と遺伝病</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 先天異常と遺伝のメカニズム、頻度の高い遺伝病、染色体異常について、その遺伝形式、代表的症状について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P58-76</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第6回	<p>神経・筋・骨系疾患 I 中枢神経疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 中枢神経疾患の診断方法、代表的疾患の病態、症状などを学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P77-P95</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第7回	<p>小テスト①（第1回から第5回までの範囲） 神経・筋・骨系疾患 II てんかん</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト①（第1回から5回までの内容）を行う。 その後、てんかんについてのDVDを供覧する。難解な用語や症状を、目でみて理解する。併せて、抗てんかん薬の副作用についても学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P96-P99</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第8回	<p>神経・筋・骨系疾患 III 脳性麻痺</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脳性麻痺の診断から発育、発達の過程をDVDにて学習。聞きなれない、なじみのない用語を、目で見て学習する。発育の過程でおこる様々な問題について、どう対処してゆくかを考えてゆく</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P99-P104</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>

第9回	<p>神経・筋・骨系疾患 IV 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 知的障害、精神遅滞、の定義、指標を知り、近年、学童教育の現場で問題となっている発達障害（多動症候群、学習障害、Asperger症候群、）を学ぶ。頻度は少ないものの、臨床的に重要な、筋ジストロフィーについても学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P104-P120</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第10回	<p>循環器疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 胎児期から出生にあたっての血液循環の変化を学習したのち、代表的な先天性心疾患（VSD、ファロー四徴症）について学習する。川崎病については、問題となる合併症を理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P120-P132</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第11回	<p>呼吸器疾患、感染症</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 その後、乳幼児、学童期の呼吸器疾患と、感染症について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P133-155</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第12回	<p>消化器疾患、代謝内分泌疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 消化器疾患については、年齢ごとに起きやすい疾患を理解し、外科的対処方法を学習する。発達、発育障害をきたす大きな原因となる内分泌代謝疾患については、早期発見のための注意点と対処法について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P156~P176</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第13回	<p>血小テスト②（第6階から第11回までの範囲） 液疾患・免疫・アレルギー・膠原病</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 多授業に先立ち、小テスト②（第6回から11回の範囲）を実施する。能性造血幹細胞から、各血球への分化を理解した後、貧血、白血病、出血性疾患を学習する。1年生で学んだ、免疫システムを再復習した後、アレルギー疾患（特にI型アレルギー）や自己免疫疾患を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P177-P195</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第14回	<p>腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 小児に特徴的な、腎疾患、生殖器疾患、腫瘍を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P196-P205</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
第15回	<p>心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患</p> <p>【key words】</p>

	<p>配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 習癖、睡眠関連障害、心身医学的疾患を学び、その背後にあるものを感じ取るセンスを学ぶ。虐待の気づき、気づいた時の行動を学習する。重症心身障害児については、その定義と特有の問題を学ぶ。最後に、幼児期、学童期に注意すべき眼科的、耳鼻科的疾患を知る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 P206-P226</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや小児科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間 + 復習30分X4回 合計3時間以上</p>
受講生に関する情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中！
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 編集 富田 豊 医学書院 （第8および9講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 埼玉県立小児医療センター 在籍経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 運動生理学は運動に対する生理反応を理解する学問である。運動という治療手段を用いてリハビリテーションを実践する我々セラピストにとって極めて重要な知識である。運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①運動が循環器系に与える影響を説明できる。 ②運動が呼吸器系に与える影響を説明できる。 ③運動負荷試験による生体反応のしくみを説明できる。</p>
授業の概要	運動器障害を有する高齢者や、循環器・呼吸器をはじめとする内部障害などをもつ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果についての理解は、運動という手段を用いてリハビリテーションを実践する理学療法士にとって、極めて重要である。運動時の呼吸循環反応や運動が身体に及ぼす影響について、演習も交え学ぶ。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身に付ける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション</p> <p>【key words】 講義の受け方、オリエンテーション、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②事前課題に関するプレゼンテーションを実施する。</p> <p>【事前課題】 課題タイトル：運動に対する生理反応を理解することがリハビリテーションを実践するセラピストにとって重要である理由 【発表方法】 パワーポイントを用いてスライド6枚以内にまとめる(うち1枚目はタイトル、サブタイトル、科目名、教員名、学籍番号、氏名)。 発表時間は1人当たり1分間とする。 作成したスライドはUSBに保存して、授業開始前までに指定したパソコンに保存すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 生理学・運動学の教科書、各種文献</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p> <p>第2回 循環器系の解剖生理①</p> <p>【key words】 心臓、循環、解剖・生理</p> <p>【授業概要】 ①循環器系の構造と機能を理解する。 ②循環器系の生理学を理解する。</p> <p>【小テスト】 2年次までに学習した循環器系に関連する領域について、小テストを実施する。</p>
------	--

	<p>【教科書ページ・参考文献】 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を復習すること 小テスト勉強をすること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p> <p>第3回 循環器系の解剖生理②</p> <p>【key words】 心臓、刺激伝導系</p> <p>【授業概要】 ①刺激伝導系を理解する。 ②心臓の支配神経を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第4回 循環器系の解剖生理③</p> <p>【key words】 心拍数、心拍出量、前負荷、後負荷</p> <p>【授業概要】 ①心拍数、心拍出量を理解する。 ②心拍出量を規定する因子を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第5回 運動負荷と循環応答①</p> <p>【key words】 運動、血圧、血圧調節</p> <p>【授業概要】 ①血圧の定義を理解する。 ②血圧を調節する機構を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第6回 運動負荷と循環応答②</p> <p>【key words】 運動、血流分配</p> <p>【授業概要】 ①安静時と運動時の血流分配を理解する。 ②漸増運動負荷時の変化を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第7回 呼吸器系の解剖生理①</p> <p>【key words】 呼吸器系の構造、呼吸運動、ガス交換</p> <p>【授業概要】</p>
--	---

	<p>①呼吸器系の構造を理解する。 ②呼吸運動、ガス交換を理解する。</p> <p>【小テスト】 2年次までに学習した呼吸に関連する領域について、小テストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第8回 呼吸器系の解剖生理②</p> <p>【key words】 呼吸調節、酸塩基平衡、酸素解離曲線</p> <p>【授業概要】 ①呼吸調節機構を理解する。 ②酸塩基平衡、酸素解離曲線を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第9回 呼吸機能検査</p> <p>【key words】 スパイロメータ、フローボリューム曲線</p> <p>【授業概要】 呼吸機能検査を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第10回 運動と呼吸</p> <p>【key words】 運動、呼吸</p> <p>【授業概要】 運動時の呼吸状態を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第11回 運動と筋</p> <p>【key words】 筋線維、筋収縮、運動</p> <p>【授業概要】 ①筋線維の種類と組成について理解する。 ②筋の収縮様式と各収縮様式の特徴を理解する。 ③運動による筋線維組成や筋力の変化を理解する。</p> <p>【小テスト】 2年次までに学習した呼吸に関連する領域について、小テストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p>
--	--

	<p>第12回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 運動とエネルギー</p> <p>【key words】 エネルギー供給機構、ATP</p> <p>【授業概要】 ①エネルギー供給機構を理解する。 ②身体活動時のエネルギー供給を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>第13回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 運動負荷試験</p> <p>【key words】 運動負荷試験、最高酸素摂取量</p> <p>【授業概要】 ①運動負荷試験の目的を理解する。 ②運動負荷試験の方法を理解する。 ③心肺運動負荷試験を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>第14回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 運動処方</p> <p>【key words】 運動強度、運動処方</p> <p>【授業概要】 ①運動処方を理解する。 ②運動強度の表し方、計算方法を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>第15回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 課題発表</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、国家試験</p> <p>【授業概要】 事前に提示した内容に関するプレゼンテーションをグループごとに実施する。 詳細は授業時に発表する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学、配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ毎に発表内容をまとめること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は注意すること。演習を行う際は、大学指定体操着着用とし、臨床実習に準じた身だしなみとすること。（爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の派手な染色などは受講を認めない場合がある。） 受講のルール ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>

授業外時間にかかわる情報	①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておく。 ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	小テスト20%、課題発表20%、筆記試験60% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	玉木 彰・監修：リハビリテーション運動生理学，メジカルニュー社
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木利定			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかにかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。 論語 史記 信と義学ぶことの意義、孝弟について、分を学ぶことは人倫の大きな者について、学問について。</p> <p>第2回 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 命の使い方P1、P174</p> <p>第3回 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。 プロタゴラス(真理なし) ソクラテス プラトン(イデア論)(真理あり)プリントを配布孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。</p> <p>第4回 大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章) プラトンからアリストテレスの思考の違いを「例」を持って説明</p> <p>第5回 至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章) コメントカードの質問に答える。 ① 形物上学他、② ギリシャの愛についてプリント配布して説明成有一徳 P14~22</p>
------	---

第6回	家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章) 大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。
第9回	国に道あるとき無きとに関せず節操を持つべきを子細に示す。(右第十、十一章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章) 後世へ残すもの、1、お金 2 事業 3、思想、祈 4、元気
第11回	結論 誰にでも出来て 害にならないもの よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章) 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 ①西洋の2聖人 アリストテレス イエスキリストのその後の影響 ②宗教と哲学の違い 宗教は信ずること 哲学は問うこと P8
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。 孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 顔回が中庸を選び人生に処したことを論ずる。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。 孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。 現代のみだれ 宗教・道徳が必要 宗教の問題 1、救済の問題 2、続行者の問題 3、信仰者の問題(行為) 「親鸞」についても話すプリント 日本の仏教一覧表
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(2回以上のもの)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10時30分～12時。
評価方法	■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □その他評価配分:成績評価は、試験(70%)・レポート(15%)・授業取組み状況(15%)を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究一修正版」(明治図書) 咸有一徳(中央法規)
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容
--	-----------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の取得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を構成・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力の育成に当たります。</p> <p>[到達目標] ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。</p>		
授業の概要	<p>・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること）	
	第2回	咸有一徳とは、「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する	
	第3回	論語に見る「仁」「徳」の解釈、孔子の時代について	
	第4回	「真心」の解説（中国における儒学関係古典の解釈）「心」の字源	
	第5回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは、五倫五常の解説	
	第6回	王陽明『伝習録』と建学の精神－仁について－	

	<p>第7回 王陽明『伝習録』と教育理念－知行合一について－</p> <p>第8回 小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷</p> <p>第9回 小学校・中学校における道徳課題について</p> <p>第10回 道徳課題に基づき指導案を作成してみる</p> <p>第11回 模擬授業</p> <p>第12回 続模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます）</p> <p>第13回 豊かな人間性の涵養と、人格の向上について（交際・礼儀作法・エチケット）家庭生活の基本マナー（儒学における関係古典文献より考察）</p> <p>第14回 福祉界が望むマナー（人として大切であることを説く中国古典、先達の言葉から考察）</p> <p>第15回 時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える）</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、課題15%、発表15%。
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2版、中央法規、2014年5月 鈴木利定・中田勝著『王陽明 徐愛「伝習録集評」』明徳出版社、2016年6月
参考書	『中学校学習指導要領 道徳編』『小学校学習指導要領解説 道徳編』
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
江島正子			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解する。教育課程とは何か、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。</p> <p>〔到達目標〕 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>
授業の概要	<p>1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）－授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。教育における人間観－「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ。</p> <p>第2回 教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点</p> <p>第3回 教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点</p> <p>第4回 学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム</p> <p>第5回 学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型</p> <p>第6回 義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる</p>
------	--

第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	教育システムの閉鎖性と開放性の諸問題
第9回	教育課程の編成
第10回	子ども理解の視点 ① 「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-
第11回	子ども理解の視点 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-
第12回	学校における非言語コミュニケーション ①人は気持ちをどう伝え合うのか- 近言語的、非言語-
第13回	学校における非言語コミュニケーション ②人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境等-
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	教師について考える 発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。
受講生に関わる情報および受講のルール	1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式、その他（ミニレポート）
授業外時間にかかわる情報	・授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ・定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日 9時～11時。それ以外の時間帯については、要相談・要予約。
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原章			
基礎科目			
添付ファイル			
授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。		
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。		
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	国際社会における議論	
	第3回	日本での議論・政策	
	第4回	生涯学習の理念と理論(その1)	
	第5回	生涯学習の理念と理論(その2)	
	第6回	生涯学習の内容と形態	
	第7回	学校教育と生涯学習	
	第8回	外国の生涯学習(その1)	
	第9回	外国の生涯学習(その2)	
	第10回	生涯学習の先駆け(その1)	
	第11回	生涯学習の先駆け(その2)	

	<p>第12回 社会教育制度</p> <p>第13回 生涯学習支援の動向と課題</p> <p>第14回 まちづくりと生涯学習</p> <p>第15回 グローバリゼーションと生涯学習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 小論文、レポートは必ず提出すること。 5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分。
評価方法	定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。（目安）定期試験70%、小論文・レポート30%。
教科書	「テキスト生涯学習 新訂版」学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
橋本広信			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 ヒトの心を成立させている機能や基本的なメカニズムについて理解し、人間を理解する視野を広げる。</p> <p>【到達目標】 ①知覚や認知などヒトが環境を知る基本的メカニズムを学び、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。 ②学習や記憶、感情など、ヒトの人格を成り立たせる基本的な仕組みを学ぶことで、それぞれの人の生き方や生活世界の内的基盤をイメージすることができる。 ③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。 ④専門職としてやがて出会う「患者の心理」に関連する事柄を学ぶことで、今後の学習への姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。</p>
授業の概要	<p>広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。 心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎ともなる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学や、人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：心理学は「心」と「人」をどのように見てきたのか</p> <p>【key words】 ・心身二元論、ヴント、マズロー、ロジャーズ、ワトソン、フロイト、レヴィン、実験、観察、面接、心理テスト、事例研究 等</p> <p>【授業概要】 ・現在までに至る心理学に至る歩みを知ること、心理学という学問が対象にしてきた、「心」というものの特徴と、それを捉える試みの歴史について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書204-215頁、リチャード・ドーキンス(2016)『進化とは何か』(早川書房) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードで挙げられている心理学者の人生と業績について辞典、ネット等で調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
------	--

第2回	<p>なぜヒトの目は、顔の前に二つついているのか？ 進化と環境を知る働き</p> <p>【key words】 進化、自然淘汰、感覚、適刺激、刺激閾、刺激頂、弁別閾、知覚、知覚の体制化、図と地、プレグナントの法則、恒常現象、錯視</p> <p>【授業概要】 ・すべての生物は進化の過程を経て、環境に対応する姿かたちと生きる能力を備えている。心についても、そうした観点から考えることができる。まずは、基本的な心を支える重要な機能である「感覚」と「知覚」について学び、ヒトが生きている環境とは、どのようなものなのかを考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書2-9頁、更科功 (2019) 『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』 (NHK出版)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「錯覚」について、ウェブサイトなどで調べ、授業後、それぞれが学習したことを深めておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第3回	<p>なぜヒトは地上でうまく動けるのか？：空間・運動知覚と認知</p> <p>【key words】 奥行知覚、運動知覚、ファイ現象、自動運動、知覚的防衛、知覚の異常に基づく発達障害、学習障害、コグニティブ・トレーニング</p> <p>【授業概要】 ・人間が生きている三次元空間に対応した知覚として、奥行きや運動を捉える知覚について学ぶ。そして、それぞれの人が発達させる知覚傾向と個人の生きている環境との関連性について理解する。さらに発展的な問題として、「不器用な子」に対して提起されている「認知作業トレーニング」について体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書10-14頁、更科功 (2019) 『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』 (NHK出版)、宮口幸治他 (2014) 『不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング』 (三輪書店)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 認知作業トレーニング (コグニティブ・トレーニング) について予習しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第4回	<p>ヒトはいかにして環境や新たな状況に対応できるようになるのか？：学習のメカニズム</p> <p>【key words】 レスポナント条件付け (パブロフ)、強化、般化、分化、消去、オペラント条件付け (スキナー)、報酬と罰、プログラム学習、観察学習 (バンデューラ)、洞察学習 (ケーラー)</p> <p>【授業概要】 生まれながらにヒトには多くできる行動 (本能) があるが、それらはやがて意識的な行動に置き換わっていく。すなわち、ヒトの多くの行動は生後にどこかで「学習」されたものであるが、そうした行動の変化が起きるメカニズムをヒトが備えている意味を、学習理論を学ぶことで考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書16-20頁、山崎明夫 (2016) 『にほんごがこんなふうに見えるのよ！』 (株QOLサービス)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 生後に獲得した行動について、書き出しておくこと。また、仮に「脳出血」で倒れた後、徐々に回復できたとして、どのような行動ができなくなるかについても、調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第5回	<p>ヒトはなぜ目の前のことだけに生きられないのか？：記憶のメカニズムとその混乱</p> <p>【key words】 記銘・保持・想起、感覚記憶、短期記憶、長期記憶、サブリミナル効果、作動記憶 (ワーキングメモリ)、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶、忘却、健忘、デジャヴュ、認知症検査、気分一致効果等</p> <p>【授業概要】 ・学習や経験したことが保持をされ、ヒトは目の前の出来事を越えて判断をしたり予想を立てることが出来る。こうした力を支える記憶のメカニズムの基礎を理解する。また、記憶がどのように内外の状況に影響を受けるのか、また、記憶が失われたり損なわれてしまうとどのようなことが起こるのか。記憶と記憶に影響を及ぼす要因についても考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書21-26頁、ジュリア・ショウ (2016) 『脳はなぜ都合よく記憶するのか』 (講談社)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・第1回課題提示、「記憶もしくは認知症に関連する映画を視聴し、そのあらすじと視聴しての感想を心理学的観点も入れて報告しなさい」 (A4用紙2枚以上) 二週間後、第7回授業時までに提出。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、課題3時間</p>
第6回	<p>ヒトの心はなぜ動くのか？ (そして、時に動かなくなるのか)：動機づけと感情の心理学</p> <p>【key words】 マズローの理論、自己効力感、学習性無力感・コンフリクト、フラストレーション、防衛機制、ストレスコーピング、感情</p> <p>【授業概要】 ヒトの心は常に刺激に対して反応し、動き続ける。一定の方向に強く動かす動機づけのメカニズムや種類をまず学び、次に人に備わる感情の役割について考えていく。特に負の感情が強く働く状態について理解し、感情と人との関係性について理解を深め、感情に溺れない生き方とはどのようなものかについても理解を深めていく。</p> <p>・防衛機制をしっかりと復習し、理学療法・作業療法士国家試験で防衛機制が出てきた過去問題を調べ、ノートに写しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書28-52頁、ディラン・エヴァンズ (2005) 『感情』 (岩波書店)</p>

第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 「自分が感情的になりやすい場面」について書き出しておくこと。ワークシートを作成する予定。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>考える力をもつことは、ヒトには何をもたらすのか? : 思考</p> <p>【key words】 創世記(アダムとイブ)、素朴理論、ブラジルのキャンディ売り、思考、知識、概念、集中的思考、拡散的思考、アルゴリズム、ヒューリスティック、帰納的推論、演繹的推論、確証バイアス、ディーブラーニング</p> <p>【授業概要】 ヒトは本能的・感覚・感情的に自然に目の前の状況に反応しながら生きるのみではなく、考える力によって状況を推理したり、状況を打破する方法を生み出すことさえする。このように物事を認識したり、推理・判断をする基礎となる思考のメカニズムについて理解し、「人らしさ」の源を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書82-92頁、三宅芳雄・三宅なほみ(2014)『新訂教育心理学概論』(放送大学教育振興会)</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分で一つ、「なぜなぜ」を考えておくこと。提示できるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>ヒトに備わる高い知的能力とその働きを理解する。知能と知能検査</p> <p>【key words】 知能、人工知能、スピアマン、サーストン、キャッテルとホーン、ギルフォード、スターンバーグ、ガードナー、多重知能、ビネー式知能検査、ターマン、I Q、ウェクスラー式知能検査、その他の知能検査、認知症</p> <p>【授業概要】 ヒトは、反射的な反応ではなく、知的能力を使って何らかの行動や課題を解決することを日々行っている。ここでは、そうした力を「知能」としてとらえ、ヒトの知能の構造や働きの基本について学ぶ。また、知的能力の状態を調べるたくさんの検査がある。認知症も含め、そうした知能を調べる検査について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書68-80頁、配布資料</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 代表的な知能検査についてあらかじめよく調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>生まれてからヒトはどのように変化していくのか? 発達① 子ども時代</p> <p>【key words】 胎児期、生理的早産、乳児期、言葉の発達、幼児期、アニミズム、愛着(アタッチメント)、ピアジェ、児童期、エリクソンの発達段階論</p> <p>【授業概要】 ヒトは生物として見た時、非常に変わった状態で誕生する。このことの意味や意義を確認しながら、人が乳幼児期から児童期という子ども時代に何を発達させ、どのようなことに向き合いながら生きているのか、発達心理学の視点から学んでいく。特に愛着の問題は現在重要な問題として再認識されているので、そのトピックにも触れる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書94-110頁</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 愛着障害について調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>ヒトがオトナになるとは、どのようなことなのか? : 発達② 青年時代</p> <p>【key words】 第二次性徴、思春期スパート、ボディ・イメージ(身体的自己)、醜形恐怖、見られる自己、見る自己、アイデンティティ、アイデンティティ拡散、モラトリアム、マーシャの4分類、アイデンティティ・ゲーム</p> <p>【授業概要】 ヒトは大人と明らかに違う姿かたちで生まれるが、思春期を過ぎると身体と生殖機能は大人と同様になっていく。しかし、まだオトナとしては生きられず、中途半端な形で、社会で自分が生きていくあり方を確立していく、すなわちアイデンティティの課題に取り組んでいく。今回は、アイデンティティをキーワードに、オトナになるとは、どのようなことなのか。その道筋にある危険や変容の可能性について学んでいく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書112-116頁</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2回課題提示: 日ごろの自分自身を振り返り、ワークシートを作成しておくこと。(授業時に提出日を指示した上で提示予定)</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>ヒトが老いることと死ぬことに近づくこととは? : 発達③ 中年期・老年期</p> <p>【key words】 ジェネラティビティ、加齢、更年期、空の巣症候群、中年期の危機、サクセスフルエイジング、モーニング・ワーク、グリーンワーク、お迎え現象</p> <p>【授業概要】 長い時間をかけてオトナとしての時間を生きていくうちに、やがてヒトは種々の能力や社会的なつながり、立場を喪失し、衰退を体験する人生後半の課題に向き合うことになる。この人生の後半にこそ、ネガティブな自分の心に捕らわれず、創造的に変化を遂げることが試される。一人のヒトとして自分の人生をいかに閉じていくか、ライフサイクル終盤の発達課題について検討する。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書117-124頁、エリクソン（1997）『老年期』（みすず書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「高齢者（老人）」「老い」をテーマにした映画や小説を探し、あらすじを説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第12回 「ワタシ」が、他の誰でもない「ワタシ」であること：パーソナリティと自己の心理学 【key words】 類型論、特性論、ビッグファイブ、パーソナリティ検査 【授業概要】 ・同じ環境下にあっても、人はそれぞれ個別の捉え方や行動をする。こうした「その人らしさ」を人のパーソナリティ（人格）として捉える視点と、様々なパーソナリティ論について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書54-66頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書66頁の「自己概念の測定：20 答法回答用紙」を実施しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第13回 ヒトとして、心が健康である状態とは？：精神的健康 【key words】 抑うつ、不安、抑うつ尺度、ストレス尺度、不安症、人格障害、物質関連性障害、心身症 等 【授業概要】 ヒトは体が健康でも、社会的に安定していても、心が健康に機能しないために苦悩の中にとらわれて日々の生活を送る人々がいる。本格的な一人一人の苦悩に寄り添う臨床心理学は後期に学ぶが、ここでは、基本的に心の健康が損なわれている状態についてどのようなことが起こるのかを学ぶことで、健康な心の状態についての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書150-164頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分や身近の人のことを振り返り、自分の心が健康に働いていなかったような状態について思い出し、書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第14回 病と心の関係性について：患者の心を支える心理学 【key words】 病、難病、がん、ロールプレイング、障害受容 【授業概要】 将来医療現場で仕事をする専門職を目指す学生を対象とする講義という特性を考え、教科書にはないが、人生の中で大きな病を体験し、医療的支援を受けた患者当事者や医療専門職として現場で活躍されている方をお呼びして、ゲスト講師による授業を行う。生きていくということは、病や事故という不確実な状況といつか出会う可能性の中に生きるということを理解し、そうした場で何が患者の心の支えになるかを理解するための手掛かりを得る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、指示された参考書など 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめゲスト講師に関係することについて、調べ学習の課題を出す予定。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第15回 心理学の応用分野（第14回の続きの可能性あり） 【key words】 健康心理学、タイプA他、選択の科学（アイエンガー）、プロファイリング、スヌープ、福祉心理学、環境心理学、災害心理学など 【授業概要】 これまで学んだことのまとめとして、心理学が応用されている多くの分野や広がりについて学び、そのうち、医療に関連する項目をピックアップして人間理解の視野を広げる。 ※第14回の「患者の心を支える心理学」が1回で終わらない場合、続きを実施する可能性あり 【教科書ページ・参考文献】 教科書184-201頁 テスト解説も行う予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・医療・福祉職を目指す者にとって、「ヒト」とは何かという、人間観の基礎を培う科目に位置づけられる。 ・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目ともなるもので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホなどの使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。 ・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>シャトルカード方式（疑問・質問に限らず、聞いてみたい伝えてみたいことはなんでも書いてよいので、積極的に書いて下さい。）</p>

授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの用語が出てくるので、シラバスに基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。 ・授業時に紹介する図書や映画などを積極的に学習すること。
オフィスアワー	火曜日 1号館事務局にて午前中に声をかけること。授業後の質問なども受け付ける。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点60-69点：C、70-79点：B、80-89点：A、90点以上S ・期末試験80点、小レポート・課題提出20点（20÷提出回（予定2回）=1提出物得点（1回10点満点：提出により得点）
教科書	二宮克美（2016）『ベーシック心理学 第2版』（医歯薬出版）
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編（2020）『心理学（第5版補訂版）』（東京大学出版会） 他適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山宗彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 国際文化論 (intercultural studies) を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。</p> <p>[到達目標] 国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。</p>		
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界 (諸外国) の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法) (豊かな人間性) 真心 (思いやり・いつくしむ心) を育て、人の道を行う (正しい行い) 「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心 (思いやり・いつくしむ心) を育て、人の道を行う (正しい行い) 「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～</p> <p>第2回 和の文化 (1) ～その構造について～</p> <p>第3回 和の文化 (2) ～神の文化との比較～</p> <p>第4回 マルティン・ブーバー (Martin Buber) の「関係」の哲学 (1)</p> <p>第5回 マルティン・ブーバー (Martin Buber) の「関係」の哲学 (2) ～医療世界への応用～</p> <p>第6回 日本外交の原点に位置する聖徳太子</p> <p>第7回 ヨーロッパ文明とEU</p> <p>第8回 日本と中東 (1)</p> <p>第9回 日本と中東 (2)</p>		

	<p>第10回 湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動</p> <p>第11回 ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて</p> <p>第12回 「平和」実現への第一歩とは（1）</p> <p>第13回 「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～</p> <p>第14回 国際文化論として考えるリハビリテーション</p> <p>第15回 個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	世界の国々に関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）。
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
栗原秀司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。 ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。 ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。</p>
授業の概要	物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 (科目オリエンテーション) 物理を理解するための道具とルール 【key words】 単位、有効数字、累乗、三角比、ベクトル 【授業概要】 物理で扱う量には単位があること、測定値の有効数字と計算の仕方を学ぶ。物理に必要な最低限の数学の知識として、累乗、三角比、ベクトルの復習をする。第1章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p1 ~ p8 第1章「物理を理解するための道具とルール」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第2章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分</p> <p>第2回 力学の基本ー物体の運動を数式で表すー 【key words】 速度、等速直線運動、加速度、等加速度直線運動、落下運動、反発係数 【授業概要】 速さと速度の違い、等速直線運動のv-t図、x-t図の見方を学ぶ。速度が変わるときは加速度があり、直線上で加速度が一定の場合(等加速度直線運動)のグラフや式を考える。その応用として、自由落下・鉛直投射運動について学ぶ。第2章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p9 ~ p17 第2章「力学の基本」</p>

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第3章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p> <p>物体の運動と力の関係(1) ー力の表し方と力の種類ー</p> <p>【key words】 力、力のつりあい、作用反作用の法則、重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力、合力、分力</p> <p>【授業概要】 物体にどのような力がはたらいているかを知り、その関係を学ぶ。力はベクトルなので、矢印で表す。力のつり合い、作用反作用の法則を知る。力には重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力などがあることを知る。力の合成、分解の仕方(作図)を学ぶ。プリントで演習をする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p18 ～ p23 第3章「物体の運動と力の関係」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 力の演習プリントの残った問題を解いておく。(次回の最初に答え合わせをする。) 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第4回	<p>物体の運動と力の関係(2) ー運動方程式ー</p> <p>【key words】 慣性の法則、運動の法則、運動方程式</p> <p>【授業概要】 前時の力の演習プリントの残りの問題について答え合わせをする。物体に力がはたらいて加速度が生じる場合の法則を知り、運動方程式のつくり方を学ぶ。練習問題で1物体、2物体の運動について運動方程式を作る。第3章 章末問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p18 ～ p20、p23 ～ p25 第3章「物体の運動と力の関係」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第4章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第5回	<p>圧力のはたらきと物を回転させる力 ー身近な力を数式で表すー</p> <p>【key words】 圧力、気圧、水圧、浮力、力のモーメント、重心</p> <p>【授業概要】 気圧や水圧など身近な圧力を知る。大気圧や、水圧の求め方、浮力が生じる理由について学ぶ。力のモーメント、大きさのある物体はたらく力やその合力の求め方、重心について学ぶ。3種類のこと、その応用例について学ぶ。第4章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p26 ～ p33 第4章「圧力のはたらきと物を回転させる力」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第4章 章末問題 国試の過去問 授業中に出来なかった問題を解いておく。(過去問は次回解説する。) 教科書の第5章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第6回	<p>エネルギーとその保存法則</p> <p>【key words】 仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存の法則</p> <p>【授業概要】 物理の「仕事」の定義について知り、問題を解く。「仕事の原理」とその例について学ぶ。「仕事率」の意味を知り練習問題で求める。エネルギーとは何か、エネルギーの種類、エネルギーの保存、様々なエネルギーの変換例などを学ぶ。第5章 練習問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p34 ～ p40 第5章「エネルギーとその保存法則」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第6章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第7回	<p>運動量と視点の違いにより感じる力</p> <p>【key words】 運動量、力積、運動量保存の法則、相対速度、慣性力</p> <p>【授業概要】 瞬間的な力が働くときは、運動量や力積を考えると便利なことを知り、衝突や分裂などのときの運動の扱い方、考え方を学ぶ。見る位置の違いで速度や力のはたらき方に違いがあることを学ぶ。第6章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p41 ～ p47 第6章「運動量と視点の違いにより感じる力」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6章 章末問題 国試の過去問 授業中に出来なかった問題を解いておく。(過去問は次回解説する。) 教科書の第7章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第8回	<p>気体分子の運動と熱エネルギー</p> <p>【key words】 温度、熱、比熱、熱容量、熱量保存の法則、ボイル・シャルルの法則、内部エネルギー、熱力学第一法則</p> <p>【授業概要】 物質の三態変化とその時に出入りする熱について知る。比熱、熱容量の定義をし、熱量保存の法</p>

	<p>則が成り立っていることを学ぶ。気体の体積は圧力や温度によって変化し、ボイルの法則、シャルルの法則が成り立っていること、内部エネルギーの定義とその変化について熱力学第一法則が成り立っていることを学ぶ。第7章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 48 ～ p 56 第7章「気体分子の運動と熱エネルギー」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第8章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第9回	<p>波の性質とその表し方 【key words】 振幅、波長、周期、振動数、横波・縦波、反射、屈折、回折、定常波、干渉 【授業概要】 波を表す「振幅・波長・周期・振動数」を知り、媒質の振動の様子や波の進み方について学ぶ。縦波・横波の違いと例、波の性質（反射・屈折・回折）、重ね合わせの原理、定常波について実験を観察することによって学ぶ。第8章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 57 ～ p 65 第8章「波の性質とその表し方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第9章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第10回	<p>波で理解する音と光の現象 【key words】 音波、うなり、ドップラー効果、光波、全反射、レンズ、光の干渉 【授業概要】 音の三要素について知る。音叉のうなりを聞き、成り立つ式を学ぶ。ドップラー効果が起こる理由を考える。光の波としての諸現象（分散によるスペクトル、反射・屈折及び全反射等）について実験・観察を通して学ぶ。凸レンズ・凹レンズの像を観察し、作図の仕方及びレンズの式を学ぶ。光の干渉・散乱の例とその理由を学ぶ。第9章 章末問題を解く 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 66 ～ p 78 第9章「波で理解する音と光の現象」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第9章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第10章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第11回	<p>静電気力とその表し方 【key words】 電子、静電気力、電気量保存の法則、電場、電位 【授業概要】 目に見えない電気について原子の構造から考え、電荷の間にはたらく力（クーロンの法則）、電気量保存の法則について学ぶ。電気力がはたらく空間として「電場」を考え、その表し方、電位の意味とその求め方について学ぶ。第10章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 79 ～ p 83 第10章「静電気力とその表し方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第10章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第11章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第12回	<p>オームの法則から理解する電気回路 【key words】 自由電子、オームの法則、ジュール熱、電力量、電力、アース、コンデンサー 【授業概要】 金属中の自由電子の運動と電流の考え方、抵抗にかかる電圧と電流の関係（オームの法則）とその水流によるイメージを学ぶ。抵抗の直列接続と並列接続の合成抵抗の求め方、電流の熱作用、電力量・電力について学ぶ。アースの役割、コンデンサーの原理とそのはたらき（実験を含む）を学ぶ。第11章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 84 ～ p 93 第11章「オームの法則から理解する電気回路」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第11章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。冬休み中に今までの復習をしておく。 教科書の第12章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第13回	<p>電流と磁場の関係 【key words】 磁場、コイル、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、ローレンツ力、モーター 【授業概要】 磁石のまわりに磁場があること、電流によって磁場ができることを知り、その磁場の表し方と磁力線について学ぶ。磁場から電流にはたらく力（フレミングの左手の法則）、磁場の中で運動する荷電粒子にはたらく力（ローレンツ力）を学ぶ。その例として、直流モーターの仕組みを学ぶ。第12章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 94 ～ p 100 第12章「電流と磁場の関係」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第12章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第13章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>60分～120分 電磁誘導と交流 【key words】 誘導起電力、誘導電流、交流、自己誘導、相互誘導、電磁波 【授業概要】 、交流や電磁波について学ぶ。磁石やコイルを動かすと起電力が生じる現象（電磁誘導）について成り立っているレンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則（実験を含む）について学ぶ。日常使用している交流の作り方とその利用について、及びコイルのはたらきと自己誘導、相互誘導について学ぶ。第13章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 101 ～ p 108 第13章「家庭のコンセントに流れる交流電源の作り方とその利用」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第13章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第14章を読んでおく。次回の授業の後半に今までの学習内容全てについて質問の時間があるので、復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p> <p>第15回 原子の構造と放射線 【key words】 放射線、放射性崩壊、半減期 【授業概要】 原子の構造とその表し方、放射線（α線・β線・γ線）の本体と放射性崩壊のしかたについて学ぶ。崩壊の法則により半減期の式と意味を考える。核分裂・核融合によるエネルギーの解放、放射線の利用例について学ぶ。残った時間で全範囲についてのまとめをする。今まで学習した全範囲について疑問があれば質問をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 109 、 p 111 ～ p 114ページ 第14章「原子の構造と半導体・放射線」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「まとめ」の事項について、確認テストを重点的に復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 300分～</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ・高校で物理を履修していなくてもよいが、授業の前に教科書を読んでおおよその内容を把握しておくこと。 ・シャトルカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。 ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。 〔受講のルール〕 ・分からないところがあれば、授業中いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。 ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>事前に教科書を読み、学習内容の全体像を把握しておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。2回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>・授業終了後30分間 ・シャトルカードに質問を記載すれば返答を書き、必要に応じて次の授業で返答する。</p>
<p>評価方法</p>	<p>確認テスト15%、筆記試験85%</p>
<p>教科書</p>	<p>時政孝行監修、栗子研著：まるわかり！基礎物理、南山堂</p>
<p>参考書</p>	<p>佐藤和良著：看護学生のための物理学、医学書院</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援</p>

	<input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田隆夫			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 医療福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、医療福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。</p> <p>【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。</p>		
授業の概要	法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を理解してもらいます。さらに、具体的な事案についてディベートすることで、法解釈を体験してもらいます。		
■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／概論1：市民生活と社会規範 【key words】 社会規範、法源、法の解釈 【授業概要】 授業の進め方（シラバスの説明） 法の市民生活との関わり合い（日本理学療法士協会「倫理規定」・日本作業療法士会「倫理綱領」） 「法源」、「法の解釈」について 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P2～8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P9～19 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 概論2：市民生活の各領域と主な関係法 【key words】 日常生活上の法律関係、仕事上の法律関係、消費者保護関連法、不法行為法、労働関係法 【授業概要】 日常生活や仕事上、生活上の法律関係（消費者保護関連法や、不法行為法、労働関係法等）</p>		

第3回	<p>関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P9～19予習：教科書P22～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P22～33 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>憲法1：憲法総論、基本的人権総論1 【key words】 憲法、基本原理、日本国憲法、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重 【授業概要】 憲法一般の概念・歴史・基本原理 日本国憲法の歴史・基本原理、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重等 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P22～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P33～37 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>憲法2：基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由 【key words】 人権、新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由 【授業概要】 人権についての思考方法 新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由等 関連する事例についての討論P33～37予習：教科書 P38～41 【教科書ページ・参考文献】 P33～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P38～41 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第5回	<p>憲法3：表現の自由、経済的自由 【key words】 表現の自由、知る権利、経済的自由 【授業概要】 民主主義の課程に直結する表現の自由の重要性、知る権利等 経済的自由（精神的な自由との比較も含めて） 関連する事例についての討論P38～41予習 P41、P44～46 【教科書ページ・参考文献】 P38～41予習 P41、P44～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P41、P44～46 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第6回	<p>憲法4：財産権、社会権 【key words】 財産権、社会権 【授業概要】 財産権 「国家による自由」と言う性格を持つ社会権（自由権との違いを確認しながら） 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P41、P44～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P41～43、P45～51 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第7回	<p>憲法5：人身の自由、その他の人権、国民の義務 【key words】 人身の自由、参政権、国務請求権、国民の義務 【授業概要】 人身の自由 その他の人権（参政権、国務請求権）、国民の義務 関連する事例についての討論P41～43、P45～51予習 P50～59 【教科書ページ・参考文献】 P41～43、P45～51予習 P50～59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P50～59 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第8回	<p>憲法6：統治機構の基本原則、国会、内閣 【key words】 統治、権力分立、国会、立法権、内閣、行政権 【授業概要】 統治機構の概説（権力分立を中心として） 国民の代表によって構成される国会の地位、組織、権能等 行政を担当する内閣の地位、組織、権能等 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P50～59</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P59～70 【予習復習に必要な想定時間】 60分 憲法7：裁判所、財政、地方自治 【key words】 裁判所、司法権、財政、財政民主主義、法地方自治、地方自治の本旨 【授業概要】 裁判所を民主主義、自由主義の観点から考える。 財政における民意を反映方法 法地方自治につき、その本旨から考える 関連する事例についての討論 P59～70予習：P72～82 【教科書ページ・参考文献】 P59～70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P72～82 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>民法1：民法総則 【key words】 法律行為、権利能力、行為能力、代理、時効 【授業概要】 法律効果の生じる法律行為とそれに必要な権利能力、行為能力 その他、代理、時効等 関連する事例についての討論 P72～82予習：P96～102 【教科書ページ・参考文献】 P72～82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P96～102 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第11回	<p>民法2：契約総論 【key words】 契約、契約の成立、契約の効力、解除 【授業概要】 法的に拘束力される契約の原則・種類、契約の成立・効力、その解消としての解除 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P96～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P102～115 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第12回	<p>民法3：契約各論 【key words】 売買、賃貸借、典型契約、不法行為 【授業概要】 売買、賃貸借等の典型契約、契約がない場合にも成立する不法行為 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P102～115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P130～159 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第13回	<p>民法4：親権 【key words】 婚姻、親子、親権 【授業概要】 夫婦の関係、親子の関係 関連する事例についての討論 P130～159予習：P162～180 【教科書ページ・参考文献】 P130～159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P162～180 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第14回	<p>民法5：相続 【key words】 相続、遺言 【授業概要】 自らの意思に基づいて遺言、遺言のない場合のための法定相続 関連する事例についての討論 P162～180教科書、プリント等の見直し 【教科書ページ・参考文献】 P162～180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、プリント等の見直し 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第15回	<p>まとめ 【key words】 法学概論、憲法、民法、まとめ</p>

	<p>【授業概要】 法学概論、憲法、民法、それぞれについての重要事項のまとめ P2~180 【教科書ページ・参考文献】 P2~180 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	月曜日 9時~12時
評価方法	定期試験（60%）、授業時間に行う小テスト（40%）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館、2015年、有斐閣「ポケット六法」
参考書	授業中に随時紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石憲一			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 [到達目標] そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。</p>		
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション	
	第2回	貧困	
	第3回	社会保障と経済	
	第4回	医療経済学	
	第5回	格差	
	第6回	GDP	
	第7回	幸福の経済学	
	第8回	ストック経済学	
	第9回	経済成長	
	第10回	教育の経済学	

	<p>第11回 福祉と経済学</p> <p>第12回 国際収支</p> <p>第13回 国際金融</p> <p>第14回 金融</p> <p>第15回 経済学と日本経済</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4 限。
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価。
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巖「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①パソコンの基本的な操作を理解する。 ②インターネットを正しく利用できる。 ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。 ④Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。 ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションを行うことができる。</p>
授業の概要	<p>授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、Word/Excel/PowerPointを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。</p> <p>また、情報の検索など、インターネットの活用方法も理解できるようにする。</p> <p>他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWord/Excel/PowerPointを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 (概論) オリエンテーション、パソコンの基本操作</p> <p>【key words】 キーボード、マウス、タッチタイピング</p> <p>【授業概要】 ・講義のオリエンテーション ・キーボードの使い方、タッチタイピング ・マウスの使い方 ・キーボード練習サイト(イータイピング)の利用</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーボード入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 (Word) 基本的な文章の入力</p> <p>【key words】 日本語入力、ファイル</p> <p>【授業概要】 ・日本語の入力と変換(漢字変換、カタカナ変換、記号入力等) ・作成したファイルの保存</p>
------	--

	<p>・ファイルを開く 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本語入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第3回 (概論) ホームページの利用と情報セキュリティ 【key words】 ホームページ、検索、ブックマーク、ダウンロード 【授業概要】 ・ホームページの見方 ・Googleを利用したホームページの検索 ・ファイルのダウンロードと保存 ・よく見るホームページのブックマーク ・インターネットのセキュリティ(ウイルス対策、各種詐欺対策等) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホームページの検索やファイルのダウンロードを練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第4回 (Word) 各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式) 【key words】 ページレイアウト、文字書式、段落書式 【授業概要】 ・ページレイアウトの設定(用紙サイズ、余白、用紙方向、縦書き／横書き) ・文字書式の設定(太字、斜体、下線、フォント、色) ・段落書式の設定(揃え、行間、インデント) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文書に書式を付ける練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第5回 (Excel) Excelの基本操作 【key words】 ブック、ワークシート、セル、行、列 【授業概要】 ・基本的なデータの入力(データの型、オートフィル等) ・行、列の操作(行／列の挿入、削除等) ・データのコピーと貼りつけ ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートにデータを入力する練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第6回 (PowerPoint) プレゼンテーション作成の基本 【key words】 スライド、レイアウト、インデント、アウトライン 【授業概要】 ・プレゼンテーションの作成 ・スライドの作成と編集(コピー、移動、削除等) ・レイアウトの変更 ・インデントとアウトライン ・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文章だけのプレゼンテーションを作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第7回 (Word/PowerPoint共通) 表を含む文書の作成 【key words】 表、行、列、セル 【授業概要】 ・表の作成とデータ入力 ・表の操作(行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作) ・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 WordやPowerPointで表を作る練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第8回 (Word/Excel/PowerPoint共通) 図形や写真を含む文書の作成 【key words】 図形、写真、ワードアート、スマートアート 【授業概要】 ・図形の挿入と書式設定</p>
--	---

	<p>・図や写真の挿入 ・図等のレイアウト ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入 ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図形や写真を含む文書を作る練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第9回 (Word)複数ページ文書の作成 【key words】 改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次 【授業概要】 ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 複数ページの文書をスムーズに作れるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第10回 (Excel)グラフの作成 【key words】 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ 【授業概要】 ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど)と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グラフの作成を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第11回 (Excel)基本的な計算 【key words】 数式、オートSUM、関数 【授業概要】 ・数式の基本(数式の入力、計算の順序、数式のコピーと貼り付け) ・オートSUM機能による簡単な計算(合計、平均など) ・よく使う関数(COUNT, ROUND, IF など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 数式や関数を使った計算を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第12回 (PowerPoint)画面切り替えとアニメーション 【key words】 画面切り替え、アニメーション 【授業概要】 ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画と音声の利用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第13回 (PowerPoint)プレゼンテーションに関する機能 【key words】 ノート、スライドショー、リハーサル、配布 【授業概要】 ・フッターとスライド番号の挿入 ・ノートの作成 ・スライドショーの実行 ・リハーサル機能 ・資料の配布 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際のプレゼンテーションを行えるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第14回 (Word/Excel/PowerPoint共通)アプリケーションにまたがる操作とファイル操作 【key words】 コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル</p>
--	---

	<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーション間のコピーと貼り付け ・ドライブ/フォルダ/ファイルの概念 ・フォルダ/ファイルの操作（コピー、移動、削除など） <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>アプリケーション間のデータのやり取りを練習する ファイル操作に慣れる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p> <p>第15回 情報モラルと課題説明・作成</p> <p>【key words】</p> <p>情報モラル、課題</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルについて ・課題内容の説明 ・課題作成実習 ・課題を作成して期限までに提出 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする 課題を作成して期限までに提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業の資料をホームページで配布するのでそれを見て復習する レポート作成などで授業の内容を活用する
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	レポート課題による評価(100%)
教科書	スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)
参考書	できるWord&Excel 2019、インプレス、2019年 できるPowerPoint 2019、インプレス、2019年
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> Office関係の雑誌原稿執筆多数あり コンピュータ関連書籍執筆多数あり <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 <p>その他の具体的内容</p> <p>内容がやや複雑な一部の箇所について、YouTubeに復習用の動画を用意</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 情報処理Iに続き、パソコンをより深く使いこなせるようになることを目的とする。 また、自助具作成などのために、パソコンで立体の物を作ることも目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①Word/Excel/PowerPointをより深く使いこなすことができる。 ②3Dデータの作成方法を学び、自助具作りに生かすことができるようになる。</p>
授業の概要	WordおよびExcelのより詳しい使い方を学ぶ。 3次元モデリングソフトのFusion 360の基本的な使い方や、3Dプリンタでの出力などを学ぶ。
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 [Word]長文関連の機能 (1) 【key words】 脚注、図表番号、テンプレート 【授業概要】 ・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注) ・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照) ・テンプレートの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 [Word]長文関連の機能 (2) 【key words】 セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献 【授業概要】 ・段組みの設定(2段組み等) ・セクションで文章を複数のブロックに区切る ・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入 ・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する) ・引用文献の挿入 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する</p>

<p>第3回</p>	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>[Word]差し込み印刷関連の機能</p> <p>【key words】 差し込み印刷</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差し込み印刷の基本 ・差し込み印刷ウィザードの使い方 ・はがき宛名印刷ウィザードの使い方 ・封筒やラベルへの差し込み印刷 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>複数の人に同じ文面の文書を送るときなどに差し込み印刷を活用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第4回</p>	<p>30分</p> <p>[Excel]データの視覚化</p> <p>【key words】 スパークライン、条件付き書式</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スパークラインの作成 ・条件付き書式の設定 ・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット） <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>スパークラインや条件付き書式を活用してデータを見やすくする</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第5回</p>	<p>30分</p> <p>[Excel]データベース的な活用</p> <p>【key words】 データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベース用のデータ入力 ・データの並べ替え ・データの抽出 ・ピボットテーブルを使った集計 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第6回</p>	<p>30分</p> <p>[Excel]複雑な計算（1）</p> <p>【key words】 相対参照、絶対参照、関数</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相対参照と絶対参照 ・順位(RANK関数) ・複合条件(AND関数/OR関数) <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第7回</p>	<p>30分</p> <p>[Excel]複雑な計算（2）</p> <p>【key words】 名前、関数</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルに名前を付けて数式で利用する ・セルにふりがなを表示する ・日付に関する関数 ・文字列に関する関数 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>名前機能や各種の関数の使い方を理解する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第8回</p>	<p>30分</p> <p>3Dプリンタによる物作りの概要</p> <p>【key words】 3Dプリンタ、3Dデータ</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3Dプリンタの仕組みや方式 ・3Dデータの入手や作成の概要 ・3Dプリンタでの出力の概要 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書50ページまで</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>3Dプリンタや3Dデータについて復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>

第9回	<p>30分 Fusion360の基本操作(1) 【key words】 Fusion 360、立体 【授業概要】 ・基本的な立体(直方体など)の作成 ・立体の移動や回転 ・各種の立体作成操作(トールス、ミラーなど) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Fusion 360で立体物を作る操作を復習する 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>30分 Fusion360の基本操作(2) 【key words】 スケッチ、拘束、押し出し 【授業概要】 ・スケッチの作成 ・拘束の設定 ・スケッチから立体を押し出す 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 平面に描いたものから立体を作る方法を復習する 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>30分 Fusion 360の基本操作(3) 【key words】 スカルプト、フォーム 【授業概要】 ・スカルプトとフォーム ・フォームの押出 ・フォームの移動 ・フォームの拡大、縮小、回転 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 粘土細工のような要領で立体を作る方法を復習する 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>30分 3Dプリンタ出力を想定したデータの作成 【key words】 サポート、分割 【授業概要】 ・普通には出力しづらい／できない形状 ・サポートを利用して出力する ・複数の部品に分割して出力する ・ネジ穴の作り方 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 3Dプリンタで出力しづらい形状があるので、それに対応したデータを作る方法を復習する 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>30分 自助具を作ってみる 【key words】 自助具 【授業概要】 ・ストローホルダーの作成 ・スプーンホルダーの作成 【教科書ページ・参考文献】 教科書86～105ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 具体的なものを作る方法を復習する 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>30分 3Dプリンタでの出力 【key words】 スライス、素材、パラメータ、3D出力サービス 【授業概要】 ・素材の選択 ・データのスライス ・出力パラメータの調整 ・3D出力サービスの利用 【教科書ページ・参考文献】 教科書58～84ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 3Dデータを3Dプリンタで出力するまでの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>30分 3Dデータ作成実習</p>

	<p>【key words】 3Dプリンタ、3Dデータ</p> <p>【授業概要】 ・好きなものを自分で考えて作ってみる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 作成したデータを期限までに提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業の資料は公開するので、それを使って復習すること
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	平常点(50%)、3Dデータの作成(50%)
教科書	スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)
参考書	はじめてでも簡単！3Dプリンタで自助具を作ろう、三輪書店
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> パソコン関連書籍執筆多数 <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井英司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] テレビ番組の制作過程を具体的にたどりながら、ジャーナリストの情熱や工夫、技術を学び、自分の人生を輝かせる生活態度、智慧を習得する。</p> <p>[到達目標] ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。</p>		
授業の概要	テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	おしゃべりは明るく元気にありがとう	
	第3回	恥かき、汗かき、原稿書き	
	第4回	3分間スピーチは四コママンガ	
	第5回	番組づくりは八木節音頭	
	第6回	身近なところにヒントあり	
	第7回	地名は知らないとかメイ的	
	第8回	ニュースとは何か	
	第9回	客観報道とメディア・リテラシー	

	<p>第10回 たかが順番、されど順番</p> <p>第11回 スタッフの複眼生きるナマ中継</p> <p>第12回 実況は大和言葉で花盛り</p> <p>第13回 アブになれ</p> <p>第14回 人生はミスマッチ、三日三月三年</p> <p>第15回 満点を狙わぬ結果が合格点</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を發表い合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後30分は対応可能。
評価方法	筆記試験100%。
教科書	テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。(電子辞書も可)
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
ザック グレース			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ② 医療の専門用語を理解できる。 ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>
------------	--

授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。
-------	--

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
---	--

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 Meeting Colleagues I - Introducing Yourself to the Team / Orientation</p> <ul style="list-style-type: none"> • Class orientation • 'Getting to know you' exercise • Grammar: Present simple of be • Conversation 1 • Textbook p4 & 5 • Homework: Review conversation 1 <p>第2回 Meeting Colleagues II - Reading a Nursing Schedule</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 1 • Grammar: Present simple • Numbers & time expressions • Textbook: p6 & 7 • Homework: Review conversation 1 <p>第3回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ① - Textbook p8</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review time expressions • Conversation 2 • Listening practice • Textbook: p7 & 8 • Homework: Review conversations 1 & 2 <p>第4回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ② - Textbook p9</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 2 • Family vocabulary
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> • Visitor's code • Grammar: Imperative • Conversation 3 • Textbook: p8 & 9 • Homework: Review conversations 1 ~ 3
第5回	Meeting Colleagues IV- Escorting a Patient for Tests <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 3 • Ordinal numbers & dates (handout) • Hospital equipment and giving comfort expressions • Conversation 4 • Textbook: p10 & 11 • Homework: Review conversations 1 ~ 4
第6回	Nursing Assessment I - Checking Patient Details <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 4 • Asking for personal details • Grammar: Wh- questions • Patient details interview • Textbook: p12 & 13 • Homework: Review conversations 1 ~ 4
第7回	Nursing Assessment II - Describing Symptoms <ul style="list-style-type: none"> • Review patient details • Symptom vocabulary • Describing and asking about symptoms • Conversation 5 • Textbook: p14 & 15 • Homework: Review conversations 1 ~ 5
第8回	The Patient Ward I - The Patient Ward <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 5 • Patient ward vocabulary • Prepositions of place • Grammar: There is/There are • Textbook: p22 & 23 • Homework: Review conversations 1 ~ 5
第9回	The Patient Ward II - Nursing Duties <ul style="list-style-type: none"> • Listening • Conversation 6 • Grammar: Present continuous • Textbook p24 & 25 • Prepare for next week's test
第10回	Review Test ① ・ノート提出 ① <ul style="list-style-type: none"> • Do test (listening 10 minutes, writing 40 minutes) • Go over answers
第11回	The Body and Movement I - The Body: Limbs and Joints <ul style="list-style-type: none"> • Body parts vocabulary • Body movement vocabulary • Conversation 7 • Giving exercise instructions • Textbook p36 & 37 • Homework: Review body parts vocabulary
第12回	The Body and Movement II - The Body: Torso and Head <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 7 • More body parts vocabulary • Giving body movement instructions (pairwork) • Textbook: p38 & 39 • Homework: Review conversations 1 ~ 7
第13回	The Body and Movement III - Setting Goals and Giving Encouragement <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Grammar: Comparative adjectives • Asking patients about their goals • Conversation 8 • Textbook: p40 & 41 • Homework: Review conversations 1 ~ 8
第14回	The Body and Movement IV - Documenting ROM Exercises <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Review conversation 8 • Review body movement • ROM exercise vocabulary • Textbook p42 & 43 • Prepare for review test
第15回	Review Test ② ・ノート提出 ② <ul style="list-style-type: none"> • Do test • Go over answers • Japanese things quiz (speaking practice) • Revise for final test
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>[受講生に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業をよく聞いて、ノートをとる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。 ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。 ・分からない単語があれば、調べておくこと。
オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% ・ ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ザック グレース			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ② 医療の専門用語を理解できる。 ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>		
授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	Medication I - Medication Routes and Forms / Orientation	
		<ul style="list-style-type: none"> • Medication vocabulary • Prepositions • Talking to patients about medication (listening) • Conversation 1 • Textbook p44 & 45 • Review conversation 1 	
	第2回	Medication II - Dosages and Frequency	
		<ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 1 • Dosage and frequency vocabulary • Expressions of frequency • Textbook p46 & 47 • Review conversation 1 	
	第3回	Medication III - Side Effects; Assisting Patients with Medication	
		<ul style="list-style-type: none"> • Side effects vocabulary • Talking to patients about medication and side effects • Grammar: Auxiliary verbs (may/might) • Conversation 2 • Textbook: p48 & 49 • Review conversations 1 & 2 	
	第4回	Communicating with Relatives by Phone	
		<ul style="list-style-type: none"> • Telephone etiquette • Grammar: Auxiliary verb (will) 	

	<ul style="list-style-type: none"> • Conversation 3 • Textbook p50 & 51 • Homework: Review conversation 1 ~ 3
第5回	Moving and Handling Patients <ul style="list-style-type: none"> • Equipment for moving and handling patients vocabulary • Grammar: Phrasal verbs, be + going to, will
第6回	Conversation 4 <ul style="list-style-type: none"> • Textbook: p52 & 53 • Homework: Review conversation 1 ~ 4
第7回	The Hospital Team II - Communicating with Team Members by Phone <ul style="list-style-type: none"> • Listening • Talking on the phone: procedures and phrases • Conversation 5 • Grammar: Past simple of be • Textbook: p54 & 55 • Homework: Review conversations 1 ~ 5
第8回	Ordering Supplies <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 5 • Listening • Supplies vocabulary • Grammar: Quantifiers (any, enough, much, many) • Textbook: p55 ~ 57 • Homework: Review conversations 1 ~ 5
第9回	Hospital Food and Beverages <ul style="list-style-type: none"> • Food and beverages vocabulary • Grammar: a/an, some • Conversation 6 • Textbook: p28 & 29 • Homework: Review conversations 1 ~ 6
第10回	Measurements and Quantities <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 6 • Listening • Numbers & measurements vocabulary • Textbook p30 • Homework: Prepare for review test
第11回	Review Test ① ・ノート提出 ① <ul style="list-style-type: none"> • Do test (40 minutes) • Go over answers • Review test answers
第12回	Caring for a Patient in the Recovery Room ① <ul style="list-style-type: none"> • Recovery room questions • Grammar: Past simple, irregular verbs • Textbook p60 & 61 • Review conversations 1 ~ 6
第13回	Caring for a Patient in the Recovery Room ② <ul style="list-style-type: none"> • Grammar: Review past simple (negative and questions) • Conversation 7 • Christmas Listening Activity • Textbook: p61 • Homework: Review conversation 1 ~ 7
第14回	Removing Sutures <ul style="list-style-type: none"> • Grammar: Sequencers • Removing sutures vocabulary • Conversation 8 • Textbook: p62 & 63 • Homework: Review conversations 1 ~ 8
第15回	Assessing an Elderly Care Home Resident <ul style="list-style-type: none"> • Care home resident vocabulary • Assessment form Q & A • Assessment form pairwork • Textbook: p66 & 67 • Homework: Prepare for review test
第16回	Review Test ② ・ノート提出 ② <ul style="list-style-type: none"> • Do test • Go over answers • Students study by themselves and ask me questions • Revise for final test
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業をよく聞いて、ノートをとる。 • ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。 • 英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	<ul style="list-style-type: none"> • Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。 • 分からない単語があれば、調べておくこと。

オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	・筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% ・ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。 韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。</p> <p>[到達目標] 1) ハングル文字が書けて正しく読める。 2) 挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 3) 韓国語で自己紹介が出来る。 4) パソコンで韓国語の入力が出来る。</p>
授業の概要	<p>ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様になり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ハングルについて、語順、仕組み、特徴</p> <p>第2回 ハングルの母音、出会いの挨拶</p> <p>第3回 ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶</p> <p>第4回 ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）感謝、謝罪の際の会話</p> <p>第5回 ハングルの二重母音、有声音化 食事の時の会話</p> <p>第6回 ハングルのパッチム、お願いの時の会話</p> <p>第7回 ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶</p> <p>第8回 ハングルの発音の法則 弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化</p>
------	--

	<p>第9回 ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記</p> <p>第10回 パソコンでのハングルの入力の仕方</p> <p>第11回 ～は～ですの文型、自己紹介</p> <p>第12回 ～は何ですか?の文型 指示代名詞</p> <p>第13回 疑問詞を用いての分の表現 (いつ、どこ、なに、だれ)</p> <p>第14回 ある、ない、分かる、分からないの表現</p> <p>第15回 読み書きのまとめ、日常会話の復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう (初級)』 朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味を持って、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。</p> <p>[到達目標] 1)基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2)月・日・番号・値段が言える。 3)韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4)簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5)韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。</p>
授業の概要	<p>韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 否定文の表現 助詞～も</p> <p>第2回 指示代名詞（事物・場所）身の回りの単語</p> <p>第3回 家族の呼び名 助詞～の</p> <p>第4回 この～は誰の物ですかの文型</p> <p>第5回 位置関係の言葉</p> <p>第6回 何処に～がありますの文型 助詞～が（主格助詞）</p> <p>第7回 助詞～に（場所）、～と（並列・羅列）</p> <p>第8回 動詞、形容詞の会話体（です、ます）の活用 助詞～を（目的格）</p>
------	---

	<p>第9回 ～で～をしますの文型 助詞～で</p> <p>第10回 体の名称の単語 主要副詞語</p> <p>第11回 時を表す言葉 疑問を表す言葉</p> <p>第12回 映像で学ぶハングル</p> <p>第13回 尊敬型の活用 曜日</p> <p>第14回 リウル変則用言、助詞～しに</p> <p>第15回 まとめ (助詞 活用 変則活用の復習)</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見もあり、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ⅰ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう(初級)』朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ピンインを見て発音ができるようになる。 中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション（教科書2・3頁を読んでおく）</p> <p>第2回 第1課 你好（こんにちは） 中国語の音節 声調 ドリル</p> <p>第3回 第2課 明天見（また明日） 単母音 複母音 ドリル</p> <p>第4回 第3課 谢谢（ありがとう） 子音（1）ドリル</p> <p>第5回 第4課 好久不见（お久しぶり） 子音（2） 鼻音 ドリル</p> <p>第6回 第5課 迎接（出迎える） 名前の言い方・たずね方</p> <p>第7回 第6課 欢迎会（歓迎会） 動詞「是」・助詞「的」の使い方</p> <p>第8回 第7課 打的（タクシーに乗る） 基本語順S+V+O 連動文</p> <p>第9回 第8課 住宿（宿泊する） 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞</p>
------	--

	<p>第10回 第9課 問路（道を尋ねる）動詞「在」・前置詞の使い方</p> <p>第11回 第10課 买东西（ショッピングをする）数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方</p> <p>第12回 第11課 聊天儿（おしゃべりをする）年月日・曜日の言い方、年齢の言い方</p> <p>第13回 第12課 点菜（料理を注文する）量詞、動詞の重ね方</p> <p>第14回 第13課 买足球票（サッカーのチケットを買う）時刻の言い方、状態の変化を表す「了」</p> <p>第15回 前期総復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身の周りの日常的な事柄を表現できるようにする。 中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 語学学習を通して、異文化理解を深めます。 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係</p> <p>◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 第14 課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表す「了」</p> <p>第2回 第15 課 网吧（ネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」</p> <p>第3回 第16 課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」</p> <p>第4回 第17 課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」二重目的語をとる動詞</p> <p>第5回 第18 課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文</p> <p>第6回 第19 課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文</p> <p>第7回 第20 課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）補語結果 様態補語</p> <p>第8回 中国の日本事情</p>

	<p>第9回 第21課 全家照（家族写真） 「是～的」構文、比較表現「比」</p> <p>第10回 第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語</p> <p>第11回 第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語</p> <p>第12回 第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語 可能補語</p> <p>第13回 第25課 看病（診察）主述述語文 受身表現</p> <p>第14回 第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現</p> <p>第15回 総復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月
参考書	相原茂他『why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月 倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>「授業の目的」レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようにすることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する力を身につけている 2. 1対1、1対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3. 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を身につけている 4. 既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 5. 対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 6. 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する力を身につけている
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション・レクリエーションの理解</p> <p>【key words】 レクリエーション</p> <p>【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P4～P8 学習課題の概要を確認しておくこと</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アイブレイキングとして相応しい材料を検討しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのゲーム</p> <p>【key words】</p>
------	---

	<p>アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P66</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第3回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のためのゲーム対象に合わせたアレンジ方法①</p> <p>【key words】 アレンジ</p> <p>【授業概要】 対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P74</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第4回	<p>レクリエーション支援の方法 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 段階的に成功体験をしやすいようにアレンジの基本と応用</p> <p>【key words】 アレンジの方法</p> <p>【授業概要】 アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P74</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第5回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のための歌</p> <p>【key words】 アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】 室内でできるレクリエーションゲーム実践する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 対対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)</p> <p>【key words】 アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】 新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム 遊びができることを確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第7回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第8回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。</p>

第9回	<p>【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第10回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第11回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第12回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第13回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第14回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。</p>

第15回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分 前期の振り返り まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第16回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第17回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第18回	<p>レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ ①あたたかくもてなすという意識と配慮 【key words】 ホスピタリティ、コミュニケーションワーク 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第19回	<p>レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ ②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 【key words】 レポート ジョイニング トラッキング アコモデーション マイム 【授業概要】 対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。レポートの成立している状態等について意識してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第20回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 ユニバーサルホッケー 【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第21回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 ユニバーサルホッケー 【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第22回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第23回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第24回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第25回	<p>レクリエーション支援の方法 良好な集団作りの方法・アイスブレイキング 集団がまとまる仕組みを活かすプログラム アイスブレイキングモデル 【key words】 よりよい生の実現 【授業概要】 レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P70 参考書P274 【課題・予習・復習・授業準備指示】 CASE STUDY の事例を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第26回	<p>レクリエーション支援の方法 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス） 【key words】 素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス 【授業概要】 支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P78 参考書P278～P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分 第27回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践) 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第28回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践) 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第29回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3 (企画案の評価及び好評) 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第30回 1年間の振り返り まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ インターネット等で収集するよう心がけること。 ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更時は掲示する)
評価方法	<p>評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50% レポート等提出物(活動企画書)20% 実技30% として総合的に評価する。</p>
教科書	<p>レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】楽しさ・心地よさを活かす理論と技術?(財)日本レクリエーション協会編</p>
参考書	必要に応じて紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート</p>

- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位 (60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する力を身につけている 2. 1対1、1対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3. 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を身につけている 4. 既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 5. 対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 6. 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する力を身につけている
授業の概要	<p>年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。</p>

<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割</p> <p>【key words】 生きがい、基本的人権、良循環</p> <p>【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P2～P7</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者としてのレクリエーションの在り方について考えてみる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>

第2回	<p>レクリエーション概論 レクリエーションという言葉の主旨</p> <p>【key words】 RE-CREATE</p> <p>【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～11 参考書 レクリエーション活動援助法P10～P11</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第3回	<p>レクリエーション概論 レクリエーション支援の目的と方法 インストラクターの役割</p> <p>【key words】 厚生、コムニウス、フレール、プレイランド運動</p> <p>【授業概要】 レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P11～P24 参考書 レクリエーション活動援助法P12～P16</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第4回	<p>基礎理論 レクリエーションへの期待</p> <p>【key words】 生活者 支援者 人を支える</p> <p>【授業概要】 生活者 支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P33</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第5回	<p>基礎理論 生活のレクリエーション化</p> <p>【key words】 生活のレクリエーション化</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>基礎理論 レクリエーションの生活化</p> <p>【key words】 レクリエーションの生活化</p> <p>【授業概要】 日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第7回	<p>日常生活におけるレクリエーションの捉え方</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活</p> <p>【授業概要】 近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくことを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P39～P42</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第8回	<p>日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活 ライフスタイル 基本的欲求</p> <p>【授業概要】 福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の3つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P43～P48</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>楽しさと心の元気づくりの理論 レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援</p> <p>【key words】 地域課題 コミュニティ リージョン</p> <p>【授業概要】 自分も楽しみ、その楽しさがまわりの人々や地域にも役立つことで、さらに事業を充実する方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P162～P169</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人に働きかける場面と集団に働きかける場面について、それぞれにどんな効果があるか考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第10回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み</p> <p>【key words】 地域課題 コミュニティ リージョン</p> <p>【授業概要】 身近な地域（コミュニティ）とより広い範囲の（リージョン）。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きかけることができる課題についてあげてみる 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第11回	<p>レクリエーション支援理論 レクリエーション支援におけるコミュニケーション</p> <p>【key words】 コミュニケーションワーク ホスピタリティ</p> <p>【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うには、対象者との良好なコミュニケーションがかかせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティ、効果的な支援の方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～245</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホスピタリティがどのような場面で有効か、自分自身の活動を振り返り、その局面をイメージしてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第12回	<p>レクリエーション支援理論 コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング～プログラミングの原則～</p> <p>【key words】 アイスブレイキングモデル</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレイキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレイキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第13回	<p>レクリエーション支援理論 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 ～アイスブレイキングモデルの作成～</p> <p>【key words】 アイスブレイキングモデル</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレイキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレイキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第14回	<p>レクリエーション支援のプログラム プログラムの立案 アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表</p> <p>【key words】 アイスブレイキングのプログラミング</p> <p>【授業概要】 アイスブレイキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。（質疑応答含む） 【教科書ページ・参考文献】</p>

第15回	<p>教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 まとめ（評価・ふりかえり） 【key words】</p> <p>【授業概要】 前期 授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 前期テストにむけて配付プリント ノートを整理しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第16回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 乳幼児期～児童期～青年期～老年期 【key words】 ライフスタイル 対応するレクリエーション課題 【授業概要】 年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P70～P81 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。今回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第17回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 少子高齢社会の課題とレクリエーション 【key words】 ライフスタイル 対応するレクリエーション課題 【授業概要】 少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 P92～P141 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみる 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第18回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 地域のきずなとレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて） 【key words】 生活のレクリエーション化 個人への働きかけ 集団への働きかけ 【授業概要】 高齢者社会の課題に向けて、一人ひとりの対象者にどのようなレクリエーション支援が可能か、また一人の対象者を介して、その人が所属するグループや集団、対象者を取り巻く環境にどのような働きかけができるのか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P92～116 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人への直接的支援、あるいは個人を介した支援が有効な高齢社会の課題をあげ、具体的な働きかけを考えてみる 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第19回	<p>支援論 治療的意味合いを含めたレクリエーション セラピューティックレクリエーションサービス 【key words】 レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション 【授業概要】 治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法(中央法規) P150～P168 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第20回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク 素材アクティビティの提供 【key words】 素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス 【授業概要】 レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目</p>

	<p>的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 P274～P277 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第21回	<p>目的にあわせてレクリエーションワーク ハードル設定 CSSプロセス 【key words】 素材・アクティビティ、すり合わせ 【授業概要】 素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。 レクリエーション実技 “リズム手合わせ”</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P278～P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】 素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第22回	<p>目的にあわせてレクリエーションワーク 対象者間の相互作用の活用法 【key words】 ハードル設定 CSSプロセス 【授業概要】 達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P288～P297 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第23回	<p>目的にあわせてレクリエーションワーク 指導実習 【key words】 ハードル設定 CSSプロセス 【授業概要】 乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第24回	<p>レクリエーション支援のプログラム 事業計画 レクリエーション事業とは 【key words】 マズロー5段階欲求説 生活の快 動機づけ 【授業概要】 レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 P162～P169 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第25回	<p>レクリエーション支援のプログラム アセスメントに基づいたプログラム計画 A-PIEプロセスへニーズの確認 目標設定 展開 期待される効果 ～ 【key words】 A-PIEプロセス 【授業概要】 A-PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 P184～P195 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第26回	<p>レクリエーション支援のプログラム レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画の作り方～ 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 A-PIEプロセス 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第27回 レクリエーション支援のプログラム プログラムの立案 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 【key words】 Plan Do See プロセス 【授業概要】 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P207 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第28回 レクリエーション支援のプログラム リスクマネジメント リスクマネジメントの方法～ 【key words】 リスクマネジメント 【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書P208～P223 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第29回 レクリエーション支援のプログラム レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第30回 一年間のまとめ(評価・ふりかえり) 【key words】 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更時は掲示する)
評価方法	筆記試験60% 授業中レポート20% グループワーク及び発表20% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ?楽しさ・心地よさを活かす理論と技術? (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会) 【レクリエーション活動援助法】 (中央法規)

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>地域スポーツクラブでの指導経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習 I においては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。また、データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理する力を育む。</p> <p>①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ③レポートを形式に則って作成できる。 ④グループワークを円滑に実施できる。 ⑤発表を簡潔にわかりやすく行える。 ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。 ⑦データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理することができる。</p>
授業の概要	本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力（マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等）や基礎学士力（読書力、発表力、企画力等）の定着を図る。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、建学の精神、基礎学士力の育成、ポートフォリオについて</p> <p>【key words】 建学の精神、基礎学士力、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】 基礎学士力とは何か。また、基礎演習 I において建学の精神を基に基礎学士力を培うことの必要性を理解する。円滑な学生生活を行うために自らがどのように行動しなければならないかを考える。ポートフォリオについて概要、制作方法について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：建学の精神について調べ、資料を印刷してくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第2回 建学の精神と実践教育プログラム②：学び方、ノートの取り方について</p> <p>【key words】 基礎学士力、学び方、ノートの取り方</p> <p>【授業概要】 高校までの授業の受け方と大学での授業の受け方の違いを説明し、主体的な学びへと取り組めるよう日々の学習の仕方、ノートの取り方を紹介する。また、ポートフォリオについて概要、制作方法を再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
------	--

第3回	<p>建学の精神と実践教育プログラム③：図書館の利用について</p> <p>【key words】 建学の精神、基礎学力、図書館の利用、データベース、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 図書館の利用について説明する。また、レポートや卒業論文を制作する際に必要な資料を引用する時の注意点、電子資料の使い方について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第4回	<p>建学の精神と実践教育プログラム④：グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ</p> <p>【key words】 建学の精神、グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 グループワークの1手法であるKJ法について説明する。その後、実際にKJ法を使用し、他者から好感をもたれる身だしなみ、礼儀・挨拶について、グループワークを行い、まとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第5回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑤：礼儀、挨拶の実践</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶</p> <p>【授業概要】 他者から好感をもたれる礼儀・挨拶について、電話のかけ方、メールの受信・送信についてまとめ実践できるようにする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第6回	<p>学士力育成プログラム①： レポートの書き方①、個人情報の取り扱いについて</p> <p>【key words】 学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 レポートの書き方についてグループワークを行う。また、レポート作成における個人情報の取り扱いについても学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：①次回までに図書館及び大学HPから文献を検索し各自1点以上の文献を印刷し次回持参すること。文献は原著論文のみ。文献検索のテーマは自由</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第7回	<p>学士力育成プログラム②：レポートの書き方②</p> <p>【key words】 学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 各自準備した文献をグループで共有し、論文の構成、整合性、考察における引用文献の使用などについて確認する。それをもとに、各自に事前に提出したレポートを振り返り、改善点を見出す。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第8回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑥：身だしなみの実践</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 臨床の場を想定し、他者から好感をもたれる身だしなみとして制服・ケーシー（実習着）を着用する。実践した身だしなみについて他者評価を受け、改善点を理解する。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：制服・ケーシーを着用した立位姿勢（前面・後面）を写真に撮り、気づいた点・改善点を付記し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第9回 建学の精神と実践教育プログラム⑦：礼儀・挨拶・環境美化について①</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化</p> <p>【授業概要】 学生生活や臨床場面において礼儀のある対応やより良い挨拶が行えるよう普段の生活を振り返り、改善策を考える。環境美化の必要性は誰しも理解しているが、臨床場面（病院での環境衛生）においてのその重要性を考える。「感染症予防」や「標準予防策」の環境整備に焦点を当て、現在の環境美化活動を振り返る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表用レジュメ（A4用紙2枚 パワーポイントのスライド18枚以内）を作成し、発表前に提出する。提出期限は後日掲示する。 ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 punn 60～90分</p> <p>第10回 建学の精神と実践教育プログラム⑧：礼儀・挨拶・環境美化について②</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化</p> <p>【授業概要】 グループ毎に発表を行い、礼儀・挨拶・環境美化の重要性を学び、自己を振り返り、今後の学生生活に活かしていく。 レポート課題：前期を振り返り、理学療法士または作業療法士としての資質について、基礎演習で学んだことをまとめ、先行研究をもとに考察し、レポートにまとめる。文献検索のキーワードは「社会人基礎力」「マナー」「感染症予防」「環境整備」とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポート課題あり ポートフォリオの最期にレポートを入れ、ポートフォリオを提出する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120～180分</p> <p>第11回 学士力育成プログラム③：レポートの書き方③</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化、レポートの書き方</p> <p>【授業概要】 礼儀・挨拶・環境美化のレポートの読みあわせを行い、レポートの書き方を確認する。 用紙の使用方法、ナンバリング等レイアウトのルール、レポートのテーマの一貫性などについて検討し、書き方のルールを習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第12回 建学の精神と実践教育プログラム⑨：個人情報保護について</p> <p>【key words】 建学の精神、個人情報保護、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 医療従事者にとって情報管理は最重要課題である。初年次よりこのことについて理解することは今後の学習のみならず、社会人としての素養として必要である。ここでは、グループワークにより個人情報保護について情報収集を行い、それらを統合し自らの解釈を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：個人情報保護が守れなかった事例等について調べ、印刷してくること 復習：ポートフォリオの作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第13回 学士力育成プログラム④：【事前学習：命の大切さ】</p> <p>【key words】</p>
--	--

	<p>命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 1985年8月12日に起こった日航機墜落事故について、何故事故が起こったのかその原因と共に理解する。データベースを用いて調べた後、正確な情報とは何か、情報の分析について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：日航機墜落事故について調べ、資料を印刷してくること 復習：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第14回 学士力育成プログラム⑤：【講演：命の大切さ】</p> <p>【key words】 命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 命の大切さについて、いのちを織る会事務局の美谷島氏の講演を聴講する。遺族の思いについて考える機会を持つ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：講演内容をまとめておくこと。ポートフォリオの作成。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第15回 学士力育成プログラム⑥：【まとめ：命の大切さ】</p> <p>【key words】 命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 聴講した内容を基に、事前学習内容を整理する。当事者の思い、遺族の思いについて考える。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポート課題：日航機墜落事故についてまとめ、突然発症した患者と向き合いながらPT・OTとして働くことについての自身の考えを述べよ 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。</p> <p>①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ④内容が類似した課題は受け付けなため、自己の努力で作成すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。
オフィスアワー	木曜日16：00～17：00
評価方法	<p>◆レポート30%◆発表30%◆ポートフォリオ40%</p> <p><レポート採点基準></p> <p>①表紙：タイトルが適切に記載できた（2点） 必要項目が全て指定の書式に則り記載できた（2点） ②はじめに：レポートの主旨がわかるように適切に記載できた（4点） ③内容：レポートのテーマに沿って、記載の漏れなく適切に記載できた（8点） ④考察：テーマに沿って文献を使用して適切に記載できた（8点） ⑤終わりに：学んだことのまとめや今後について記載できた（3点） ⑥文献：引用文献を正しい表記の仕方で記載できた（3点）</p> <p><発表評価基準></p> <p>①声の大きさ・明瞭度：聞きやすいこの大きさと明瞭度で発表できた（3点） ②内容：体験したこと・学んだことなどが適切に十分記載できた（10点）。所々不十分（5点）。不十分（1点） ③態度：開始・終了の挨拶、発表中の姿勢が適切であった（2点） ④時間：4分30秒以上5分以内（5点） 4分以上4分30秒以内（3点） 4分未満、5分以上（1点） ⑤レジュメ：見やすさ・内容共に十分（10点） 所々不十分（5点） 不十分（1点）</p> <p><ポートフォリオ評価基準></p> <p>①ポートフォリオの基本事項が守られている</p> <p>1)全ての資料に日付が記載されている（5点） 2)日付順にファイリングしてある（5点） 3)全ての資料に出典が記載されている（5点） 4)全ての資料に考察が書かれている（10点）</p> <p>②資料</p> <p>1)各階の全ての配布資料がファイリングされている（5点） 2)自ら収集した資料がファイリングされている（10点）</p>
教科書	基礎演習テキスト、地へのステップ、学生生活G U I D E
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p>

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
基礎科目	基礎科目「総合科学」		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。</p> <p>【到達目標】 ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。 ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。</p>
授業の概要	基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係

◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム 1：科目オリエンテーション 【key words】 学士力、社会人基礎力、建学の精神 【授業概要】 学士力、建学の精神基礎演習Ⅱの位置づけやボランティア活動Ⅱとの関連性についてレクチャーを行う。また、学士力向上に必要な知識/技能について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 基礎演習テキスト、学生生活GUIDE 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎演習Ⅰおよびボランティア活動Ⅰの振り返りをしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 学士力育成プログラム1：1) 敬語 【key words】 敬語、文法、語彙力 【授業概要】 敬語・文法・語彙力の基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳)P5-30 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/ 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第3回 学士力育成プログラム2：2) 文法 【key words】 言葉の意味、言葉の表記、漢字 【授業概要】 言葉の意味・表記・漢字の基礎的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳)P32-56 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

<p>第4回</p>	<p>以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/ 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>学士力育成プログラム3：3) 語彙力・言葉の意味</p> <p>【key words】 言葉の意味、言葉の表記、漢字</p> <p>【授業概要】 言葉の意味・表記・漢字の基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳) P58-82</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/ 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
<p>第5回</p>	<p>学士力育成プログラム4：4) 表記・漢字</p> <p>【key words】 敬語、文法、語彙力、言葉の意味、言葉の表記、漢字</p> <p>【授業概要】 表記・漢字について基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 スキルアップ!日本語力(大学生のための日本語練習帳) P84-96</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に配布した資料の復習を十分に行い理解しておくこと。 特定非営利活動法人日本語検定委員会 ホームページ https://www.nihongokentei.jp/ 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
<p>第6回</p>	<p>学士力育成プログラム5：1) リハビリテーション職種のマネジメント</p> <p>【key words】 第一印象、管理運営、マネジメント</p> <p>【授業概要】 小テスト</p> <p>現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。</p> <p>①第一印象に二度目はない P12-14 ②タイムマネジメントができない P41-43</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
<p>第7回</p>	<p>学士力育成プログラム6：2) リハビリテーション職種のマネジメント</p> <p>【key words】 多職種連携、管理運営、マネジメント</p> <p>【授業概要】 現場で働く際に注意が必要なケースについて学ぶ。また、なぜそのようなことが必要なのか各自で考え、その理由をA4にまとめる。</p> <p>①利用者は何を求めているのか P18-20 ②多職種連携を成功させるコツは? P21-23</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
<p>第8回</p>	<p>学士力育成プログラム7：1) 国際福祉機器展の事前学習</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展の概要、過去の展示会の状況などを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 国際福祉機器展での学外学習後に、学習の成果をグループごとにプレゼンテーションする。各グループで、当日に見学・学習する内容を明確にしておくこと(事前学習が重要である)。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
<p>第9回</p>	<p>学士力育成プログラム8：2) 国際福祉機器展</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>

第10回	<p>学士力育成プログラム9：3) 国際福祉機器展</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第11回	<p>学士力育成プログラム10：4) 国際福祉機器展</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第12回	<p>学士力育成プログラム11：5) 国際福祉機器展</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、効率よく見学・学習すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第13回	<p>学士力育成プログラム12：6) 国際福祉機器展の振り返り</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第14回	<p>学士力育成プログラム13：7) 国際福祉機器展の振り返り</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。また、グループ学習の成果をプレゼンテーションする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第15回	<p>建学の精神と実践教育プログラム2：基礎演習まとめ</p> <p>【key words】 学士力、社会人基礎力、建学の精神</p> <p>【授業概要】 第1回～第14回までの建学の精神と実践教育プログラムと学士力育成プログラムを通して学んだ事のまとめをおこなう。ここでは、今まで学んだ事を整理し、各グループにて口頭で自分の考えを説明することができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの配布資料や収集した資料を整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。

る情報	
オフィスアワー	木曜日の13時以降。また、可能な日については授業時に指示する。
評価方法	・日本語検定の小テスト30%、マネジメントに関するレポート30%、国際福祉機器展に関する取り組みレポート20%、プレゼンテーション20%で評価します。60%に達しない場合、課題の指示をします。
教科書	基礎演習テキスト、学生生活GUIDE、スキルアップ！日本語力、リハビリテーション職種のマネジメント。
参考書	参考書については、授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニングを含めた学習の進め方について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清・山口智晴・村山明彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。		
授業の概要	総合演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「コミュニケーション力」をグループワーク等を通して身につけていく。		
■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△		
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	△		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回 建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／学力について (山口) 【key words】 オリエンテーション 【授業概要】 本科目のオリエンテーションを行うとともに、本科目で学ぶべき事項を明らかにする。ポートフォリオの説明と評価基準大学生における学力について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までに、「学力とは何か？どのような力なのか？」という問いについて自分何解答できるよう、配布資料を基に各自で調べたことをまとめ、ポートフォリオを作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分		
	第2回 学習統合プログラム①：なぜあなたたちは「学ぶ」のか1 (山口) 【key words】 学び、学力、多様性 【授業概要】 学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。 前回提示された課題の用紙を基に、学力について理解を深め、自分が今まで学び成長したことを振り返り、今後2年間の課題を見つめなおす機会とする。 視点の多様性について(多文化・多面的視点に関する教材をみる) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分		
	第3回 学習統合プログラム②：なぜあなたたちは「学ぶ」のか2 (山口) 【key words】 グループワーク 【授業概要】 定められた課題に対して、グループで解決していくための取り組みを行う。それらの活動を通して、グループワークの難しさや課題、メリットなどについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】		

第4回	<p>60分 学習統合プログラム③：なぜあなたたちは「学ぶ」のか3（山口） 【key words】 多様性、民主主義、自由 【授業概要】 学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第5回	<p>学習統合プログラム④：問題解決型学習1-1（村山） 【key words】 課題解決型学習 【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 次回までに課題を作成 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第6回	<p>学習統合プログラム⑤：問題解決型学習1-2（村山） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 【レポート①】の作成 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第7回	<p>学習統合プログラム⑥：問題解決型学習2-1（榎原） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する 【レポート①】の提出 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 次回までに課題を作成 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第8回	<p>学習統合プログラム⑦：問題解決型学習2-2（榎原） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第9回	<p>学習統合プログラム⑧：問題解決型学習3-1（山口） 【key words】 課題解決、グループワーク 【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ作成 次回までに課題を作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第10回	<p>学習統合プログラム⑨：問題解決型学習3-2（山口） 【key words】</p>

	<p>課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>ポートフォリオ作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60分</p> <p>第11回 学習統合プログラム⑩：問題解決型学習4-1（村山）</p> <p>【key words】</p> <p>課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>ポートフォリオ作成</p> <p>次回までに課題を作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分</p> <p>第12回 学習統合プログラム⑪：問題解決型学習4-2（村山）</p> <p>【key words】</p> <p>課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>ポートフォリオ作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60分</p> <p>第13回 学習統合プログラム⑫：問題解決型学習5-1（榎原）</p> <p>【key words】</p> <p>課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>ポートフォリオ作成</p> <p>次回までに課題を作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分</p> <p>第14回 学習統合プログラム⑬：問題解決型学習5-2（榎原）</p> <p>【key words】</p> <p>課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>ポートフォリオ作成</p> <p>【レポート②】の作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>180分</p> <p>第15回 建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ（山口）</p> <p>【key words】 これまでの授業の振り返り（振り返りシートの記入等）</p> <p>【授業概要】 レポート②の提出 全てのポートフォリオ提出</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	グループワークが多いので休まないこと。 ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

オフィスアワー	毎週水曜日 16:00～17:00
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ポートフォリオ30% (期限遵守、適切な時系列でのファイリング、思考過程が追える工夫) ■ルーブリック評価 (自己評価等) 70%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>担当する教員は理学療法士や 作業療法士としての臨床経験だけでなく、各職能団体や関連NPO法人の役員など様々な社会活動の経験を持っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神を持つ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。</p> <p>〔到達目標〕 ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。 ②社会人としてのマナーを身につける。</p>		
授業の概要	総合演習Ⅱでは、進路・資格取得プログラムとして、目前に迫る就職と資格取得における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り、自分自身を客観的に捉え直す機会とする。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／建学の精神について 【key words】 授業の流れと建学の精神について説明を行う。 課題であるポートフォリオの目標設定と概要説明を行う。 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】	
	第2回	進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ 【key words】 就職活動の一連の流れ・スケジュールを進路の手引きを使い説明する。 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】	
	第3回	進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座① 【key words】 就職活動に必要なとなる社会人としてのマナーを学ぶ。 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】	
	第4回	進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座② 【key words】 就職活動に必要なとなる社会人としてのマナーを学ぶ。 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】	

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第5回 進路・資格取得プログラム④：働くときの基礎知識</p> <p>【key words】</p> <p>求人票の見方や就職先を検討するうえで基礎となる知識を学ぶ。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第6回 進路・資格取得プログラム⑤：情報収集①</p> <p>【key words】</p> <p>興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第7回 進路・資格取得プログラム⑦：自己分析①</p> <p>【key words】</p> <p>興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第8回 進路・資格取得プログラム⑦：自己分析①</p> <p>【key words】</p> <p>就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第9回 進路・資格取得プログラム⑧：自己分析②</p> <p>【key words】</p> <p>就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第10回 進路・資格取得プログラム⑨：履歴書①</p> <p>【key words】</p> <p>就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第11回 進路・資格取得プログラム⑩：履歴書②</p> <p>【key words】</p> <p>就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回 進路・資格取得プログラム⑪：面接①</p> <p>【key words】</p> <p>面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回 進路・資格取得プログラム⑫：面接②</p> <p>【key words】 面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ（国家試験編）</p> <p>【key words】 卒業生を招き、国家試験に向けての心構えや国試対策における学習方法について講話してもらう。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 進路・資格取得プログラム⑭：まとめ</p> <p>【key words】 これまでの振り返りとポートフォリオを用いての自己評価を行う。</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイルを用意しておくこと。</p> <p>〔受講のルール〕 ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	ポートフォリオ100%
教科書	進路の手引き
参考書	授業内で適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p>

	<input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。 ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。 ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。 ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。 ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる</p>
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP) との関係	
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション/ポートフォリオとは</p> <p>【key words】 ボランティア、目標、学視力、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】 ポートフォリオ、学士力、ボランティア・本科目の位置づけと講義内容等について、今年度の目標設定やポートフォリオの作成方法などについて説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスに目を通し、講義のイメージを持つこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第2回	<p>マナー</p> <p>【key words】 ビジネスマナー、挨拶、敬語、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおける挨拶、敬語、身だしなみについて、社会人としての心構えに加え、医療従事者としての態度や対象者への関わり方の実践について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 身だしなみについて体験学習を行うため、授業態度として適切な服装を調べた上で参加すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第3回	<p>マナー</p> <p>【key words】 ビジネスマナー、電話対応、来客対応、訪問マナー</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおける電話対応、来客対応、訪問マナーについて、社会人としての基礎対応に加え、医療従事者としての態度など医療や介護施設スタッフの一員として相手に与える影響を考える機会を作りながら説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 案内などを体験学習するため、大学の設備や教室の配置を学生ハンドブックなどで確認しておく</p>

第4回	<p>こと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>マナー 【key words】 ビジネスマナー、文書作成</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおけるメール作成、文書作成、FAX送信について、臨床実習やボランティア参加を想定した作成例を提示しながら、文章作成方法や送信方法を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料（穴埋め方式） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペア学習で実際にメール送信を体験するため、インターネットが使用できる通信機器を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第5回	<p>マナー 【key words】 ビジネスマナー、ハウレンソウ、個人情報保護</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおけるハウレンソウ、個人情報保護について、法令などを提示しながら、チーム医療の中で必要な情報の取り扱い方法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料（穴埋め方式）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人情報保護法について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第6回	<p>コミュニケーション技能 【key words】 コミュニケーション、面接、積極的質問</p> <p>【授業概要】 コミュニケーション技法の基礎について、対人援助職における必要性を踏まえて、臨床実習における対象者との面接で行う対話方法や環境設定について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料（穴埋め方式） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 問診や初回面接で質問する内容を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第7回	<p>コミュニケーション技能 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録</p> <p>【授業概要】 第6回で学んだコミュニケーション技法を活用し、1対1の面接（テーマ：現在抱えている問題）を体験しながら学習する。面接でのやりとりを記録し、逐語録を作成し、第8回で分析する資料を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、第6回の配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接の記録に使用する録音機器を持参する。次回の授業までに逐語録を作成してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第8回	<p>コミュニケーション技能 【key words】 コミュニケーション、面接、逐語録</p> <p>【授業概要】 第7回で作成した逐語録を見ながら、面接時の、自身の応答の傾向を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、第7回で作成した逐語録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7回で作成した逐語録を印刷して持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第9回	<p>講話：学生ボランティア経験について 【key words】 ボランティア経験、目標</p> <p>【授業概要】 挨拶・礼儀・環境美化、ボランティア・これまでのボランティア経験と臨床との繋がり等に関して、各専攻の先輩からの体験談を聞き、今後のボランティア活動の取り組みについて内省する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティア活動記録簿を見直し、未記入の欄があれば埋めておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第10回	<p>資料の作成方法 【key words】 プレゼンテーション、資料作成</p>

	<p>【授業概要】 分かりやすいプレゼンテーションを行うための資料作成の基礎（パワーポイント等を中心に）を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 分かりやすい資料作成の条件などが記載されている資料を印刷準備しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>資料の作成方法</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成</p> <p>【授業概要】 第10回で共有し知識をもとに、プレゼンテーション用資料を作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回スムーズに発表ができるように、発表スライドの確認や発表の際の役割分担などを話し合っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>資料の作成方法</p> <p>【key words】 プレゼンテーション、資料作成</p> <p>【授業概要】 第10・11回で準備したプレゼンテーションを、4人一組のグループで行う。グループ内で各プレゼンテーション用資料に対し、良かった箇所や改善案を挙げる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に配布資料を行う場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>グループワークの進め方</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー分類、構造化</p> <p>【授業概要】 与えられたテーマに基づき、グループワークのプロセスを学ぶ。作業を役割分担し、各グループメンバーから出た意見をカテゴリー化し、構造化して発表資料を作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティアについて自信の考えを整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>グループワークの進め方</p> <p>【key words】 グループワーク、カテゴリー化、構造化</p> <p>【授業概要】 与えられたテーマに基づき、第13回でまとめた内容を発表し、グループ間で意見交換を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の際に資料を配布する場合は、参加者の人数分印刷準備をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>学んだことの振り返り</p> <p>【key words】 目標、ボランティア</p> <p>【授業概要】 第1回～14回までに学んだ内容をもとに、1年間のボランティア活動状況、目標達成度の評価、今後の計画について他者と話し合いながら、振り返りを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿、ポートフォリオ</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを提出できるように、整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に係る情報〕 A4クリアブック(40ポケット)を用意</p> <p>〔受講のルール〕 積極的なボランティア活動の実践が前提である。 ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>シャトルカード方式</p>

授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	各専攻担任より指示
評価方法	<p>ポートフォリオ 30% 授業内課題 60% ボランティア講話 10%</p> <p><ポートフォリオ採点基準></p> <p>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点）</p> <p>②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）</p> <p>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（10点）</p> <p><授業内課題></p> <p>①電話対応（10点）</p> <p>②ハウレンソウ（10点）</p> <p>③個人情報保護（10点）</p> <p>④コミュニケーション技能（10点）</p> <p>⑤資料作成（10点）</p> <p>⑥グループワーク（10点）</p> <p><ボランティア講話></p> <p>感想文（10点）</p>
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	<p>鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法―臨床研修・臨床実習の成功戦略！，医学書院，2006</p> <p>尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解，サンクチュアリ出版，2010</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>作業療法士歴 13年 作業療法士養成校教員経験 7年</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
漆畑典子			
基礎科目	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させ、心と心の通い合いによって生まれる暖かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深め、自己肯定感を高めるための取り組みを自ら実践できる。 対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解し、コミュニケーションスキルを習得し向上させる具体的な方法について説明、実践できる。 感情に関する基本を理解し、自分の感情をコントロールする取り組みができる。 自分も相手も大切にしたい伝え方(アイメッセージ)や自己主張(アサーティブネス)の基本を理解し、方法について説明できる。
授業の概要	本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要なコミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 【key words】 メタ認知 【授業概要】 授業概要、シラバス(内容・評価法など)、授業方式と注意点などを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 pⅢ～XVI、p2～20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：シラバスを読み、授業概要を把握する。教科書 pⅢ～pXVI、p2～20 を読む。 教科書、筆記用具、持っていればカラーペンや色鉛筆などを持参する。 復習：教科書、配布資料を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>第2回 自己理解 I 【key words】 自己存在、自己概念、エゴグラム 【授業概要】 自分を理解するためのグループワークなどを通して自己理解に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第3回	<p>教科書 p21～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 21～33 を読む。 教科書、筆記用具、ハサミ、カラーペンや色鉛筆など、糊（スティックのり等）持参。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>自己理解Ⅱ 【key words】 自己認知、自己肯定感、ジョハリの窓 【授業概要】 自己肯定感について理解し、自己肯定感を高めるためのグループワークなどに取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料 教科書 p 34～40、P200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：配布資料を再度読み、理解を深める。教科書 p 34～40 を読む。 教科書、筆記用具、ハサミを持参する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第4回	<p>コミュニケーション力を育もうⅠ 【key words】 言語・準言語・非言語コミュニケーション 【授業概要】 言語・準言語・非言語コミュニケーションについて学び、ペアワークやグループワークを通して具体的に理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 41～50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 41～50 を読む。 教科書、筆記用具持参。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第5回	<p>コミュニケーション力を育もうⅡ 【key words】 聞く、聴く、訊く、 【授業概要】 ペアワークやグループワークを通して基本的なコミュニケーションスキル「みる」「聴く」「伝える」を理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 50～60, p 165～170 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 50～60, p 165～170 を読む。 教科書、筆記用具持参。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第6回	<p>コミュニケーション力を育もうⅢ 【key words】 傾聴 【授業概要】 傾聴の基本的知識を理解し、その方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 147～155 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 147～155 を読む。 教科書、筆記用具持参。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第7回	<p>コミュニケーション力を育もうⅣ 【key words】 協働 【授業概要】 グループワークを通して協働の具体的な方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料を読む。 教科書、筆記用具持参。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第8回	<p>コミュニケーション力を育もうⅤ 【key words】 報告・連絡・相談（ほうれんそう）、会議 【授業概要】 グループワークを通して伝える方法について考える。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料 教科書 p60～63, 64one point, p67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 60～63, 64one point, p67 を読む。 教科書、筆記用具、持っていればカラーペンや色鉛筆などを持参する。</p>

第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>コミュニケーションスキルⅠ 自分も相手も大切にした伝え方</p> <p>【key words】 アイメッセージ、感情管理、リフレーミング</p> <p>【授業概要】 自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」や感情に関する基本を理解し、セルフワークやペアワークを通して具体的な方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 63～65、p 78～82、p 178～183</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 63～65、p 78～82、p 178～183を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第10回	<p>コミュニケーションスキルⅡ アサーションⅠ</p> <p>【key words】 アサーティブ、ノン・アサーティブ、アグレッシブ</p> <p>【授業概要】 自分も相手も大切にしたい自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、セルフワーク、ペアワークを通して方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 65～68</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 65～68を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第11回	<p>コミュニケーションスキルⅢ アサーションⅡ</p> <p>【key words】 DESC法</p> <p>【授業概要】 ペアワーク、グループワークを通して、アサーショントレーニングのひとつであるDESC法を体験する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：配布資料を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第12回	<p>自己管理</p> <p>【key words】 時間管理、社会人基礎力</p> <p>【授業概要】 セルフワークやグループワークを通して医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めることができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 69～78、p 92～93</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 69～78、p 92～93を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第13回	<p>自己実現</p> <p>【key words】 マズローの欲求階層説</p> <p>【授業概要】 自己実現に関する基礎的知識を学び、自身の自己実現について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 83～92</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 83～92を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第14回	<p>キャリア</p> <p>【key words】 キャリア、キャリア発達、キャリアプラン</p> <p>【授業概要】 キャリアに関する基礎的知識を学び、自身のキャリアプラン、身につけるべき社会人基礎力について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 93～101</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 93～101を読む。 教科書、筆記用具持参。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>

	<p>第15回</p> <p>まとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ふりかえり、全体を通した感想（学んだこと、身についたことなど）をグループでシェアする。 レポート課題の説明。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書、配布資料に目を通す。 教科書、筆記用具持参。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>・本講義ではセルフワーク・ペアワーク・グループワークを実施する予定となっておりますが、新型コロナウイルス関連の状況によっては、ペアワーク、グループワークを実施しない場合があります。</p> <p>・時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち、“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください。</p> <p>・本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい状況にある人は、遠慮、無理、我慢をせずに申し出てください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ る情報	教科書該当ページを、予習として各自読んでおく。授業時に配布した資料と教科書を用いて復習する。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。
評価方法	授業内での積極的・意欲的取り組み20%、ワークシート、ふりかえりシート、コメントカードの提出とその内容50%、レポート30%
教科書	山口 美和 PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド(第2版) 医学書院 2016
参考書	講義の際に適宜指定する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 教育相談、労働相談、職業相談などの相談員として、対人援助や心理的支援を、職場内外との協働と連携をしながら行った。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>□実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p>□情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p>□情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳・小林雄斗			
		理学療法国家試験受験資格に係る必須	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。 [到達目標] ①対象者に不快を与えない手技について説明できる。 ②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。 ③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。
授業の概要	対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか(どのようにできていないのか)を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体機能を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 1. 科目オリエンテーション / 触診の基本 【key words】 触診、体表解剖、ハンドリング、ランブリカルグリップ 【授業概要】 1. 基本的立位肢位と解剖学的肢位 2. 運動の面・軸・方向 3. 姿勢の表し方 4. 触診を行う際の指のあて方 1～4について、臨床でどのように用いるか具体的な例を示し説明する。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) P1～P13。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認しておくこと。 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第2回 2. 肩甲上腕関節に関わる筋 ① 【key words】 棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋 【授業概要】 1. 肩甲上腕関節に関わる筋 棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋、について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) P153～P201。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第3回 3. 肩甲上腕関節に関わる筋 ② 【key words】</p>
------	--

	<p>三角筋、大胸筋、広背筋、烏口腕筋 【授業概要】 2. 肩甲上腕関節に関わる筋 三角筋、大胸筋、広背筋、烏口腕筋について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べるができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P153～P201。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】 実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第4回 4. 肩甲胸郭関節に関わる筋 【key words】 僧帽筋、菱形筋、肩甲挙筋、小胸筋、前鋸筋 【授業概要】 1. 肩甲胸郭関節に関わる筋 僧帽筋、菱形筋、肩甲挙筋、小胸筋、前鋸筋について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べるができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P138～190。 当日の実施する範囲について学習しておくこと。</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】 実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第5回 5. 肘関節に関わる筋に関わる筋 【key words】 上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋 【授業概要】 1. 肘関節に関わる筋と手関節および手指に関わる筋 上腕二頭筋、上腕筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、方形回内筋、回外筋について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べるができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P223～260。</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】 実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第6回 6. 手関節および手指に関わる筋 ① 【key words】 長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋 【授業概要】 1. 手関節および手指に関わる筋 長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋、総指伸筋、示指伸筋、小指伸筋、長母指伸筋、短母指伸筋、について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べるができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P261～304。</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】 実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第7回 7. 手関節および手指に関わる筋 ② 【key words】 浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、短母指屈筋、短母指外転筋、母指内転筋 【授業概要】 1. 手関節および手指に関わる筋 長母指外転筋、浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、短母指屈筋、短母指外転筋、母指内転筋、母指対立筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、背側骨間筋、掌側骨間筋について触診を実施。 該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べることができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） P305～341。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第8回	<p>【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>8. 股関節に関わる筋 ①（上肢の範囲 小テスト、授業終了後ポートフォリオ提出）</p> <p>【key words】 腸腰筋、腸骨筋、大腰筋、大腿筋膜張筋、大殿筋</p> <p>【授業概要】 1. 股関節に関わる筋 腸腰筋、腸骨筋、大腰筋、縫工筋、大腿筋膜張筋、中殿筋、小殿筋、大殿筋、について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P140～165。</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>9. 股関節に関わる筋 ②</p> <p>【key words】 梨状筋、大腿方形筋</p> <p>【授業概要】 1. 股関節に関わる筋 梨状筋、大腿方形筋、上双子筋、下双子筋、内閉鎖筋、長内転筋、恥骨筋、大内転筋について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P166～179。</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>10. 股関節と膝関節に関わる筋 ①</p> <p>【key words】 大腿直筋、内側広筋、外側広筋、中間広筋</p> <p>【授業概要】 1. 膝関節に関わる筋 大腿直筋、内側広筋、外側広筋、中間広筋、膝蓋上包、について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P180～P204。</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>11. 股関節と膝関節に関わる筋 ②</p> <p>【key words】 半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋長頭、大腿二頭筋短頭</p> <p>【授業概要】 1. 膝関節に関わる筋 半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋長頭、大腿二頭筋短頭、薄筋、膝窩筋について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P205～P226。</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>12. 足関節および足部に関わる筋 ①</p> <p>【key words】 前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋、後脛骨筋</p> <p>【授業概要】 1. 足関節および足部に関わる筋 前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋、腓腹筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べる事ができる。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 2 7～P 2 4 6。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第13回 1 3. 足関節および足部に関わる筋 ②</p> <p>【key words】 長趾屈筋、長母趾屈筋、長腓骨筋、短腓骨筋、長母趾外転筋</p> <p>【授業概要】 1. 足関節および足部に関わる筋 長趾屈筋、長母趾屈筋、長腓骨筋、短腓骨筋、長母趾外転筋、短母指屈筋、母趾内転筋、短趾屈筋、について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べるができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 4 6～P 2 6 6。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第14回 1 4. 胸郭に関連する諸組織（下肢の範囲 小テスト、授業終了後ポートフォリオ提出）</p> <p>【key words】 腰方形筋、胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋</p> <p>【授業概要】 1. 胸郭に関連する諸組織 腰方形筋、胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、腕神経叢、について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べるができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 6 7～P 2 8 5。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60</p> <p>第15回 1 5. 脊柱に関連する諸組織</p> <p>【key words】 腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腰部多裂筋</p> <p>【授業概要】 1. 脊柱に関連する諸組織 腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腰部多裂筋、について触診を実施。 1の該当部位の解剖学的な説明が自分の言葉でき、該当部位を実際に触知できる。 触知した結果に対する解釈を述べるができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢） P 2 8 6～P 3 1 1。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】指定した教科書の範囲を確認し、筋の起始停止を覚えておくこと 【復習】実施した触診について教科書を見て触れるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	<p>[服装指定] 男性：半袖、短パン、女性：半袖、短パン [学習方法] デルトマグラフで皮膚に直接書き込みながら学習を進めていきます。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	<p>チャトルカード方式。 変更の場合、改めて指示します。</p>
授業外時間にかかわ る情報	<p>[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。</p>
オフィスアワー	<p>木曜日16：30～17：30</p>
評価方法	<p>第1回～第5回までレポート30%，第6回～第10回まで小テスト30%，第11回～第15回までは最終第15 回目の授業日にてペーパーでのテストを実施予定。 60%に達していない場合は課題対象となります。</p>
教科書	<p>運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢 林 典雄（執筆） MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢 林 典雄（執筆） MEDICAL VIEW</p>
参考書	<p>図解 四肢と脊椎の診かた Stanley Hoppensfeld著 野島元雄監訳 医 歯薬出版</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/	<p>授業担当教員</p>

リテラシー教育	<p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・野口直人			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、各関節運動に作用する筋について、自身の体に置き換えて説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。 ②運動時の筋収縮様態を説明することができる。 ③生体力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できる。 ④各関節の形状分類を理解し、関節運動を述べることができる。 ⑤各関節運動の主動作筋を列挙することができる。</p>		
授業の概要	<p>ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体の構造・機能を力学的な視点で学ぶ。授業を通して理学療法士・作業療法士が対象とする機能障害を把握するために必要な各関節の動作や筋肉の働きをについて理解を深める。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎		
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/運動学総論・筋の構造・運動力学【野口】 【key words】 骨格筋、運動の面と軸、ベクトル 【授業概要】 ・運動学の学問的特徴について理解を深め、骨格筋を含めた筋の種類や構造の理解、筋収縮のメカニズム、生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 筋の構造・運動力学【野口】 【key words】 ベクトル、モーメント 【授業概要】 ・生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。 ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36</p>		

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社 【予習復習に必要な想定時間】 60分 筋の構造・運動力学【野口】 【key words】 ベクトル、モーメント、てこの種類、筋収縮 【授業概要】 ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きを説明する。 ・身体内で働く3種類のものでこについて説明する。 ・骨格筋の筋収縮の違いについて理解する。 ・骨格筋を理解する上で必要な用語（起始・停止・作用）を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36</p>
第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社 【予習復習に必要な想定時間】 60分 肩関節の構造と運動①【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 肩関節の構造と運動②【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 肩関節の構造と運動③【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 肘関節・前腕の構造と運動①【野口】 【key words】 上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p119～143 参考書：p39～79、134～149、223～260</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 肘関節・前腕の構造と運動②【野口】 【key words】 上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p>

	<p>する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p119～143 参考書：p39～79、134～149、223～260 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第9回	<p>手関節・手指の構造と運動①【野口】 【key words】 上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨 【授業概要】 ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p144～179 参考書：p39～106、150～152、261～341 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>手関節・手指の構造と運動②/小テスト【野口】 【key words】 上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨 【授業概要】 ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・第1～9回で学んだ内容を基に、筆記試験を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p144～179 参考書：p39～106、150～152、261～341 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第11回	<p>骨盤・股関節の運動について【柴】 【key words】 骨盤、股関節、ヤコビー線、スカルパ三角、ローザネラトン線 【授業概要】 ・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p180～183、189～199 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第12回	<p>股関節の運動に作用する筋【柴】 【key words】 股関節、運動 【授業概要】 ・股関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p183～188、200～202 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第13回	<p>膝関節の運動【柴】 【key words】 膝関節、関節包内運動、終末伸展回旋、FTA 【授業概要】 ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p212～234 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に大腿骨・脛骨・膝蓋骨、腓骨など）や膝関節については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第14回	<p>距腿関節の構造、足部の運動について【柴】</p>

	<p>【key words】 脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾節骨</p> <p>【授業概要】 ・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p244～261</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾節骨など）や距腿関節については復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第15回 頭部、頸部、体幹の運動について/小テスト【柴】</p> <p>【key words】 頭蓋骨、椎骨</p> <p>【授業概要】 ・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・第11～14回で学んだ内容を基に、筆記試験を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p281～306</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に頭蓋骨・椎骨など）や脊柱については復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関する情報] ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。</p> <p>[受講のルール] ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>WEBポータルを使用したコメントスレッド</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>【柴】 木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 【野口】 月曜日16時～17時30分（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験60% 小テスト・実技試験40%</p>
<p>教科書</p>	<p>・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版 ・林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹，メジカルビュー ・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メジカルビュー</p>
<p>参考書</p>	<p>・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学，医学書院 ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【柴】 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>【野口】 急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート ■ グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p>

	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none">■ ICTを活用した双方向型の授業の実施□ e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援□ その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・野口直人			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解し各関節の運動を捉えたうえで、姿勢や正常歩行、呼吸、リーチ・把握などについて説明できることを目的とする。また、理学療法士・作業療法士の対象となる疾患を運動学的視点を用いて理解することができる。</p> <p>[到達目標] ①重心、姿勢の名称について答えることができる。 ②歩行周期について説明することができる。 ③歩行時の下肢関節の運動や重心の移動について説明することができる。 ④呼吸時の胸郭の動きを説明することができる。 ⑤リーチ・把握動作や日常生活を運動学的な知識を用いて説明することができる。 ⑥上下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。</p>
授業の概要	<p>授業を通し、理学療法士・作業療法士の対象となる機能障害を把握するうえで必要な身体の構造・機能、力学について学ぶ。また自らの身体を使って各関節や身体の動きを理解し、姿勢の保持や歩行、呼吸時、リーチ・把握動作に関わる関節運動の特徴を学ぶ。また、上下肢・体幹の各関節における運動障害を学ぶ。</p>

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係
 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法)(専門実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法)(専門実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/運動力学【野口】</p> <p>【key words】 運動の面と軸、ベクトル、モーメント、筋収縮</p> <p>【授業概要】 ・基礎運動学Ⅰでの復習 ・生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。 ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの運動力学について復習をしておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 人体における重心について【柴】</p> <p>【key words】 重心、重心線</p> <p>【授業概要】</p>
------	--

	<p>・安静立位における重心位置について、その求め方を含めて理解する。 ・重心を通る重心線について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p341～345 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：参考書「基礎運動学」のP347～352を事前に読み、重心についてまとめ重心の指標を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第3回 姿勢・重心【柴】 【key words】 姿勢、重心、支持基底面、安定性 【授業概要】 ・支持基底面について理解し、重心との関連性について学ぶ。 ・姿勢の安定性について考える</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p341-355 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：姿勢の保持はどのような場面で必要か、なるべく多く挙げてくること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	<p>第4回 正常歩行：歩行周期【柴】 【key words】 歩行、歩行周期 【授業概要】 ・正常歩行の歩行周期を理解する。 ・重心を前方に移動させる動作としての歩行の効率や実用性について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p365～367 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：歩行周期を替え歌を用いて表現できるようにすること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	<p>第5回 正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動【柴】 【key words】 歩行周期、下肢の関節運動 【授業概要】 ・各歩行周期で行われる下肢の関節運動を理解する。 ・歩行時の重心の移動を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p367～372 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：矢状面上の下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動を復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	<p>第6回 正常歩行：歩行時の筋活動について【柴】 【key words】 歩行周期、筋活動 【授業概要】 ・下肢のモーメントについて理解する。 ・各歩行周期における主な筋活動についてその理由とともに考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：371～382 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動に作用する主動筋を復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
	<p>第7回 上肢帯・肩関節の運動/運動障害【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・上肢帯・肩関節の代表的な運動障害（腱板断裂、脱臼）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの上肢帯・肩関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	<p>第8回 肘関節・前腕の構造と運動/運動障害【野口】 【key words】 上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・肘関節・前腕の代表的な運動障害（コーレス骨折・スミス骨折・テニス肘）について理解する。 <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p119～143 参考書：p39～79、134～149、223～260 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの肘関節・前腕の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第9回	<p>手関節・手指の構造と運動/運動障害【野口】</p> <p>【key words】 上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨・靭帯・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・手関節・手指の代表的な運動障害（手・手指の変形）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p144～179 参考書：p39～106、150～152、261～341 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの手関節・手指の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>骨盤・股関節の構造と運動/運動障害【柴】</p> <p>【key words】 骨盤・寛骨・仙骨・大腿骨・関節・靭帯・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・骨盤・股関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・骨盤・股関節の代表的な運動障害（変形性股関節症・大腿骨頸部骨折）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p203～211 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの骨盤・股関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第11回	<p>膝関節の構造と運動/運動障害【柴】</p> <p>【key words】 大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・関節・靭帯・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・膝関節の代表的な運動障害（変形性膝関節症・ACL損傷・PCL損傷）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：235～243 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの膝関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第12回	<p>距腿関節・足部の構造と運動/運動障害【柴】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・距腿関節・足部に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・距腿関節・足部の代表的な運動障害（内反捻挫・外反捻挫・内反尖足）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p262～268 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの距腿関節・足部の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第13回	<p>呼吸【柴】</p> <p>【key words】 呼吸・胸郭・運動・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・呼吸時の胸郭の運動を理解する。 ・呼吸の運動に関与する筋の特徴（構造・騎士・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：545～553 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：生理学で履修した呼吸について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>60～90分</p> <p>第14回 上肢の運動学習【野口】 【key words】 リーチ動作・把握動作 【授業概要】 ・リーチ動作・把握動作の特徴について理解できる。 ・日常生活動作における各動作についてリーチ動作・把握動作を用いて説明できる。 ・上肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肌を露出しやすい・動きやすい服（ジャージ推奨）を着てくること。 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 下肢の運動学習【柴】 【key words】 運動学習 【授業概要】 ・運動学習の意味を捉え、良い方向への変化が得られるように、適切なタイミングでフィードバックが付与できるよう運動学習について理解できる。 ・下肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p60～76 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：これまでの経験から上達した動作を挙げ、どのようにして上達したのか理由を5個以上考えてくること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。</p> <p>[受講のルール] ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>WEBポータルを使用したコメントスレッド</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>【柴】木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約 【野口】月曜日16時～17時30分（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験60% 小テスト・実技試験40%</p>
<p>教科書</p>	<p>・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版 ・林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹，メジカルビュー ・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メジカルビュー</p>
<p>参考書</p>	<p>・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学，医学書院 ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 【柴】急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。 【野口】急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p>

	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none">■ ICTを活用した双方向型の授業の実施□ e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援□ その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解しながら、健全なヒトの動作を運動学的に説明できることを目的とする。また、理学療法場の場面で使用される機器について知識を得ることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①姿勢を体位や構えで説明することができる。 ②バイオメカニクスの基礎的知識を理解し、動作を専門用語を使用して説明することができる。 ③立ち上がり動作を運動学的に説明することができる。 ④寝返り・起き上がり動作を運動学的に説明することができる。 ⑤歩行動作を運動学的に説明することができる。 ⑥引用文献を用いて考察することができる。</p>
授業の概要	<p>授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各動作を理解し、運動の特徴を学ぶ。</p>

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、姿勢について</p> <p>【key words】 到達目標、姿勢、支持基底面、重心、床反力、線画</p> <p>【授業概要】 ①科目オリエンテーション ・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス ②姿勢について ・姿勢の概念について理解できる ・支持基底面、重心、重心線、身体重心、床反力、圧中心が理解できる ・線画を描くことができる ・支持基底面と重心の関係性を理解できる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P1-25 臨床運動学：P11-20、P31-34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・各関節の関節運動について復習して授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 姿勢バランスについて</p> <p>【key words】 姿勢、バランス、重心動揺計</p> <p>【授業概要】 ①姿勢バランスについて ・姿勢バランスの定義について理解できる ・支持基底面と重心の関係性より姿勢バランスを説明できる ・姿勢制御システムの概要を理解できる ・重心動揺計の検査結果を解釈できる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P334-345 臨床運動学：P6-8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと</p>
------	--

	<p>・課題提示予定</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第3回	<p>生体力学の基礎について</p> <p>【key words】 カウンターウエイト、カウンタームーブメント、カウンターアクティビティ、力のモーメント、てこ</p> <p>【授業概要】 ①生体力学の基礎について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支持基底面と重心の関係性より姿勢バランスを説明できる ・カウンターウエイト、カウンタームーブメント、カウンターアクティビティについて理解できる ・てこの原理について理解できる ・力のモーメント（トルク）について理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P12-25 臨床運動学：P1-30</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>1時間</p> <p>動作観察・動作分析①：スクワット動作</p> <p>【key words】 スクワット動作、線画、筋活動</p> <p>【授業概要】 ①スクワット動作について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクワット動作を相分けし、線画を描ける ・スクワット動作を文章化できる ・スクワット動作における筋活動を考察できる <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P12-25 臨床運動学：P11-20</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・課題提示予定 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>1時間</p> <p>動作観察・動作分析②：腕立て伏せ動作</p> <p>【key words】 腕立て伏せ動作、線画、筋活動</p> <p>【授業概要】 ①腕立て伏せについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕立て伏せ動作を相分けし、線画を描ける ・腕立て伏せ動作を文章化できる ・腕立て伏せ動作における筋活動を考察できる <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P12-25 臨床運動学：P11-20</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>1時間</p> <p>動作観察・動作分析③：第4回、第5回の復習</p> <p>【key words】 スクワット動作、腕立て伏せ動作</p> <p>【授業概要】 ①スクワット動作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回で提示した課題の解説を行う <p>②腕立て伏せ動作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回で行った問題の解説を行う <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P12-25 臨床運動学：P11-20</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>1時間</p> <p>動作観察・動作分析④：起立動作1</p> <p>【key words】 座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動</p> <p>【授業概要】 ①座位について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座位姿勢の線画を描ける ・座位姿勢を文章化できる <p>②起立動作について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起立動作を相分けし、線画を描ける ・起立動作を文章化できる ・起立動作における筋活動を考察できる ・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第8回	<p>運動学テキスト：P12-25 臨床運動学：P11-20、P53-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>動作観察・動作分析④：起立動作2 【key words】 座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動 【授業概要】 ①起立動作について ・条件、環境設定による起立動作への影響を理解できる 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>運動学テキスト：P12-25 臨床運動学：P11-20、P53-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第9回	<p>ケーススタディ 【key words】 起立動作、支持基底面、重心、筋活動、関節応力 【授業概要】 ①ある症例における起立動作についてグループディスカッションを行う ・起立動作における身体への影響を考察できる ・疾患特有の問題点を理解できる ・起立動作における生体力学と病態を統合し、アプローチ考察できる 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>運動学テキスト：P12-25 臨床運動学：P11-20、P53-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第10回	<p>動作観察・動作分析⑤：寝返り、起き上がり動作1 【key words】 寝返り、起き上がり、線画、筋活動 【授業概要】 ①寝返り、起き上がり動作について ・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける ・寝返り、起き上がり動作を文章化できる ・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>動作分析臨床活用講座：P30-115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第11回	<p>動作観察・動作分析⑥：寝返り、起き上がり2 【key words】 寝返り、起き上がり、線画、筋活動 【授業概要】 第10回の続き 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>動作分析臨床活用講座：P30-115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第12回	<p>歩行動作について① 【key words】 歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション 【授業概要】 ①正常歩行について ・正常歩行の周期について理解できる ・倒立振り子、二重振り子について理解できる ・歩行中の重心移動について理解できる ・ロッカーファンクションについて理解できる 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>運動学テキスト：P358-370 臨床運動学：P57-66 動作分析臨床活用講座：P168-202 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第13回	<p>歩行動作について② 【key words】 10m歩行、異常歩行、トレンドレンブルグ歩行、デュシェンヌ歩行、杖歩行 【授業概要】 ①歩行計測について</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・10m歩行の測定方法を理解できる ・10m歩行の計測より歩幅、歩数、歩行速度、ケイデンスを算出できる <p>②異常歩行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異常歩行の分類、現象が理解できる ・トレンデレンブルグ歩行、デュシェンヌ歩行について理解できる <p>③杖歩行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行にて杖が身体に与える影響を理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P358-370 臨床運動学：P57-66 動作分析臨床活用講座：P168-202</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 歩行動作について③</p> <p>【key words】 片麻痺、歩行観察、重心変動</p> <p>【授業概要】</p> <p>①片麻痺患者の歩行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察より片麻痺患者の歩行を文章にできる ・正常歩行との違いを説明できる ・体験を通して片麻痺患者の歩行についての理解を深める <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P358-370 臨床運動学：P57-66 動作分析臨床活用講座：P168-202</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・運動麻痺についてよく復習しておくこと <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 機器を用いた歩行分析</p> <p>【key words】 VICON</p> <p>【授業概要】</p> <p>①VICONを使用した歩行分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオメカニクスをもとにした正常歩行について理解する <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P358-370 臨床運動学：P57-66 動作分析臨床活用講座：P168-202</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること ・実習については学校指定ジャージを着用すること <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと ・類似した課題シートと判断された場合や提出期限を過ぎた場合、いかなる理由においても減点（合計点×50%）とする ・講義の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用、ガムを噛む等）は厳禁とする
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	重心動揺計や筋電図、三次元動作解析装置を用いて実習を行うが、授業内で終わることができない場合、授業時間外で行うこととする
オフィスアワー	木曜日16時～17時（その他の曜日については要予約）
評価方法	筆記試験（客観）80%、課題シート20%（計2回、各10%）の総合評価にて判定する。 筆記試験は、授業最終回に40分間で実施予定。 課題シート[内容4点、考察4点、文献2点 なお、考察には必ず引用文献を用いること。]
教科書	藤縄理・編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト 改定第2版，南江堂，2015 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山書店，2018 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座，メジカルビュー，2019
参考書	月城慶一ら・訳：観察による歩行分析，医学書院，2015 市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2014 潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社，2014 石井慎一郎ら：基礎バイオメカニクス入門 第2版，医歯薬出版，2015 中村隆一 他：基礎運動学 第6版，医歯薬出版 中村隆一 他：臨床運動学 第3版，医歯薬出版 他：必要に応じて授業内に提示します
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	<p>具体的な実務経験の内容 理学療法士として、急性期病院で2年間、回復期病院で中枢神経疾患を中心に3年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。</p> <p>〔目標〕 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べるができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。</p>
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、「チームケア」について学ぶ。

■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP) との関係
 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回</p> <p>1. 科目のオリエンテーション 2. なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア</p> <p>【授業概要】 なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義を明確にする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：多職種連携やチームケアについてまとめている論文をメディカルオンライン等を用いて調べ、要点にラインを引いたうえで持参すること。 復習：ポートフォリオの作成 (講義内容について考察すること)</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60~90分</p> <p>第2回</p> <p>チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。</p>
------	---

	<p>【key words】 多職種、連携、チームケア、職種理解</p> <p>【授業概要】 チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割（法制度、職種内容、活躍する場等）についてまとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種をまとめるうえで必要な文献や資料を準備すること。 復習：ポートフォリオの作成 課題：自己の職種調ベシートを提出すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第3回 チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、自職種の役割</p> <p>【授業概要】 チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例（小児・高齢者）をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること） 課題：事例に対する支援方法をまとめること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第4回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、グループワーク</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解するために、多職種の仕事内容を知る。そのうえで、共通する内容や異なる内容を挙げる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種に関する発表の準備をすること 復習：自己の職種と多職種の共通点や異なる点について整理しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第5回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容を話し合う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種が事例に対して行う支援内容の発表準備をしておくこと 復習：事例に対する各々の職種の支援内容を整理しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第6回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容について共通する項目を挙げる。連携を行う意義について考え、意見をまとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：事例に対する支援内容について共通項目をまとめておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第7回 チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア、発表</p> <p>【授業概要】 連携を行う意義についてまとめた意見を発表し、共有する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：他のグループの発表内容も含め連携の意義について整理しておくこと。 ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること）</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
--	--

	<p>第8回</p> <p>学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア</p> <p>【授業概要】 学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること） 課題：後日、ポートフォリオを提出すること（期限については授業内で提示する） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。</p> <p>②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。</p> <p>〔受講のルール〕</p> <p>①積極的に取り組む事。</p> <p>②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。</p> <p>③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード・その他（ポートフォリオ）
授業外時間にかかわる情報	課題に積極的に取り組む。
オフィスアワー	木曜日の15:30～17:30
評価方法	①グループワークでの取り組み50% ②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	<p>1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版、2008.</p> <p>2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する中、多職種と連携をしながら患者および利用者の支援に携わってきた。現在は地域包括ケアシステムの構築に関する研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>□実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
高坂駿・新谷益巳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ねらい： 「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的： 事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 〔到達目標〕 1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くこと</p>		
授業の概要	<p>保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。</p>		
<p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○		
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎		
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△		
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎		
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○		
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎		
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△		
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション 【key words】 チームケア、多職種連携 【授業概要】 ・科目オリエンテーション。授業目標や授業の進め方について説明する。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部との学生とグループ学習していく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 事例展開に関する調べ学習 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、社会資源 【授業概要】</p>		

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度 <p>事例展開に関する調べ学習</p> <p>【key words】</p> <p>チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる(学部毎) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
第4回	<p>事例について各学部毎に課題</p> <p>【key words】</p> <p>チームケア、多職種連携、事例、社会資源</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1, 2回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ) ・報告準備。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
第5回	<p>事例について各学部毎に課題</p> <p>【key words】</p> <p>チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ) ・報告準備。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
第6回	<p>明確化した課題</p> <p>【key words】</p> <p>チームケア、多職種連携、事例、問題点</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
第7回	<p>明確化した課題</p> <p>【key words】</p> <p>チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布)

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度 学習過程の振り返り 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定 【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部との学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部（3学部大グループ）で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 ・事例発表。総括。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 〔受講のルール〕 ①積極的に取り組む事。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他
授業外時間にかかわる情報	関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	金曜日の15:30～17:30
評価方法	1. グループワークでの取り組み50%, 2. ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版、2008。 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input checked="" type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
大竹勤			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。 ②援助技術の原理原則について理解する。 ③基本的な援助技法を身につける。</p>		
授業の概要	<p>講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。</p> <p>■当科目のリハビリテーション学部ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(理学療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(理学療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
(作業療法) (豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(作業療法) (専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(作業療法) (地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、 自己紹介カード</p> <p>【key words】 【keywords】 授業の進め方 自己紹介</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する 予習・復習について説明する 評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 障害者の理解、DVD 視聴 (障害者の自立について)</p> <p>【key words】 【keywords】 障害者の自立 筋ジストロフィー 難病</p> <p>【授業概要】</p>		

	<p>【授業概要】 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 対人援助技術の原則</p> <p>【key words】 【keywords】 ソーシャルワーカー バイスティック</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ バイスティックの7原則について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 バイスティックの7原則に関する資料を配付する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 バイスティックについて事前に調べておくこと ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実 践の場で確認する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第4回 コミュニケーションスキルを磨こう DVD 視聴</p> <p>【key words】 【keywords】 コミュニケーションスキル ア行トーク サイレントトーク</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第5回 情報を共有し合意するということ</p> <p>【key words】 【keywords】 コンセンサス</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ 演習を通して学んだことをレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 演習（ゲーム）の資料を配付する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第6回 リハビリテーションを通しての援助支援について考える DVD 視聴</p> <p>【key words】 【keywords】 スポーツ リハビリテーション</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 ドキュメント映像を通して、リハビリテーションの仕事のやりがいと重要性について再確認する</p>
--	--

	<p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 感想文を提出していただきます 【予習復習に必要な想定時間】 30分 人の一生と社会福祉 事例検討 【key words】 【keywords】 相談援助 社会福祉 児童福祉 老人福祉 障害者福祉 生活保護</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 身近でおきている問題について考えてみよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分 援助の基本原則 まとめ 【key words】 【keywords】 バイスティックの7原則</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 評価の方法について再度説明 ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 評価試験内容についての詳細を配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 レポート試験の準備をしよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	2回に1回の割合でレポート課題を出す
オフィスアワー	授業終了後20分ほど、対応可能。
評価方法	筆記試験（レポート試験）80%と授業中に出すレポート課題等の提出物20%により評価する。レポート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施<input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<input type="checkbox"/>その他 その他の具体的内容
--	---

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法関連研究の基本的な考え方、および統計解析の基礎を学び、それらを実践できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①理学療法関連研究の基本的な考え方を説明できる。 ②ガイドラインについて説明できる。 ③統計解析の基礎を説明できる。</p>		
授業の概要	理学療法士は、常に進歩する医療に興味を持ち、新しい知見を得ていく必要がある。そのためには、自らも先行研究を基に研究を進めることが重要となる。理学療法セミナー I では、研究の基礎を学ぶことで、論理的な思考能力、問題解決能力、文書作成能力などを身につけることを目的とする。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション～なぜ研究をするのか?～ 【key words】 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) 【授業概要】 EBPTの概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 (予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)</p> <p>第2回 研究の基礎①～文献 (和文・英文) を効率よく検索する～ 【key words】 文献レビュー 【授業概要】 文献 (和文・英文) を効率よく検索するために必要なポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター https://minds.jcqh.or.jp/ 群馬医療福祉大学図書館 http://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第3回 理学療法分野における研究の意義と目的</p>		

第4回	<p>【key words】 理学療法研究 【授業概要】 理学療法分野における研究の意義と目的を理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 研究デザインの種類</p>
第5回	<p>【key words】 研究デザイン 【授業概要】 研究デザインの種類を理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 研究に必要な基礎知識</p>
第6回	<p>【key words】 研究に必要な基礎知識 【授業概要】 研究に必要な基礎知識について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 臨床研究の進め方①</p>
第7回	<p>【key words】 臨床研究の進め方 【授業概要】 臨床研究の進め方について理解する。 グループワーク 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分 臨床研究の進め方②</p>
	<p>【key words】 臨床研究の進め方 【授業概要】 臨床研究の進め方について理解する。 グループワーク 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p>

第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p> <p>研究の基礎②～身近な例で研究デザインを考える～</p> <p>【key words】 研究デザイン</p> <p>【授業概要】 身近な例で研究デザインの概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 グループワーク 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター https://minds.jcqh.or.jp/ 上記のURLを参考に予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p>
第9回	<p>統計解析の基礎①～記述統計～</p> <p>【key words】 記述統計</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ ハンバーガー統計学ようこそ！ http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/ アイスクリーム統計学ようこそ！ http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/ 上記のURLを参考に予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p>
第10回	<p>統計解析の基礎②～対応のあるT検定、ウィルコクソンの符号付順位検定～</p> <p>【key words】 対応のあるT検定、ウィルコクソンの符号付順位検定</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエストと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考に予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URL・文献を参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第11回	<p>統計解析の基礎③～対応のないT検定、マンホイットニーのU検定～</p> <p>【key words】 対応のないT検定、マンホイットニーのU検定</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエストと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考に予習しておくこと</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URL・文献を参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第12回	<p>統計解析の基礎④～分散分析、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定～</p> <p>【key words】</p>

	<p>分散分析、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。</p> <p>統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエスチョンと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考に予習しておくこと</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URL・文献を参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第13回 統計解析の基礎⑤～相関と回帰①～</p> <p>【key words】 相関と回帰</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。</p> <p>統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエスチョンと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考に予習しておくこと</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URL・文献を参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第14回 統計解析の基礎⑥～相関と回帰②～</p> <p>【key words】 相関と回帰</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。</p> <p>統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 神田英一郎：第1回 リサーチクエスチョンと研究デザイン. 関節外科 33(1): 94-98, 2014. 神田英一郎：第2回 観察研究. 関節外科 33(2): 202-207, 2014. 神田英一郎：第3回 介入試験. 関節外科 33(3): 314-319, 2014. 上記のURLや参考文献を参考に予習しておくこと</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URL・文献を参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第15回 まとめ～学会抄録・投稿論文の査読者の視点から～</p> <p>【key words】 研究計画、研究倫理審査</p> <p>【授業概要】 研究計画書と研究倫理審査申請書の作成の概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。</p> <p>山田知子：論文の書き方. 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 15(1): 43-47, 2017. 西尾正輝：医学系論文における文章の書き方. ディサースリア臨床研究 1～14回目までの内容を復習し、自らの研究計画（案）をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考文献を参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習60分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <p>①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。</p> <p>〔受講のルール〕</p> <p>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	e-mailおよびスレッド（Webポータル）
授業外時間にかかわ る情報	初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。 予習や課題の実施を前提に講義を進める。

オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	レポート40%、授業内で提示した課題（15回）30%、授業内でのプレゼンテーション30%
教科書	山田実 編著，土井剛彦，浅井剛 著：PT・OTのための臨床研究はじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます．羊土社 山田 実／編，浅井 剛，土井剛彦／編集協力：メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法「目的」と「データの種類」で簡単検索！適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる．羊土社
参考書	西内啓：統計学が最強の学問である データ社会を生き抜くための武器と教養．ダイヤモンド社 新谷歩：今日から使える 医療統計．医学書院 森本剛：査読者が教える 医学論文のための研究デザインと統計解析．中山書店
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>日本転倒予防学会誌（編集委員・査読者）、理学療法群馬（編集委員長・査読者）、日本予防理学療法学会 査読者、日本地域理学療法学会 査読者、日本基礎理学療法学会 査読者、日本支援工理学療法学会 査読者、関東甲信越ブロック理学療法士学会 査読者、厚生労働省 高齢者の特性を踏まえた保健事業（フレイル対策）に関する文献調査 検討会（委員）、群馬県フレイル予防サポーター養成標準教材作成 ワーキンググループ（委員）としての経験がある。専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。 転倒予防指導士基礎講習会の講師も務める（2018年～）。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①エビデンスに基づいた評価の選択・実施について説明できる。 ②観察式・質問式評価のメリット・デメリットを説明できる。 ③ADL評価の意義、評価手順を説明できる。 ④評価から得られた結果を統合し解釈することができる。</p>		
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係</p> <p>◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション ～科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)と評価～</p> <p>【key words】 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)</p> <p>【授業概要】 科目オリエンテーションを行う。 理学療法における評価の重要性について理解する。 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)の定義を学ぶ。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/Minds_(マインズ)_ガイドラインセンター http://minds.jcqh.or.jp/n/top.phpEvidenc</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 (予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)</p>	
	第2回	<p>意欲・自己効力感の評価 ～評価の選択・実施のポイント～</p> <p>【key words】 意欲・自己効力感の評価, 主観的幸福感, Quality of life : QOL</p> <p>【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 内閣府 経済社会総合研究所ホームページ http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html 財務省財務総合政策研究所ホームページ https://www.mof.go.jp/pri/research/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 潮見泰藏, 下田信明 編集:リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp.143-153, pp.376-382 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のURLや教科書を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>	

第3回	<p>気分(うつ・不安)・思考の評価 ～評価の選択・実施のポイント～</p> <p>【key words】 気分(うつ・不安)・思考</p> <p>【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 内閣府 経済社会総合研究所ホームページ http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html 財務省財務総合政策研究所ホームページ https://www.mof.go.jp/pri/research/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 潮見泰藏, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 134-142</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のURLや教科書を参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第4回	<p>ADL ～評価の選択・実施のポイント～</p> <p>【key words】 日常生活動作 (Activities of Daily Living: ADL)</p> <p>【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ ADLの評価法 https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/tool_03.html 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 潮見泰藏, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 348-375</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のURLや教科書を参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第5回	<p>観察に基づくADL評価 ～グループワーク、事例検討 ①～</p> <p>【key words】 観察に基づくADL</p> <p>【授業概要】 評価結果を、他者に伝える意義について理解する。 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 潮見泰藏, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 383-395</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p>
第6回	<p>観察に基づくADL評価 ～グループワーク、事例検討 ②～</p> <p>【key words】 観察に基づくADL</p> <p>【授業概要】 評価結果を、他者に伝える意義について理解する。 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 潮見泰藏, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 383-395</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p>
第7回	<p>観察に基づくADL評価 ～グループワーク、事例検討 ③～</p> <p>【key words】 観察に基づくADL</p> <p>【授業概要】 評価結果を、他者に伝える意義について理解する。 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 潮見泰藏, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 383-395</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p>
第8回	<p>IADL ～評価の選択・実施のポイント～</p> <p>【key words】 Instrumental Activities of Daily Living: IADL Advanced Activities of Daily Living: AADL</p> <p>【授業概要】</p>

第9回	<p>評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ ADLの評価法 https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/tool_03.html 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 【教科書ページ・参考文献】 潮見泰蔵, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 348-375 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のURLや教科書を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高次脳機能障害の評価① ～評価の選択・実施のポイント～ 【key words】 高次脳機能障害 【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 渡邊修: 病院で行う高次脳機能障害リハビリテーション。 JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 21(11): 1060-1068, 2012. 渡邊修: 高次脳機能障害. Medical Practice 27 (10) : 1691-1695, 2010 【教科書ページ・参考文献】 潮見泰蔵, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 102-133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第10回	<p>高次脳機能障害の評価② ～障害別の具体的な方法～ 【key words】 高次脳機能障害 【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 以下の内容を参照して予習することを推奨する。 渡邊修: 病院で行う高次脳機能障害リハビリテーション。 JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 21(11): 1060-1068, 2012. 渡邊修: 高次脳機能障害. Medical Practice 27 (10) : 1691-1695, 2010 【教科書ページ・参考文献】 潮見泰蔵, 下田信明 編集: リハビリテーション基礎評価学, 羊土社 pp. 102-133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第11回	<p>認知症の評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key words】 認知症 【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 認知症に関する予習をして授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや参考URLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第12回	<p>転倒予防の評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key words】 転倒予防 【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 転倒予防に関する予習をして授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第13回	<p>フレイルの評価 ～評価の選択・実施のポイント～ 【key words】 フレイル 【授業概要】 評価を選択・実施する際のポイントを理解する。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html</p>

	<p>フレイルに関する予習をして授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第14回 各種ガイドラインとアウトカム評価指標 ～評価結果の解釈と予後予測のポイント～ 【key words】 予後予測 【授業概要】 評価結果の解釈と予後予測のポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.c.or.jp/n/top.php 第1回から第13回までの内容を復習して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p> <p>第15回 評価における統合と解釈 ～グループワーク～ 【key words】 統合と解釈 【授業概要】 評価における統合と解釈を、他者に伝える意義について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt.or.jp/jsptf/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.c.or.jp/n/top.php 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境 (PC・タブレット・スマートフォンなど) を整えておくこと。</p> <p>[受講のルール] ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分 (その他の曜日については要予約)
評価方法	筆記試験60% レポート40% 総合評価は、筆記試験の得点が60/100点以上であることが前提となる。
教科書	潮見泰藏, 下田信明 編: PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版. 羊土社 大塚俊男, 本間昭 監修: 高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、認知症・転倒のリスク・フレイルの評価を数多く実施してきた。 また、基礎理学療法 (ヒトを対象とした評価の信頼性・妥当性など) を専門としている。 専門理学療法士 (基礎理学療法)、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。 転倒予防指導士基礎講習会の講師も務める (2018年～)。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習)</p>

- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	理学療法における治療技術の基礎を身につける。 ①主要なキーワードを自分の言葉で説明ができる。 ②正常と異常について説明ができる。 ③評価と結び付けて運動プログラムを説明できる。
授業の概要	解剖学、運動学、評価学の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の考え方の基礎について学ぶ

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション / 運動療法とは 【key words】 インフォームドコンセント、力源分類、治療訓練 【授業概要】 理学療法において重要な部分を占める運動療法の定義、目的、対象、運動療法の種類、運動療法の特性から運動療法の実施主体が誰であるのか、禁忌事項、インフォームドコンセントの重要性について理解する。 1. 運動療法の定義を説明できる。 2. 保健、医療、福祉領域において、運動療法の対象が何かを答えることができ、それぞれの意義、目的を説明できる。 3. 運動療法の実施主体が何であることを説明できる。 4. 運動療法の禁忌事項について、運動療法の特性や疾患の特性を理解したうえで説明できる。 5. インフォームドコンセントとは何かを説明できる。 6. 運動療法的前提としてインフォームドコンセントがどのように行われるかを説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P2～21。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】P2～21をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P22)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。
	第2回	運動の必要性和効果 【key words】 運動の効果、二次的障害 【授業概要】 運動は生理機能すべてを動員する総合的な働きであり、運動の過不足は人の生理機能に大きな影響を与えることを理解し、疾患に伴う、一次的障害に加え、二次的障害があることを理解する。 1. 運動による生理機能の変化を具体的に説明できる。 2. 運動の効果を具体的に説明できる。 3. 二次的障害の種類、原因、症状、対策を説明できる。 4. 廃用症候群の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P23～35。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】P23～35をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P35)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。
	第3回	運動療法の順序

	<p>【key words】 ゴール設定、起立性低血圧、意識障害</p> <p>【授業概要】 重力が生体に与える影響を考慮しながら姿勢交換をはかり、筋収縮を伴う運動、筋収縮を伴わない運動、起居・移動動作、ADL訓練へと進める運動療法の流れを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法の開始基準とリスクの管理方法を説明できる。 2. 重力が生体に与える影響を理解し、抗重力位姿勢の重要性を説明できる。 3. 運動療法の実施主体は対象者（患者）であることを理解して説明できる。 4. 姿勢変換、自動運動、他動運動の効果を理解して説明できる。 5. 基本動作としての起居・移動動作訓練の重要性を理解して説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P36～43。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P36～43をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く（P43）。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>関節可動域訓練（1）</p> <p>【key words】 他動的関節可動域訓練、自動的関節可動域訓練</p> <p>【授業概要】 評価学で学んだ参考可動域を基にペアで上半身の評価を行い、関節可動域訓練（他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動、伸張運動）後の可動域を再評価する。また、なぜ関節可動域の改善が起こったのかペアごとに理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域訓練の目的、意義を説明できる。 2. 関節可動域訓練の種類を説明できる。 3. 関節可動域訓練の方法を説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P124～142をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第5回	<p>関節可動域訓練（2）</p> <p>【key words】 関節の位置、関節包内運動</p> <p>【授業概要】 評価学で学んだ参考可動域を基にペアで下半身の評価を行い、関節可動域訓練（他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動、伸張運動）後の可動域を再評価する。また、なぜ関節可動域の改善が起こったのかペアごとに理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域訓練の原則を説明できる。 2. 関節可動域訓練の適応、禁忌を説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P124～142よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第6回	<p>関節の機能と障害</p> <p>【key words】 関節構造、てこ、凹凸の法則、拘縮、強直</p> <p>【授業概要】 レポート①(30点) 人が円滑に運動できるのは、運動器を構成する各器官が機能し、協調して働いているためである。その関節を構成する骨の構造と機能について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の組織構造を説明できる。 2. 骨の形状と種類を説明できる。 3. 関節組織の機能を説明できる。 4. 関節の種類を説明できる。 5. 身体部位を例にあげて「てこの原理」を説明できる。 6. 関節拘縮と関節強直の違いを説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P109～123。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P109～123よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く（P123）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第7回	<p>トレーニングの基礎的原理</p> <p>【key words】 ストレス、過負荷の原則、超回復</p> <p>【授業概要】 運動は人の生理機能すべてを動員する総合的な機能であり、運動を行うことはこれらすべての機能を刺激することである。効果的な運動療法を行うためには、科学的な根拠に基づく適切な運動処方不可欠である。これら運動療法を行う際の基本的な理論を理解する。</p>

	<p>1. 運動開始時に行う基本的なバイタルチェックを説明できる。 2. ストレスについて説明できる。 3. 効果的な運動負荷方法を説明できる。 4. 刺激は、対象者個々で異なることを理解できる。 5. 刺激に対する対象者の反応をモニターできる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P44～50。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P44～50よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P50)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第8回 筋の機能と障害 【key words】 等尺性収縮、等張性収縮、等速性収縮 【授業概要】 骨格筋の機能と障害について理解する。 1. 骨格筋の構造と機能が説明できる。 2. 興奮収縮連関について説明できる。 3. 筋収縮の種類が説明できる。 4. 筋萎縮について説明できる。 5. 過用性筋力低下について説明できる。 6. 解剖と筋出力低下との関係が説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P143～152。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P143～152よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P152)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第9回 筋力増強訓練（1） 【key words】 筋力低下、筋力の回復、筋力の強化、筋力低下の予防 【授業概要】 安全で効果的な筋力増強訓練を行うために必要な、医学的根拠に基づく適切な動作設定を理解する。 1. 筋力増強訓練の目的を説明できる。 2. 筋力を決定する因子を説明できる。 3. 筋力増強のメカニズムを説明できる。 4. 筋力増強に影響を及ぼす因子を説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P153～160。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P153～166よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P166)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第10回 筋力増強訓練（2） 【key words】 過負荷の原則、個別性の原則、等尺性運動、等張性運動 【授業概要】 適切な運動設定のために必要な知識を習得する。 1. 筋力増強訓練の基本原則を説明できる。 2. 筋力増強訓練の方法について説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P161～166。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P167～177よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く（前回までで終わらない所を終わらせておくこと）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第11回 筋持久力増強訓練 【key words】 持久力、瞬発力、継続性の原則 【授業概要】 小テスト① (30点) 筋持久力とは、筋力と並び質の高い動作を可能とするために必要不可欠なものである。筋力と、筋持久力、全身持久力と筋持久力の違いをそれぞれ理解する。また、筋持久力を決定する要因と影響を与える因子について理解する。 1. 筋持久力を決定する要因を生理学的に説明できる。 2. 臨床場面において筋持久力の評価を実施できる。 3. 筋持久力増強訓練に適した負荷の量、時間、頻度を設定できる。 4. 臨床場面において、具体的な筋持久力増強訓練の方法を提案・指導できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。</p>
--	---

	<p>第12回</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P178～188よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く（P188）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。 随意運動と運動制御モデル 【key words】 随意運動，運動制御，筋，中枢 【授業概要】 随意運動のメカニズムについて理解する。また、運動制御に対応した中枢神経系について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学 P57～73。</p> <p>第13回</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】配布資料の教科書P57～75よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。 運動制御と運動学習 【key words】 運動，制御，学習 【授業概要】 運動制御理論と問題点について理解する。また、姿勢制御のメカニズムと感覚統合について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学 P75～84。</p> <p>第14回</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】配布資料の教科書P75～94よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。 姿勢制御のメカニズム 【key words】 静的，動的，アングルストラテジー，ヒップストラテジー 【授業概要】 1. 姿勢制御のメカニズムについて理解する。 2. 運動学習とこのメカニズムに基づく練習の構成について考える。 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学 運動療法学 総論 P85～96。</p> <p>第15回</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P86～96よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。 障害別機能（統合）訓練 対麻痺・四肢麻痺 【key words】 対麻痺，四肢麻痺，随伴症状，合併症 【授業概要】 小テスト②(30点) 対麻痺、四肢麻痺のリハビリテーションは最大限の機能回復とADL獲得、個人の最高のQOL獲得を目標としている。理学療法は運動療法を中心とした内容ではあるが、活動制限へのアプローチとしてADL指導や装具療法は必要不可欠である。ここでは、対麻痺者、四肢麻痺者の理学療法のなかでの運動療法の流れを理解する。 1. 対麻痺・四肢麻痺者の機能分類を説明できる。 2. 随伴症状と合併症を説明できる。 3. 対麻痺・四肢麻痺者に対する運動療法を説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P353～373。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P353～373よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く（P364）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	学習方法：基礎を学びながら，実際の運動療法について学びます。
解剖学，運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。	解剖学，運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	運動療法学実習Ⅰに繋がる内容のため、十分な理解が必要となります。各自ノートを用意し、授業後に整理を行ってください。また、小テストについては授業内で範囲を説明しますので自己学習を進めて下さい。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分

評価方法	第1回～第5回までレポート30%，第6回～第10回まで小テスト30%，第11回～第14回小テスト30%、15回レポート10%の総合評価にて判定）。60%に達していない場合は課題対象となります。
教科書	細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト、南江堂
参考書	奈良 勲：標準理学療法学、運動療法学（総論）、医学書院、2010 第12回、第13回時に使用します。 市橋則明：運動療法学（障害別アプローチの理論と実際、文光堂、2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的 理学療法における治療技術の基礎を身につける。</p> <p>到達目標 ①異常な状態に対する治療技術を選ぶことができる。 ②①に関連した主要な治療技術を実行できる。 ③②について、評価学に基づいて、介入効果を示すことができる。</p>
授業の概要	運動療法学 I の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の代表的なものが実施できるように、体験して身につける。この科目で学んだことは、今後運動療法学、理学療法技術論へつながる科目である。

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / リラクゼーションテクニック 【key words】 ストレス、ストレッチング、身体運動、マッサージ 【授業概要】 ストレス、闘争・逃避反応、呼吸法、自律訓練法、ストレッチング、身体運動、マッサージ、リラクゼーションテクニックの基本的な考え方を理解し、その代表的なテクニックによる身体的変化を確認する。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P50～69。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第2回 ストレッチング(上肢) 【key words】 静的、動的、ストレッチング 【授業概要】 ストレッチングの目的と効果を理解し、ストレッチングの種類を必要に応じて選択して実施する。また、注意点についても説明することができる。また上半身のストレッチングを実施する。実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 理学療法学ゴールドマスター・テキスト P59～73(各自でコピーをしておくこと)。 理学療法学ゴールドマスター・テキストの指定ページをコピーしておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第3回 ストレッチング(下肢) 【key words】</p>
------	---

	<p>IDストレッチング、PNFストレッチング、バリスティックストレッチング</p> <p>【授業概要】 ストレッチングの目的と効果を理解し、ストレッチングの種類を必要に応じて選択して実施する（下半身のストレッチングを実施する）。また、注意点についても説明することができる。実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 理学療法学ゴールドマスター・テキスト P59～73（各自でコピーをしておくこと）。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第4回	<p>運動療法による関節可動域の維持と改善（1）上肢</p> <p>【key words】 副運動、凹凸の法則</p> <p>【授業概要】 上肢における関節可動域訓練の基本技術を理解し、実技練習をおこない習得する。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第5回	<p>運動療法による関節可動域の維持と改善（2）下肢</p> <p>【key words】 副運動、凹凸の法則</p> <p>【授業概要】 下肢における関節可動域訓練の基本技術を理解し、実技練習をおこない習得する。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第6回	<p>関節可動域制限に対する運動療法</p> <p>【key words】 関節拘縮、関節強直</p> <p>【授業概要】 関節可動域制限が何によって起こるのかを知るために、その病態について学ぶ。そして、その病態に応じた運動療法を選択し、現在、関節可動域制限に対して効果があるといわれているものを適切に選択肢する。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト：運動療法学P23～32。 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト、運動療法学P23～32をコピーしておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第7回	<p>姿勢変化と生体反応の実際</p> <p>【key words】 起立性低血圧、ティルトテーブル</p> <p>【授業概要】 臥位からの姿勢変化に伴う血圧変化などの生体応答を計測する方法を理解する。そのために、ティルトテーブルとがっじアップベッドを用いて反応を確認する。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P70～84。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第8回	<p>疾患別の運動療法（治療体操）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P70～84。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>

	<p>【key words】 コッドマン体操、ウィリアズ体操</p> <p>【授業概要】 第1回～第7回までの範囲で小テストを実施する。授業終了後にポートフォリオを提出。</p> <p>治療体操の歴史的背景や理論的背景を理解する。また、各治療体操が対象となる疾患を理解する。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P242～263。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第9回	<p>運動療法による筋力の維持と増強（1）上肢</p> <p>【key words】 等尺性収縮、等張性収縮、肩甲上腕リズム</p> <p>【授業概要】 安全に上肢の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第10回	<p>運動療法による筋力の維持と増強（2）下肢</p> <p>【key words】 等尺性収縮、等張性収縮、SLR</p> <p>【授業概要】 安全に下肢の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第11回	<p>運動療法による筋力の維持と増強（3）体幹</p> <p>【key words】 求心性収縮、遠心性収縮、同時性収縮</p> <p>【授業概要】 安全に体幹の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第12回	<p>筋力低下に対する運動療法</p> <p>【key words】 負荷量、抵抗、筋力低下</p> <p>【授業概要】 筋力低下の分類を理解し、その原因を判断することができる。次に、筋力低下が認められる筋に対して運動療法が立案することができ、その運動を学生間で実施することができ、運動指導からリスク管理までを学ぶ。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 文光堂：P221～228。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第13回	<p>運動療法による持久力の維持と改善</p> <p>【key words】 心拍数、運動</p> <p>【授業概要】 持久力の概念について理解し、運動負荷試験と運動処方が実施できる。</p>

	<p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P110～120。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。 運動療法による筋持久力練習 【key words】 超回復、筋持久力 【授業概要】 筋持久力増強訓練のプログラム作成上の注意点を理解し、実際にプログラムを立案する。</p> <p>実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P189～196。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。 障害別機能（統合）訓練 対麻痺・四肢麻痺に対しての実際 【key words】 四肢麻痺、対麻痺 【授業概要】 対麻痺・四肢麻痺者の日常生活での基本動作は、受傷前の運動様式とは異なり、動作の習得には時間を要す。また、対麻痺・四肢麻痺者がADLを最大限に自立するためには、ベッドから起き上がり、座位となり、車いす上で安定した座位を保持することが望まれる。学生は実際に背臥位から起き上がり、起き上がりから座位、座位から車いすへの移乗、車いす操作までの動作が自ら可能となり、これらの動作を指導できることを目標とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P353～374実技。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	服装指定：Tシャツ+ハーフパンツ（防寒対策は認めます） 学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。 解剖学、運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	シヤトルカード方式
授業外時間にかかわる 情報	復習学習：技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	第1回～第5回までレポート30%、第6回～第10回まで小テスト30%、第11回～第14回まで小テスト、第15回レポート10%の総合評価にて判定）。60%に達していない場合は課題対象となります。
教科書	細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト、南江堂、2010、第1回、第4回、第5回、第7回、第8回、第9回、第10回、第11回、第13回、第15回
参考書	柳澤 健：理学療法学ゴールド・マスター・テキスト運動療法学、MEDICALVIEW、2010 第2回、第3回、第14回時に使用 市橋則明：運動療法学（障害別アプローチの理論と実際、文光堂、2015 第6回、第12回時に使用
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）

	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）<input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施<input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<input checked="" type="checkbox"/>その他 その他の具体的内容
--	--

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 運動療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびそれぞれの実習より学んだ各種運動療法の知識と技術を応用し、高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）についての理解を深める。</p> <p>[到達目標] ①高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べることができる。 ②高齢者の身体機能の特性について述べるができる。 ③高齢者にみられやすい併存疾患の管理・リスク管理を説明できる。 ④高齢者に多い問題への対応を説明できる。 ⑤高齢者に対する理学療法のエビデンスについて説明できる。</p>		
授業の概要	加齢による身体機能・精神機能が変化した高齢者の特性を知り、併存疾患の管理やリスク管理について理解する。また、理学療法士として高齢者に多い問題にどのように対応するか、その視点を学ぶ。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、超高齢社会、日本の現状と課題</p> <p>【key words】 超高齢社会</p> <p>【授業概要】 超高齢社会である日本の現状と課題について理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/index.asp わが国の高齢者を取り巻く環境について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと）</p>	
	第2回	<p>高齢者の定義と認知・身体機能特性</p> <p>【key words】 高齢者の定義</p> <p>【授業概要】 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を口頭で述べられるように知識の整理をして授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>	

第3回	<p>認知症の定義と分類、認知症の症状と評価</p> <p>【key words】 認知症の定義 【授業概要】 認知症の定義と分類、認知機能低下について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の定義と分類を調べて、答えられるように準備して授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第4回	<p>認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入</p> <p>【key words】 認知症の行動・心理症状 【授業概要】 認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の症状と行動について調べて、授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第5回	<p>認知症に対するリハビリテーション 非薬物療法としての理学療法</p> <p>【key words】 認知症の非薬物療法 【授業概要】 認知症の非薬物療法としての理学療法のあり方を理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の非薬物療法について調べて、授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第6回	<p>高齢者のリハビリテーション ～医薬品による影響～</p> <p>【key words】 医薬品による影響 【授業概要】 リハビリにおける医薬品による影響について理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本睡眠学会ホームページ http://jssr.jp/ 催眠鎮静剤、抗不安薬を服用中のリハビリ対象者に対しどのようなリスク管理が重要かを説明できるようにして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第7回	<p>高齢者のリハビリテーション ～低栄養・褥瘡～</p> <p>【key words】 低栄養・褥瘡 【授業概要】 高齢者に多い低栄養について、情報収集からの把握と、管理や関わり（褥瘡予防を含む）について理解する。 日本リハビリテーション栄養研究会ホームページ https://sites.google.com/site/rehabnutrition/ 日本理学療法士学会 栄養・嚥下理学療法部門ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jsptns/ 一般社団法人日本褥瘡学会ホームページ http://www.jspu.org/ 低栄養、褥瘡の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第8回	<p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～排尿・排便障害～ 【key words】 排尿・排便障害 【授業概要】 高齢者に多い排尿・排便障害に対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本理学療法士学会 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jsptns/ 正常な排尿・排便機能について口頭で説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第9回	<p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～ロコモティブ・シンドローム～ 【key words】 ロコモティブ・シンドローム 【授業概要】 ロコモティブ・シンドロームに対する評価と介入方法を理解する。 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 一般社団法人日本運動器科学会ホームページ http://www.jsmr.org/locomotive_syndrome.html ロコモティブ・シンドロームの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第10回	<p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～サルコペニア～ 【key words】 サルコペニア 【授業概要】 サルコペニアに対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ サルコペニアの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第11回	<p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～フレイル～ 【key words】 フレイル 【授業概要】 フレイルに対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ フレイルの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第12回	<p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～主観的幸福感・Quality of Life (QOL)～ 【key words】 主観的幸福感・Quality of Life (QOL) 【授業概要】 高齢者の主観的幸福感・Quality of Life (QOL)を理解する。 内閣府 経済社会総合研究所ホームページ http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html 高齢者の主観的幸福感・Quality of Life (QOL)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD)～ 【key words】 介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD) 【授業概要】 介護者教育・看取り・Quality of Deth (QOD)を理解する。 財務省財務総合政策研究所ホームページ https://www.mof.go.jp/pri/research/conference/zk102.html 厚生労働省「人生会議」してみませんか https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html 看取り・Quality of Deth (QOD)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 第14回 高齢者のリハビリテーション ～介護予防・ヘルスプロモーション～ 【key words】 ヘルスプロモーション 【授業概要】 介護予防・ヘルスプロモーションを理解する。 厚生労働省 健康日本21 (総論) http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/s0.html 厚生労働省 我が国における健康をめぐる施策の変遷 http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-01.pdf 介護予防・ヘルスプロモーションの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する転倒予防プログラムの基礎 (実践方法) を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 第15回 高齢者のリハビリテーション ～科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)～ 【key words】 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) 【授業概要】 高齢者のリハビリテーションを実施する上で、科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)の必要性となることを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	【受講生に関する情報】 ①予習・復習は必須である ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境 (PC・タブレット・スマートフォンなど) を整えておくこと。 【受講のルール】 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる 情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分 (その他の曜日については要予約)
評価方法	レポート40% 筆記試験60% 総合評価は、筆記試験の得点が60/100点以上であることが前提となる。
教科書	日本老年医学会 (編) : 健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～、改訂版、メジカルビュー社
参考書	荒井秀典 編集 : フレイルハンドブック - ポケット版 -、ライフ・サイエンス 島田裕之 総編集, 牧迫飛雄馬, 山田実 編 : 高齢者理学療法学、医歯薬出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

<p>具体的な実務経験の内容 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、高齢者のリハビリテーションにおける安全管理（転倒予防など）と介護予防（フレイル予防など）を専門としている。 専門理学療法士（生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。 転倒予防指導士基礎講習会の講師や、ぐんま認知症アカデミー（幹事・書記）なども務める。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input checked="" type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床で担当する機会が多い運動器疾患であるが、その病態を理解した上で、評価からプログラムへと進める考え方が求められる。本講義は関節機能障害、関節外機能障害、関節内外複合障害について学び、EBMを元に実際に治療について説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①関節機能障害について説明できる。 ②関節外機能障害について説明できる。 ③関節内外複合障害について説明できる。 ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。</p>		
授業の概要	<p>「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対する治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。</p>		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 運動器障害とは（運動器障害における基礎：炎症、再生、修復、癒着など） 【key words】 炎症、再生、修復、癒合 【授業概要】 運動器、疼痛、骨運動器障害について学び、どのような疾患があるか挙げる事ができる。また、運動器疾患の特徴を理解した上で説明ができる。特に炎症、再生、修復、癒着についての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P1～15。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>第2回 変形性関節症 ①変形性脊椎症（頸部・腰部） 【key words】 姿勢、感覚、関節可動域制限 【授業概要】 変形性脊椎症の概要を理解し、病的な姿勢や動作について学ぶ。また、実際の理学療法評価と治療について統合と解釈した上で理解を深める。 1. 変形性脊椎症を説明できる。 2. 変形性脊椎症に対し理学療法評価を行い、その問題を抽出することができる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P27～36。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p>		

第3回	<p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P36)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 変形性関節症 ②変形性膝関節症 (保存療法・手術療法)</p> <p>【key words】 立位荷重線、姿勢、内側・外側スラスト</p> <p>【授業概要】 膝OAの発症に関与する要因を理解し、保存療法における理学療法プログラムを立案できる。また、膝OAにおける生涯構造を理解し、病気に応じた治療目的を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気に応じた理学療法の目的を説明できる。 2. 膝OA患者の姿勢とアライメントの特徴を説明できる。 3. 膝OA患者の機能障害を説明できる。 4. 膝OA患者の日常生活障害について説明できる。 5. 保存療法として理学療法プログラムを作成できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P37～46。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p>
第4回	<p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P46、65、76)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 変形性関節症 ③変形性股関節症 (保存療法)</p> <p>【key words】 歩行能力、転倒、合併症</p> <p>【授業概要】 高齢者の特性と膝OAの障害像を理解したうえで、理学療法評価と治療プログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢膝OA患者に対する理学療法の目的を説明できる。 2. 高齢膝OA患者のリスクについて説明できる。 3. 高齢膝OA患者に対する治療内容について説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P67～76。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p>
第5回	<p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P76)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 変形性関節症 ④変形性股関節症 (手術療法)</p> <p>【key words】 合併症、疼痛、筋力、関節可動域</p> <p>【授業概要】 膝OAに対する各手術療法について理解を深め、理学療法評価およびプログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各手術療法の適応と特徴を説明できる。 2. 術前および術後理学療法評価項目を列挙、方法を説明できる。 3. 術前および術後理学療法評価項目を列挙し、方法を説明できる。 4. 術後合併症を列挙し、症状および予防・対処法を説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P47～65。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p>
第6回	<p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P86)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 関節構造に由来する障害 動揺関節、関節不安定性</p> <p>【key words】 関節安定化機構、関節深層筋、関節のメカノレプター、神経-筋協調性</p> <p>【授業概要】 第1回～第5回までの範囲でテストを実施する。 各関節における不安定性の病態を理解し、必要な評価および治療プログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関節不安定性の原因について説明できる。 2. 各関節における不安適正の特徴を説明できる。 3. 各関節における不安定性テストをあげることができる。 4. 全身関節弛緩性の評価が実施できる。 5. 関節不安定性に対する運動療法を立案できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P127～136。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p>
第7回	<p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P136)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 骨性障害 ①大腿骨頸部骨折、転子部骨折 (術前)</p> <p>【key words】 転倒、高齢者、大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>大腿骨頸部骨折および転子部骨折における障害と術前のリスク管理を理解し、整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大腿骨頸部・転子部骨折による二次的合併症を説明できる。 2. 人工骨頭置換術後の脱臼の原因を説明できる。 3. 骨接合術、人工物置換術後のリスクとその予防法を説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P149～156。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P156)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>第8回 骨性障害 ②大腿骨頸部骨折、転子部骨折 (術後)</p> <p>【key words】 関節応力、姿勢、バランス</p> <p>【授業概要】 大腿骨頸部骨折および転子部骨折における障害と術後のリスク管理を理解し、整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回復期における理学療法の目的を説明できる。 2. 大腿骨頸部骨折の理学療法におけるリスクについて述べるができる。 3. 高齢者に特徴的な姿勢を説明できる。 4. 諸動作における股関節骨頭応力について説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P157～166。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P165)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
	<p>第9回 骨性障害 ③大腿骨頸部骨折、転子部骨折 (高齢者プログラム)</p> <p>【key words】 バイタルサイン、DVT、起立性低血圧</p> <p>【授業概要】 大腿骨頸部骨折術後の回復期における理学療法プログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢患者に対する理学療法の目的を説明できる。 2. 高齢患者のリスクについて説明できる。
	<p>第10回 骨性障害 ⑤脊椎の骨折</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P167～176。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P176)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>【key words】 脱臼骨折、圧迫骨折、姿勢、アライメント</p> <p>【授業概要】 脊椎骨折後の障害の特徴を理解し、運動学的考察に裏づけられた治療目標と理学療法プログラムが立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胸腰椎の脱臼骨折と圧迫骨折の発生メカニズムの違いが説明できる。 2. 病気に応じた理学療法の目的を説明できる。 3. 姿勢異常の特徴が説明できる。
	<p>第11回 筋・軟部組織性障害 ①肩関節周囲炎・筋断裂</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P197～206。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P206)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>【key words】 肩鎖関節、胸鎖関節、肩甲胸郭関節、第2肩関節</p> <p>【授業概要】 第6回～第10回までの範囲でテストを実施する。 肩関節周囲炎の概念、特徴ならびに病態像から、その原因となる部位を理解する。 筋断裂やアキレス腱断裂の特徴を理解し、組織の修復過程に応じた治療を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気に応じた理学療法の目的を説明できる。 2. 肩関節複合体のそれぞれの働きについて述べるができる。 3. 肩関節の運動における腱板の働きについて説明できる。 4. 脊柱のアライメント変化が肩関節に及ぼす影響について説明できる。 5. 疾患の概要と障害像を結びつけることができる。

	<p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P217～236。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P225、P236）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>第12回 関節軟部組織性障害 ①前十字靭帯</p> <p>【key words】 4節リンク機構、終末強制回旋運動</p> <p>【授業概要】 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転や分類を理解して、整形外科的治療の概略を説明できる。また、靭帯損傷、半月板損傷の運動学的考察に裏づけられた理学療法プログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ACL、PCLの機能解剖について理解し、説明できる。 2. ACL損傷、PCL損傷の受傷機転を説明できる。 3. ACL損傷、PCL損傷に対する理学療法の目的が説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P97～105。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P105）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
	<p>第13回 関節軟部組織性障害 ②前十字靭帯</p> <p>【key words】 関節運動の制動機構、半月板、靭帯</p> <p>【授業概要】 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転や分類を理解して、整形外科的治療の概略を説明できる。また、靭帯損傷、半月板損傷の運動学的考察に裏づけられた理学療法プログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転を説明することができる。 2. 靭帯損傷、半月板損傷の分類を説明することができる。 3. 靭帯、半月板の基本的な構造を説明することができる。 4. メカノレセプターとは何か説明することができる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P87～96。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
	<p>第14回 関節軟部組織性障害②膝内側側副靭帯、半月板および足関節外側側副靭帯損傷</p> <p>【key words】 大腿脛骨角、終末強制回旋運動、伸展不全</p> <p>【授業概要】 膝内側側副靭帯、半月板および足関節外側側副靭帯損傷の概略を理解し、理学療法評価の想起、プログラムを立案する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 損傷組織の構造的特徴を説明できる。 2. 受傷機転を運動学的に説明できる。 3. 疾患から想起できる検査項目を説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P107～116。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P116）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
	<p>第15回 複合障害 ①関節リウマチ</p> <p>【key words】 全身症状、関節症状</p> <p>【授業概要】 関節リウマチの病態を理解し、関節リウマチの複合的障害を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特有な関節症状と関節外症状を説明できる。 2. 特有な機能障害と腫脹、疼痛、関節制限、筋力低下との関連から説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P277～296。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P286、P296）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>

受講生に関わる情報 および受講のルール	[受講生にかかわる情報]および[受講のルール] ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨んでください。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁とします。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないでください。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもあります。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	ノートを用意して、授業内で説明したことをまとめてください。また、配布資料を用いてわからない用語は意味を調べておいてください。
オフィスアワー	木曜日の16時30分～17時30分
評価方法	筆記試験100%（第1回～第5回まで30%、第6回～第10回まで30%、第11回～第15回40%の総合評価にて判定）。筆記試験が60%に達していない場合は再試験対象とします。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂 PT臨床実習ルートマップ MEDICALVIEW
参考書	授業内に随時紹介します。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。</p> <p>[到達目標] ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。 ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。 ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。</p>		
授業の概要	中枢神経障害を呈する代表的疾患に対しての基本的な理学療法の進め方について学ぶ。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、神経系についての概要 【key words】 到達目標、神経系、神経細胞、神経線維 【授業概要】 ①科目オリエンテーション ・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス ②神経系についての概要 ・神経系の分類について理解 ・神経細胞、中枢神経系の解剖・生理について理解 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50 神経筋障害理学療法学テキスト：P1-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 1、2年生で学んだ神経系についての解剖学、生理学を中心に予習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 脳血管障害に対する理学療法①：脳卒中とその回復について 【key words】 脳卒中、機能局在、回復ステージ理論 【授業概要】 ①脳卒中についての概要 ・脳卒中の病態、症状等の概要が理解できる ・中枢神経系の解剖、生理と脳卒中を関連付けて説明できる ②脳卒中における神経系の回復について ・脳卒中が脳に与える影響が理解できる ・脳卒中による脳損傷の回復について理解できる ・運動麻痺回復ステージ理論について説明できる 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50 神経筋障害理学療法学テキスト：P15-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回をしっかりと復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第3回 脳血管障害に対する理学療法②：運動麻痺について 【key words】</p>		

	<p>運動麻痺、錐体路、機能局在、ブルンストロームステージ</p> <p>【授業概要】</p> <p>①運動麻痺についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動麻痺の定義、メカニズムが理解できる ・運動麻痺の定義、メカニズムより評価、アプローチ方法を説明できる ・ブルンストロームステージの評価意義を理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50 神経筋障害理学療法学テキスト：P1-13、P45-46</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>特に第1回の中樞神経系の解剖、生理について復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>脳血管障害に対する理学療法③：異常筋緊張について</p> <p>【key words】</p> <p>筋緊張、伸張反射、筋紡錘、錐体外路</p> <p>【授業概要】</p> <p>①異常筋緊張についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異常筋緊張の定義、メカニズムが理解できる ・異常筋緊張の定義、メカニズムより評価、アプローチ方法を説明できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P176-177、P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50、P62-64 神経筋障害理学療法学テキスト：P47</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>伸張反射に関与する解剖、伸張反射のメカニズムについてしっかり復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>脳血管障害に対する理学療法④：感覚障害について</p> <p>【key words】</p> <p>上行路、機能局在、感覚・知覚・認知</p> <p>【授業概要】</p> <p>①感覚についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚の種類、経路について理解できる ・感覚の定義、メカニズムが理解できる ・感覚の定義、メカニズムより感覚障害の評価、アプローチ方法を説明できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P71-85 神経筋障害理学療法学テキスト：P47-48</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>感覚経路についてしっかり復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>脳血管障害に対する理学療法⑤：意識障害と高次脳機能障害について</p> <p>【key words】</p> <p>意識障害、JCS、高次脳機能、感覚・知覚・認知、半側空間無視、pusher現象、連合野</p> <p>【授業概要】</p> <p>①意識障害についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識についての定義が理解できる ・意識についてのメカニズムが理解できる ・意識のメカニズムより意識障害の評価、アプローチ方法が説明できる <p>②高次脳機能障害についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識と高次脳機能の関係性が理解できる ・高次脳機能の定義、メカニズムが理解できる ・半側空間無視、pusher現象のメカニズムを理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P34、P87-88、P165-173</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>意識障害の評価について復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>脳血管障害に対する理学療法⑥：失調・姿勢バランスについて 脳卒中におけるリスク管理</p> <p>【key words】</p> <p>失調、小脳、姿勢バランス、姿勢制御、リスク管理</p> <p>【授業概要】</p> <p>①脳卒中における運動失調の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動制御のメカニズムを理解できる ・運動失調の現象、メカニズムを理解できる ・運動制御のメカニズムより運動失調を評価、アプローチ方法が説明できる <p>②姿勢バランスの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢調整のメカニズムを理解できる ・姿勢制御のメカニズムよりバランスの評価を解釈できる <p>③脳卒中におけるリスク管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中におけるリスクとその原因を理解できる ・原因の理解より脳卒中におけるリスク管理が理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P34-37、P43-45、P177-204</p>

第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経筋障害理学療法学テキストP177 - 204を読み、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 歩行について①</p> <p>【key words】 正常歩行、歩行周期、倒立振り子、二重振り子、重心移動、随意歩行、自動歩行、CPG 【授業概要】 ①歩行について ・正常歩行の相分けを理解できる ・正常歩行における筋活動を理解できる ・倒立振り子、二重振り子の原理を理解できる ・ロッカーファンクションについて理解できる ・随意歩行と自動歩行が理解できる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P358-370 臨床運動学：P57-66 動作分析臨床活用講座：P168-202</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 1、2年生で学んだ歩行の範囲をよく復習して、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 歩行について②</p> <p>【key words】 重心移動、片麻痺、異常歩行 【授業概要】 ①脳卒中片麻痺患者の歩行について ・正常歩行との重心移動の違いを理解できる ・歩行における片麻痺患者特有の現象のメカニズムを理解できる ・体験を通して異常歩行の理解を深める ・片麻痺患者における歩行への介入について理解できる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P358-370 臨床運動学：P57-66 動作分析臨床活用講座：P168-202</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8回の授業内容をしっかり復習して、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 ケーススタディ①</p> <p>【key words】 ケーススタディ、脳卒中 【授業概要】 ①ケースについてグループディスカッション ・カルテ情報の処理、解釈ができる ・必要な評価項目を挙げられる ・アプローチ方法を挙げられる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回～第9回までの授業内容をしっかり復習して、グループディスカッションに臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 ケーススタディ②</p> <p>【key words】 ケーススタディ、脳卒中 【授業概要】 ①ケースのディスカッション内容の発表 ・ディスカッション内容を整理して伝えることができる ・発表内容に対して疑問を持ち、意見できる ・発表内容より自らの不足していた思考を考察できる ②理学療法の進め方の概要 ・情報収集、理学療法評価の進め方を理解できる ・問題点抽出、目標設定について理解できる ・関連図と統合・解釈の関係性を理解できる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ発表に意見し、理学療法介入に対する思考の進め方を深めること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 パーキンソン病について</p> <p>【key words】 パーキンソン病、大脳基底核、錐体外路、ドパミン、Hoehn & Yahrの重症度分類 【授業概要】 ①パーキンソン病についての概要 ・パーキンソン病の病態生理が理解できる ・パーキンソン病の重症分類について理解できる ・パーキンソン病の症状について理解できる ・パーキンソン病の病態生理、症状よりアプローチ方法が説明できる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P205-231</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 2年生で学んだパーキンソン病についての範囲を復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第13回 脊髄損傷について① 【key words】 脊髄、上行路、下行路 【授業概要】 ①脊髄損傷の概要について ・脊髄の解剖の理解ができる ・解剖の理解より脊髄損傷の病態が理解できる 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P269-413</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 中枢神経系神経系の解剖を復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 脊髄損傷について② 【key words】 脊髄損傷、リスク管理、合併症 【授業概要】 ①脊髄損傷患者のアプローチについて ・損傷高位ごとの病態を理解できる ・損傷高位ごとの病態を理解よりアプローチを考察できる ・脊髄損傷患者のリスク管理について説明できる 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P269-413</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第13回の授業内容をしっかり復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 まとめ 【key words】 脳卒中、パーキンソン病、脊髄損傷 【授業概要】 脳卒中、パーキンソン病、脊髄損傷についての国試問題を解く 国試問題より疑問点を抽出し、各疾患の理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 全14回を復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] 授業概要・シラバスを毎回確認して受講に臨むこと [受講ルール] ・課題・予習・復習を怠らないこと ・講義の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用、ガムを噛む等）は厳禁とする。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	難易度は高めであっても臨床では普通に要求される内容であり、理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと 課題等の出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある
オフィスアワー	木曜日16時00分～
評価方法	筆記試験（客観）60%、課題シート40%の総合評価にて判定する。 筆記試験は、授業最終回に30分間で実施予定。 課題シート[内容4点、考察4点、文献2点 なお、考察には必ず引用文献を用いること。]
教科書	細田多穂・監修：神経筋障害理学療法学テキスト，南江堂，2018 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学，医学書院，2018 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，医学書院，2018 細田多穂・監修：運動学テキスト 改定第2版，南江堂，2015 石川朗，種村留美・編集：臨床運動学，中山書店，2018 石井慎一郎・編著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践，メジカルビュー社，2019
参考書	脳卒中理学療法の理論と技術 第2版，メジカルビュー，2013 石川 齊ら・編：凶解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 福井 罔彦ら・編：脳卒中最前線第4版，医歯薬出版，2009 中島雅美ら：PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版，医歯薬出版，2016 千田 富義ら・編：脳卒中（リハ実践テクニック），メジカルビュー2017 潮見 泰藏：編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版，文光堂，2017 武田 功・編

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、急性期病院で2年間、回復期病院で中枢神経疾患を中心に3年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
--------------------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法技術論Ⅱを理解した上での科目となる。そのため、各疾患における治療プログラムの立案から実際の理学療法までについて実技を中心に行う。</p> <p>[到達目標] ①関節機能障害について説明できる。 ②関節外機能障害について説明できる。 ③関節内外複合障害について説明できる。 ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。</p>
授業の概要	「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対する治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。また、実際に実技を通して流れについても理解する。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー（DP）との関係	
◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 理学療法介入の目的(理学療法の一般的介入アプローチ)</p> <p>【key words】 筋収縮、物理療法、運動連鎖</p> <p>【授業概要】 等尺性収縮、荷重、筋力強化、物理療法理学療法の一般的な介入アプローチについて紹介し、実技を通して筋収縮様式を考慮したもの、荷重感覚、開放性運動連鎖、閉鎖性運動連鎖、筋力強化について実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P8～15。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること(重要事項に関しては教科書にマーキングをすること)。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>第2回 変形性関節症 ①変形性脊椎症(頸部・腰部の理学療法プログラム)</p> <p>【key words】 椎間板ヘルニア、姿勢</p> <p>【授業概要】 変形性脊椎症の一般的な介入アプローチについて紹介し、なぜそれらのアプローチが必要か考察する。アプローチの具体的な意味を理解した上で評価し、アプローチ後との比較のため再評価する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P27～36。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること(重要事項に関しては教科書にマーキングをすること)。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p>
------	--

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 変形性関節症 ②変形性膝関節症（保存療法・手術療法の実際）</p> <p>【key words】 O脚、X脚、疼痛</p> <p>【授業概要】 変形性膝関節症に対しての保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P41～46、P52～56。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第4回	<p>変形性関節症 ③変形性股関節症（保存療法の実際）</p> <p>【key words】 疼痛、脚長差、関節可動域制限</p> <p>【授業概要】 変形性股関節症に対しての保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。また、リスク管理の大切さを熟知する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P73～76。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第5回	<p>変形性関節症 ④変形性股関節症（手術療法の実際）</p> <p>【key words】 THA、脱臼肢位、荷重、日常生活動作</p> <p>【授業概要】 変形性股関節症に対しての保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。また、リスク管理の大切さを熟知する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P81～86。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第6回	<p>関節構造に由来する障害 動揺関節、関節不安定性の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 深部筋、浅層筋、筋力強化、運動</p> <p>【授業概要】 第1回～第6回までの範囲でテストを行う。 個別の筋機能改善エクササイズと神経一筋協調性改善エクササイズを実際に体験し、エクササイズ前後の身体アライメント変化を評価する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P133～136。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第7回	<p>骨性障害 ①大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術前の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 疼痛、脚長差、合併症</p> <p>【授業概要】 外科的治療法別に術前・術後理学療法プログラムが立案できる。また、術後免荷期、部分荷重期、全荷重期別の理学療法プログラムが立案できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P153～156。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>

第8回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 骨性障害 ②大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術後の理学療法プログラム 【key words】 荷重時期、疼痛、歩行、日常生活動作 【授業概要】 第1回～第7回までの範囲で小テストを行う。</p> <p>外科的治療法別に術前・術後理学療法プログラムが立案できる。また、術後免荷期、部分荷重期、全荷重期別の理学療法プログラムが立案できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P160～165。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第9回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 骨性障害 ③大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術後回復期の理学療法プログラム 【key words】 日常生活動作、基本動作、疼痛 【授業概要】 術後のADLの手順、注意点を説明でき、身体レベルに応じたホームプログラムを作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P170～176。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第10回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 骨性障害 ④脊椎の骨折の理学療法プログラム 【key words】 疼痛、装具療法、歩行、日常生活動作 【授業概要】 各回復期（急性期、回復期、維持期）を通して注意することと、生活指導を含めたホームプログラムを作成。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P203～206。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第11回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 筋・軟部組織性障害 肩関節周囲炎・肩板損傷の理学療法プログラム 【key words】 疼痛、姿勢、インナーマッスル 【授業概要】 第6回～第10回までの範囲でテストを行う。 肩関節周囲炎と筋断裂・アキレス腱断裂に対しての理学療法プログラムを評価結果から解釈し、日常生活指導を含む予防的観点からのホームプログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 肩関節周囲炎P222～224、P233～236。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>
第12回	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 関節軟部組織性障害 ①前十字靭帯損傷の理学療法プログラム 【key words】 膝崩れ、疼痛、不安感 【授業概要】 物理療法学で学んだRICE処置から各種回復時期に合わせた理学療法プログラムについて実技を通して学ぶことと、リスク管理について説明できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P93～96、P102～105。</p>

<p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 関節軟部組織性障害 ②前十字靭帯損傷の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 筋力強化、関節可動域訓練、疼痛 【授業概要】 物理療法学で学んだRICE処置から各種回復時期に合わせた理学療法プログラムについて実技を通して学ぶことと、リスク管理について説明できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P102～105。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 関節軟部組織性障害 ③膝内側側副靭帯、半月版および足関節外側側副靭帯損傷の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 疼痛、過重、関節可動域訓練 【授業概要】 特徴的な障害に対して、具体的なプログラムを立案でき、再発予防のポイントを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P112～116。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 複合障害 ①関節リウマチの理学療法プログラム</p> <p>【key words】 疼痛、日常生活動作、自助具 【授業概要】 特有な機能障害を腫脹、疼痛、関節制限、筋力低下との関連を理解し、理学療法プログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P288～296。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>服装指定：Tシャツ+ハーフパンツ（防寒対策は認めます） 学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。</p> <p>解剖学，運動学の知識を理解していることが前提となります。 不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>ノートを用意して、授業内で説明したことをまとめてください。また、配布資料を用いてわからない用語は意味を調べておいてください。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日の16時30分～17時30分</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験100%（第1回～第5回まで30%、第6回～第10回まで30%、第11回～第15回40%の総合評価にて判定）。筆記試験が60%に達していない場合は再試験対象とします。</p>
<p>教科書</p>	<p>シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂 PT臨床実習ルートマップ MEDICALVIEW</p>
<p>参考書</p>	<p>授業内に随時紹介します。</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。</p>

	<p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。</p> <p>[到達目標] ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。 ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。 ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。</p>
授業の概要	疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを実践する。

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、神経系についての概要 【key words】 到達目標、神経系、神経細胞、神経線維 【授業概要】 ①科目オリエンテーション ・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス ②神経系についての概要 ・神経系の分類について理解 ・神経細胞、中枢神経系の解剖・生理について理解 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50 神経筋障害理学療法学テキスト：P1-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 1、2年生で学んだ神経系についての解剖学、生理学を中心に予習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 脳血管障害に対する理学療法①：脳卒中とその回復について 【key words】 脳卒中、機能局在、回復ステージ理論 【授業概要】 ①脳卒中についての概要 ・脳卒中の病態、症状等の概要が理解できる ・中枢神経系の解剖、生理と脳卒中を関連付けて説明できる ②脳卒中における神経系の回復について ・脳卒中が脳に与える影響が理解できる ・脳卒中による脳損傷の回復について理解できる ・運動麻痺回復ステージ理論について説明できる 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50 神経筋障害理学療法学テキスト：P15-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回をしっかりと復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第3回 脳血管障害に対する理学療法②：運動麻痺について 【key words】</p>
------	--

	<p>運動麻痺、錐体路、機能局在、ブルンストロームステージ</p> <p>【授業概要】</p> <p>①運動麻痺についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動麻痺の定義、メカニズムが理解できる ・運動麻痺の定義、メカニズムより評価、アプローチ方法を説明できる ・ブルンストロームステージの評価意義を理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50 神経筋障害理学療法学テキスト：P1-13、P45-46</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>特に第1回の中樞神経系の解剖、生理について復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>脳血管障害に対する理学療法③：異常筋緊張について</p> <p>【key words】</p> <p>筋緊張、伸張反射、筋紡錘、錐体外路</p> <p>【授業概要】</p> <p>①異常筋緊張についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異常筋緊張の定義、メカニズムが理解できる ・異常筋緊張の定義、メカニズムより評価、アプローチ方法を説明できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P176-177、P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P21-50、P62-64 神経筋障害理学療法学テキスト：P47</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>伸張反射に関与する解剖、伸張反射のメカニズムについてしっかり復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>脳血管障害に対する理学療法④：感覚障害について</p> <p>【key words】</p> <p>上行路、機能局在、感覚・知覚・認知</p> <p>【授業概要】</p> <p>①感覚についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚の種類、経路について理解できる ・感覚の定義、メカニズムが理解できる ・感覚の定義、メカニズムより感覚障害の評価、アプローチ方法を説明できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学：P71-85 神経筋障害理学療法学テキスト：P47-48</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>感覚経路についてしっかり復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>脳血管障害に対する理学療法⑤：意識障害と高次脳機能障害について</p> <p>【key words】</p> <p>意識障害、JCS、高次脳機能、感覚・知覚・認知、半側空間無視、pusher現象、連合野</p> <p>【授業概要】</p> <p>①意識障害についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識についての定義が理解できる ・意識についてのメカニズムが理解できる ・意識のメカニズムより意識障害の評価、アプローチ方法が説明できる <p>②高次脳機能障害についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識と高次脳機能の関係性が理解できる ・高次脳機能の定義、メカニズムが理解できる ・半側空間無視、pusher現象のメカニズムを理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P34、P87-88、P165-173</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>意識障害の評価について復習し、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>脳血管障害に対する理学療法⑥：失調・姿勢バランスについて 脳卒中におけるリスク管理</p> <p>【key words】</p> <p>失調、小脳、姿勢バランス、姿勢制御、リスク管理</p> <p>【授業概要】</p> <p>①脳卒中における運動失調の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動制御のメカニズムを理解できる ・運動失調の現象、メカニズムを理解できる ・運動制御のメカニズムより運動失調を評価、アプローチ方法が説明できる <p>②姿勢バランスの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢調整のメカニズムを理解できる ・姿勢制御のメカニズムよりバランスの評価を解釈できる <p>③脳卒中におけるリスク管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中におけるリスクとその原因を理解できる ・原因の理解より脳卒中におけるリスク管理が理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P34-37、P43-45、P177-204</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>神経筋障害理学療法学テキストP177-204を読み、授業に臨むこと</p>

第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>脳卒中患者のADLに対する介入について</p> <p>【key words】 片麻痺、起き上がり動作、移乗動作、階段昇降、入力動作、車椅子操作</p> <p>【授業概要】 ①脳卒中患者のADLに対する介入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中患者の病態生理よりADLにおける問題点を抽出できる ・片麻痺患者の起き上がり動作についての介入を考察できる ・片麻痺患者の移乗動作についての介入を考察できる ・片麻痺患者の階段昇降についての介入を考察できる ・片麻痺患者の入浴動作についての介入を考察できる ・片麻痺患者の車椅子操作についての介入を考察できる <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P125-150</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経筋障害理学療法学テキストP125-150を読み、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第9回	<p>歩行について</p> <p>【key words】 重心移動、片麻痺、異常歩行</p> <p>【授業概要】 ①脳卒中片麻痺患者の歩行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常歩行との重心移動の違いを理解できる ・歩行における片麻痺患者特有の現象のメカニズムを理解できる ・体験を通して異常歩行の理解を深める ・片麻痺患者における歩行への介入について理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P358-370 臨床運動学：P57-66 動作分析臨床活用講座：P168-202</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8回の授業内容をしっかり復習して、授業に臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第10回	<p>ケーススタディ①</p> <p>【key words】 ケーススタディ、脳卒中</p> <p>【授業概要】 ①ケースについてグループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルテ情報の処理、解釈ができる ・必要な評価項目を挙げられる ・アプローチ方法を挙げられる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回～第9回までの授業内容をしっかり復習して、グループディスカッションに臨むこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第11回	<p>ケーススタディ②</p> <p>【key words】 ケーススタディ、脳卒中</p> <p>【授業概要】 ①ケースのディスカッション内容の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション内容を整理して伝えることができる ・発表内容に対して疑問を持ち、意見できる ・発表内容より自らの不足していた思考を考察できる <p>②理学療法の進め方の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集、理学療法評価の進め方を理解できる ・問題点抽出、目標設定について理解できる ・関連図と統合・解釈の関係性を理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ発表に意見し、理学療法介入に対する思考の進め方を深めること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第12回	<p>パーキンソン病について</p> <p>【key words】 パーキンソン病、大脳基底核、錐体外路、ドパミン、Hoehn & Yahrの重症度分類</p> <p>【授業概要】 ①パーキンソン病についての概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病の病態生理が理解できる ・パーキンソン病の重症分類について理解できる ・パーキンソン病の症状について理解できる ・パーキンソン病の病態生理、症状よりアプローチ方法が説明できる <p>【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P205-231</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 2年生で学んだパーキンソン病についての範囲を復習し、授業に臨むこと</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第13回 脊髄損傷について① 【key words】 脊髄、上行路、下行路 【授業概要】 ①脊髄損傷の概要について ・脊髄の解剖の理解ができる ・解剖の理解より脊髄損傷の病態が理解できる 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P269-413</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 中枢神経系神経系の解剖を復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 脊髄損傷について② 【key words】 脊髄損傷、リスク管理、合併症 【授業概要】 ①脊髄損傷患者のアプローチについて ・損傷高位ごとの病態を理解できる ・損傷高位ごとの病態を理解よりアプローチを考察できる ・脊髄損傷患者のリスク管理について説明できる 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学：P239-338 神経筋障害理学療法学テキスト：P269-413 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 まとめ 【key words】 脳卒中、パーキンソン病、脊髄損傷 【授業概要】 脳卒中、パーキンソン病、脊髄損傷についての国試問題を解く 国試問題より疑問点を抽出し、各疾患の理解を深める 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第14回を復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] 授業概要・シラバスを毎回確認して受講に臨むこと [受講ルール] ・課題・予習・復習を怠らないこと ・講義の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用、ガムを噛む等）は厳禁とする。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>治療技術の会得は繰り返しの練習が必要となる。時間外でも質問は随時受け付ける。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日16時00分～</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（客観）60%、課題シート40%の総合評価にて判定する。 筆記試験は、授業最終回に30分間で実施予定。 課題シート[内容6点、考察4点、なお、考察には必ず引用文献を用いること。]</p>
<p>教科書</p>	<p>細田多穂・監修：神経筋障害理学療法学テキスト，南江堂，2018 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学，医学書院，2018 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，医学書院，2018 細田多穂・監修：運動学テキスト 改定第2版，南江堂，2015 石川朗，種村留美・編集：臨床運動学，中山書店，2018 石井慎一郎・編著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践，メジカルビュー社，2019</p>
<p>参考書</p>	<p>脳卒中理学療法の理論と技術 第2版，メジカルビュー，2013 石川 齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 福井 園彦ら・編：脳卒中最前線第4版，医歯薬出版，2009 中島雅美ら：PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版，医歯薬出版，2016 千田 富義ら・編：脳卒中（リハ実践テクニック），メジカルビュー2017 潮見 泰藏：編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版，文光堂，2017 武田 功・編</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士として、急性期病院で2年間、回復期病院で中枢神経疾患を中心に3年間の実務経験を</p>

	<p>生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
新谷益巳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] スポーツ理学療法についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的なサポートについて経験する。</p> <p>[達成目標] ①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。 ②スポーツ現場における理学療法の役割について説明ができる。 ③スポーツ外傷と障害の違いについて明確に理解し、各疾患における対応方法について説明ができる。</p>		
授業の概要	解剖学、運動学、評価学の学習を基に、スポーツ理学療法で必要な知識と技術を学ぶ。		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>スポーツ障害の疫学と理学療法評価</p> <p>【key words】 障害、傷害</p> <p>【授業概要】 障害、傷害スポーツ障害とスポーツ傷害の違いについて理解し、それぞれの特徴について理解する。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>	
	第2回	<p>スポーツ外傷発生時の対応と応急処置</p> <p>【key words】 RICE、傷害、障害</p> <p>【授業概要】 各スポーツ傷害について、疾患の特徴をそれぞれ説明し、アライメント不良による問題点について学ぶ。予防可能な理学療法について紹介する。</p> <p>配布資料解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>	
	第3回	<p>スポーツ障害の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 術前理学療法、術後理学療法、退院後理学療法</p> <p>【授業概要】 各スポーツ傷害について、疾患の特徴をそれぞれ説明し、発生機序について学ぶ。術後のリハビリから復帰までの関わり合いについて学ぶ。</p>	

	<p>配布資料解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p> <p>第4回 テーピングについて 【key words】 伸縮性、非伸縮性、固定 【授業概要】 テーピングの目的を知り、テーピングの種類・テーピングの巻き方について学び、実際にテーピングを用いて巻くことができるようになる。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>
	<p>第5回 足関節内反捻挫に対するテーピング① アンカー、フォースシュー 【key words】 アンカー、フォースシュー 【授業概要】 足関節内反捻挫に対するテーピングができるようになる。アンカー・フォースシュー・スターアップ・フィギア8・ヒールロックの巻き方を学ぶ。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>
	<p>第6回 足関節内反捻挫に対するテーピング② スターアップ、エイトフィギア 【key words】 スターアップ、エイトフィギア 【授業概要】 足関節内反捻挫に対するテーピングは固定が必要とするケースが多い。そのため、固定を目標にしたテーピングについて学ぶ。</p> <p>前回学んだ事を踏まえて3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>
	<p>第7回 足関節内反捻挫に対するテーピング③ ヒールロック、ダブルヒールロック 【key words】 ヒールロック、ダブルヒールロック 【授業概要】 足関節内反捻挫に対するテーピングは固定が必要とするケースが多い。そのため、固定を目標にしたテーピングについて学ぶ。</p> <p>前回学んだ事を踏まえて3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	<p>第8回 足関節内反捻挫に対するテーピング④ 【key words】 アンカー、ヒールロック、エイトフィギア 【授業概要】 第4回～第7回まで実施してきた内容に対する実技試験 3分以内に巻く実技試験を実施。</p>

	<p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】 授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[服装指定] Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます) [学習方法] 基礎を学びながら、実際に体験して学びます。</p> <p>解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。現場で必要とする技術などについては科目オリエンテーションで説明します。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	実技試験60%、レポート40%。実技試験，ポートフォリオで6割に達していない場合，再試験および再提出とします。
教科書	毎回の授業で資料を配布します。
参考書	スポーツ理学療法 浦辺幸夫(著) 医歯薬出版株式会社 スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション 園部俊晴(著)，運動と医学の出版社
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法士国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 地域リハビリテーションの概念、社会背景、関連制度、施設についての知識を学ぶとともに、地域で生活する対象者を把握するうえで必要な知識を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 ①地域理学療法の概要について説明できる。 ②地域理学療法におけるキャリアラダーについて説明できる。 ③地域理学療法の対象および関連制度について説明できる。</p>		
授業の概要	<p>地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中で理学療法士に何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。法学やリハビリテーション入門、理学療法概論が基礎となり、地域で生活する対象者を取り巻く制度・環境について理解を深める。</p>		
<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項</p>			
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎		
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション 地域リハビリテーション総論</p> <p>【key words】 地域リハビリテーション</p> <p>【授業概要】 科目オリエンテーションとともに、地域リハビリテーションの概念を理解する。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuk 地域リハビリテーション、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, disability and Health) について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分 (予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)</p>	
	第2回	<p>地域理学療法概念</p> <p>【key words】 地域理学療法</p> <p>【授業概要】 地域理学療法概念と、社会からのニーズの高さを理解する。 日本地域理学療法学会ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jscept/ 群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページ http://www.grsc.biz/ 一般社団法人群馬県理学療法士協会ホームページ http://gunma-pt.com/?page_id=182 地域理学療法概念について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>	

第3回	<p>世界の動向とエビデンス</p> <p>【key words】 エビデンス</p> <p>【授業概要】 地域理学療法における、世界の動向とエビデンスについて学ぶ。 地域理学療法診療ガイドライン http://www.japanpt.or.jp/upload/jspt/obj/files/guideline/21_local_physiotherapy.pdf 在宅医療に関するエビデンス https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20150513_01_01.pdf 地域理学療法における、世界の動向とエビデンスに関する知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第4回	<p>地域理学療法におけるキャリアラダー</p> <p>【key words】 キャリアラダー</p> <p>【授業概要】 地域理学療法におけるキャリアラダーを知り、将来の活躍の場を検討する一助とする。 日本地域理学療法学会 生涯学習の流れ http://www.japanpt.or.jp/members/lifelonglearning/flow/ 日本地域理学療法学会 認定・専門理学療法士制度 http://www.japanpt.or.jp/members/lifelonglearning/system/about/ 厚生労働省 介護支援専門員 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakun キャリアラダーについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第5回	<p>医療保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 医療保険制度</p> <p>【授業概要】 医療保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 我が国の医療保険について http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/iryuhoken01/ 日本医師会 ホームページ https://www.med.or.jp/people/what/sh/#no3 医療保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第6回	<p>介護保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 介護保険制度</p> <p>【授業概要】 介護保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 独立行政法人 福祉医療機構 WAM NET (ワムネット) 介護保険制度解説 http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/ 介護保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第7回	<p>介護保険制度下での地域理学療法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 介護保険制度</p> <p>【授業概要】 介護保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 独立行政法人 福祉医療機構 WAM NET (ワムネット) 介護保険制度解説 http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/ 介護保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p>

第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>障害者総合支援法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 障害者総合支援法</p> <p>【授業概要】 障害者総合支援法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 障害者総合支援法 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahukushi/sougoushien/ 全国社会福祉協議会 障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレット http://www.shakyo.or.jp/business/pdf/pamphlet_h2704.pdf 障害者総合支援法について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第9回	<p>バリアフリー新法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 バリアフリー新法</p> <p>【授業概要】 バリアフリー新法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 国土交通省 バリアフリー新法の解説 http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/explanation/kaisetu/kaisetu_.pdf 福祉住環境コーディネーター検定試験 公式サイト http://www.kentei.org/fukushi/ バリアフリー新法について、知識を整理して授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第10回	<p>健康増進法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 健康増進法</p> <p>【授業概要】 健康増進法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 健康増進法の概要 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/dl/s1202-4g.pdf 消費者庁 健康や栄養に関する表示の制度について http://www.caa.go.jp/foods/index4.html 健康増進法について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第11回	<p>地域包括ケアシステム① ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 地域包括ケアシステム</p> <p>【授業概要】 地域包括ケアシステムの概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第12回	<p>地域包括ケアシステム② ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 地域包括ケアシステム</p> <p>【授業概要】 地域包括ケアシステムの概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱</p> <p>【授業概要】 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱についての概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/nop1-2_3.pdf 内閣官房 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ninchisho_taisaku/dail/siryoul.pdf 厚生労働省 認知症施策推進大綱について https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236_00002.html 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第13回 新しい総合事業 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 新しい総合事業</p> <p>【授業概要】 新しい総合事業の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護予防・日常生活支援総合事業 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000074126.html 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 新しい総合事業の移行戦略、地域づくりに向けたロードマップ http://www.murc.jp/sp/1509/houkatsu/houkatsu_02_01_h27.pdf 新しい総合事業について、知識を整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第14回 まとめ ～教養としての社会保障制度と理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 教養としての社会保障制度</p> <p>【授業概要】 これまでの授業の振り返り 教養としての社会保障制度について考え、理学療法士に必要なポイントを理解する。 第1回目から第14回目までの授業を踏まえて、自らの考えをプレゼンテーションできるように準備してから、授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している内容を参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習60分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <p>①予習・復習は必須である</p> <p>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。</p> <p>〔受講のルール〕</p> <p>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。</p> <p>②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スレッド（Webポータル）
授業外時間にかかわる情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	レポート40%、授業内で提示した課題（15回）30%、授業内でのプレゼンテーション30%
教科書	浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。</p>

また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。
専門理学療法士（生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。
ぐんま認知症アカデミー（幹事・書記）や、群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士連絡協議会 介護予防部（部員）なども務める。

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位 (60)	必修
担当教員			
柴ひとみ・村山明彦			
		理学療法国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 自立を援助する介助方法を身に付け、体験学習が円滑に実施できるようにする。地域リハビリテーションの対象者について面談から理学療法評価の一連の流れが安全・効率的に実践できる。また、地域サービスや自立支援施設等における体験学習を通し、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。</p> <p>[到達目標] ①基本的な介助方法（起居動作から移乗動作まで）の説明と実施ができる。 ②体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。 ③情報収集や動作観察から対象者の全体像を考えることができる。 ④多職種の役割を理解したうえで、連携の必要性を説明できる。</p>
授業の概要	<p>地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する多職種の役割について学び、地域で生活する対象者の生活を捉える。</p>

<p>■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項 ○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項</p>	
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 生活期における理学療法 ADLに着目して 【key words】 地域 生活期 理学療法 ADL QOL 【授業概要】 地域で生活している高齢者、障害者に対して理学療法士が関わる際に、GOLの向上を考えることはもちろんであるが、動作の専門家としてADLと身体機能の関係を考えられなければならない。よって、初回の講義では、ADL動作に対する着眼点について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 14 ～ 25 その他、資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ADL動作、基本動作について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 介助方法① 起居動作 【key words】 起居動作、バイオメカニクス、重心 【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 介助方法② 立ちあがり 【key words】</p>
------	--

	<p>立ち上がり動作、バイオメカニクス、重心</p> <p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：立ち上がりの自立、軽介助、全介助方法について復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第4回 介助方法③ 移乗動作（部分介助）</p> <p>【key words】 移乗動作、バイオメカニクス、重心</p> <p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：移乗動作（部分介助）の方法について復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第5回 介助方法④ 移乗動作（全介助）</p> <p>【key words】 移乗動作、バイオメカニクス、重心</p> <p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：移乗動作（全介助）の方法について復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第6回 体験学習オリエンテーション</p> <p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。今回は、今後実施される体験学習の概要を説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスには何があるか調べておくこと A4ファイルを用意すること 課題：体験学習を実施する施設について下調べをすること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第7回 体験学習 準備① 疾患の理解</p> <p>【key words】 全体像、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 提示された対象者について、全体像を把握するために必要な疾患に対する理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：全体像を把握するために必要な疾患の特徴を調べる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第8回 体験学習 準備② 情報の整理</p> <p>【key words】 全体像、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 提示された対象者について、全体像を把握するために必要な情報を整理する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：全体像を把握するために必要な情報を挙げる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第9回 体験学習③</p>
--	--

	<p>【key words】 全体像、評価、理学療法 【授業概要】 提示された対象者について、全体像を把握するために必要な検査測定を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：明日9：00 〆切でディリーノート提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第10回 体験学習④</p> <p>【key words】 全体像、評価、理学療法 【授業概要】 検査測定実習で見学・体験させて頂いた対象者について、全体像を把握するために必要な検査測定を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：明日9：00 〆切でディリーノート提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第11回 多職種との連携 看護師</p> <p>【key words】 多職種連携、看護師、理学療法 【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、看護師との連携に焦点を当て、看護師の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第12回 多職種との連携 作業療法士</p> <p>【key words】 多職種連携、作業療法士、理学療法 【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、作業療法士との連携に焦点を当て、作業療法士の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第13回 多職種との連携 言語聴覚士</p> <p>【key words】 多職種連携、言語聴覚士、理学療法 【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、言語聴覚士との連携に焦点を当て、言語聴覚士の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第14回 多職種との連携 社会福祉士</p> <p>【key words】 多職種連携、社会福祉士、理学療法 【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、社会福祉士との連携に焦点を当て、社会福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>key words: 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第15回 多職種との連携 介護福祉士</p> <p>【key words】 多職種連携、介護福祉士、理学療法 【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、介護福祉士との連携に焦点を当て、介護福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
--	--

第16回	<p>予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際①ー 【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法 【授業概要】 介護予防を目的に地域在住高齢者に対して健康講座を開催する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと。講座の内容を事前に提出すること。 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第17回	<p>体験学習 ー地域サービスの実際①ー 【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法 【授業概要】 介護予防を目的に地域在住高齢者に対して健康講座を開催する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと。講座の内容を事前に提出すること。 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第18回	<p>体験学習 ー水浴リハビリの実際ー 【key words】 地域サービス、水浴、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：水浴リハビリについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第19回	<p>体験学習 ー水浴リハビリの実際ー 【key words】 地域サービス、水浴、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：水浴リハビリについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第20回	<p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー 【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第21回	<p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー</p>

	<p>【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー</p>
第22回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー</p>
第23回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー</p>
第24回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際③ー</p>
第25回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：介護施設における理学療法の位置づけについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>

	<p>第26回 介助方法のまとめ - 起居動作から移乗動作まで - 【key words】 起居動作、移乗動作、バイオメカニクス、重心 【授業概要】 起き上がり～移乗動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：起き上がり～移乗動作の介助方法について実際に行えるよう復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第27回 体験学習 発表① 【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。班ごとに体験学習の内容を発表（発表時間30分、質疑応答15分）する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表用レジュメ A4 1枚 予習：発表準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第28回 体験学習 発表② 【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。班ごとに体験学習の内容を発表（発表時間30分、質疑応答15分）する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表用レジュメ A4 1枚 予習：発表準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第29回 行政で働く理学療法士（外部講師） 【key words】 多職種連携、行政、理学療法 【授業概要】 理学療法士の職域について、特に行政における理学療法士の役割とは何か。前橋市の活動を例にとって説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：前橋市が取り組んでいる介護予防について調べ、資料を印刷しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第30回 訪問リハビリテーションの実際（外部講師） 【key words】 地域サービス、多職種連携、訪問リハビリテーション、理学療法 【授業概要】 理学療法士の職域について、特に訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは何か。認定呼吸療法士の講義を聴講する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：訪問リハビリテーションについて調べてくること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	体験学習は出席を前提とするため休まず予習（実技を含む）を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9：00までに提出すること。内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること
オフィスアワー	木曜日16時～17時、その他の曜日については要予約

評価方法	実技試験40% 体験学習シート30% 発表30%
教科書	柴喜崇 編集：PTOTビジュアルテキスト ADL 第1版 羊土社
参考書	授業内で適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
		理学療法士国家試験受験資格に係る必修	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導、住環境整備が行えるようになる。また、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を挙げ、どのような支援が必要かを考える事を目的とする。</p> <p>[到達目標] ①生活行為別に福祉住環境の整備について説明できる。 ②生活環境支援理学療法について説明できる。 ③支援工学理学療法について説明できる。</p>
------------	---

授業の概要	地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住宅環境について学習する。
-------	--

■当科目の理学療法専攻ディプロマポリシー (DP)との関係
◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項△=DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、少子高齢社会の現状と課題</p> <p>【key words】 少子高齢社会の現状と課題</p> <p>【授業概要】 地域理学療法、ADL、住環境、少子高齢化地域で生活する高齢者や障害者に対し、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事は重要である。住みやすい住環境とは何か、どのように生活を改善すべきかを考える。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 2-10 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分(予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)</p> <p>第2回 ユニバーサル社会の実現の意義 小テスト①</p> <p>【key words】 ユニバーサル社会</p> <p>【授業概要】 ユニバーサル社会の実現の意義について理解する。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 50-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

第3回	<p>上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>日本の住環境の問題点 小テスト②</p> <p>【key words】 日本の住環境</p> <p>【授業概要】 日本の住環境の問題点について理解する。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 地域理学療法診療ガイドライン http://www.japanpt.or.jp/upload/jspt/obj/files/guideline/21_local_physiotherapy.pdf 在宅医療に関するエビデンス https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20150513_01_01.pdf</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂5版＞pp. 113-121</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>障害のとりえ方 小テスト③</p> <p>【key words】 障害のとりえ方</p> <p>【授業概要】 障害のとりえ方について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/032/siryu/0609</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂5版＞pp. 84-90</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>高齢者の健康と自立 小テスト④</p> <p>【key words】 高齢者の健康と自立</p> <p>【授業概要】 高齢者の健康と自立について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 健康増進法の概要 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/dl/s1202-4g.pdf 消費者庁 健康や栄養に関する表示の制度について http://www.caa.go.jp/foods/index4.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂5版＞pp. 91-98</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>バリアフリーとユニバーサルデザイン 小テスト⑤</p> <p>【key words】 バリアフリー、ユニバーサルデザイン</p> <p>【授業概要】 バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 国土交通省 バリアフリー新法の解説 http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/explanation/kaisetu/kaisetu_.pdf</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂5版＞pp. 67-75</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>高齢者向けの住宅施策の変遷と概要 小テスト⑥</p> <p>【key words】 高齢者向けの住宅施策</p> <p>【授業概要】 高齢者向けの住宅施策の変遷と概要について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト＜改訂5版＞pp. 32-49</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第8回	<p>上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 福祉住環境整備とケアマネジメント 小テスト⑦</p> <p>【key words】 ケアマネジメント</p> <p>【授業概要】 福祉住環境整備とケアマネジメントについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 200-208</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 生活行為別にみた安全・安心・快適な住まい 小テスト⑧</p> <p>【key words】 生活行為</p> <p>【授業概要】 生活行為別にみた安全・安心・快適な住まいについて理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 267-315</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 生活行為別にみた福祉用具の活用 小テスト⑨</p> <p>【key words】 福祉用具</p> <p>【授業概要】 生活行為別にみた福祉用具の活用について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 公益財団法人 テクノエイド協会 http://www.techno-aids.or.jp/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 346-391</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 疾患別にみた福祉住環境整備 小テスト⑩</p> <p>【key words】 福祉住環境整備</p> <p>【授業概要】 疾患別にみた福祉住環境整備について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 Minds (マインズ) ガイドラインセンター http://minds.jcqh.or.jp/n/top.php 公益財団法人 テクノエイド協会 http://www.techno-aids.or.jp/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 124-155</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 障害別にみた福祉住環境整備 小テスト⑪</p> <p>【key words】 福祉住環境整備</p> <p>【授業概要】 障害別にみた福祉住環境整備について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 Minds (マインズ) ガイドラインセンター</p>

	<p>http://minds.jcqh.or.jp/n/top.php 公益財団法人 テクノエイド協会 http://www.techno-aids.or.jp/ 【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 156-198 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第13回 福祉住環境整備の共通基本技術 小テスト⑫ 【key words】 福祉住環境整備 【授業概要】 福祉住環境整備の共通基本技術について理解を深める。 前回の内容について小テストを実施する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト http://www.kentei.org/fukushi/ 【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 240-266 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p> <p>第14回 福祉住環境整備の実際 - 事例検討 - グループでの発表① 【key words】 事例検討、グループワーク、プレゼンテーション 【授業概要】 グループ学習の成果を、グループごとに発表する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 316-344 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p> <p>第15回 福祉住環境整備の実際 - 事例検討 - グループでの発表② 【key words】 事例検討、グループワーク、プレゼンテーション 【授業概要】 グループ学習の成果を、グループごとに発表する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>pp. 402-443 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 【受講のルール】 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	スレッド（Webポータル）
授業外時間にかかわる 情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。 予習や課題の実施を前提に講義を進める。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	小テスト60％， レポート40％
教科書	東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト<改訂5版>
参考書	東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト<改訂5版>
実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として4年間の実務経験を有する。 特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く経験している。 また、生活支援理学療法（安全管理・環境調整を含む）を専門としている。

専門理学療法士（生活環境支援理学療法）、介護支援専門員などの資格を有する。

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容